

公益財団法人慈愛会

# 今村総合病院

## 年報

2023年度 第16号





## 「医療の原点は慈愛にあり」

母が子を慈しみ育てる心、愛を持って病める人の苦しみを除く。  
慈しみ、愛する心、その素朴で純粋な気持ちが慈愛会の医療理念です。  
患者様を肉親と思い医療の達人（プロフェッショナル）を目指します。

同時に

全職員の物心両面の幸せを追求します。

### 今村総合病院 基本理念

---

1. 医療を通じた地域社会への貢献
2. 良心的な高度医療の提供
3. 患者様の権利・主体性の尊重
4. 快適な医療環境の提供

### 今村総合病院 基本方針

---

1. 365日24時間の診療体制で地域の皆様の健康を守ります
2. 病診連携を重視し、質の高い医療を多くの患者様に提供します
3. わかりやすい十分な説明のもと、納得のいく医療を提供します
4. 心に届く慈愛の看護を提供します
5. 働きがいのある職場環境を目指すとともに、職員の資質向上を図ります



# 目次

公益財団法人慈愛会 医療理念	
慈愛会 医療理念	
今村総合病院 基本理念、基本方針	
目次	1
巻頭言	
院長 常盤 光弘	2
病院概要	
病院組織図	6
委員会組織図	7
病院沿革	8
施設指定・認定一覧	9
病院総括	
病院各種統計	12
患者動向	14
DPC 統計 (MDC,ICD)	15
部門別報告	
診療科	18
診療支援部	40
看護部	52
事務部	56
院長直轄部門	61
関連施設	75
委員会報告	
治験審査委員会	78
個人情報管理委員会	79
栄養委員会	80
行動制限最小化委員会	81
化学療法審議委員会	82
臨床検査適正化委員会	83
診療情報管理委員会	84
DPC 委員会	85
放射線安全委員会	86
医療安全管理委員会	87
病院セーフティマネジメント委員会	88
医療事故調査委員会	89
医療安全対策委員会	90
労働安全衛生委員会	91
褥瘡対策委員会	92
医療ガス安全管理委員会	93
行動制限・転倒転落委員会	94
輸血療法委員会	95
臨床倫理検討委員会	97
院内感染対策委員会	98
看護部運営委員会	99
手術室運営委員会	100
業務フロー委員会	101
電子カルテ委員会	102
薬事委員会	103
クリニカルパス委員会	104
NST 委員会	105
地域医療連携委員会	106
病床管理委員会	107
緩和ケア委員会	108
TQM 委員会	109
省エネ・保安全管理委員会	110
物品管理 (SPD) 委員会	111
清掃委員会	112
広報委員会 / 広報室	113
災害対策委員会	114
施設基準チームアプローチ検討委員会	115
運営費管理委員会	116
口腔ケア委員会	117
臨床研修管理委員会	118
職員教育研修委員会	119
看護師特定行為研修管理委員会	120
倫理審査委員会	121
利益相反委員会 (COI 委員会)	122
業績一覧	
論文 (論文・著書・雑文)	124
学会発表	132
研究会・講演会	145
受賞	153
マスメディア	155
公的研究	157
教育活動	
職員教育研修会	160
医局研修会	161
CPC 開催記録	162
1年のあゆみ 2023年1月～2024年3月	163



### 2023 年度の今村総合病院



院長 常盤 光弘

今回の今村総合病院年報は 2023 年 1 月から 2024 年 3 月までを振り返り、各部署などのデータをまとめました。我々が歩んできた道とその経過、結果を振り返ることによって当院の今後進んでいく方向性を考え、未来を創造していくことが大切です。

私なりにこの 15 か月を振り返ってみたいと思います。2023 年 1 月当初は 2022 年秋に突入した新型コロナウイルス第 8 波の真っただ中にありました。鹿児島県でも 1 月 5 日には 5,200 人超の感染者が確認され、全国でも 2 月 22 日には過去最多の 1 日 114 人の死亡が確認されています。このような中ではありましたが 1 月 26 日には日本政府が 2023 年 5 月 8 日をもって今回の疫病を感染症法の 2 類相当から 5 類へ変更するとの決定がなされています。このような 2023 年の船出でありましたので、いづろ今村病院も今村総合病院もクラスターに悩まされながらの病院運営継続を余儀なくされました。当院のコロナへの対応に関しては第 9 波到来かといわれ始めた 2023 年 7 月に大きく舵を切ることとなりました。コロナ病棟を 7 月 10 日に 7 階東病棟に変更し 20 床の感染病棟として運用開始しました。この時点では病院全体での病床利用率も高く 7 東はもちろんのこと、他の病棟を運営するスタッフにも各科の先生方にも多大な負担をかけてしまったことを改めてお詫び申し上げたいと思います。7 月の下旬からはコロナの入院患

者さんの治療を総合内科だけでなく多くの内科系の先生方に担当していただきました。おかげさまをもちまして 8 月 4 日からは 7 東を 25 床の感染病棟として運用できました。そして新型コロナウイルスに対する世間の対応も考え方も大きく変貌する中で第 9 波が収束を迎えたと感じられる 10 月にすべての急性期病棟を通常の運用に戻すことができ、総病床数 428 床というフル規格での病院運営が開始されました。それ以降はコロナに対してはそれぞれの病棟において病床単位でコホートし入院治療にあたることとなり、現在に至ります。まだまだ新型コロナウイルス感染症が完全に終息したわけではありませんが 2020 年以降の約 4 年間に渡る全職員の献身的な努力とその忍耐力に感服するとともに最大限の感謝の意を表したいと思います。

上記のように感染症への対応に苦勞しながらも 2023 年から 2024 年にかけて様々なことに挑んできました。その一つに、垂水市との包括連携協定に基づく慈愛会垂水サテライトクリニック開院に向けての準備です。いよいよ 2024 年 5 月 7 日にそのオープン初日を迎えることとなりますが、これまでの間に対面や Zoom での垂水市尾脇市長様や職員の方々との協議を重ね人員の確保や実際の運用課題、ハード面での整備を念入りに解決してきました。当院産婦人科の先生方、事務方の職員も本当に大変な作業だったと思います。順調な運用開始を祈念するとともに関係された皆様に感謝申し上げます。

また、地域とのつながりということで考えますと、コロナの影響で開催ができていなかった「かもいけ健康まつり」も 2023 年 10 月 21 日に 4 年ぶりに行うことができました。開催においては当院職員だけでなく、鴨池校区コミュニティ協議会の皆様や垂水市の皆様方に多大なるご協力をいただき成功裏に終えることができました。

地域の医療機関など関係先との連携強化も通年で行ってきました。消防救急隊とのカンファレンス・懇親会も 2023 年 7 月 20 日と 12 月 5 日に開催し、情報共有を図るとともに職員同士の顔の見える関係の構築にも繋がっています。また地域の医療機関や介護関連施設との連携

強化のために地域連携の集いも再開しました。2023年10月27日には鹿児島市医師会紫南支部の先生方を中心にご参加いただきました。また、2024年2月9日には郡元地区の先生方や介護関連の皆様方を中心にご参加いただいております。これらのカンファレンスや連携の会・懇親会はこれまでと違って、今村総合病院職員による、いわゆる手作りの会であったことが大きな特徴です。慈愛会が所有するかごしまオハナビル3階の会場を使用して40から50名程度の少人数参加型として当院職員による情報提供とおもてなしを基本のコンセプトとして実施しています。ご参加いただいた外部の方々からはおおむね良好な反応やアンケート結果をいただき、このような会をこれからも継続していく考えです。

2024年は1月1日に発生した能登半島地震で幕開けしてしまいましたが、当院では1月18日に医師1名を含む計4名の職員を現地へJMATとして派遣することになりました。鹿児島県からのJMATとして第1陣となりました。現地での活躍を期待するとともに我々の同志をいまだ危険を伴う災害現場に派遣することに大きな不安を抱えながらの壮行会を執り行ったのが昨日のように思い返されます。翌週の1月23日に帰ってきた4名の職員の疲労が見える表情の中にも、やり遂げたという達成感を垣間見たときには、皆、安堵感を覚えたことと思います。本当にご苦労様でした、またありがとうございましたと改めて申し上げたいと思います。

これまで述べたように約1,000名の職員にこれだけの献身的な努力をしていただきながら2023年の上半期の運営状況は、芳しいものではありませんでした。下半期は職員の皆さんのさらなる工夫と貢献によってほぼ予算を達成することができましたが、上半期の落ち込み分をまでを補うことはかなわず、通年でみると予算を達成するに至らなかったことが残念でなりません。再びこのような事態に陥らないために、これからも様々なことに創造的にチャレンジしていく必要があります。すでに決定事項として予算が組まれ2024年度内に開始予定の事業としては、ガンマナイフ治療開始が挙げられます。

2025年の2月に実装される予定となっています。この事業に関しても多くの方々のご協力とご理解が必要となっています。またクラウドファンディングによる資金調達の計画が進行中です。当院として初めての試みですのでスタッフの皆さんの柔軟な発想で計画が達成できると信じています。さらに2023年度を通して当院の手術待機患者数が200名以上という状況でした。患者様のニーズに、より迅速にこたえるために手術室の充実が必要です。そのためには手術室の増設やスタッフの確保、麻酔科医師の確保が必要となりますが、2024年度中に手術室増設を目指し、もちろん継続して人員の確保にも鋭意努力していきたいと考えています。人材確保に関する何らかの情報がございましたら是非とも我々にご提供いただきたいところです。

最後に、2023年4月7日、13年余にわたって当院スポーツ整形外科を率い、同科の発展に深くご尽力いただいた濱里雄次郎先生が逝去されました。改めましてご冥福をお祈り申し上げますとともに、先生の功績に対して敬意を表したいと思います。

2024年4月



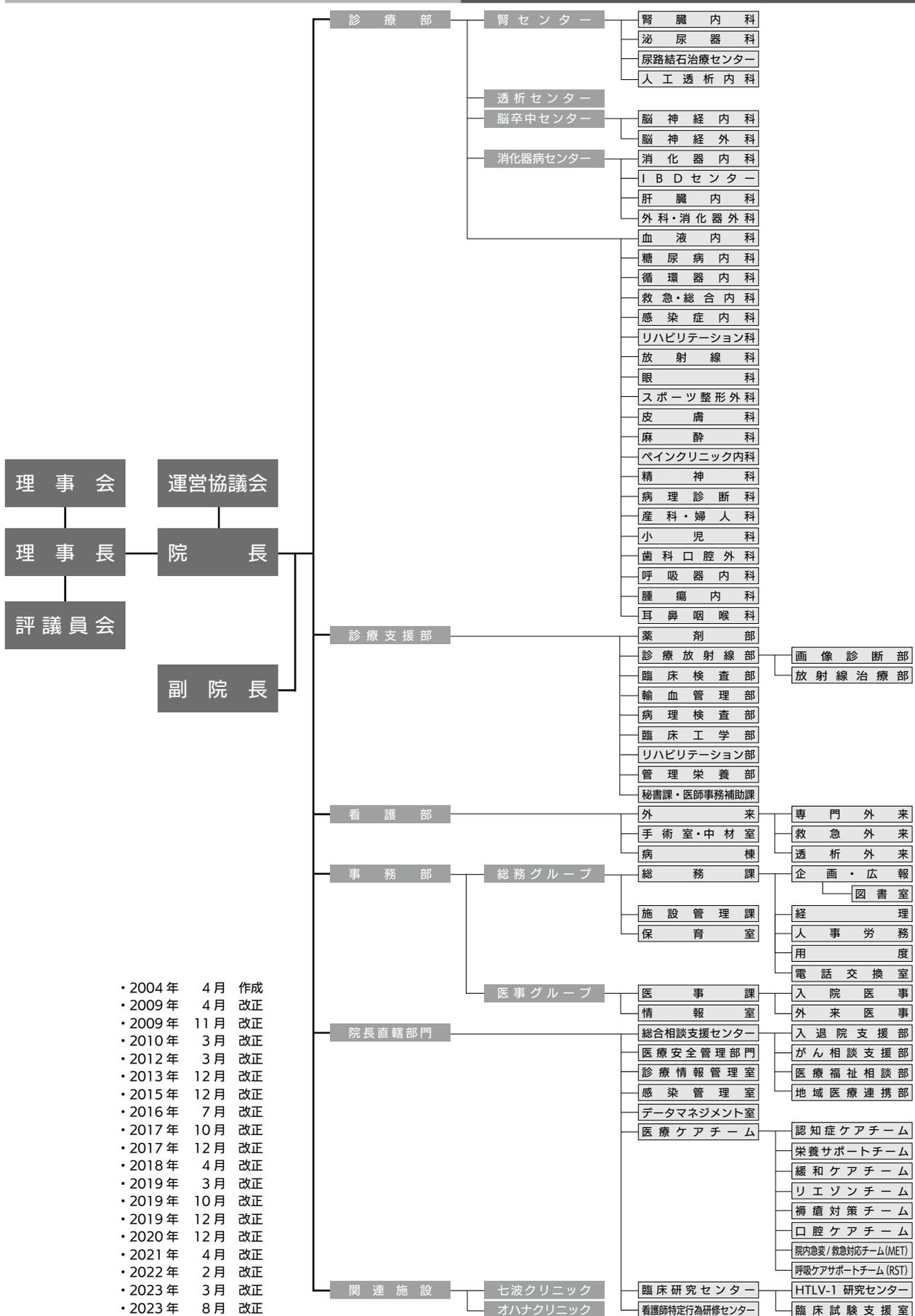
# 病院概要

---

病院組織図 .....	6
委員会組織図 .....	7
病院沿革 .....	8
施設指定・認定一覧 .....	9

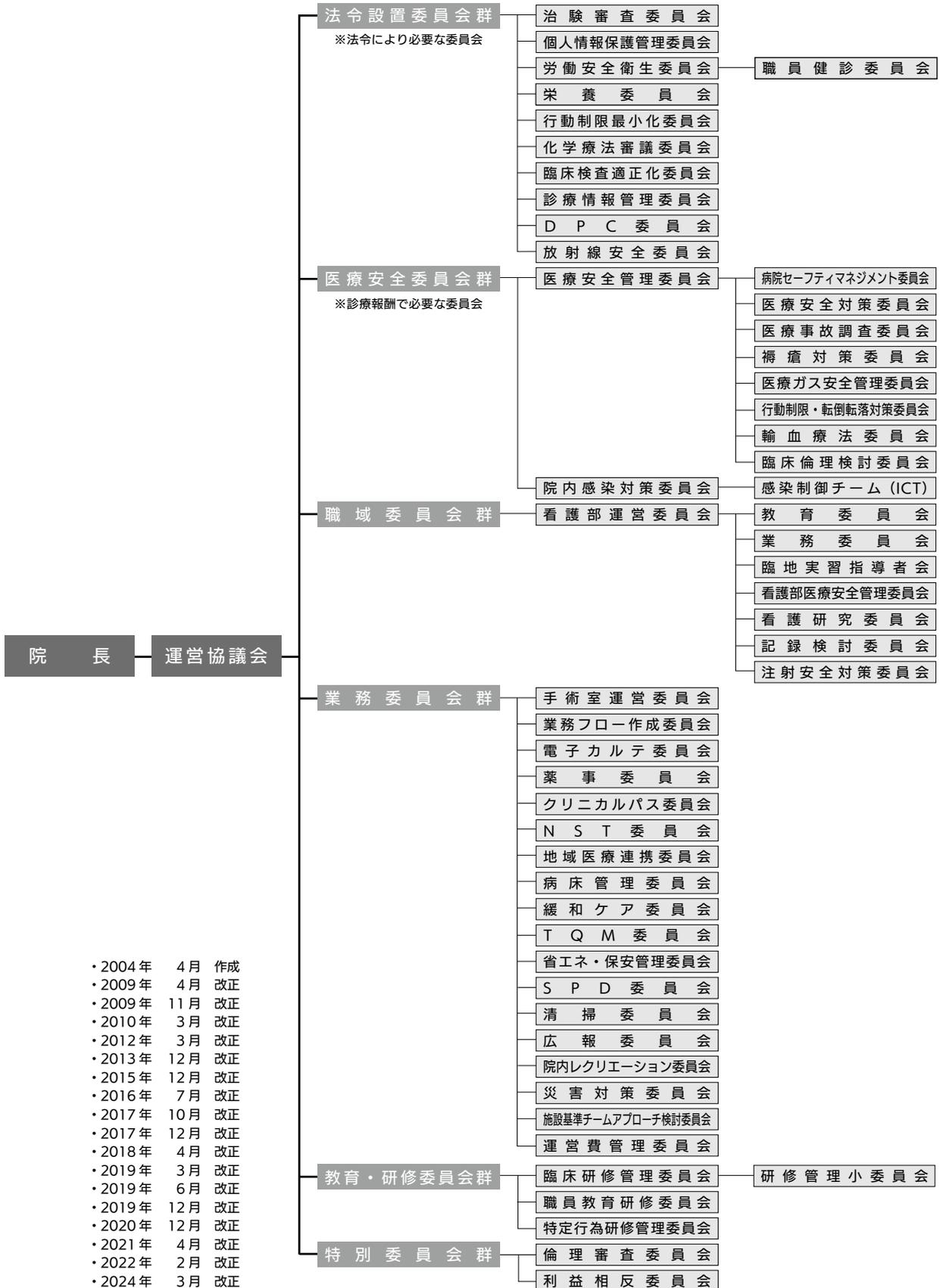


# 病院組織図





# 委員会組織図





# 病院沿革

1984年 (昭和59年)	76床にて開設 管理者 今村一英
1985年 (昭和60年)	132床へ増床 3階 リハビリ病棟開設 管理者 中島哲 就任
1986年 (昭和61年)	177床へ増床
1988年 (昭和63年)	2期増築工事
1989年 (平成元年)	耳鼻咽喉科・気管食道科を増科
1997年 (平成9年)	3期増築工事 216床へ増床
1998年 (平成10年)	3階北糖尿病病棟開設 眼科を増科
1999年 (平成11年)	泌尿器科を増科 病院機能評価受審
2001年 (平成13年)	管理者 今村一英 就任 4期工事 (ER棟) 240床へ増床、救急・総合内科開設、オーダリングの運用開始
2002年 (平成14年)	管理者 今村英仁 就任 (現理事長) 院外 SPDの運用開始
2003年 (平成15年)	管理者 今村利朗 就任 呼吸器科・消化器科・循環器科増科
2004年 (平成16年)	管理者 宇都宮與 就任 副院長 鎌田哲郎 就任 DPC 調査協力病院へ
2005年 (平成17年)	病院機能評価再受審 (Ver.4.0)・認定 神経内科を増科
2006年 (平成18年)	七波クリニックを開設 (管理者 鮫島久子) 皮膚科増科 DPCによる入院料算定開始 7対1入院基本料取得、すまいるクリニックを開設 (管理者 重信恵三)
2007年 (平成19年)	増築工事着工 麻酔科増科
2008年 (平成20年)	脳神経外科増科、放射線科増科、病理診断科増築棟竣工 MRI、アンギオ設置、既存部分の改修開始、血液内科、糖尿病内科、救急科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、人工透析内科へ診療科名称変更 既存部分改修終了
2009年 (平成21年)	精神科病床 40床増床 精神科増科 病院機能評価再受審 (Ver.6.0) 通所リハビリテーション開設
2010年 (平成22年)	整形外科 (スポーツ整形) 開設 基幹型臨床研修病院「錦江湾プログラム」にて初期研修医受け入れ開始 病院機能評価 Ver.6 認定
2011年 (平成23年)	財団法人慈愛会から公益財団法人慈愛会へ移行
2013年 (平成25年)	病床数 280床から 287床へ増床 スポーツ整形 リハセンター 拡張改修 副院長 常盤光弘 就任 (鎌田副院長を含め2名体

	制となる) 外科・消化器外科開設 脳卒中ケアユニット (SCU) 開設 集中治療室 (ICU)、ポストICU 病棟開設工事着工 手術室増室工事着工
2014年 (平成26年)	鎌田副院長退任 副院長 帆北修一 就任 病床数 287床から 291床へ増床 ペインクリニック内科外来開設 集中治療室 (ICU) 開設 (10床) 手術室 2室増室 (計5室) 病床数 291床から 293床へ増床 (回復期リハ病棟 36床) 病院機能評価再受審 (3rd.G.ver1.0) 鹿児島県がん診療指定病院指定
2015年 (平成27年)	七波クリニック移転 病院機能評価再受審 (3rd.G.ver1.0) 認定 新病院建設第1期工事着工 経済連携協定 (EPA) に基づく外国人看護師候補者が看護師免許取得
2017年 (平成29年)	今村総合病院へ名称変更 新棟増築に伴い病床数 293床から 350床へ増床 いづろ今村病院より小児科、産科、婦人科の移転 病床数 350床から 376床へ増床 いづろ今村病院への人間ドック移転
2018年 (平成30年)	管理者 帆北修一 就任、副院長 神田直昭 就任 歯科口腔外科開設
2019年 (令和元年)	腫瘍内科を増科 病床数 376床から 399床へ増床 かごしまオハナクリニックを開設 (管理者 林恒存) 病院機能評価再受審 (3rd.G.ver2.0)
2020年 (令和2年)	病院機能評価認定 (3rd.G.ver2.0) 副院長 上之園芳一 就任
2021年 (令和3年)	病床数 399床から 414床へ増床 感染症内科を増科 病床数 414床から 428床へ増床 いづろ今村病院から IBD センター移転 肝臓内科を増科 常盤副院長 院長代行を兼任 常盤院長代行 急性期病院統括副院長を兼任
2022年 (令和4年)	帆北院長 急性期病院統括院長を兼任 「ダビンチ サージカルシステム (ダビンチ)」を使用してのロボット支援手術を開始 前立腺がんに対する密封小線源療法開始 帆北院長 日本医療マネジメント学会第20回九州・山口連合大会大会長就任
2023年 (令和5年)	院長 常盤光弘 就任 膠原病・リウマチ内科を増科
2024年 (令和6年)	副院長 肥後建樹郎 就任

2024年3月31日現在



## ●指定医療機関等

- ・ 臨床研修病院
- ・ 救急告示病院
- ・ 生活保護法による医療機関
- ・ 被爆者一般疾病医療機関
- ・ 労働者災害補償保険法による医療機関
- ・ 公害健康被害補償法による医療機関
- ・ 障害者自立支援法による医療機関（更生医療・精神通院医療）【腎臓に関する医療、免疫に関する医療】
- ・ 特定疾患治療研究事業委託医療機関
- ・ 小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関
- ・ 鹿児島県がん診療指定病院

## ●学会等認定施設

- ・ 日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療後期研修プログラム
- ・ 日本透析医学会専門医制度認定施設
- ・ 日本血液学会認定専門研修認定施設
- ・ 日本 HTLV-1 学会登録医療機関
- ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・ 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
- ・ 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
- ・ 日本神経学会専門医制度教育施設
- ・ 日本リハビリテーション医学会研修施設
- ・ 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
- ・ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・ 日本精神神経学会精神科専門医研修施設
- ・ 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）
- ・ 日本輸血・細胞治療学会認定臨床輸血看護師制度指定研修施設
- ・ 日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I&A 制度）認証施設
- ・ 日本病理学会病理専門医制度研修登録施設
- ・ 日本臨床神経生理学会認定施設準教育施設（筋電図・神経伝導分野）
- ・ 日本腎臓学会研修施設
- ・ 日本臨床細胞学会認定施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター
- ・ 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
- ・ 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
- ・ 日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科—認定カテゴリー 1（血液内科）
- ・ 日本骨髓バンクならびに日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間骨髓採取認定施設
- ・ 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設
- ・ 日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・ 日本リウマチ学会教育施設
- ・ 日本大腸肛門病学会関連施設
- ・ 日本胃癌学会認定施設 B

## ●その他の認定施設

- ・ 公益財団法人 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG:Ver.2.0）
- ・ 痛風協力病院
- ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・ 消化器がん検診精密検査医療機関
- ・ 特定行為に係る看護師の研修制度指定研修機関
- ・ 日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設
- ・ 日本診療放射線技師会臨床実習指導施設
- ・ 日本専門医機構専門医制度総合診療領域専門研修プログラム
- ・ 日本専門医機構専門医制度内科領域専門研修プログラム
- ・ 日本医学放射線学会（JRS）画像診断管理認証施設



# 病院総括

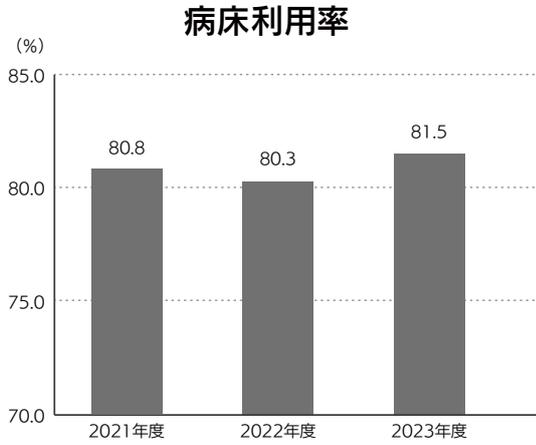
---

病院各種統計 .....	12
患者動向 .....	14
DPC統計(MDC、ICD) .....	15

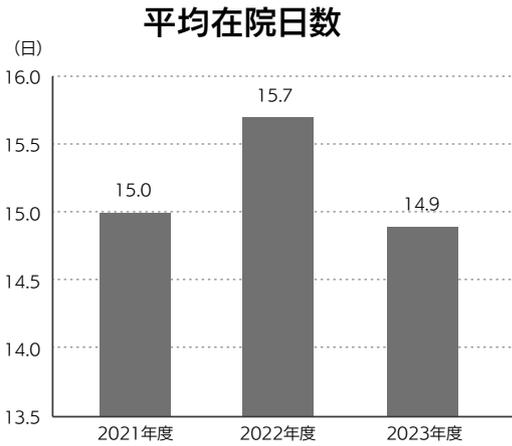


# 病院各種統計

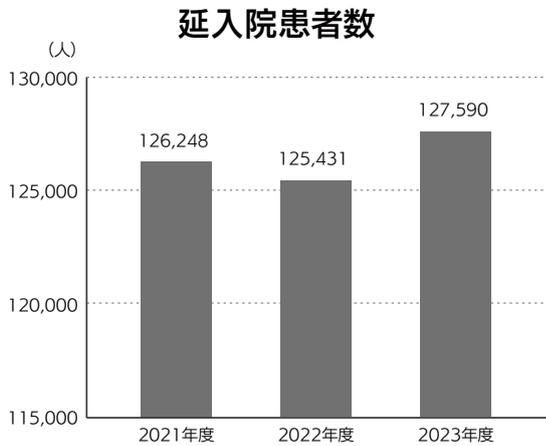
## 1) 病床利用率



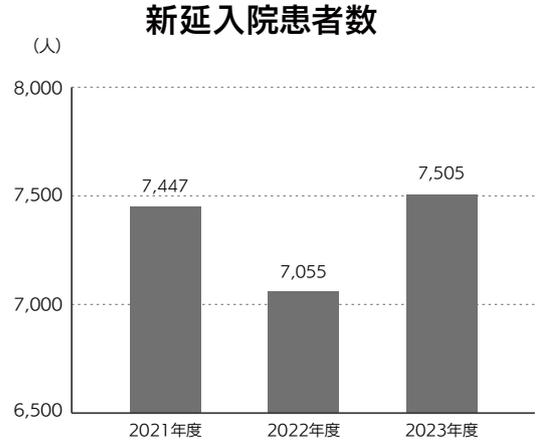
## 2) 平均在院日数



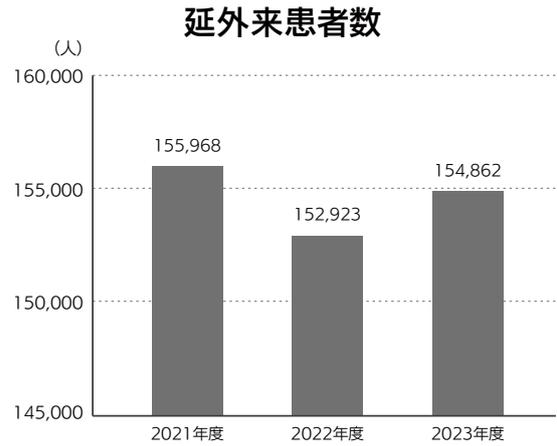
## 3) 延入院患者数



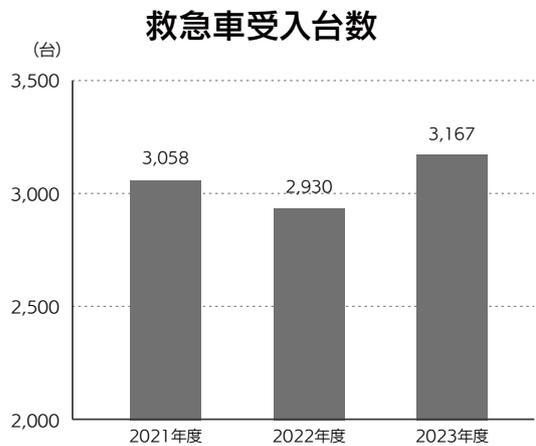
## 4) 新延入院患者数



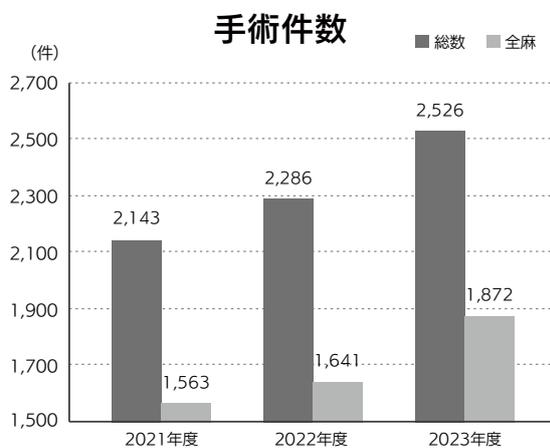
## 5) 延外来患者数



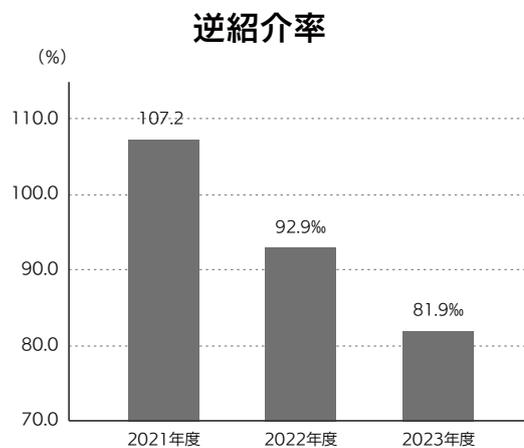
## 6) 救急車受入台数



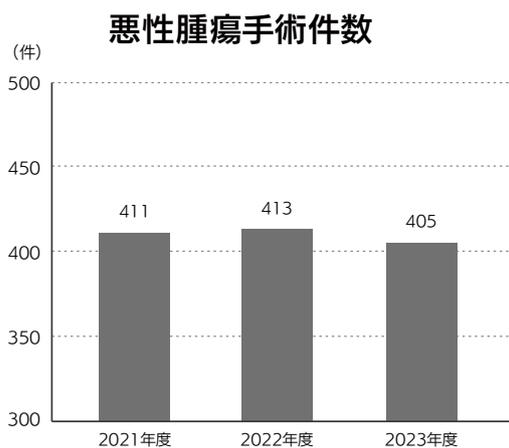
7) 手術件数



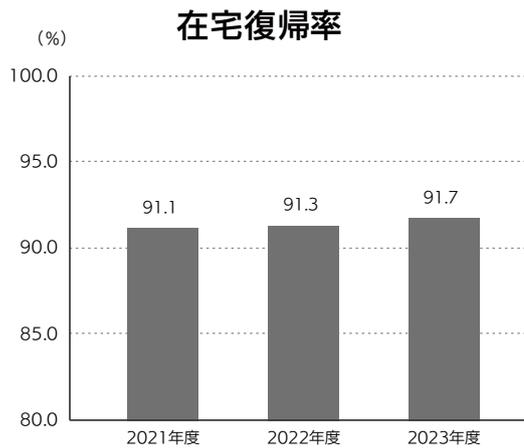
10) 逆紹介率



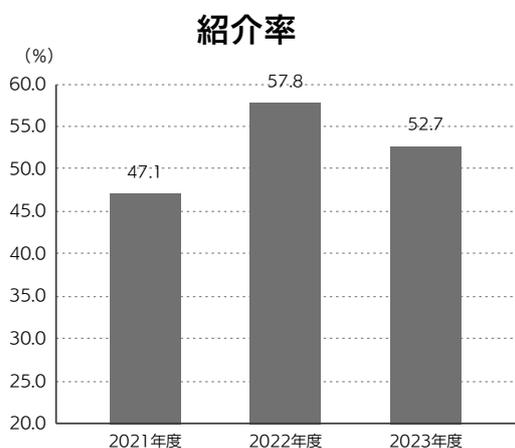
8) 悪性腫瘍手術件数



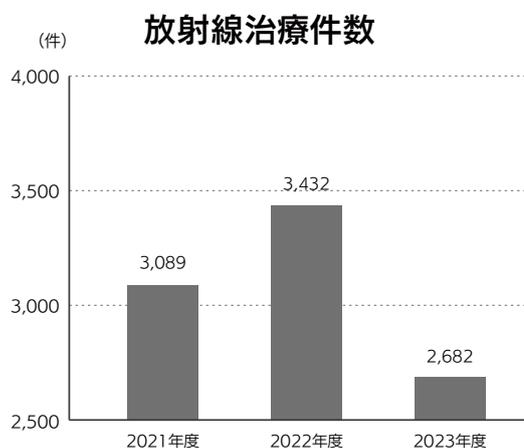
11) 在宅復帰率



9) 紹介率



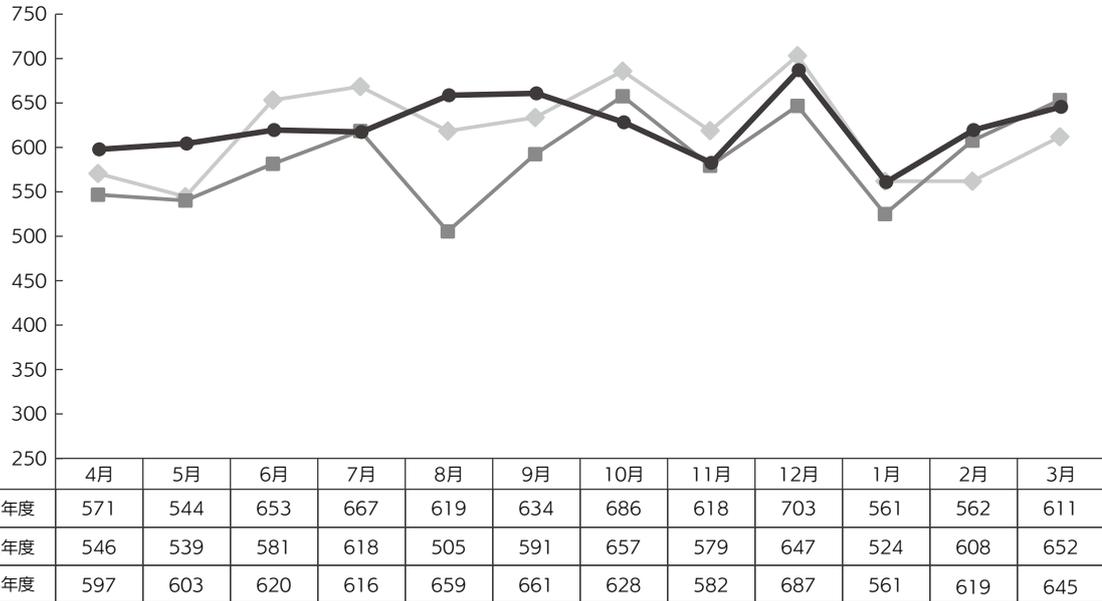
12) 放射線治療件数



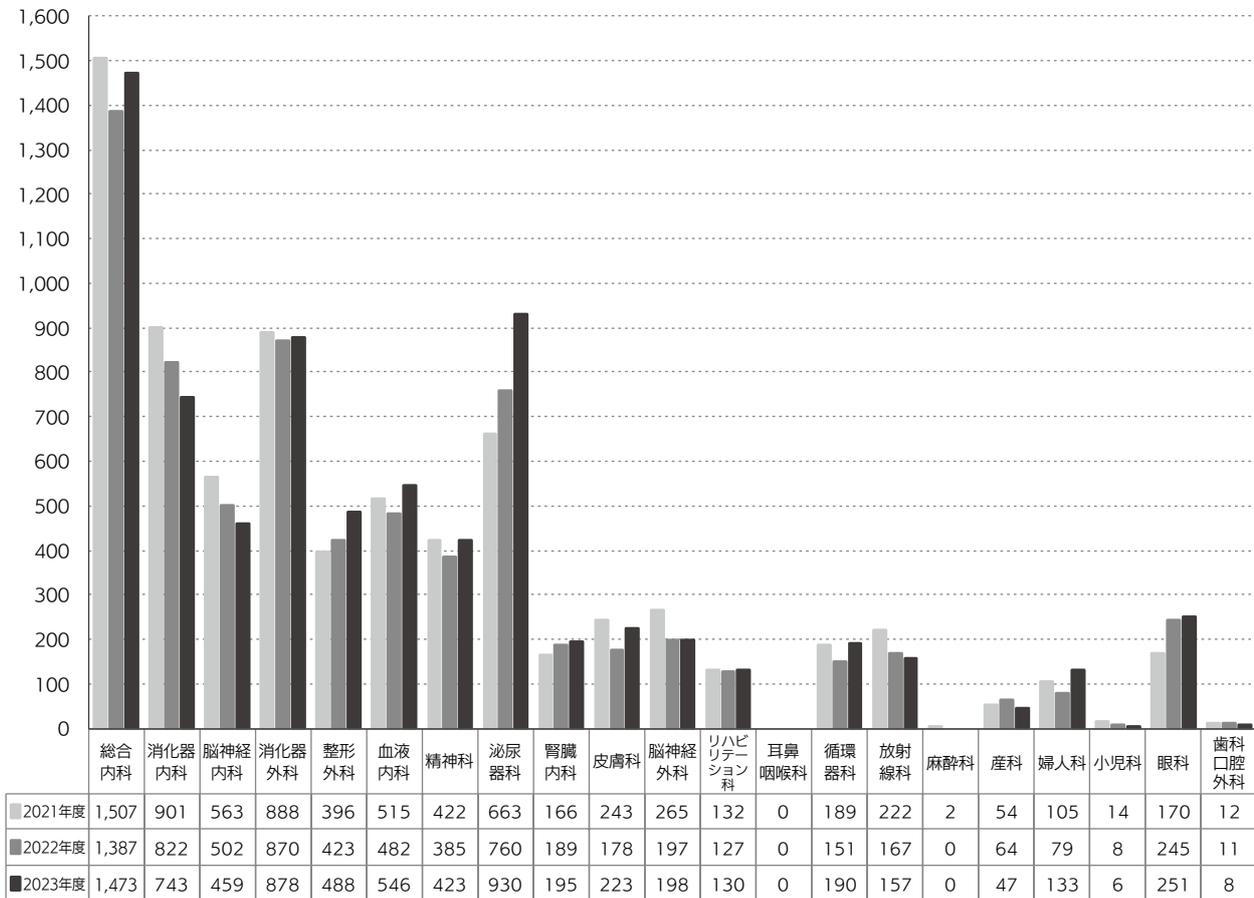


# 患者動向

年度別月別比較退院患者数



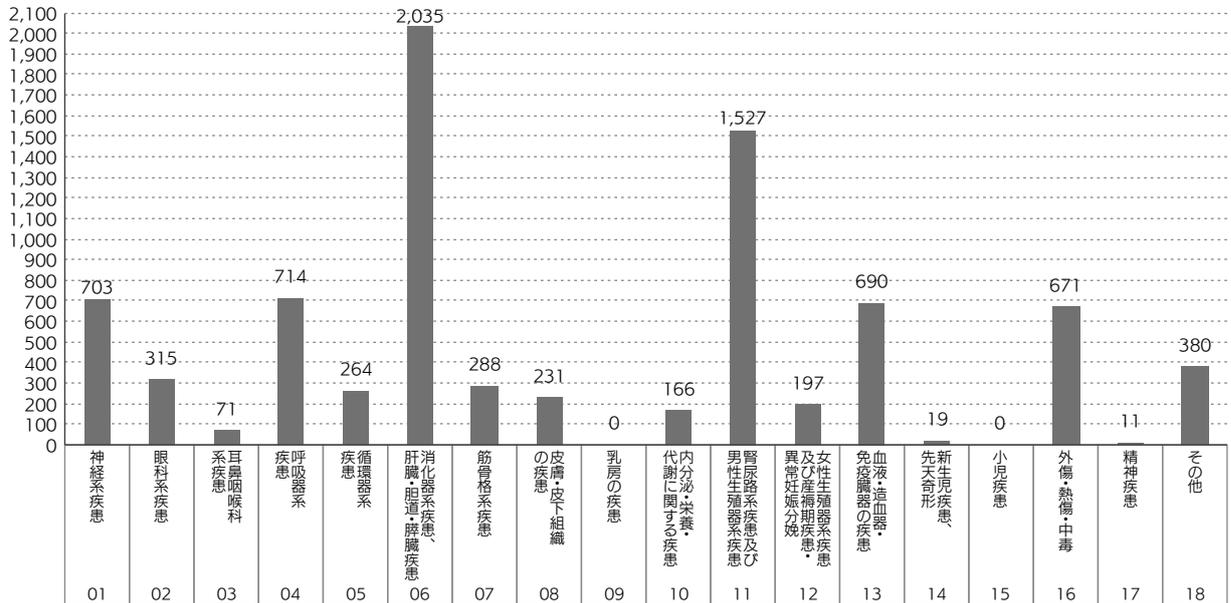
年度別診療科別退院患者数





# DPC 統計 (MDC, ICD)

## 2023年度MDC別退院患者数



病院総括

## ICD-10大分類による診療科別統計 2023年1月～2024年3月までの退院患者

大分類	総合内科	腎臓内科	血液内科	消化器内科	脳神経外科	泌尿器科	皮膚科	放射線科	脳神経内科	リハビリテーション科	整形外科	循環器科	消化器外科	精神科	産科	婦人科	小児科	眼科	歯科 口腔外科	計
1 感染症および寄生虫症 (A00-B99)	144	5	22	13	1	4	57	4	0	0	0	3	5	2	0	1	1	0	0	262
2 新生物 (C00-D48)	39	3	517	232	14	331	92	128	1	5	3	1	399	50	0	113	0	0	0	1,928
3 血液および造血器の疾患ならびに 免疫機構の障害 (D50-D89)	30	4	40	2	0	1	1	1	0	0	0	1	3	4	0	0	0	0	0	87
4 内分泌・栄養および代謝疾患 (E00-E90)	89	5	3	1	0	0	0	0	7	0	0	3	15	13	0	0	4	0	0	140
5 精神および行動の障害 (F00-F99)	11	0	0	11	0	0	0	0	2	0	0	0	0	145	0	0	0	0	0	169
6 神経系の疾患 (G00-G99)	31	0	1	13	26	1	1	0	76	1	0	3	0	5	0	0	0	0	0	158
7 眼および付属器の疾患 (H00-H59)	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	37	0	0	0	310	0	353
8 耳および乳突突起の疾患 (H60-H95)	4	0	2	0	2	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
9 循環器系の疾患 (I00-I99)	67	12	5	17	108	2	3	14	442	125	0	177	0	26	0	0	0	0	0	998
10 呼吸器系の疾患 (J00-J99)	618	17	28	6	0	4	1	9	7	3	0	9	5	52	0	0	1	1	2	763
11 消化器系の疾患 (K00-K93)	97	2	4	620	0	2	0	19	0	2	0	1	607	96	0	0	1	0	7	1,458
12 皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	46	1	0	0	0	4	106	0	0	0	0	0	2	12	0	0	0	0	1	172
13 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	178	5	1	5	0	0	3	1	3	4	92	1	3	8	0	0	0	0	0	304
14 腎尿路生殖系系の疾患 (N00-N99)	242	157	1	3	0	729	0	0	4	3	0	1	7	53	0	42	0	0	0	1,242
15 妊娠、分娩および産後 (O00-O99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	2	0	0	0	52
16 周産期に発生した病態 (P00-P96)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	11
17 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	0	0	0	0	1	2	0	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	8
18 症状、徴候および異常臨床所見・異常 検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	20	0	2	11	0	25	0	3	1	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	69
19 損傷、中毒およびその他の外因の 影響 (S00-T98)	46	8	2	14	106	15	1	3	11	17	469	3	20	15	0	1	0	0	1	732
20 傷病および死亡の外因 (V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21 健康状態に影響をおよぼす要因及び 保健サービスの利用 (Z00-Z99)	0	0	12	1	0	0	0	0	0	0	48	0	18	0	1	0	0	0	0	80
22 原因不明の新たな疾患の暫定分類 抗菌薬及び抗腫瘍薬への耐性 (U00-U49) (U82-U85)	137	27	19	17	0	2	1	1	16	1	0	17	3	4	1	0	0	0	0	246
計	1,804	246	659	966	258	1,122	266	184	593	162	612	222	1,094	523	63	159	7	311	11	9,262



# 部門別報告

## ■診療科

救急総合内科	18
血液内科	19
消化器内科	20
腎臓内科	21
脳卒中センター 脳神経内科	22
循環器内科	23
小児科	24
放射線科	25
リハビリテーション科	26
精神科	27
病理診断科	28
脳神経外科	30
外科・消化器外科	31
泌尿器科・尿路結石治療センター	32
産科・婦人科	33
スポーツ整形外科	34
皮膚科	35
眼科	36
耳鼻咽喉科	37
麻酔科・ペインクリニック内科	38
歯科口腔外科	39

## ■診療支援部

薬剤部	40
診療放射線部	42
臨床検査部	43
輸血管理室	44
臨床工学部	45
リハビリテーション部	46
管理栄養部	51

## ■看護部

看護管理室	52
看護部教育担当	54

## ■事務部

医事事務補助課・秘書課	55
総務課・電話交換室・司書	56
施設管理課	57
保育室	58
医事課	59
情報室	60

## ■院長直轄部門

総合相談支援センター (医療福祉相談部/地域医療連携部/がん相談支援部)	61
総合相談支援センター (入退院支援センター)	62
診療情報管理室	64
感染管理室	65
データマネジメント室	66
臨床研究センター/HTLV-1研究センター	67
臨床試験支援室	68
看護師特定行為研修センター	69
リエゾン・認知症ケアチーム	70
栄養サポートチーム	71
緩和ケアチーム	72
褥瘡対策チーム	73
口腔ケアチーム	74

## ■関連施設

かごしまオハナクリニック	75
七波クリニック	76



## 2023年度の取り組み

内科専攻医は大幅に減少したが、皆で頑張っ救急患者や入院患者を受け入れてくれたため、救急車受け入れ台数、入院数とも増加となった。当院だけでなく他院からの初期研修医・専攻医も貢献してくれた。

膠原病は他院への認知も進み、重症患者を含め外来・入院とも大幅に増加している。

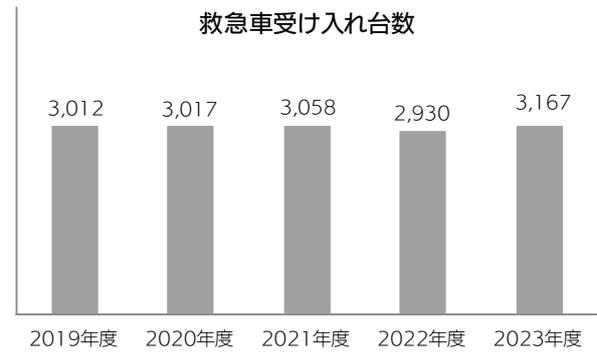
常勤の呼吸器内科医師が在籍するようになり、実績を着実に残している。

## 2023年度の実績/目標の達成度



## 業務全般についての総括

膠原病・感染症・呼吸器などの専門性も持ちつつ、総合内科的な高齢者や複合疾患、原因不明ケースなどに対応できた。救急車対応、院内急変への対応、研修医指導も行い、自科のみでなく、病院全体への貢献もできていると思われた。



## 2024年度の目標

内科専攻医の増加により、この2024年だけは最も人数的には充実するため、日中の救急患者の重なりで断らざるを得なかったケースを減らすこと、学会発表を増やすこと、外来研修指導をしっかりと行うことを目標とする。

専門外来は膠原病・感染症・呼吸器外来を継続する。足に地をつけて、しっかりとした診療を行うことが、何より患者満足や地域貢献につながることを念頭に診療していく。

救急車 3,100 台  
 新入院 2,000 名  
 外来患者 18,000 人



## 2023年度の取り組み

- #1, 外来初診患者の獲得 (目標: 40 人 / 月)  
32.1 人 / 月 (481 人 / 年)
- #2, 入院平均在院患者の増加 (目標: 50 人 / 日)  
45.6 人 / 日
- #3, 新規入院患者数の増加 (目標: 41.6 人 / 月)  
41.6 人 / 月 (624 人 / 年)
- #4, 造血細胞移植症例の増加 (目標: 4 件 / 月)  
4.1 件 / 月 (62 件 / 年)
- #5, 平均在院日数の短縮 (目標: 30 日以内)  
32.6 日

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01 ~ 2024.03 の15ヶ月間で集計

### <造血幹細胞移植実施件数>

同種移植	血縁	骨髄	0
		末梢血	11
	非血縁	骨髄	2
		臍帯血	31
自家移植		末梢血	18
計			62

### <骨髄採取術件数: 3件>

バンク: 3件 血縁: 0件

- ・外来初診患者数 481名
- ・外来化学療法数 1,456名 (延数)

## 業務全般についての総括

2021年・2022年・2023年(各1~12月)と比較すると新規入院患者数(495名・443名・511名)・入院平均在院患者数(44.5名・41.9名・45.4名)・移植件数(62件・41件・50件)、外来初診患者数(454名・427名・393名)・化学療法件数(808件・1,321件・1,166件)であった。入院関係では2022年はCOVID-19の病棟クラスター感染により低下したが、常勤医・看護スタッフ数の減少にも関わらず、在院日数の短縮を図り、2023年は順調に回復を認めている。一方、新規外来患者数は減少しており、理由としては、緊急入院が必要となる場合が多い血液疾患であるが、在院日数の改善を図っても入院ベッド確保の問題で断らざるを得ない状況や、治療法の進歩により長期生存例が可能となる一方、専門的対応が必要となり他院への紹介が困難な症例が増加し再来患者自体の減少が困難なこと、常勤医・コメディカル数の減少によるマンパワーの問題、輸血/外来処置数が増加しているものの外来での処置ベッド数不足など空間的・時間的に対応が困難など複合的な要素が根底にあると推測している。当院で入院・外来対応困難な場合には、いづろ今村病院へご相談する患者も増えており、引き続き医療連携には努めていく予定である。

血液内科医師は、2023年は、常勤医6名、血液内科専攻医1名といった内訳であった。国内外の主要学会にも、コメディカルも含め積極的に参加し、続々と登場する新薬・新治療法への対応に努めている。全スタッフ間の情報共有を行い、増加している臨床研究/企業治験も含め、最終的に患者の利益につながるように努める一方、働き方改革にも対応するという困難な目標を両立しつつ、来年度の診療実績の維持に努めていきたい。

## 2024年度の目標

1. 1日平均患者数(初診・入院)の安定した確保
2. 平均在院日数の短縮(目標: 30日)



## 2023年度の取り組み

今年度も引き続き常勤医5人体制にて消化器救急疾患はもちろんのこと、消化器癌をはじめとする難治性疾患に対し、診断から治療（内視鏡治療、化学療法、放射線治療など）まで行った。特に消化管の早期癌に対する精査や内視鏡治療（ESD）は積極的に行った。また、非常勤医師として鹿児島大学より上村修司准教授、坂江遥助教を含む計6人の医師がIBD専門外来や内視鏡診療、肝臓専門外来に携わった。学会にも積極的に参加し、発表を行った。

## 2023年度の実績/目標の達成度

### I. 患者獲得数

	2022年度	2023年度	評価
一日平均入院患者数	24.2	19.9	減
新入院患者数	694	631	減
平均在院日数	11.6	10.6	減
一日平均外来患者数	27.8	28.8	微増

### II. 内視鏡検査・治療件数

	2022年度	2023年度	評価
上部消化管内視鏡検査	2,321	2,303	微減
下部消化管内視鏡検査	879	1,000	増
小腸鏡(検査/治療)	24	12	減
EUS(FNA/治療含む)	348	204	減
ERCP(検査/治療)	306	277	微減
ESD(上下部)	55	59	微増
EMR(上下部)	566	492	減
胃瘻造設	59	55	微減
内視鏡的止血術	153	177	増
消化管ステント	40	22	減
腹部エコー	1,009	1,114	増
消化管透視検査	161	165	微増

## 業務全般についての総括

内視鏡業務については通常内視鏡の他、緊急内視鏡についても可及的に対応し、高難度手技であるESDや超音波内視鏡、消化管ステント留置術についても積極的に行った。膵癌、胆道癌をはじめとする消化器癌に対する化学療法も多数導入した。終末期医療への移行については、いづろ今村病院緩和ケア病棟や訪問診療の開業医との連携を行い、患者様にとって納得できる医療を提供することができた。透析患者や精神疾患の患者様の消化器疾患に対する精査加療も積極的に行った。鹿児島市における消化器内視鏡専門施設としての役割を果たすことができたと考えている。ただ、常勤医4人が入れ替わり、専門領域も変わり、入院数やEUS・ERCPの件数が減った。鹿児島大学からの非常勤医師によりEUSを行って頂き、多少はカバーできたが、前年には及ばず、今後この状況は続くと思われる。

## 2024年度の目標

新体制となり4年目を迎えるが、これまで以上に消化器疾患における日常診療から専門的な医療にわたるまで幅広く対応できるように努力を行うとともに、外部に向けての発信も引き続き積極的に取り組んでいきたい。なお、研修医に対する指導、医学生の受け入れも積極的に行っていく。内視鏡治療に携わるコメディカル(看護師、内視鏡技師)の育成や募集も行い、将来の発展を見据えた魅力ある消化器内科を作っていきたい。



## 2023年度の取り組み

2023年は大学から4名の常勤医、1名の非常勤医を派遣していただき、他の急性期病院で受け入れ困難な透析患者を引き続き受け入れることができ、外来透析患者数も増加した。

腹膜透析患者も増やすことができ導入期加算2を維持している。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

外来> 腎臓	…	延3,637名		
透析	…	延28,530名		
入院> 腎臓	…	延5,340名		
透析	…	延3,628名 (透析室)		
	……	延151名 (ICU)		
	……	延162名 (SCU病棟)		
手術件数・検査				
内シャント手術		34件		
経皮的血管拡張術		56件		
腎生検		26件		
その他の血液浄化療法				
CHDF	327件	CART	34件	
DFPP	0件	PE	45件	
PMX	13件			

## 業務全般についての総括

COVID-19の影響が一段落し、旅行透析の受け入れも開始しているが、入院透析患者数の増加に伴い透析ベッドの空きがなく受け入れが困難な事例も増えてきている。

腎代替療法指導管理料、導入期加算2は維持できた。また、透析室の電子カルテ化を実現しペーパーレスに一歩近づくことができた。

他科からの透析や血液浄化に対してはほぼ断ることなく対応できた。

## 2024年度の目標

昨年透析室電カルテシステム「Diacom」を導入し透析室の電子カルテ化を行った。引き続き業務改善を図っていく。

今年度は常勤医が減少したが昨年と同程度の初診患者、入院患者数、新規透析導入患者数を目指したい。

透析部門に関しては血液浄化が必要な他科の患者さんを断らない方針を最優先で継続していく。

午前の透析ベッドに空きがなくなっており看護師数減少も相まって今以上の透析患者数を目指すことは困難な状況である。

今年度は現状を維持すべく尽力する予定である。



## 2023年度の取り組み

神経内科常勤医 5 名体制

- ★日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会研修教育病院。一次脳卒中センター（PSC）。
- ★入院：2023.1～12月の当科入院数は582例（前年569例）。脳梗塞は340例（前年369例）、出血性脳卒中は71例（同87例）であった。
- ★tPA投与、超急性期血管内治療に24時間365日対応
- ★血管内治療専門医：浜田恭輔（当科）、田上なつ子（脳神経外科）
- ★血栓回収実施医：神田直昭（当科）
- ★緊急症例は終日受け入れ。総合内科に多くの緊急症例を診ていただいた。
- ★前方連携：脳卒中ホットライン設置済み。
- ★遠隔診療：指宿医療センターの画像検査結果を当院で参照・読影し、受診前診断が可能。
- ★後方連携：週に一度、回復期病床を有する地域6病院（大勝病院、南鹿児島さくら病院、アクラス中央病院、豊島病院、田上記念病院、キラメキテラスリハビリテーション病院）との地域連携多職種カンファレンスを開催。必要に応じ回診に同行。
- ★A棟5階西病棟：SCU9床および一般病棟35床で脳神経外科と共に病棟運営をおこなっている。運営基準を満たすため診療歴5年以上の医師が毎日当直している。（SCU当直）

★専門外来受診者数

- 2021.1月～12月：初診861例、再診6,849例。
- 2022.1月～12月：初診868例、再診7,309例。
- 2023.1月～12月：初診506例、再診6,855例。

## 業務全般についての総括

外来初診者数は常勤医減少に伴い減少。入院数は微増。超急性期脳卒中症例の特定施設への集約化が進む中でtPA投与および血栓回収症例数を維持していくことが課題

## 2024年度の目標

- ★年間入院症例数600超を目標とする。
- ★各学会施設基準の維持。
- ★脳卒中相談窓口の設置。
- ★前方連携・後方連携の維持。
- ★tPA投与体制および血管内治療体制を維持。
- ★次世代の脳卒中専門医を育成。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※2023年度のみ2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

- ★入院患者数は微増
  - 2021.1月～12月入院数：678例
  - 2022.1月～12月入院数：569例
  - 2023.1月～12月入院数：582例
  - 2024.1月～3月入院数：130例
- ★脳梗塞超急性期治療（脳卒中センター全体）
  - tPA投与症例数
    - 2023.1月～12月：12例（前年16例）
    - 2024.1月～3月：3例
  - 血栓回収術症例数
    - 2023.1月～12月：13例（同10例）
    - 2024.1月～3月：5例



## 2023年度の取り組み

入院に関しては、例年通り、高齢者の心不全を中心に診療を行った。強心薬の使用や、nasal high flow ないし NPPV の使用を余儀なくされる症例も多い中で、専門性を有し、急性疾患に精通し、かつ、高い積極性やネットワーク、そしてチームワークを兼ね備えた、優れた看護師によりサポートを得た。当院看護師独自に作成された心不全パンフレットを用いた患者指導も機能的に展開された。また、マニュアルを超え、患者や患者の家族の思いに応えた献身的看護に感動したとのお言葉を御家族からいただいた事例もあった。高齢者が多く、入院による ADL 低下が必至であるなか、心臓リハビリテーション指導士の資格を有する理学療法士を中心に、積極的なリハビリを展開できている。これは、今後の心不全パンデミック到来に向けての、重点分野と考えている。ペースメーカー診療や、人工呼吸管理においては、高度な専門技術を有する臨床工学士のサポートなくして診療はできない。各種デバイスの遠隔モニタリングにおいても中心的役割を果たしている。高齢者心不全診療での栄養療法は、益々重要度が高まっているが、この点に関して、適宜管理栄養士の介入を得られ、また、特殊薬使用の際のバックアップや複雑な背景を有する患者におけるポリファーマシーの調整において薬剤師のサポートを得た。高齢化社会においては核家族化や老々介護などの問題が絶えない。高齢心不全患者の自宅退院は容易ではなく、また、自宅退院が可能な症例においても、在宅でのサポート構築は欠かせないものであり、Medical Social Worker の役割は非常に大きいものとなっている。このように、心不全診療は、多職種介入により成立するものであり、今後、より一層こうした体制構築を進めていく必要がある。

外来に関しては、動悸、胸痛、呼吸苦、浮腫などを主訴に、毎日予約外受診が後を絶たないが、全て当日に診療を行っている。年々、近隣の地域の先生方から直接御紹介をいただくケースも増えてきている。高血圧含め、健診の二次健診も受け入れている。毎日、予定ないし緊急の院内コンサルと緊急術前検査へも対応している。このため、経時的に患者数は増加傾向を示している。冠動脈 CT、心筋シンチも徐々に件数は増加傾向で、ペースメーカーも例年通りの件数である。当院外来においては、外来看護師が、日々の外来患者への対応のみならず、採血、冠動脈 CT への立ち合い、心筋シンチの検査立ち合い、ペースメーカー手術への立ち合い、並びに終日の電話対応（予約業務）までの全てをこなしており、その広範囲

に及ぶ業務内容に頭が下がる思いである。また、1名の Doctor Assistant(DA) が、外来の全医師のサポートと、全入院患者の書類作成を担っている状況である。このように、これらのスタッフなくしては外来が成立しないが、マンパワー不足への対応やシステム改革が必要であると思われ、今後の課題である。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

外来患者数…	9,358名
延べ入院患者数…	5,557名
◎手術	
永久ペースメーカー植込み・交換術…	19件
◎外来検査	
冠動脈CT	91件
心筋シンチ	59件
心エコー	5,442件
四肢エコー	785件
ホルター心電図	150件

## 業務全般についての総括

多職種医療が循環器診療の要であり、その継続的な体制構築や調整が、常に最重要課題である。

## 2024年度の目標

時代が求める医療の効率化という作業に柔軟に対応しつつも、患者や家族、周辺施設の信頼を勝ち得る医療を展開し続けていくこと。



## 2023年度の取り組み

- ① 外来：COVID-19 が5類になり感染対策が緩和された影響で、COVID-19 以外にもアデノウイルス・インフルエンザウイルス・溶連菌感染症などの流行がみられた。外来では引き続き受診予約時に発熱や感染者との接触の有無などの確認を行い、隔離や感染対策を継続した。  
専門外来である内分泌外来の充実と可能な症例は紹介先での治療依頼にも取り組んだ。
- ② 入院：専門分野である内分泌疾患主に糖尿病の治療・教育入院を行った。
- ③ 保育室・病児保育：事故防止のための安全対策とともに感染対策を行った。アレルギー対応についても協議しマニュアルを作成した。
- ④ 学術的活動：学会参加・発表・講演を行った。

## 2023年度の実績/目標の達成度

	2022年度	2023年度
外来:延べ患者数	4,031名	3,721名
健診	86	57
予防接種	619	464
産婦健診	13	14
内分泌専門外来	2,316	2,538
低身長初診	67	63
先天性甲状腺機能低下症 マスキリング陽性精査	19	21
思春期早発症疑初診	51	50
肥満・生活習慣病初診	22	15
1型糖尿病加療中(CSII)	24(3)	26(3)
入院総数	8	5

## 業務全般についての総括

- COVID-19 が5類になったことでむしろ外来での感染対策が難しくなった一面もあったが、感染対策により外来での流行は防ぐことができた。
- 内分泌専門外来は、学校での成長曲線普及による成長障害での紹介や、肥満の増加に伴う生活習慣病での受診、また思春期早発も増加傾向にあり、昨年より受診者数は増加した。
- 学術的な面では、日本小児科学会鹿児島地方会、日本内分泌学会、日本小児内分泌学会の参加・発表を継続できた。
- 社会活動としては鹿児島県・鹿児島市の学校検尿判定委員会への参加、医師や学校向けに成長曲線関連の講演も行い学校保健活動に寄与した。

## 2024年度の目標

- ① 小児科外来の感染対策を継続し、事故の予防にも留意する。病児保育室とも連携し適宜勉強会も開催する。
- ② 内分泌疾患を中心に専門外来や糖尿病教育入院の充実を図る。可能な症例は逆紹介も検討する。
- ③ 学会・講演活動も継続する。



## 2023年度の取り組み

### 1) 画像診断

①2023.01.01-12.31

2023年度目標 総件数 22,000件以上

CT 16,705 (前年度比 107.8%)

MRI 6,788 (101.0%)

RI 208 (91.6%)

総件数 23,701 (105.6%)

②2024.01.01-03.31

CT 4,231 (前年度比 102.7%)

MRI 1,642 (100.2%)

RI 43 (89.6%)

### 2) 血管内治療・IVR

①2023.01.01-12.31

2023年度目標 200件以上

総件数 192件 (前年度比 68.8%)

\*緊急IVR 53件 (昨年54件 -1件)

②2024.01.01-03.31

総件数 30件 (前年度比 44.8%)

### 3) 放射線治療 (目標 3,000 回以上)

\*総治療回数

①2023.01.01-12.31

総件数 2,374件 (昨年度比 68.6%)

②2024.01.01-03.31

総件数 935件 (昨年度比 142.3%)

### 4) 外来患者

①2023.01.01-12.31

総患者数 1,988人 (昨年度比 69.7%)

②2024.01.01-03.31

総患者数 568人 (昨年度比 103.6%)

### 5) 新入院患者

①2023.01.01-12.31

総患者数 138人 (昨年度比 75.4%)

②2024.01.01-03.31

総患者数 40人 (昨年度比 133.3%)

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 1) 画像診断 22,000 件

総件数 23,701件 +1,701件

読影率 80%以上 管理加算(2)確保

### 2) 血管内治療・IVR 200 件

総件数 192件 -8件

緊急対応 53件 昨年-1件

### 3) 放射線治療 4,000 件

2,374件 -1,626件

## 業務全般についての総括

#### \*画像診断

管理加算②の獲得に努めた。昨年非常勤医の獲得ができ頭部、整形外科領域の読影率の上昇ができた。

#### \*血管内治療・IVR

常勤医の退職もあったが、病院全体の適応患者数の減少が原因と考える。24時間・365日緊急対応は可能な限り継続して行く。

#### \*放射線治療

一時的に症例数の減少があったが小線源治療の開始とともに外照射併用例も増加し2024年1月からの症例数の増加が得られてきている。

さらに症例獲得に努め4,000件/年を目指す。

#### \*コロナ禍で入院制限を余儀なくされた。

\*県医師会遠隔画像診断事業への協力/支援を引き続き行い地域貢献に努めた。

画像診断・IVR;管理加算②の獲得、後継者育成に努

## 2024年度の目標

める。人材確保等に善処していく。

放射線治療;年間4,000回を目指す。

各種研究会、病診連携施設等への啓蒙活動と併せ人材確保に引き続き善処していく。



# リハビリテーション科

## 2023年度の取り組み

1. 回復期病棟1の維持・継続
2. 病棟での新規入院患者 130 (1年間)
3. 嚥下内視鏡検査 140件 嚥下造影検査 30件
4. 神経ブロック 50件

## 2023年度の実績/目標の達成度

病棟については病棟のべ入院患者数 171名 (在宅復帰率 86.1% 重症度 44.6%) 他院からの転院者 35%

## 業務全般についての総括

回復期病棟入院患者数は 171名で増加した。10月に新型コロナウイルス感染症者が 5名発生した。FIM 利得は 40点以上を確保でき回復期病棟1の算定を継続できた。

外来リハビリ時のリハビリテーション科医師の間診を開始することができた。院内紹介数は 4,277件であった。嚥下内視鏡検査は減少、造影検査は増加した。神経ブロッ

## 2023年度の実績/目標の達成度

ク件数は減少した。

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### 回復期病棟 (延べ人数)

入院延べ人数	171名	退院延べ総数	181名
脳卒中	124名 (72.5%)	在宅	136名 (75%)
脳出血	36名	自宅	119名
脳梗塞	83名	高齢者住宅 特養 グループホーム	17名
S A H	5名	転院・転科	31名 (17.1%)
頭部外傷	3名		
椎体骨折	8名	療養	10名
廃用症候群	18名	急性期	21名
脊髄疾患	2名	老健	12名
大腿頭部骨折	8名	死亡	2名
他科依頼指示	8名		

総合内科	腎臓内科	血液内科	消化器内科	精神科	消化器外科	神経内科	脳外科	合計
1,638	109	469	305	211	237	558	195	4,277
眼科	産婦人科	泌尿器科	循環器科	皮膚科	整形外科	放射線科	歯科・耳鼻	
6	13	143	181	88	4	117	3	

## 2024年度の目標

- 回復期病棟1算定 (重症度 40%以上リハビリテーション実績指数 40点以上)
- 病棟でのリハビリ患者目標  
新規入院患者数 140名
- 嚥下内視鏡検査 130件  
嚥下造影検査 40件
- 神経ブロック (ボトックス) 70件

### 外来

	初診		再診	合計
	他科・病棟	外来		
R5/1月	282	3	206	491
2月	264	2	207	474
3月	298	6	182	486
4月	256	4	209	469
5月	298	7	232	537
6月	311	5	199	515
7月	284	6	218	508
8月	319	3	181	503
9月	275	5	225	505
10月	294	6	228	528
11月	264	3	233	500
12月	290	3	216	529
R6/1月	286	3	206	495
2月	258	5	199	462
3月	298	5	217	520
合計	4,277	66	3,158	7,502

### 検査

嚥下内視鏡 109件  
嚥下造影 48件  
神経ブロック (ボトックス/ゼオマイン) 68件



## 2023年度の取り組み

### ・身体疾患合併、救急入院の受入れ

一般の精神科病院では対応困難な精神疾患・身体疾患合併症例の入院治療を行った。

### ・精神科リエゾンチーム・認知症ケアチーム・緩和ケアチーム

江口政治 Dr が精神科リエゾンチーム専任医師として、前田冬海 Dr が認知症ケアチーム専任医師として、室屋真二 Dr が緩和ケアチーム専任医師として活動した。認知症ケアチームには梅原ひろみ医師も参加した。厚地絵理 Ns が認知症認定看護師の資格を取得し精神科リエゾンチーム・認知症ケアチームの専従看護師として活動を行った、地頭所孝之 PSW、前岡美玖 PSW にてリエゾン・認知症ケアコンサルトに対応した。月2回塩川奈理 Dr がいづろ今村病院へ往診し認知症患者などのリエゾン業務を行った。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### 入院患者総数 597 名

- ・精神疾患診断（診断を問わず受入れている。）
- ・身体疾患診断（診断/リハビリ/終末期医療のみ含）

#### (呼吸器)

誤嚥性肺炎、細菌性肺炎、間質性肺炎、肺膿瘍、膿胸、COPD、肺癌、気胸、窒息 など

#### (消化器)

マロリーワイズ症候群、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、直腸潰瘍、PEG 造設、イレウス、潰瘍性大腸炎、食道癌、胃癌、大腸癌、直腸脱、S 状結腸捻転、S 状結腸穿孔、大腸憩室出血、肝炎、肝硬変、肝癌、胆管炎、総胆管結石、胆嚢炎、胆管癌、膵炎、虫垂炎、門脈ガス血症、兪径ヘルニア、腹壁ヘルニア、穿孔性腹膜炎、異物誤飲

#### (循環器)

うっ血性心不全、洞機能不全症候群、深部静脈血栓症、肺梗塞、房室ブロック、QT 延長、たこつば型心筋症

#### (腎/泌尿器)

腎不全、ネフローゼ症候群、腎盂腎炎、水腎症、尿管結石、出血性膀胱炎、腎瘻、膀胱瘻、尿管ステント留置術、前立腺癌、尿路結石

#### (糖尿病/内分泌/代謝)

1 型糖尿病、2 型糖尿病、低血糖性昏睡、バセドウ病、

橋本病、SIADH、甲状腺機能低下症、副腎皮質機能低下症、原発性アルドステロン症

#### (血液)

巨赤芽球性貧血、成人 T 細胞性白血病、急性リンパ性白血病、ホジキンリンパ腫、骨髄異形成症候群

#### (皮膚)

薬疹、Stevens-Johnsons 症候群、褥瘡感染、熱傷、蜂窩織炎、下腿潰瘍、下肢壊疽、血小板減少性紫斑病

#### (脳外/神経)

慢性硬膜下血腫/水腫、脳梗塞、脳出血、脳挫傷、転移性脳腫瘍、正常圧水頭症、Parkinson 病、Wernicke 脳症、ミトコンドリア病、症候性てんかん、高齢発症てんかん、亜急性連合性脊髄変性症、悪性症候群、蘇生後脳症、ジストニア、痙攣重積

#### (整形)

大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、頸椎症性脊髄症

#### (その他)

急性薬物中毒、リチウム中毒、有機リン中毒、横紋筋融解症、筋挫滅症候群、偽痛風、SLE、関節リウマチ、睡眠時無呼吸症候群、refeeding 症候群

## 業務全般についての総括

一時病床稼働率が低下した時期があったが年度後半は回復した。精神科リエゾンチーム、認知症ケアチームへのコンサルト件数は依然多い状態が続いた。

## 2024年度の目標

- ・他科とも密に連携し、より質の高い医療を提供する。
- ・精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチーム活動にも注力する。
- ・人権、価値観、自己決定権を尊重し、御本人御家族が納得し満足される医療を提供する。



## 2023年度の取り組み

組織では、新人・新規入職技師が病理組織業務全般と技術を短期間で習得できるよう工夫し指導を行った。また、手技のマニュアル作成にも着手した。細胞診では、細胞診検査士の受験者に対し院外施設の協力も仰ぎ、指導・教育を継続し有資格者増を図った。医師は複数のセミナーを受講し、知識向上に努めた。また、2024年4月より化学物質管理者及び保護具着用管理責任者の選任の義務化の法改正に対し資格取得及び選任を行った。

## 2023年度の実績/目標の達成度

	2023年度	2022年度	目標
病理組織件数	3,499件	3,674	3,000件
術中迅速組織診断	110件	138	140件
組織免疫染色数	1,098件	1,182	1,000件
細胞診断件数	2,694件	2,633	2,000件
術中迅速細胞診断数	49件	86	75件
外来穿刺サポート	13件	17件	

剖検数 0 件 (CPC 回数 2 回)(2023.1 ~ 2024.3)

※ 2023 年度のみ 2023.01 ~ 2024.03 の 15 ヶ月間で集計

## 業務全般についての総括

術中迅速診断以外の目標は概ね達成できたが、全体に件数がやや減少し、剖検は無かった。

2023 年度はベテラン技師を含む 2 人が退職し、新卒と若手の技師 2 人が入職したが、手厚い技術指導や本人達の努力により、2 人とも数ヶ月という短期間で病理業務や技術を一通り習得し、全体として滞りなく業務を遂行できた。また、スタッフの強力なサポートと部長の多大なる尽力により、主任部長の長期介護休暇という非常事態を乗り切ってくれた。さらに、難関の細胞検査士資格試験に 1 名が合格したのは大変喜ばしい事であった。

## 2024年度の目標

細胞診検査士資格取得に向け、受験者への院内外の指導・教育を継続し、有資格者増を図る。

次世代に高度技術を繋ぐシステムを構築し、病理全体として質の高い診断を滞りなく提供できるように病理・細胞診の手技マニュアルを完成させる。HBZ-ISH をスタートし、ATL 以外での発現等、染色性の問題が見つかったが、他施設の協力も仰ぎ検討を重ねる。

## 組織診断統計 2023.01 ~ 2024.03

	生検		内視鏡切除		切除		合計
	全件数	(悪性)	全件数	(悪性)	全件数	(悪性)	
心・血管	3	(0)	0	(0)	20	(0)	23
血液・骨髄・脾	415	(133)	0	(0)	1	(1)	416
リンパ節	137	(74)	0	(0)	13	(5)	150
鼻・副鼻・咽喉頭	30	(7)	0	(0)	1	(0)	31
肺・気管	4	(1)	0	(0)	0	(0)	4
胸膜・縦隔・腹膜	4	(2)	0	(0)	28	(16)	32
口腔・唾液腺	12	(1)	0	(0)	1	(0)	13
食道	52	(13)	7	(7)	1	(0)	60
胃・十二指腸	441	(86)	44	(25)	80	(43)	565
小腸	72	(4)	1	(0)	43	(4)	116
大腸・肛門	341	(104)	625	(97)	304	(131)	1,270
肝・胆・膵	48	(35)	0	(0)	184	(4)	232
腎・尿路・男性器	182	(110)	103	(56)	97	(72)	382
女性器	142	(33)	0	(0)	90	(18)	232
乳腺	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0
甲状腺・内分泌	0	(0)	0	(0)	61	(29)	61
中枢・末梢神経	0	(0)	0	(0)	13	(2)	13
耳・眼	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0
皮膚	487	(70)	0	(0)	165	(48)	652
骨・関節	0	(0)	0	(0)	23	(0)	23
軟部	3	(2)	0	(0)	18	(1)	21
その他	41	(10)		(0)	0	(0)	41
合計	2,414	(729)	780	(176)	1,143	(362)	4,337

## 細胞診断統計 2023.01 ~ 2024.03

	腔・頸部	内臓	体腔液	消化器	甲状腺	泌尿器	呼吸器	髄液	リンパ節	その他	総件数
件数	1,044	135	226	124	8	1,365	247	170	3	36	3,358
(悪性)	(145)	(21)	(49)	(46)	(3)	(247)	(35)	(11)	(3)	(2)	(562)



## 2023年度の取り組み

2022年同様、断らない医療を継続した。  
脳卒中予防の外科治療に関しても、症例を確保し、特に内頸動脈狭窄症、未破裂脳動脈瘤に対する外科治療症例数増加を認めた。

特発性正常圧水頭症及び三叉神経痛や顔面痙攣といった機能的脳神経外科疾患の治療も維持した。

急性期血行再建術はこれまでどおり脳神経内科との連携し診療に当たった。

## 2023年度の実績/目標の達成度

### ①手術件数の増加

手術件数は増加した。

### ②血管内治療、脳血管撮影の件数及び体制維持

治療体制は維持できおり、症例数もやや増加傾向にあった。

### ③開頭手術の増加

代表的な疾患である脳動脈瘤に対する開頭手術は常に選択肢として維持できおり、血管内治療との良好な使い分けが可能である。

### ④若手の指導

年間通して積極的に脳動脈瘤頸部クリッピング術や頭蓋内血腫除去術といった開頭手術を中心に術者指導を行った。

## 業務全般についての総括

診療体制の維持はできている。

入院数、手術件数とも増加傾向となった。当院における脳神経外科の手術は大半が緊急手術であり、救急患者数にも依存しているため今後も救急車受け入れを積極的に行っていく。新型コロナウイルス感染症の影響も減少した結果とも考えられる。

2023年1月1日～2024年3月31日

入院数	315件
脳血管障害	154件
くも膜下出血	29件
脳出血	32件
未破裂脳動脈瘤	18件
血管狭窄・閉塞	10件
頭部外傷	109件
外傷性頭蓋内出血	12件
慢性硬膜下血腫	56件
機能的脳外科	11件
三叉神経痛	2件
顔面痙攣	1件
水頭症	14件

手術症例数	159例
脳動脈瘤開頭手術	21例
頸動脈内膜剥離術	2例
神経血管減圧術	5例
水頭症シャント手術	9例
慢性硬膜下血腫穿頭血腫除去術	57例
血管内治療	25例
脳動脈瘤塞栓術	17例
急性期血行再建療法	7例

## 2024年度の目標

当科の入院数、手術数は救急患者数に依存しており2023年同様、断らない医療を継続し、他院からの紹介数を増やすため密に連携を図っていく。

脳卒中予防の治療に関しても、症例を確保し、特に内頸動脈狭窄症、未破裂脳動脈瘤に対する外科、血管内治療の症例数増加を図りたい。

ガンマナイフの始動に伴い、脳腫瘍関連（主に転移性腫瘍）の手術症例を増やしていきたい。



## 2023年度の取り組み

前年度までは新型コロナウイルス感染症対策により手術件数が不安定でしたが、5類に移行した事により徐々に手術件数はコロナ前と同等程度に回復しました。また、2022年12月より導入した直腸癌に対するロボット支援下手術の運用も、順調に症例蓄積が進んでいます。

いづろ今村病院外科とは毎週一緒にカンファレンスを行うことで、転院調整も含めて連携が非常にスムーズになっています。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### ●全手術例数 936例

#### A.全麻症例 818例（鏡視下 678例 / ロボット 23例）

- |                  |      |       |
|------------------|------|-------|
| I. 頸胸部（甲状腺）      | 40例  | （9）   |
| II. 胃・十二指腸       | 47例  | （40）  |
| III. 小腸・大腸       | 359例 | （282） |
| IV. 肝胆膵脾         | 188例 | （181） |
| V. ヘルニア等（鼠径・腹壁等） | 187例 | （166） |

#### B. 腰硬麻・局麻 118例

### ●外来化学療法（2023年1月～12月）

レジメン延べ件数 1,174例

- 全手術件数・全麻手術数はともに2022年度に比較すると増加したが、目標の全麻手術数700例には及ばなかった。（全麻手術数：2022年600例、2023年659例）
- （医師主導治験）4型進行胃癌に対する術後または周術期補助化学療法としての全身・腹腔内併用化学療法と全身化学療法の無作為化比較第Ⅲ相試験への試験参加を行った。

## 業務全般についての総括

外来、手術、化学療法、病棟管理など全てにわたって安全に業務が遂行できた。

手術件数についても年次増加傾向にあり、ロボット手術などの新規治療も順調といえる。

新型コロナウイルス感染症の鎮静化に伴い、学会活動も活発に行われるようになってきている。

## 2024年度の目標

- 1) 全麻症例数 700例
- 2) 多施設共同研究への参加
- 3) 学会発表（全国学会、地方会）
- 4) 論文投稿



## 2023年度の取り組み

2014年12月から腹腔鏡手術を開始し順調に症例は増加している。2022年5月からはロボット支援下前立腺摘除術を開始し、順調に症例数が伸びている。尿路結石に関しては経尿道的・経皮的手術が357例、体外衝撃波結石破碎術が162例 計519症例を確保することが出来た。泌尿器系急患（結石性腎盂腎炎や精巣捻転等）に関しても総合内科の協力を得て積極的な受け入れを行った。前立腺癌検診は例年通りMRI検査を施行し、生検の適否を検討して行った。前立腺癌に関しては2022年12月より小線源療法も導入し、鹿児島県で唯一、ロボット支援下手術、外照射、小線源治療が選択できる病院となっている。尿路系腫瘍に対する化学療法も免疫チェックポイント阻害薬などの新規薬剤の積極的使用を継続している。

## 2023年度の実績/目標の達成度

2023年度は外来、入院症例数共に前年度と比較して増加が見られた。前年度に比べ

- ①体外衝撃波結石破碎症例は累計162件と横ばい、経尿道的・経皮的手術に関しては357件と増加した。
- ②悪性腫瘍手術は腹腔鏡手術が69件、経尿道的手術が63件と増加。
- ③前立腺針生検は105件と増加した。
- ④尿路感染症例の受け入れも増加傾向であった。

外来検査、手術に関しては膀胱鏡検査835件、エコー検査2,551件、尿管ステント留置術492件、抜去術316件、腎瘻造設術56件等であった。

手術：

腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍手術	40件
腹腔鏡下腎摘出術	3件
ロボット支援下前立腺悪性腫瘍手術	26件
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	3件
その他、腹腔鏡手術	6件
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術	63件
経尿道的前立腺手術	11件
経尿道的尿路結石除去術	300件
経尿道的膀胱結石摘出術	30件
経尿道的尿管狭窄拡張術	1件
経尿道的尿道ステント前立腺部尿道拡張術	3件
経皮的尿路結石除去術	32件
顕微鏡下精索静脈瘤手術	2件
その他含め累計	5,688件
体外衝撃波碎石術	197件

## 業務全般についての総括

外来診療におけるスタッフ間の連携は円滑に機能している。他部署との連携も概ね良好で円滑に機能している。外来患者数の増加の影響もあり、昨年までの比較で診察待ち時間の短縮には至っていない。泌尿器科系救急疾患に関しては、総合内科を始めとする各部署の協力を得て積極的な受け入れを行っている。ロボット支援下手術は前立腺癌に加え、腎癌や腎盂尿管癌に対しても適応を拡げ、症例数を伸ばしている。前立腺癌に関しては小線源治療も30件の症例を確保できており、今後も紹介症例の増加が期待される。今後も近年伸び悩んでいた尿路系腫瘍症例数を増やしていき、ロボット支援下手術の適応を膀胱にまで拡大していく予定である。尿路結石の治療に関しては内視鏡手術が350件を超えており、尿路結石治療センターとして地域に周知されていると思われる。

## 2024年度の目標

- ①尿路結石症の症例確保
- ②腹腔鏡・ロボット支援下手術の症例確保
- ③小線源治療の症例確保
- ④泌尿器科系救急患者の積極的受け入れ
- ⑤泌尿器科クリニカルパスの充実
- ⑥いづろ今村病院緩和ケア科との連携強化
- ⑦ロボット支援下手術の適応拡大
- ⑧カンファレンス、勉強会の充実
- ⑨学会参加並びに発表
- ⑩将来的な人員確保への布石



## 2023年度の取り組みと実績

### 1)手術

手術件数は101件と著明に増加した。腹腔鏡下手術38件（うち腹腔鏡下腔式子宮全摘術9件）、子宮鏡下手術6件、帝王切開10件であった。

2024年4月より日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医である兒島医師が就任され、手術目的の紹介件数が増え、手術件数が増加した。手術点数の単価が高い腹腔鏡下腔式子宮全摘術数が増え、かつ自院スタッフのみで手術が行えるようになった。今まで行っていなかった子宮鏡下手術が行えるようになった。

### 2)化学療法・放射線治療件数

化学療法：12名 放射線治療：1名

### 3)分娩

分娩件数は26件、うち帝王切開10件であった。

全国的に分娩件数の減少傾向にあるなか、当院での分娩数は横ばいであった。慈愛会職員等出産お祝い金制度の利用により、慈愛会職員と家族が当院での出産を選択されることで、分娩数を保っている現状である。

### 4)垂水市と慈愛会の包括協定事業

慈愛会垂水サテライトクリニック開院という新規事業のため、医師・助産師・臨床工学技士・総務課・医事課・検査部・薬剤部・病理部・感染管理室・中材と多職種で協力して準備を行っている。

垂水市と提携した子宮頸がん検診を行った。

産婦人科医師による垂水市民への講演会や、垂水市報への医療コラム掲載を行った。

### 5)院内紹介、慈愛会他施設からの紹介

他科からの当日緊急の婦人科外来紹介も受け入れており、院内紹介患者数は増えてきている。

## 業務全般についての総括

手術がとも増えました。

慈愛会垂水サテライトクリニック開設のための準備がととても大変でした。

## 2024年度の目標

### 1)手術

産婦人科の手術枠が水曜午後のみであり、1日2件までの手術が限界であることを考えると、これ以上の手術件数増加は困難である。手術枠の見直しが望まれる。

### 2)化学療法 放射線治療

引き続き鹿児島大学婦人科腫瘍グループとの連携をとり、化学療法件数の増加を目指す。

### 3)分娩

出産費用は自費診療で各分娩施設により値段が異なるが、当院は公益財団法人として出産費用を低めに設定している。2024年5月厚生労働省より出産費用の見える化（出産に伴う平均入院日数や費用などを、医療機関毎に比較できる専用サイト）が開設予定である。物価高等の時勢もあり、出産費用面から当院での分娩を検討する妊婦さんが増え、分娩件数が増える可能性がある。

### 4)慈愛会垂水サテライトクリニック

2024年5月7日開院予定である。当科からは火曜木曜の午後に医師を垂水市に派遣する。現在の今村総合病院での業務に加えて、垂水市サテライトクリニックでの業務が追加になり、医師の負担増が予想される。平均年齢が高くかつ育児や介護の担い手でもある産婦人科医師達が疲弊して休職・離職することにならないよう、業務内容への配慮や働き方改革が必要である。



## 2023年度の取り組み

- 1) スポーツの盛んな鹿児島県において、多様なレベル・種目・年齢のスポーツ選手に対する診療を中心に、早期スポーツ復帰と再受傷予防を目指し、スポーツ整形外科に携わる多職種のスタッフ間で連携を取りながらチーム医療を行った。
- 2) スポーツ選手・関節疾患に対する鏡視下手術（膝・肩・肘・足関節）をさらに充実させた。
- 3) アスレチックリハビリテーションや各種スポーツチームの帯同・大会救護などの院外活動にも積極的に取り組んだ。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### ◎患者数報告

外来患者数	25,227名
入院患者数	7,638名
紹介患者数	入院→ 9名
	外来→ 1,229名

### ◎手術件数

624件

膝	384	肩	133	大腿	3
関節鏡下靭帯断裂形成術	197	関節鏡下肩腱断裂術	72	大腿骨内異物除去術	1
関節鏡下半月板切除術	67	関節鏡下肩関節唇形成術	34	大腿骨折観血的手術	2
関節鏡下半月板縫合術	67	人工関節・人工骨頭	21		
関節鏡下膝関節滑膜切除術	20	肩関節授動術	2	<b>下肢（大腿は除く）</b>	<b>85</b>
膝関節形成術（その他）	8	関節鏡下肩関節滑膜切除術	1	骨折観血的手術	23
関節鏡下膝関節鼠摘出術	7	その他	3	下腿骨内異物除去術	42
靭帯断裂形成術・縫合術	3			アキレス腱断裂術	5
関節鏡下膝関節内骨折観血的手術	4	<b>上肢</b>	<b>10</b>	関節鏡下足関節滑膜切除術	2
骨折観血的手術	9	骨折観血的手術	3	骨部分切除術	3
その他	2	骨内異物除去術	2	骨切り術	4
		腱鞘切開術	3	その他	6
		手根管開放術	2		
				<b>その他</b>	<b>9</b>

## 業務全般についての総括

前年比

外来患者数	+0.7%
入院患者数	+41.8%
外来紹介患者数	+35.4%
手術件数	+29.3%

前年度と比較し、患者数・手術件数すべてにおいて増加、特に肩関節手術数は約4倍と著増した。

## 2024年度の目標

2023年度は前年度と比べ、かなり飛躍した実績を上げることが出来たが、手術待機期間の長期化が問題となった。入院・手術患者を速やかに受け入れることができるように、スタッフ間の連携をしっかりと図りながら、患者数・手術件数の維持～増加を目指したい。

コロナ禍前まで定期的に行っていたACL教室や傷害予防教室などの地域活動を再開し、アスリートのスポーツ傷害予防活動に努めていきたい。



## 2023年度の取り組み

本県では皮膚科で入院可能な施設は少ないため、例年同様、開業の皮膚科医院や他科との連携を図り積極的に入院患者を受け入れた。

紹介重点医療機関指定に伴い、逆紹介を進め、再再診患者数の抑制に努めながら、前年同様の紹介患者、入院患者の受け入れを行った。

令和6年度からレーザー治療などの自由診療の拡大を予定しており、そのための体制作りを行った。

乾癬治療において、リウマチ科以外の他科との連携を進めるため、勉強会を行った。

## 2023年度の実績/目標の達成度

	2023年	前年比	2023年度
外来延患者数	11,454名	(-815)	11,357
初診	1,504名	(-144)	1,512
再診	9,950名	(-609)	9,845
(往診)	94名	(-10)	111
他科入院中	1,005名	(-185)	1,010
紹介患者数	708名	(-58)	751
入院延患者数	203名	(+16)	218
手術件数	133件	(+26)	143
手術室利用	119件	(+31)	127
外来施行	14件	(-5)	16
病理依頼	520件	(-44)	552
蛍光抗体法	89件	(-11)	94
紫外線療法	133名	(+12)	138
乾癬生物学的製剤治療	154名	(+22)	

※前年比は2023年1月～12月までのデータ

## 業務全般についての総括

大学からの常勤医師派遣が得られない状態が続いており、業務の改善をすすめた。

外来患者数は、昨年よりも減少している。

積極的に逆紹介を行い、開業医との連携を深め、紹介患者も早期に紹介元にお返しすることで、再診患者が大きく減少した。初診患者の減少は、外来の予約制徹底を進めた影響もあると考えられる。

また近隣に新規開業したクリニックと連携を進め、緊急性のない時間外初診が減少し、紹介が増えた。

乾癬では治療のセンターとして紹介患者は変わらず多く、リウマチ科との連携強化の結果乾癬性関節炎の紹介が引き続き増加している。

紹介、入院、手術患者数は回復傾向である。

今後も当院の特色、各医師の専門性を高めるとともに、情報発信を強化していく予定である。

## 2024年度の目標

いづろ今村病院皮膚科との連携を更に強化し、一体となって入院、手術患者の獲得に努める。

患者数も重要ではあるが、診療内容の高度化、質の向上を重視した取り組みを進める。乾癬の診療では循環器内科や消化器内科などとの連携を進めていく。

また、往診も地域のニーズに合わせて更に充実を図る。

院内での褥瘡診療体制の強化など、加算に係わる業務の内容も向上に努める。

公益財団法人としての役割を考慮しながら、必要な自由診療についても体制を整備していく。

入院患者もこれまで同様積極的に受け入れる。

臨床研修医を積極的に受け入れ、指導する。

医師のみではなく、看護師のスキル向上、資格取得を進めており、今後も継続的に支援し、診療報酬上の加算にもつなげていく。

学会、研修会への参加、学会、論文発表も行う。

臨床試験、治験等にも積極的に関与していく。



## 2023年度の取り組み

昨年と同様の常勤3名体制が維持できました。

精神科・麻酔科との連携により精神疾患を有する患者の全身麻酔下での眼科手術に積極的に取り組み、また、透析センターとの連携によって重症腎不全患者の受け入れも問題なく行えました。さらに、常勤医3名の維持により合併症を有する患者に対しても、積極的に取り組む事が出来ました。

昨年度から実施している加齢黄斑変性や網膜血管閉塞、糖尿病網膜症に対する抗 VEGF 治療も軌道に乗っています。

## 2023年度の実績/目標の達成度

手術件数は、前年度と比較し横ばいでしたが、全身麻酔症例が1.5倍増加しており、当院での全身麻酔下での眼科手術が他医療機関から認知されて来ていると思います。

### 局所麻酔・全身麻酔

	症例数		
	2021	2022	2023
局所麻酔	201	305	278
全身麻酔	39	40	62
合計	240*	345	340

\* 症例数と手術件数の差異は、両眼手術症例のため

### 透析患者の手術

	症例数		
	2021	2022	2023
白内障手術	16	11	18
硝子体手術	5	6	7
合計	21	17	25

### 抗 VEGF 治療

	症例数		
	2021	2022	2023
ラニズマブ	0	17	35
アフリバルセプト	0	0	38
合計	0	17	73

## 業務全般についての総括

2020年から現在の体制を維持継続しています。

全身麻酔患者増加の背景には、認知症を含めた精神疾患を有する眼疾患患者の増加が考えられます。

ここ数年来、麻酔科・精神科との連携により治療が円滑に継続して行えていることが何より、特記すべき要因と考えます。

## 2024年度の目標

当院は、精神科病棟・透析室を有し、全身麻酔下の眼科手術が可能である鹿児島県内唯一の民間病院です。その特徴を活かし、引き続き、上記合併症で治療困難となっている眼疾患患者のニーズを掘り起こし、積極的に加療を行っていききたいと思います。

さらに、本年度から地域貢献の立場から、離島との連携により、離島診療についても力を入れたいと考えております。

### 手術実績

術式名	手術数		
	2021	2022	2023
白内障手術(IOL挿入)	237	334	363
硝子体茎離断術	59	104	86
硝子体切除術 片眼	39	25	12
増殖硝子体網膜症手術	3	2	8
その他	10	14	8
合計	348	479	477



## 2023年度の取り組み

2023年度も鹿児島大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科からの非常勤医師が火曜日・木曜日・土曜日午前中の外来診療を担当した。

当科疾患での入院治療は困難であるものの、鹿児島大学病院との連携により適切な治療へとつなぐことができている。

## 業務全般についての総括

週に3回の外来診察である為、一日当たりの診察人数が多い傾向にあったが、医師・看護師・DA間で連携を取りながら、少しでも患者さんの待ち時間を減らせるよう工夫した。

また患者さんの症状を細やかに聴取することで適切な検査・診療に繋げ、鹿児島大学病院や地域の医療機関との連携を図る事が出来た。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

【初診患者】 119名

### 【外来処置・検査件数】

- ・標準純音聴力検査 238件
- ・チンパノメトリー検査 112件
- ・頭位及び頭位変換眼振検査 86件
- ・ファイバースコープ  
(嗅裂部・鼻咽腔・副鼻腔入口部) 234件  
(喉頭) 415件
- ・内視鏡下嚥下機能検査 30件
- ・簡易睡眠ポリソムノグラフィー検査 102件
- ・病理検査(細胞診・組織診・生検) 34件

### 【耳鼻科関連画像検査件数】

- ・CT検査 83件
- ・MRI検査 26件
- ・超音波検査(甲状腺・頸部) 260件

### 【手術】

- ・鼻腔粘膜焼灼術 4件
- ・鼓膜切開術 2件
- ・鼓膜(排気、換気)チューブ挿入 2件
- ・外耳道異物除去術(単純) 1件
- ・鼻甲介切除術(その他) 1件

## 2024年度の目標

2024年度より、当科外来で検査したファイバー画像を電子カルテで閲覧できるシステムを導入予定である。今後は、データの保存・確認や、他科との情報共有が更に容易になることが期待される。

火曜日・木曜日・土曜日の週3回の外来診療体制を維持し、鹿児島大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科や地域の医療機関との連携を密にはかる。



# 麻酔科・ペインクリニック内科

## 2023年度の取り組み

### ◎麻酔科

#### 1. 手術室の本格的な稼働

2018年6月1日新病院開設以降、手術室6室で手術件数を如何に効率よく運営するかに苦心したが、各診療科の協力が得られ、看護部との連携もスムーズで、概ね問題なく経過した。

#### 2. 術前外来

入退院支援センターの協力もあり、術前外来の重要性が認識され、効率の良い周術期運用が可能であった。新規術式の導入に関しても、看護部の迅速な対応で細かい管理も可能となり、特段のトラブルもなかった。

### ◎ペインクリニック内科

#### 1. 常設の外来開設と新規外来患者の獲得

2. 緩和チーム参加 鈴木医師 2023年 204例 (昨年219件)

## 2023年度の実績/目標の達成度

### ◎麻酔科

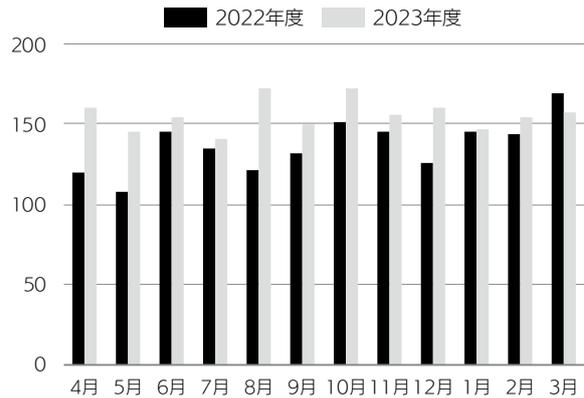
年間の麻酔科管理件数は1,871件。新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなり、徐々に件数も増え昨年と比較し324件増加した。

### ◎ペインクリニック内科

週3日医師2名体制で麻酔科術前外来との兼務の中、2022年は総患者数が857名であったが、2023年は702名と155名減少した。

## 業務全般についての総括

麻酔科学会報告アクシデントが1例発生したが、概ね良好な麻酔管理ができた。



### 2023年1月～2024年3月全身麻酔症例件数(月別)

1月	145	7月	141	1月	147
2月	144	8月	172	2月	155
3月	169	9月	150	3月	157
4月	161	10月	172		
5月	146	11月	156		
6月	154	12月	161		
総 数					2,330

## 2024年度の目標

麻酔科管理件数 2,000件

ペインクリニック内科新規外来患者数：月10件



## 2023年度の取り組み

### 【病診連携・病病連携】

地域の医療機関から一般歯科では対応困難なハイリスクな患者様や口腔外科疾患の患者様をご紹介いただき、専門的な治療を行った。

また、大学病院や市立病院から口腔癌や顎骨壊死などの患者様の受け入れや、院内他科に転院された患者様の歯科治療を行うなど、病病連携にも取り組んだ。

### 【医科歯科連携】

ハイリスクな患者様の歯科治療にあたっては、院内の関連する診療科の協力を頂きながら歯科治療を行った。また、周術期等口腔機能管理を通じて誤嚥性肺炎などの合併症や口腔トラブルの予防に努めた。

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

外来患者総数	3,875名
初診	893名
再診	2,982名
入院患者数	9名

### 前年度との比較(2023年4月～2024年3月)

外来患者総数	3,098名	(前年度:2,970名)
初診	740名	(前年度:627名)
再診	2,358名	(前年度:2,343名)
入院患者数	6名	(前年度:11名)

## 業務全般についての総括

外来患者数は前年度より増加し、コロナ禍で一時減少していた患者数も回復しつつあるが、過去最高だった前々年度の患者数には届いていない。

入院患者は前年度より減少しており、当科の診療体制や設備からすると、改善する余地があると思われる。

周術期等口腔機能管理目的の医科からの紹介患者は増加しており、院内の医科歯科連携をさらに進めることができた。

## 2024年度の目標

周術期等口腔機能管理などを通じて、医科歯科連携による口腔ケアに積極的に取り組む。

本年5月から毎月第3火曜日に鹿児島大学口腔外科の奥井達雄教授による診察を開始する予定である。また、入院患者の受け入れや全身麻酔の手術症例を積極的に増やし、地域支援病院の口腔外科の専門施設としての役割を果たすべく、さらに診療体制を強化する方針である。



## 2023年度の取り組み

1. 薬剤業務効率性の向上・維持：入院稼働が低迷している中でも、薬剤管理指導や病棟薬剤業務関連の業務実績はプラスであった。人員も不足していたが個々がコスト意識を持って業務展開した結果と考える。また、薬剤管理指導記録に多くの時間を費やしているため、診療録への記載簡略化・簡素化を進めている。さらに高額な生物学的製剤を都度発注から定数管理化することで、発注に関わる業務時間が短縮し、薬剤部のみならず診療部や看護部も業務改善となった。
2. 地域調剤薬局との連携：月1回の近隣薬局との情報交換会を開催、慈愛会薬薬連携交流会はハイブリッド開催にて2回開催した。かかりつけ薬局推進および調剤薬局での患者待ち時間対策のため、LINEカード（調剤薬局と患者がLINEで繋がるためのQRコード等を記載した名刺サイズのカード）配布場所を院内2か所（外来総合受付と正面玄関）に設置した。
3. 部門のレベル向上
  - ① 認定・専門薬剤師の養成・更新
    - ・ 日病薬病院薬学認定薬剤師 新規2名
    - ・ 日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士 新規1名
  - ② 勉強会・学会発表（2023年1月から2024年3月）
    - ・ 部内勉強会・研修会：30回/年
    - ・ 症例検討会・論文抄読会：55回/年
    - ・ 第6回鹿児島県病院薬剤師会学術大会：1演題発表（優秀発表賞受賞）
    - ・ 第7回鹿児島県病院薬剤師会学術大会：1演題発表
    - ・ 慈愛会薬剤部合同研修会：2演題発表
    - ・ 第3回慈愛会学会学術集会：1演題発表
4. 研修受入
  - ・ 認定薬剤師研修実施
    - 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設
    - 日本臨床腫瘍薬学会がん診療病院連携研修病院
    - 2023年度1名研修受入
  - ・ 薬学部実務実習受入：3名受入
5. SNSの活用：2024年2月から今村総合病院薬剤部の公式Instagram、Facebookを開設した。患者への情報発信はもちろんだが、周辺の病院や調剤薬局をはじめとする医療機関との連携を目的に、薬剤部の活動を外部へ発信している。薬学部がない鹿児島県では薬剤師の確保が喫緊の課題となっており、薬剤師就職のツールとしても活用している。今後も定期的な情報発信を行い、地域貢献や薬剤師確保に努めていく。



薬剤部公式  
Instagram



薬剤部公式  
Facebook

## 2023年度の実績/目標の達成度

	2022年度	2023年度
1.薬剤管理指導業務		
・算定指導件数(件)	10,773	11,139
・保険点数(点)	4,160,965	4,261,365
2.病棟薬剤業務点数(点)	3,793,730	4,136,470
3.内服・外用調剤		
・入院処方箋枚数	82.2枚/日	71.4枚/日
・外来処方箋枚数	6.8枚/日	6.4枚/日
4.注射調剤		
・注射処方箋枚数	792枚/日	809枚/日
・抗がん剤無菌調製枚数	5,843枚/年	5,638枚/月
・中心静脈栄養混注件数	3,001件/年	4,075件/年

## 業務全般についての総括

病院全体の予算が達成されない中であっても、薬剤管理指導や病棟薬剤業務関連の業務実績はプラスであった。人員も不足していたが個々がコスト意識を持って業務展開した結果と考える。一方この数年の医薬品供給問題は、薬剤部の大きな負担となっていたが、情報をいち早く収集し在庫確保することで診療に大きな影響を与えることなく業務継続できた。供給問題とは別に、薬物療法の個別化や医薬品安定供給問題を背景に適正在庫設定が困難となる医薬品が年々増加してきており、問題を解決するため個別化医療支援プラットフォームを2023年10月に導入した。それまでアナログ対応であった手順を廃止し、定数管理化し通常調剤の運用とすることで業務時間が大幅に短縮した。最後に認定専門分野薬剤師の育成についてだが、新型コロナウイルス感染症の5類移行により研修会など集合研修を再開した。学会発表が少なかったが、来年度以降の課題としたい。

## 2024年度の目標

1. 薬剤業務効率性の向上・維持：急激な人員の増員は見込めないため、これまで同様に業務改善に取り組み、前年度比増を目標に業務展開していく。
2. 地域連携の充実：2025年に向けた地域医療構想推進の一環として、病院薬剤部と近隣薬局との連携強化や情報発信を継続し、当院で治療を受けた患者が各地域へ戻った後のフォローをかかりつけ薬局とともに進めていく。
3. 部門レベルの向上：各種認定・専門薬剤師の育成を継続する。ポストコロナで職員に対する自己研鑽や研修の場はこれまでより提供できているが、症例検討会等での活発な討議がまだまだできていないため、今後は参加型の研修会を企画していきたいと考えている。



# 診療放射線部

## 2023年度の取り組み

小線源治療を安定的稼働。  
機器更新（透視装置2種、骨密度装置、治療計画装置）へ対応。告示研修受講、タスクシフト・シェアの推進。被ばく低減。

## 2023年度の実績/目標の達成度

人材的に限られた中で、最良の画像情報、治療の提供が行えた。

水晶体防護の教育。

### ○放射線治療部門

昨年度の件数を下回る結果となったが、JASTRO施設認定に申請し、区分Cの認定審査に合格した。

医学物理士の指導の下、月1回の品質管理会議を継続的に行うことができた。

### ○CT部門

職業被ばく低減の為プロテクタ、ゴーグル着用を徹底し、プランの見直しをおこない、画質向上に努めた。

### ○透視・ANGIO部門

機器更新を行い、安定して稼働させることができた。

さらなる人材育成が必要

### ○一般撮影部門

昨年の腹部立位の中心位置のデータを元にスケールを作成した事で再撮影率3%であった。

技量や勘にとらわれない画像提供を行えた。

骨密度装置は更新もあり14.1%増であった。

### ○MRI

昨年度より1.4%の検査数増

### ○RI

昨年度より故障が多く、前年度比93%であった。

## 業務全般についての総括

大きな事故等なくモダリティを稼働し、医療監視へ対応することができた。

タスクシフト・シェアとして、核医学検査のアイソトープ静注、抜針を開始した。

## 2024年度の目標

タスクシフト・シェアの推進、人材育成。

ガンマナイフ導入へ向け、特定放射性同位元素防護規定の作成、研修など準備を行う。

### ○放射線治療部門

治療計画装置を更新したため、治療計画から照射開始までのスループット向上を図る。

### ○CT部門

プロトコルごとの前処置の周知、緊急時の対応を含めた安全性の向上に努める。

### ○透視・ANGIO部門

画質調整、操作等に関する情報を共有し、安定稼働できるように努める。

精密検査、夜間緊急時のANGIO対応できる技師の人材育成を図る。

### ○一般撮影部門

再撮影の低減、オペ室Cアーム業務の人材育成。

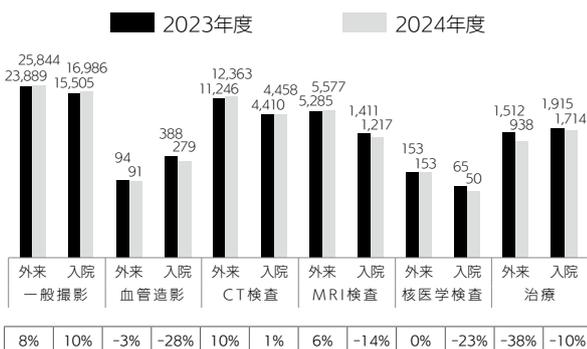
### ○MRI

OSバージョンアップ予定に伴い、適切なシーケンスの検討、安定した画像の提供

### ○RI

各シーケンスの検討、安定した画像の提供および検査数の確保、機器更新への対応。

前年度累積件数比





## 2023年度の取り組み

- ・泌尿器科実施分の超音波検査画像を生理検査部門システム（Hi-medion）にて一元管理し、電子カルテ上の閲覧が可能になった。
- ・新規検査項目の検討と導入をおこなった。（血小板凝集能検査と KL-6 の院内測定を開始、BRCA 遺伝子検査の外注検査を開始）
- ・輸血機能評価認定制度（I&A）更新の受審と、認定輸血検査技師の研修施設申請。
- ・聴力検査室とコロナ PCR 検査前処理室の移動で、検査環境の改善、業務の効率化と結果報告の迅速化につなげた。
- ・正確な検査結果提供のため、検査機器の計画的な更新（血中アンモニア測定器、血球洗浄遠心機、オージオメーター、ティンパノメトリー、超音波診断装置、浸透圧計）を行なった。
- ・中学生職場体験学習（3校）の受け入れ。
- ・検査技師養成学校生の病院見学受け入れは、令和6年度の新入職者2名につながった。
- ・臨床検査技師の臨地実習受け入れ施設に必要な臨地実習指導者配置のため、講習会の受講を1名修了。
- ・タスク・シフト/シェアに関する指定講習会の受講を勧めた。修了者は、22名/25名（修了率88%）
- ・かもいけ健康祭りで、検査ブースに参加。頸動脈エコー検査を100名実施。

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 検体・輸血検査

	2021年度	2022年度	2023年度
生化学	128,771	123,518	126,829
血液一般	97,042	95,526	98,403
尿一般	36,195	35,869	37,560
血液型	2,171	2,291	2,665
交差適合試験	2,754	2,882	3,070
コロナPCR	685	9,577	8,495

### 生理検査

	2021年度	2022年度	2023年度
心電図	5,929	5,990	6,149
肺機能	2,123	1,920	2,254
聴力	474	382	398
脳波	348	259	260
筋電図	171	140	118
心血管エコー	5,868	5,345	5,566
腹部エコー	1,561	1,539	1,797

## 業務全般についての総括

慈愛会臨床検査部一体化に向け、いづろ今村病院との人事交流で6ヶ月間の人事異動を実施した。計画的な新人研修で、日当直業務を一人で安全におこなえる教育体制を整えた。適切な検査機器更新と検査環境の整備をおこない、業務の効率化、適正化で、大きな事故なく検査業務を遂行できた。超音波検査士資格（消化器領域）取得者1名、各技師がスキルアップ、レベルアップできる環境づくりを整えている。

## 2024年度の目標

- ・働き方改革に対し、タスク・シフト/シェアに関する指定講習会受講修了を促し、多職種連携を検討し実践する。
- ・迅速で適正な臨床検査提供体制の維持。
- ・新規検査項目の検討と実施。
- ・慈愛会臨床検査部パンフレットの作成。
- ・臨床検査技師の適正な人員の確保。



## 2023年度の取り組み

1. 毎月第1月曜日に輸血療法委員会を開催
2. 輸血用血液製剤、アルブミン製剤の使用状況、廃棄事例、輸血に関する副作用、インシデントなどの報告、またそれらに係る課題の検討、先進的な取組事例の情報提供および周知
3. 適正、安全な輸血を推進するため、現状把握と指導を目的とした院内巡回（輸血ラウンド）の定期実施
4. 輸血管理料I、輸血適正使用加算（管理I用）維持
5. 輸血ラウンド結果報告周知、輸血ラウンド評価に関する検討
6. 輸血ニュース『いまむら輸血インフォ』を年4回発行し、特集記事、担当委員なども随時検討
7. I&A(輸血機能評価認定)制度認定施設更新のためのリモート受審、他施設の視察員として審査協力継続
8. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会、第70回総会、第91回例会の例会長として2023/11/25鹿児島で準備、開催（宮園医師）
9. 鹿児島県合同輸血療法委員会主体の研究、参加、輸血・細胞治療学会、輸血関連学会などへの発表参加
10. ヒト骨髄由来間葉系幹細胞テムセルHS注の継続的に安全で適正に運用するための管理、検討
11. ①認定輸血検査技師、自己血輸血看護師、臨床輸血看護師、細胞治療認定管理師などの育成、②当院における輸血教育（看護学生、研修医研修、新人看護師研修、看護助手）など
12. 鹿児島県合同輸血療法委員会の代表世話人となり、県の輸血業務、輸血医療の向上のため会の運営、研究など

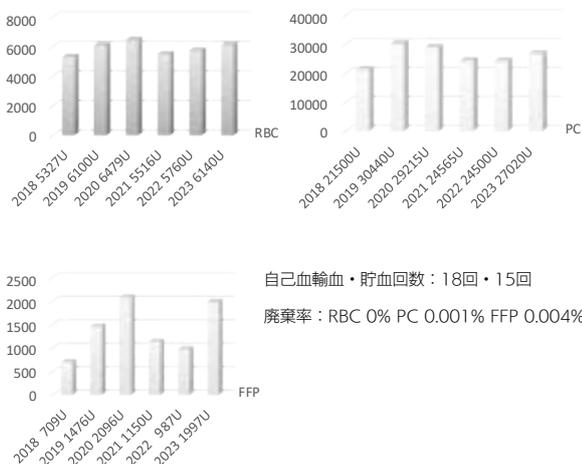
## 業務全般についての総括

COVID-19も2023/5/8には2→5類に移行され、現在では輸血管理室の入口も元に戻し、以前同様の輸血業務ができるようになった。輸血療法委員会、輸血ラウンド、『いまむら輸血インフォ』作成などを介し、院内の適正で安全な輸血医療を実施できている。

院外的には、県下でも日赤血供給実績2位を維持、県内唯一のI&A制度認定施設である当院の更新審査を、2023/1/12に受審、院内各位のご協力もあり、I&A制度認定施設を維持できた。またその準備をすることで、当院の輸血業務、輸血医療を自己評価、一部改善し、大変有意義であった。11/25かごしま県民交流センター県民ホールにて、日本輸血・細胞治療学会九州支部会第70回総会・第91回例会を主催（例会長：宮園医師）。皆さまのご協力もあり盛況にて終了。当院、兼石知香看護師、小林果蓮看護師『適正で安全な外来輸血業務の構築について～「輸血覚え書き」を用いて～』、井上彩乃臨床検査技師「抗38抗体治療症例の当院における管理体制構築について（5年間の取り組み）」、2演題を発表。井上彩乃臨床検査技師は最優秀賞を受賞。他輸血・細胞治療学会、輸血関連学会など、演者として参加。他施設と情報共有できた。

認定輸血検査技師2人、細胞治療認定管理師2人、臨床輸血看護師1人が誕生し、今後、活躍が期待される。宮園医師が鹿児島県合同輸血療法委員会の代表世話人となり、I&A審査員と兼務し、県内外とくに離島などの輸血医療についても、向上を目指し、他施設と協議、研究に参加している。

## 2023年度の実績/目標の達成度



## 2024年度の目標

2023年の取り組み（1-7.9-12）は継続しつつ、

1. 災害、緊急時の輸血医療に対し、役割分担も含め、具体的に検討
2. 新規輸血システム導入の検討
3. 移植など関連業務への継続協力し、さらなるサービスの向上（液体窒素による細胞保存管理、非血縁者間末梢血幹細胞採施設認定、CAR-Tなど新規治療に備えて施設整備など）

以上、院内では、輸血管理室（輸血部門）、輸血療法委員会委員と協力し、院外では、県合同輸血療法委員会、学会、他施設と協力し、情報を発信ができる、適正で安全な輸血医療を推進しつづける輸血施設を目指したい。



## 2023年度の取り組み

領域ごとの専任者の配置  
 資産情報システム「SEIA」の運用開始  
 法人施設連携  
 在宅事業支援  
 透析管理システム導入

## 2023年度の実績/目標の達成度

- 領域ごとの専任者の配置  
心臓ペースングデバイス・神経モニタリング・ダビエーション・機器管理と管理責任者の認識が浸透しつつあるが、責任者不在時の対応が十分にフォローできる体制づくりが望まれる。
- 資産情報システム「SEIA」の運用開始  
中央管理機器以外の医療機器と資産情報の登録、定期点検記録の取り込みを実施している。全ての機器の登録に至っていないが、次年度中の達成を目指す。
- 法人施設連携  
中央管理機器の貸し借り管理を SEIA システムで把握する事によって、医療機器の相互連携が行われる事が許可された。
- 在宅事業支援  
いづろ今村病院の在宅用酸素や呼吸器管理と導入指導を継続する中、当院の循環器内科・神経内科に限定されるが、事業支援が行えるようになった。

### 実績

	2021	2022	2023
透析	26,697	25,236	25,859
病棟透析	205	275	234
CRRT	209	275	234
PMX	8	19	6
DFPP	23	15	31
PE	16	18	14
CART	56	34	29
HBO	256	198	212

## 業務全般についての総括

2023年度の目標に向かって着実に実績が伴ってきている反面、専任業務以外の負担も大きくなっている。次年度も、新規業務依頼をうけており、スタッフの体調とメンタルのケアが重要になってくる。

透析センターでは、長年計画していた透析システムの導入が決まり、使用開始日に向け医師、看護師と共同でシュミレーショントレーニングを企画し、運用上の問題点を洗い出していく作業を綿密に行った結果、運用開始は11月と遅くなってしまったが、万全の態勢で運用開始することができた。システム導入によるインシデントは新たに発生したが、今まで多かったCEの除水計算ミスは格段に減り、システム導入の恩恵を受けている。

来年度は、さらに透析装置の更新を行いシステムとの運動性を高め、インシデント件数を抑えていきたい。

## 2024年度の目標

- CE部門の増員
- CE部門の業務拡大
- 災害対策・BCP整備活動への参加
- 医師業務のタスクシフト・シェアを検討
- 消化器内視鏡業務への業務拡大
- 血液透析外来とCE部門のローテーション業務再開
- 告示研修履修完了
- 透析関連装置の適時更新
- 透析システムに係る研修会の参加



## 2023年度の取り組み・総括

### ①質の高いリハの提供

スポーツリハビリは、外来は順調に回復しコロナ以前に近づいている。入院は患者自身での再発予防対策の疾患別リーフレット（当院作成）を用いた患者指導を継続した。少しずつ開催が増えてきたスポーツ大会等で、鹿児島国体のサポート、高野連主催の肩肘検診、その他数々の地域のサポートを行った。以前実施していたランニング・投球教室、ACL教室、アスレチックリハ等も、本年度一部開始でき、次年度は離島での活動開始も計画している。

回復期リハ病棟入院患者は、365日体制・患者1人に対し1日平均7単位以上のリハ治療提供と、回復期リハ実績指数で基準1の40以上を継続できた。患者の在宅復帰実現のため、必要時は2回（入院時訪問・退院前訪問）患者宅へ訪問することで、より具体的な治療プログラムやきめ細かい退院時指導に繋げ、患者様及びご家族より好評を頂いた。また、質の高いカンファレンスを目指し、リハ・病棟Ns合同で定期勉強会も継続的に実現できた。

回復期病棟以外の急性期病棟（精神科病棟も含む）は、専門科に合わせた知識の高い専任のリハスタッフ体制により、病棟スタッフとの深い連携の元、質の高い業務が遂行できた。

介護予防に関わる地域サポート事業（各市町村主催・PTOTST協会主催）に年間を通して多くのスタッフが専門知識を生かし積極的に取り組んだ。垂水市との包括連携の言語相談事業・地元中学生に対する疾病予防教室（スポーツPTと合同）なども継続的に取り組んだ。更に、鹿児島市のST不在施設にて看護師に対する嚥下評価指導を能力の高いSTにて年間通して行い、今後も継続する予定となっている。

### ②超急性期から在宅までシームレスな連携

回復期病棟では、ケアマネージャー・施設スタッフへ当院の退院時カンファレンス出席を依頼する、また、転院前に患者を含めて顔を合わせた申し送りの機会を設定するなど、他施設との連携において、当院から積極的な働きかけを行った。

また、愛と結の街から当院へ転院後できるだけ速やかに急性期リハビリを開始できるように、共有フォルダでの情報共有方法の取り決めを行った。これは、関わるリ

ハスタッフの時間・労力を省くことにも繋がった。

### ③財務の視点での目標達成

PT・OT・STは、セラピスト1名当たり1日18単位を目標にリハビリ業務を実施している。2023年度は、2022年度と比較し件数・点数ともに増加した。基本、入院担当実績は、リハ関連病棟（回復期病棟・A棟5階西病棟・その他）の病床稼働と連動している。感染対策の影響は、昨年度と比較して、本年度はクラスター発生時のリハビリ中止対策等を限定的にしたこと、更にご家族も含め職員本人の感染管理の知識・意識向上より、実績落ち込みが大きく減少した。

### ④教育体制の充実

ラダー教育は、育休以外の全スタッフが参加し、4～5月に立てた目標達成に向け年間通して自己研鑽に取り組んだ。PT協会の教育プログラムも全てのPTスタッフが参加、登録PT終了を目指し、指導者と対になる体制で継続実施している。

学会発表は、スポーツPTは毎年、一般総合PTは5年に1回以上を目標に上司のサポートを元に継続している。

本年度も、全国規模の学会にリハビリ部より複数演題発表できた。CVA・がん・スポーツ整形・その他の各研修会参加や、新資格として、地域包括ケアリーダー・介護予防リーダー、がんリハ研修終了の取得があった。

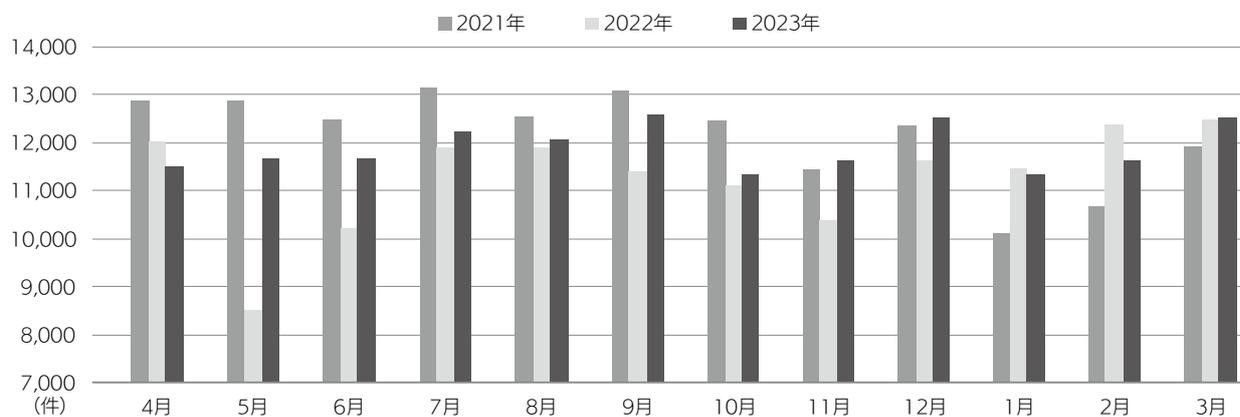
### ⑤働き方改革

業務効率化を進め、超過勤務減に取り組んだ。産休・育休が取りやすい雰囲気を作り、2023年度も男性育休取得は100%であった。

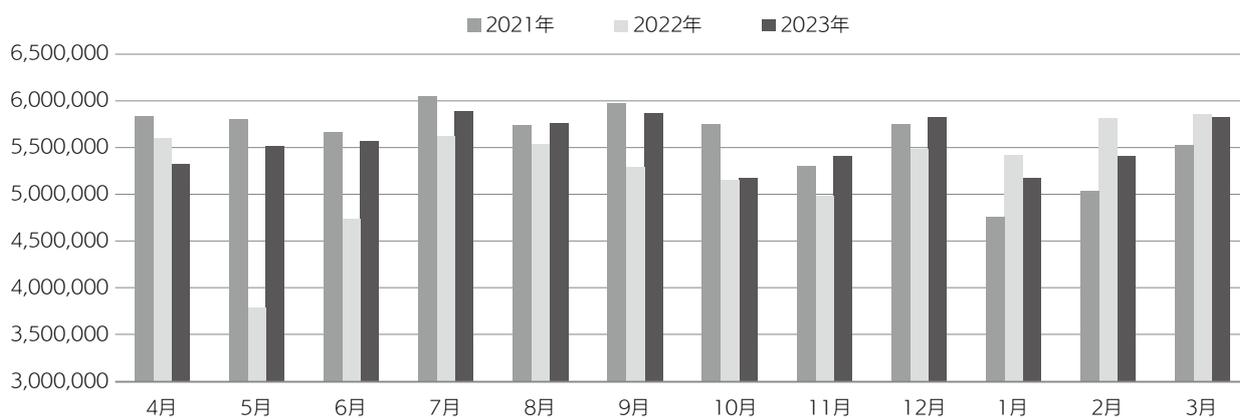
### ⑥DX活用（患者獲得・教育・人材確保）

2023年度は、SNS活用で大きく手ごたえがあった人材確保の分野では、年度の定期応募の昨年度比で、見学者数は2.2倍、応募数は1.8倍に増加した。また、SNS視聴者がご家族の受診病院として当院を選んで頂いた事例もあり、患者獲得効果もあった。教育面では総合病院内の専門知識のあるスタッフの勉強会資料を慈愛会各施設リハ部スタッフ向けSNS限定公開し学習をサポートした。

実施件数の推移（件数）



保険点数の推移（点数）



## 2023年度の実績/目標の達成度

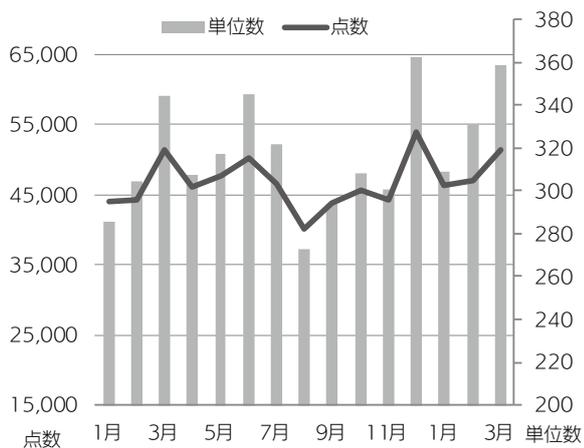
1 単位：マンツーマンのリハビリを 20 分実施

### <スポーツ整形 PT 部門> 15 名 (3/31 在籍)

#### ● 1 名あたりの月別点数単位数

目標：360 単位 / 月 / 1 名

実績：245 単位 / 月 / 1 名 (68.0%)



#### スポーツ整形 PT1 名あたりの月別点数・単位数の推移

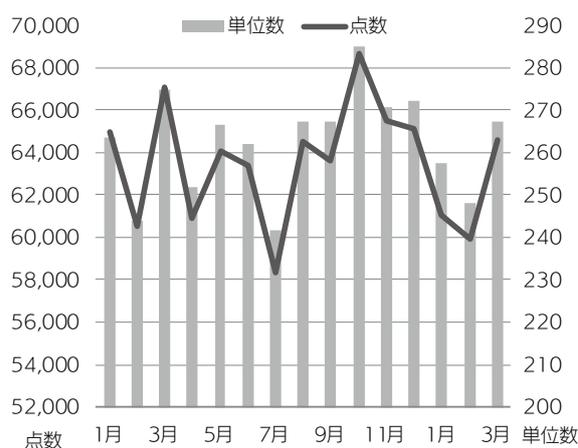
- 週 90 (月 360) 単位取得：手術件数、外来数に増減はあり月平均 PT1 名あたり 68% の取得で推移した。
- BIG DATA 作成の個別フォーマット作成
- BIG DATA を基にした学会発表・論文作成
- ラダー研修 (毎週月 12:00-13:00) 開催
- 業務改善として評価用紙紙媒体から 구글フォーム と RPA (ロボティックプロセスオートメーション) を利用したデータ管理の構築
- BIG DATA を基にした演題を九州理学療法士学会に 1 演題、九州・山口臨床スポーツ医科研究会に 1 演題、鹿児島県理学療法士学会に 1 演題発表した。
- 鹿児島県高校野球連盟主催で、県下高校野球ピッチャー約 400 名を対象に肩肘検診を実施できた。

### <一般総合 PT 部門> 43 名 (3/31 在籍)

#### ● 1 名あたりの月別点数単位数

目標：360 単位 / 月 / 1 名

実績：263 単位 / 月 / 1 名 (73.0%)



#### 一般総合 PT1 名あたりの月別点数・単位数の推移

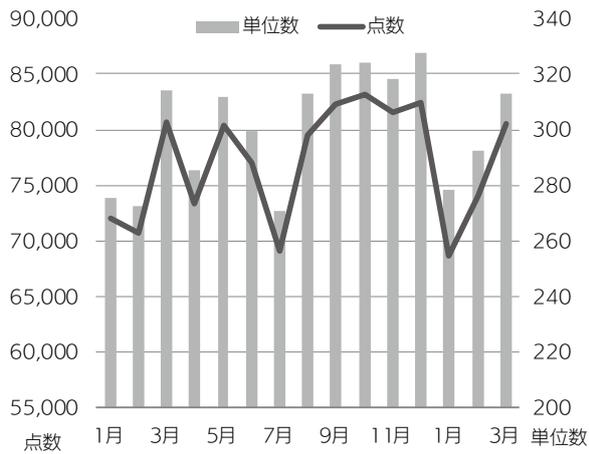
- 入院リハチームの病棟配属制 (スポーツ整形以外) 入院リハチームの業務管理は、引き続き一般総合 PT で担当した (回復期以外)。  
入院リハチームとは：回復期、婦人科 / 精神科、血液内科、腎臓内科 / 泌尿器科 / 皮膚科 / 消化器外科 / 消化器内科 / 放射線科、ICU/ER/ 循環器内科、SCU/ 脳卒中センター
- 対象の全入院リハが、完全 365 日体制継続
- リハビリカンファレンス：全患者 1 回以上
- 対外的発表：目標：全員 5 年に 1 回  
2023 年実績：3 件
- リハ総合実施計画評価料算定 (毎月入院・外来)
- 退院時リハ指導料算定 (自宅退院全患者)
- 目標設定等支援・管理シート算定 (回復期)
- 新型コロナウイルス感染症対策に応じたリハ運営システム構築
- 新型コロナウイルス感染症陽性患者へのリハ実施
- 残業減への取り組み (業務内容の洗い出し・見直しより業務改善、効率化)
- 新人教育の見直しと強化
- 臨床マニュアルの整備開始
- 垂水市との連携参画事業：産後ケア講演会開催
- 産休育休、介護休暇取得スタッフの支援継続
- 客観的指標を用いた人事考課の評定開始

< OT 部門 > 19 名 (3/31 在籍)

● 1 名あたりの月別点数単位数

目標：月平均 360 単位 / 月 / 1 名

実績：月平均 301 単位 / 月 / 1 名 (83.6%)



OT1 名あたりの月別点数・単位数の推移

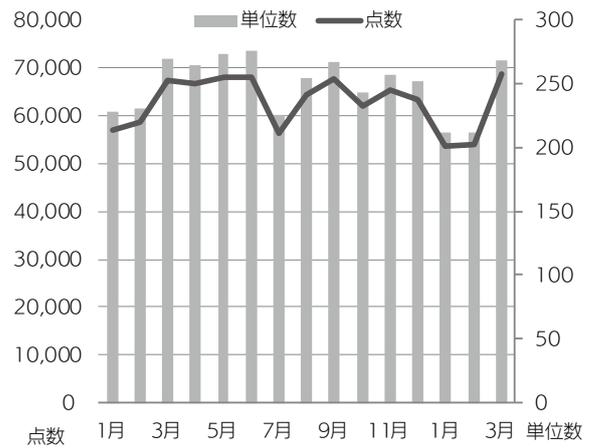
1. 自動車運転評価
2. 事例検討会 1 回 / 月
3. マンツーマンの作業療法以外の時間で実施する自主訓練の継続
4. シームレスに在宅へ移行できるよう家族面談への作業療法士同席、退院後の生活環境評価に向けた入院時訪問指導の継続
5. 臨床実習実績  
長期実習 3 件 (鹿児島医療技術専門学校、第一医療リハビリ専門学校、鹿児島大学医学部保健学科)
6. 移動用リフトのレンタル開始
7. ぞうきんプロジェクトの開始

< ST 部門 > 19 名 (3/31 在籍)

● 1 名あたりの月別点数単位数

目標：360 単位 / 月 / 1 名

実績：249 単位 / 月 / 1 名 (69.1%)



(摂食嚥下療法 30 分：1.5 単位換算で含む)

ST1 名あたりの月別点数・単位数の推移

1. 生産性の向上
  - ・ 感染対策・業務効率に配慮した人員配置。
2. 他職種連携
  - ・ 嚥下評価及び食事摂取方法を伝達。
  - ・ トロミ茶作成動画を看護部へ公開。
  - ・ 食事介助に関する勉強会に協力。
  - ・ NST・口腔ラウンドチームに参加。
3. 各種評価実施 (嚥下検査はリハ医協業)
  - ・ 神経心理学的検査 (認知症外来)：14 件
  - ・ 外来高次脳機能検査：11 件
  - ・ 自動車運転評価：(外来) 5 件
  - ・ 客観的嚥下機能検査 (入院 / 外来)：114 件
4. 地域支援事業
  - ・ 垂水市包括支援事業
  - ・ ST 不在施設へ定期的嚥下評価指導 (1/W)
5. 他施設合同嚥下勉強会立ち上げ
  - ・ 連携病院と嚥下勉強会を当院主催で開催・実施

## 2024年度の目標

### <リハビリテーション部>

#### ①質の高い専門的リハの提供

専門病棟ごとの専門リハチームでのリハビリ継続。  
産前産後の理学療法・垂水市の未就学児言語相談事業・  
地元プロスポーツ選手や国体選手のサポート活動の継続。  
言語聴覚士による嚥下評価方法の指導継続。

#### ②超急性期から在宅までシームレスな連携

慈愛会リハ部の連携をこれまで以上に強固するための  
総合愛結合同で連携チームを立ち上げた。スムーズな  
連携で他事業所との差別化を図っていく。

#### ③財務の視点での目標達成

感染対策は継続しながら、これまで新型コロナウイルス  
感染症対策で行ってきたリハスタッフ病棟専従体制  
(病棟をまたがない)  
を病棟専任体制(病棟をまたぐ)へ変更できた。今後は、  
スタッフ個人及びご家族の日々の感染対策が財務  
状況改善に直結することの認識を深めていく。

#### ④教育体制の充実

ラダー継続の上、更なる能力向上のためPT・OT・  
ST協会主催の教育プログラムを積極的に活用する。

#### ⑤働き方改革

スタッフ1人当たりの月平均の残業を5時間以内と  
すること、月1日以上の有給取得、研修は時間外に計  
画しないこと、男性育児休暇取得率維持(2023年度  
100%取得)、メンタルヘルスを考慮した個別の面談  
を頻回に計画する。

#### ⑥DX活用(患者獲得・教育・人材確保)

患者獲得: 専門リハチームごとの実績を、地域の医療  
者・住民向け、学会報告やHP・SNSでアピールする。

教育: 慈愛会リハ部内で研修動画を共有し、自宅でも  
気軽に学習を進められる環境を整える。

人材確保: HP・Instagram・YouTube・地域コミュ  
ニティー誌等で働き甲斐のある職場のイメージを積極  
的に発信する。

### <スポーツ整形 PT 部門>

- ・ 腱板損傷・ACL 再建術後の BIG DATA 解析
- ・ RPA を用いた電子カルテ入力業務改善
- ・ 週 90 単位取得
- ・ 報告・連絡・相談の励行

### <一般総合 PT 部門>

#### 感染対策を徹底した上での生産性向上、稼働目標達成

#### 専門的で質の高いリハの提供

- ・ 新人教育の強化
- ・ チーム勉強会の開催、臨床マニュアルの整備
- ・ データを用いたリハの提供と効果検証
- ・ 学会参加・発表、資格取得の支援

#### 法人内他施設との連携強化

- ・ 症例検討会などの活動共有

#### 働き方改革

- ・ 残業: 月平均 5h 以内 (昨年度実績 2.1h)
- ・ 育休取得への支援継続

#### 客観的データと実績を基にしたスタッフ評価

### < OT 部門 >

#### 患者にとって意味のある作業療法を提供する

- ・ 作業療法効果の呈示
- ・ タイロモーションアマデオの積極的活用
- ・ 定期的な勉強会の実施

### < ST 部門 >

- ・ 合同嚥下勉強会を通して他施設との連携強化
- ・ IT ツールを用いた情報共有および業務改善
- ・ 仕事と生活(プライベート)を統合し両方の充実に  
取り組む【ワークライフインテグレーション】



## 2023年度の取り組み

### 1. 給食管理

- ・ 易消化食の導入
- ・ 無(低)菌食の提供食材見直し
- ・ キザミ食への提供内容見直し
- ・ 嚥下調整食 2-1 内容見直し
- ・ 上記変更に伴い、治療食基準を随時改訂
- ・ アレルギー調査票の見直し
  - 原則除去不要とされる食品への対応追加
  - 職員チェック欄の追加
- ・ 厨房環境の改善
  - 床・天井の修繕、業務用エアコン増設
- ・ 食器洗浄マニュアル(外国人用)の作成

### 2. 栄養管理

- ・ 病棟訪問実施
- ・ 多職種カンファレンス参加
- ・ 治療食基準・栄養補助食品の見直し
- ・ 栄養関連ファイル改訂
- ・ ESD/胃瘻造設パスの見直し
- ・ 食事オーダー項目の整理

### 3. その他

- ・ レシピ提供『じあいのとびら』
- ・ レシピ提供『LLかもいけ』
- ・ 第10回 慈愛会栄養部門合同研修会
- ・ 看護師 新人研修『褥瘡の栄養管理』
- ・ 第3回 慈愛会学会 ポスター発表
- ・ かごしま市民健康まつり 栄養相談
- ・ かもいけ健康まつり 栄養相談
- ・ 介護講習会『生活習慣病と食事』
- ・ 腎友会 勉強会『透析患者さんの食事について』

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 1. 入院患者延べ給食数(1日あたり)

	2022年度	2023年度	前年比
一般治療食	282	267	95%
特別治療食	632	666	105%
合計	914	933	102%

### 2. 栄養食事指導件数

	2022年度	2023年度	前年比
入院	647	576	89%
外来	320	325	98%
合計	967	901	93%

(目標 90 件 / 月、実績 75 件 / 月)

## 業務全般についての総括

現厨房・クックサーブ下での給食提供続行となり、食種 / 提供食材の見直し、マニュアル改訂を進めた。アレルギー及び窒息リスクを有する入院患者増加への対応など、安心安全な給食提供の継続に努めた。

厨房の人手不足は一旦落ち着き、グループごとの業務改善活動を再開した。業務改善と人材育成を進め、栄養部門の底上げを図っていききたい。

## 2024年度の目標

- ・ 栄養部内グループ活動の推進
- ・ 栄養管理基準の改訂 ;GLIM 基準への対応
- ・ 栄養指導媒体の見直し
- ・ 人材育成



## 2023年度の取り組み

### 1. 財務の視点

- (1) 急性期病院としての機能確立と安定化
- (2) 看護職員の確保・定着

### 2. 顧客（患者・職員）の視点

- (1) 安心して療養できる入退院支援の強化
- (2) ワークライフバランスの実現 / 勤務時間管理を全部署で取り組む

### 3. 業務プロセスの視点

- (1) 身体拘束廃止に向けた良質な看護ケア
- (2) パートナーシップ・セル看護体制の定着
- (3) 医療安全体制推進
- (4) 看護記録の効率化（看護記録の一元化）
- (5) 感染管理体制の強化
- (6) 勤務環境の改善

### 4. 学習と成長の視点

- (1) キャリア開発・看護実践能力の向上
- (2) 在宅療養支援のためのチーム医療を担える人材の育成

### 2. 顧客満足の視点

#### ①患者満足

#### 入院関連機能障害を防ぐケア

	目標件数	実績
転倒・転落による負傷数(レベル3b以下)	15件/年	9件/年
褥瘡推定発生率	2%以下	1.62%
認知症ケア新規介入数	70件/月	92件/月

#### ②職員満足

- ・ 超過勤務時間： 7.5 時間 / 月  
(目標 5 時間 / 月)
- ・ 離職率： 15.7%  
(新卒者 0%)

### 3. 業務プロセスの視点

- ・ 身体拘束廃止に向けた良質な看護ケアの推進  
身体拘束実施率： 11%  
(目標 10% 以下)
- ・ 身体拘束一時解除率： 55%  
(目標 50%)
- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の入院病棟標準化
- ・ セル看護体制の再定着に向けて取り組み開始
- ・ 看護記録の一元化（全部署導入）
- ・ 入院患者内服フローの統一
- ・ 入院セットの導入
- ・ ナースエイドマニュアルの改訂・指示書作成
- ・ 特定行為看護師のキャリア開発ラダーの活用

### 4. 学習と成長の視点

#### ① 2023 年の資格取得実績

- ・ 看護管理ファーストレベル： 2 名
- ・ 看護管理セカンドレベル： 2 名
- ・ 看護管理サードレベル： 1 名
- ・ 医療安全管理者養成研修修了： 1 名
- ・ 看護師特定行為研修修了： 6 名
- ・ 認知症看護認定看護師： 1 名
- ・ 感染管理認定看護師教育課程修了： 1 名
- ・ 臨地実習指導者研修修了： 4 名
- ・ リウマチケア研修修了： 1 名
- ・ 院内認定退院支援看護師養成プログラム： 6 名  
(総合 3 名)
- ・ 災害支援看護師登録： 7 名

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 1. 財務の視点

- ・ 病床利用率： 81.5% / 月
- ・ 平均在院日数： 14.9 日 / 月
- ・ 病床回転率： 2.1 回転 / 月
- ・ 新入院患者数： 21 人 / 月
- ・ 1 日外来患者数： 409 人 / 月
- ・ 手術件数： 2,526 件 / 年  
(210 件 / 月)
- ・ 救急車受入台数： 3,167 台 / 年  
(264 台 / 月)
- ・ 重症度、医療・看護必要度 II  
一般： 30% / 月  
(目標 28%)
- ICU： 83% / 月  
(目標 70% 以上)
- ・ 平均夜勤時間数： 73.4 時間 / 月  
(28 日型)
- ・ 退院支援加算 1 (600 点 / 回)： 180 件 / 月
- ・ 入院時支援加算 1 (230 点 / 回)： 14 件 / 月
- ・ せん妄ハイリスク患者ケア加算： 331 件 / 月

- ② クリニカルラダー申請率
  - ・ 申請者数：219名（全体の76%）
- ③ マネジメントラダー申請者
  - ・ レベルⅠ：1名      レベルⅡ：3名
  - レベルⅢ：6名      レベルⅣ：2名
- ④ 認定ラダー申請者    ラダーⅡ：3名    ラダーⅠ：1名
- ⑤ 特定ラダー申請者    ラダーⅢ：1名    ラダーⅠ：6名

## 業務全般についての総括

看護実践能力の向上とキャリア開発においては、臨床看護教員の配置は定着し臨床と現場の連携がより図れるようになった。新人看護師の離職率は0%であり、実習指導者の支援、看護学生の実習においても更なる充実を目指し育成に努めた。さらに新人看護師研修については、内容を検討しながら開催した。今後も工夫しながら現任教育を実施することが課題の1つである。

看護職員の確保・定着においては、離職率15.7%であった。退職理由としては、他の医療機関への就職が最も多く33%であった。「他のところで働いてみたい」「当院にない診療科に興味がある」などの意見が聞かれた。次いで結婚・転居・育児専念・健康上の問題・家族の介護・配偶者の転勤など、やむをえない離職が26%であった。看護師経験年数では3～5年未満が全体の33%、5～10年未満が同じく33%を占めていた。昨年度は3年未満の看護師が多く占めていたのに対し、中堅看護師を多く占める結果となった。人員不足のなかで後輩への指導や支援、リーダー的役割など負担を与えた結果ではないかと予測する。今後は業務改善（カイゼン）をはかり、やりがい感に繋がれるよう離職防止に努めていく。

2022年同様、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）では、感染防止対策を行うとともに、2023年5月からの第5類感染症引き下げにあわせて入院病棟の標準化を図った。また、質の高い感染対策の実践を目指し感染管理認定看護師教育課程を1名修了することができた。今後も組織一丸となって感染対策に努めていく。

さらに新興感染症、災害対策に関しては災害支援看護師を新たに登録し、BCP策定や災害訓練を実施することができた。課題は多いものの継続的に活動していく。また看護部が中心となり、とくに管理者（看護師長）向けの活動実践を進めていく。

## 2024年度の目標

1. 看護実践能力の高い人材育成とキャリア開発
2. 多職種連携チームによるマネジメント、安全で質の高いサービス提供
3. 急性期、回復期、在宅サービス向上
4. 医療と介護、介護サービス事業所内の連携強化協力体制整備による連携促進
5. 看護職の働き方改革（働く環境の整備、子育て介護支援、DX活用による業務負担軽減、人的支援、働き方改革など）
6. 感染症・災害への対応力強化、事業継続計画BCP策定の着実な整備
7. 感謝の気持ちを伝えられる職場づくり
  - \* 特に急性期病院としての機能強化、経営の安定化、安心安全な看護ケアの提供・チーム医療の推進・看護の質の課題克服、一人一人のパーソナリティを大切にできる人材育成とキャリア支援について力を入れていく。



# 看護部教育担当

## 2023年度の取り組み

### 1. 財務の視点

- (1) 新人看護職員卒後研修補助金獲得
- (2) 看護補助体制充実加算
- (3) 人材確保活動
  - ・ 鹿中看、南学園で就職説明会に参加
  - ・ SNS 開設準備
- (4) 重症度・医療・看護必要度必須研修実施

### 2. 顧客の視点

- (1) 新人看護師の順調な職場適応支援
  - ・ 日々のラウンドと部署との情報共有で細やかな支援の実施
  - ・ 部署の教育相談会の開催
  - ・ 新人成長パスの活用
  - ・ プリセプター、エルダーの導入研修やフォローUP研修開催
  - ・ 年3回以上の新人看護師育成面接実施
- (2) 中途採用者支援パスの作成
- (3) 3年目看護師全員との面談を実施し思いを知り、管理者へフィードバックした
- (4) 看護学生実習受け入れ6校。新カリキュラム始動に向け、学校と部署との連携を図った。学生のアンケート結果から豊かに学ぶ環境が整っている事がわかり、部署へもフィードバックできた
- (5) 経験のないナースエイド支援パスの作成

### 3. 業務プロセスの視点

- (1) 新看護師研修および経年別とラダー別研修  
45項目開催（集合研修52回・Web研修6回）
- (2) 慈愛会看護部支援室主催
  - ・ 新人看護師研修（Hop, Step, Jump研修）参加
  - ・ ラダーIV他職種合同研修2回ファシリ
  - ・ 3年目看護師「危機理論」研修2回 司会
  - ・ 任用候補者研修ファシリテーター
- (3) 介護福祉士・ナースエイド研修  
7項目 集合研修15回開催
- (4) 看護教育通信“イルミテ”8巻発行
- (5) 中途採用ピアサポートの開催
- (6) 2年目看護師ローテーション研修37名実施

### 4. 学習と成長の視点

- (1) 日本看護学術集会で「臨床看護教員の効果」について発表

- (2) 師長のラダーを理解するための語りの会  
12回開催
- (3) 特定行為看護師取得

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 1. 新人看護師離職数 0

### 2. 看護職員能力開発プログラム申請率推移

年度	申請者	申請率
2019年	162名	55%
2020年	262名	85.1%
2021年	240名	74.3%
2022年	243名	81.3%
2023年	218名	76%

## 業務全般についての総括

臨床看護教員配置2年目となり、2名体制で活動できた。新型コロナ禍の影響で全国的に新人看護師の離職が目立つ中、当院は0という成果をだした。部署と協働しきめ細やかな支援が出来たと考える。全国学会でも報告し好評を得る事ができた。これまで開催できなかった研修も滞りなく実施する事ができた。中途採用支援パスや病院経験のないナースエイド支援パスを作成し、人材育成に向けて準備を整える事ができた。

## 2024年度の目標

1. 臨床実習指導体制の更なる充実
2. 各部署の看護の質向上を目指した学習会開催
3. 新人成長パスの活用推進、課題の洗い出し
4. 人材確保活動
5. 中途採用者支援パスで人材定着を図る
6. 病院経験のないナースエイドのパス稼働で職場適応を支援し、定着を図る
7. イルミテ発行
8. 看護管理者のコーチングスキルの獲得



## 2023年度の取り組み

- 1) 業務フロー図を取り入れたマニュアル作成
- 2) 事務部ラダーによる人材育成
- 3) 院内研修（新人教育・32時間研修）の強化

## 2023年度の実績/目標の達成度

- 1) 業務フロー図を取り入れたマニュアル作成  
業務フロー講習会へ当課より11名参加し、その中で3チームに分かれフロー図を作成し、委員会で承認が得られた。他部署がかかわる業務を可視化したことで、業務効率アップにつながった。今回フロー図の発表まで至らなかったため、今後計画していきたい。
- 2) 事務部ラダーによる人材育成  
今回6名と前年度よりラダー参加者は少なかったが全員合格できた。（その内2名退職者あり）今後も事務部ラダー制度を通じて成長を手助けしていきたい。
- 3) 院内研修（新人教育・32時間研修）の強化  
他部署へ研修依頼はできなかったが、Web研修を取り入れたり、以前講義いただいた動画を視聴するなどの研修を行った。今後は32時間研修内容を充実化し、強化していきたい。
- 4) 書類件数は前年度より大幅に増加した。要因の1つとして考えられるのは、書類担当を配置したことで今まで書類作成していなかった診療科分が加わったことが考えられる。今後も診断書等の書類作成の代行入力件数を増やし、医師の事務作業の負担軽減に努めたい。

## 業務全般についての総括

秘書課として新型コロナウイルス感染症が5類となったことで徐々に薬品メーカーとのアポイント調整や現地での学会開催件数が増えてきた。しかし今年度秘書課スタッフの退職があり、その分を役職者でフォローを行った。医師事務補助課として、他の医療機関との連携の一環で、2023年3月第1回クランク会議を開催した。他の医療機関の業務内容や体制など把握でき、また悩みなど共感しお互い情報交換することでよい部分を取り入れ今後も引き続き、連携を図っていきたい。医師事務補助体制加算については現在加算Ⅱの15:1で入院初日975点算定している。条件でもある「3年以上当施設に勤務していること」をクリアし加算があがるように、また長く勤めたいような職場環境づくりに力を入れていきたい。今回当課として初めて医師事務補助者研究会主催の全国学術集会にて1名口述発表を行い、慈愛会学会ではポスター発表もできた。さらに院内のTQM発表会にて当課より2演題エントリーし両チームとも賞を頂いた。これはDAのレベルアップと知名度アップに繋がったと考える。医師の働き方改革がスタートし当課として何をやるべきかを考え、今後も医師の事務作業の負担軽減に貢献し、医療の質向上へ寄与することを目的に業務を遂行していきたい。

## 2024年度の目標

- 1) 教育体制の充実（32時間研修・継続教育）
- 2) 事務部ラダーによる人材育成
- 3) 働きやすい職場環境の構築
- 4) 人材確保



## 2023年度の取り組み

- ①企画・広報部門
  - ・ 病院運営に関係する各種対応
  - ・ 健康まつりの開催、垂水サテライト CL の開設準備
  - ・ 広報部門を強化し、新たな取り組みを実施。
- ②経理部門
  - ・ 2023年10月から開始されたインボイス制度への準備を進め、適切な対応を行った。
  - ・ 電子帳簿保存法への的確な対応と法令の遵守
- ③労務部門
  - ・ 勤怠システムでの給与計算一本化をはじめ、全ての業務について効率化を図る。
- ④用度部門
  - ・ 資産管理システムの活用
  - ・ 新型コロナウイルス感染症欠品対応で備えた在庫の活用
- ⑤研修医関係部門
  - ・ プログラム改善への取り組み
  - ・ 人材確保への取り組み  
初期研修医 10名獲得 / 専門研修 2名採用
- ⑥電話交換部門
  - ・ 各部署との協力体制の強化は引き続き継続
  - ・ Web研修の積極的な受講についてはサクシード主催研修に積極的に参加した
- ⑦患者様図書室
  - ・ ホームページを活用し、院内外への周知を行う。
  - ・ 蔵書の詳細入力及び登録を行う。

## 2023年度の実績/目標の達成度

各部門が上記のとおり積極的に業務改善をすすめることで、多くの目標達成に繋がった。

## 業務全般についての総括

通常業務の遂行とともに包括連携協定に伴う新たな事業についても適切に対応した。今後は、医療 DX 関連のシステム検討、導入後の十分な活用にて業務の効率化を進める。

## 2024年度の目標

- ①企画・広報部門
  - ・ 病院運営に関係する各種対応
  - ・ 包括連携協定に伴う対応（鴨池・垂水）
  - ・ 病院広報の強化拡充
- ②経理部門
  - ・ 電子帳簿保存法への的確な対応と法令の遵守
- ③労務部門
  - ・ ペーパーレス化の推進
  - ・ 法人事業本部との情報共有、業務連携
  - ・ ECRS による業務改善
- ④用度部門
  - ・ 資産管理システムの活用
  - ・ 新型コロナウイルス感染症欠品対応で備えた在庫の活用
- ⑤研修医関係部門
  - ・ プログラム改善への取り組み
  - ・ 人材確保への取り組み
- ⑥電話交換部門
  - ・ 転送エラー・誤伝達・通話待ち時間の削減
  - ・ 選定療養費等の電話案内でのサポート
- ⑦患者様図書室
  - ・ ホームページを活用し、院内外への周知を行う。
  - ・ 蔵書の詳細入力及び登録を行う。



## 2023年度の取り組み

- ①省エネ活動として  
外気温に合わせた空調機の制御  
冷温水発生機を停止する
- ②改修、移設作業等への参画  
整形外来、オペ室コンセント増設
- ③運営費削減として  
修理、部品製作を内製化

## 2023年度の実績/目標の達成度

- ①慈愛会施設課での作業手順統一  
相見積業者を増やし、運営費削減実施
- ②水産会館跡地管理  
解体工程の管理を実施
- ③人材育成と資格取得  
電気、ボイラー、防火防災、自衛消防
- ④周辺施設の管理  
周辺施設への巡回実施  
周辺施設との連絡網を確立（担当を決める）

## 業務全般についての総括

節水コマの採用により、BC棟の節水に寄与。  
  
病棟空調更新での相見積により、  
コスト削減を実施  
  
修理品について、内製化を実施

## 2024年度の目標

- ①ガンマナイフ棟の立上げ  
コスト低減実施
- ②水産会館跡地の有効活用  
患者様駐車場として運用・管理する
- ③人材育成  
次の管理者を育成する
- ④慈愛会全体でのコスト削減  
業者の一本化等



## 2023年度の取り組み

1. 建物間や各クラスの情報共有を怠らず、しっかりと連携がとれる体制づくりに努めた。
2. 保育補助者の保育への不安を緩和できるよう保育士が配慮し、一人一人が自信をもって業務に取り組めるようにした。
3. 感染症対策を定期的に再確認し、その場にいる誰でも適切に対応できるようにした。
4. 昨年度から新たに設けた防災担当係を中心に日頃の避難訓練のなかで課題を見出し解決策を検討することで、災害時に迅速に対応できるよう備えた。
5. 園だよりや連絡帳の活用や日常の情報交換の中で保護者に寄り添い、子育ての不安が少しでも和らぐよう配慮した。また、一人一人が保育者としてのスキルアップに努め、専門知識を活かしたアドバイスができるように努めた。

## 2023年度の実績/目標の達成度

1. 朝礼や職員会議で職員間の連携がとれる体制づくりはできたが、議題が多いときは時間がかかり子どもたちの活動の時間にひびいてしまったので、効率的な会にするよう検討していく。
2. 保育補助者が自信をもって業務に取り組めるよう保育士がサポートした。分からないことも積極的に聞ける環境作りにも取り組んだ。
3. 常駐看護師が年度末に入職してくれたため、来年度から計画的に取り組んでいく。また、病児保育室の看護師とも連携をとって進めていく
4. 防災担当係の仕事が見える化してきたため、他職員も協力体制ができている。避難訓練を毎月実施しているが、実際に起きたときの対応ができない職員がまだいる。非常時に誰でも同じような対応ができるよう今後も再確認しながら取り組んでいきたい。
5. 保護者の子育てへの不安が少しでも解消できるよう、家庭と保育所での子どもたちの様子を情報交換し援助の仕方を一緒に考えることができた。また、オンライン研修にも積極的に参加し一人一人がスキルアップに努めた。今後も、学んだことを他職員へしっかり周知できるようにしたい。

## 業務全般についての総括

しばらく常駐看護師がいない状況で、病児保育室の看護師との連携を図ってきたが、年度末から常駐看護師が入職したことで、保育者も安心してお子さんを預かることができる環境づくりができるのではと期待している。

年度末に向けて、お子さんの預かり人数が増加したが職員の離職で人手不足だった。保育補助者一人一人が責任感をもって業務に取り組んでくれたおかげで、保育士も信頼して業務を任せることができた。保育士の業務負担も少し軽減できた。

今後も保育補助者の人材育成に力を入れ、保育士資格をとりたいたいと思えるような働きかけや職場環境づくりに努めていきたい。

## 2024年度の目標

1. 子どもたちの保育活動時間を十分に確保できるよう保育者の1日の流れ（朝礼等）を見直す。
2. 家庭と保育所とで情報共有を密に図り、子どもたち一人一人に合った援助ができる協力体制づくりに取り組む。
3. 病児保育室との連携を図り、看護師のローテーション配置を検討する。保育士も病児保育室へのお手伝いができる体制づくりに取り組む。
4. 他保育所への研修やオンライン研修を通して保育の質の向上に努めると共に、保育者一人一人のスキルアップにつなげる。また、保育者一人一人が日々の自身の保育を振り返る機会を定期的に設ける。
5. 感染症対策や非常時対応の訓練（シミュレーション）を計画的に実施し、的確に対応できる体制づくりに努める。



## 2023年度の取り組み

- ・ 医事課勉強会
- ・ 人材確保
  - 企業ガイダンス
  - 学校訪問（年2回）
  - 派遣会社の活用
- ・ 職員未収の回収
- ・ 合同カンファ（いづろ今村）
- ・ 役職ミーティングの充実
- ・ 医療事務担当者会議
  - zoom から対面へ変更
- ・ 垂水サテライトの業務支援
- ・ 透析室システムの業務支援
- ・ 返戻レセのオンライン
- ・ 慈愛会学会 口演発表

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 査定率の減少

- ・ システムを活用し査定率の減少に努めたが新型コロナウイルス感染症関連の査定が多かった。

### 職員未収の回収を徹底する

- ・ 毎月個人宛に請求書発行配布。その結果未収がない部署は増えた。

### オンライン資格確認システムの効率化

- ・ 保険証の記号番号等のレセプト返戻の減少。
- ・ 限度額認定証の取得の確認。

### 入院3日以内DPC登録

- ・ DPC病名を入院診療計画書で確認登録し、MIRAISの入院患者一覧のDPC入院期間を表示し、全職種に周知を行った。

## 業務全般についての総括

離職者が7名と今までになく人材確保に困難を要した。大半が入院担当であり日常業務・請求業務に支障が無いよう外来担当から異動を行った。業務改善を図ったが、人材不足のため入院担当の超過勤務が増えている状況である。又、外来からの異動であり業務改善や人材育成の見直しを図り、派遣やパートの勤務時間の調整を行い今までの勤務体制を維持できた。人材確保に学校訪問を充実させ学生の就職状況を確認し二次募集を募った。結果として、3名の新入職者を確保できた。また育休中3名であり派遣会社の活用を試みたが、継続的に人材が確保出来なかったが、今後も派遣を有効活用し業務体制を充実していく予定である。

確認不足・思い込み等によるインシデントも増え、ダブルチェックの強化を徹底した。

## 2024年度の目標

### 査定率の減少

（目標）

外来：0.2%

入院：0.3%

### 職員未収の回収

毎月個人宛に請求書発行

### 離職の減少・人材確保

学校訪問

個人面談の充実

### 救急医療管理加算の算定強化



## 2023年度の取り組み

- 電子カルテ委員会と協力して出力用紙を見直すことにより経費を削減した。
- 医療 DX 委員会と協力して病院の DX 化を推進した。
- オハナビルのネットワークの見直しを行った。
- ランサムウェア対策として、院内セキュリティの強化を行った。
- セミナーや講習会などに参加して新しい技術を吸収し、院内で共有した。

## 2023年度の実績/目標の達成度

- 処方箋、予約票、検査結果票の用紙サイズを A5 から A4 に見直すことにより、印刷枚数を少なくすることで経費削減を実行できた。
- ちくちくスキャン(富士フィルムビジネスイノベーションジャパン社製)を導入することにより、一部スキャン用紙を自動的に電子カルテに取り込むことが可能となった。それによりスキャン作業の軽減につながった。
- オハナビルのネットワークを VPN ワイドからダークファイバーへ変更し、ネットワークレスポンスの改善を行った。
- 電子カルテ端末からメール機能を分離し、メール専用の端末への置き換えを行った。メール専用の端末のセキュリティを強化した。それにより電子カルテ端末のセキュリティが強化された。
- MIC フェアや VHJ の IT 部会に参加して、新しい技術や他の施設のシステムについて情報収集を行った。

## 業務全般についての総括

経費削減の検討、実施や医療 DX の検討を積極的に取り組むことが出来た。経費削減に関しては電子カルテ委員会と協力し、印刷内容や印刷する用紙サイズを変更して印刷用紙の削減を行った。医療 DX に関してはスキャナについて、ソフトの導入及び運用の変更を行い作業時間の削減を行った。

院内セキュリティの強化については来年度へ向けてセキュリティソフトの選定を行った。また、外部からの侵入を防ぐためにメール受信 PC の見直しも行った。

今後も各委員会や各部署、本部情報室と連携し、医療 DX の推進や新電子カルテシステムの導入準備作業を実行していきたい。

## 2024年度の目標

### ①医療 DX の推進

医療 DX 委員会と協力して、病院としてどのようなシステムが必要かを把握し、導入の検討、実行していきたい。

### ②院内セキュリティの強化

現在、ESET のセキュリティソフトを導入しているが、昨今のサイバー攻撃に対抗すべく、MDR 等の検討をしていく必要がある。

### ③情報機器における経費削減

プリンタの見直しを行うことにより、インクやランニングコストの費用を削減していきたい。

### ④新電子カルテシステムの導入準備作業

各部門からの要望などのとりまとめを行い、ベンダーと連携し、スムーズな移行を出来るように準備する。

### ⑤セミナーや講習会などへの参加

MIC フェアだけでなく、ホスピタルショーやユーザーフォーラムへの参加をし、積極的に最新情報を収集する。



# 総合相談支援センター

医療福祉相談部 / 地域医療連携部 / がん相談支援部

## 2023年度の取り組み

1. 入院早期から介入し安心安全な支援を行う
2. 多職種と連携し円滑な退院支援業務を行う
3. 啓発活動事業へ参画し地域貢献に寄与する
4. 教育体制の充実
5. 働きやすい環境とワークライフバランスの充実に図る
6. 人材確保

### 【無料低額診療制度】

- ・ 相談件数：6件 制度利用者：2人

### 【地域連携】

- ・ 340事業所 728回の連携（39事業所 / 年3回以上）
- ・ 紹介状管理入力件数：13,352件
- ・ 逆紹介管理入力件数：6,114件
- ・ 病院広報誌じあいのとびら：4回発送
- ・ 地域連携のつどい：紫南支部 外部25名参加  
郡元支部 外部11名参加

## 2023年度の実績/目標の達成度

1. 入院早期から介入し安心安全な支援を行う
2. 他職種と連携し円滑な退院支援業務を行う
  - ・ 新規介入者数 : 4,006件
  - ・ 入退院支援加算1 : 2,794件
  - ・ 退院時共同指導料2 : 22件
  - ・ 他機関協同指導加算 : 10件
  - ・ 介護支援連携指導料 : 133件
  - ・ 総合評価加算 : 995件

### 【セカンドオピニオン件数】：8件

### 【がん相談支援センター相談員 研修終了者】

- ・ 上野彩乃 / 馬場園望

3. 啓発活動事業へ参画し地域貢献に寄与する

- ・ 慈愛コミュニティ委員会
- ・ かもいけ健康祭り

4. 教育体制の充実

- ・ 慈愛会ソーシャルワーカー部門全体研修1回/年
- ・ 慈愛会ソーシャルワーカー初任者研修4回/年

5. 働きやすい環境とワークライフバランスの充実に図る

- ・ 介護時短取得者：1名

6. 人材確保

2024年3月31日現在12名（内：2名新卒・1名既卒）

鹿児島国際大学社会福祉士現場実習生受入

鹿児島国際大学合同企業説明会参加

医療ソーシャルワーカー合同就職説明会参加

## 業務全般についての総括

外部機関との連携は基より、院内の多職種連携が最も重要になるため、患者様の高い要求に応える事ができるよう早期介入、早期連携に努めた。来年度は、鴨池校区コミュニティ協議会との連携をこれまで以上に密にし、福祉合同研修会や鴨池小学校キャリア教育学習等への貢献に寄与し、つながる想い、世界アルツハイマーデー街頭活動への参画も積極的に参加して行く。また、病棟担当制でのソーシャルワーカーの配置を行っているが、業務の偏りを少しでも減らせられるようフロア毎のチーム編成を構築。マンパワー不足の改善を図り、環境改善を来年度も重要課題として取り組む。

## 2024年度の目標

1. 入院早期から介入し安心安全な支援を行う
2. 他職種と連携し円滑な退院支援業務を行う
3. 啓発活動事業へ参画し地域貢献に寄与する
4. 教育体制の充実
5. 働きやすい環境とワークライフバランスの充実に図る
6. 人材確保
7. 地域連携業務の強化



# 総合相談支援センター

## 入退院支援センター

### 2023年度の取り組み

#### 1. 財務の視点

- (1) 入院を断らない病床管理体制の継続とベッドコントロールによる病床稼働率の維持
- (2) 入退院時スクリーニング・他職種カンファレンスによる加算取得
- (3) MSW、事務と連携した病院訪問
- (4) 地域連携のつどいへの参画
- (5) DPC II 期越えを意識した入院管理、各病棟師長との連携

#### 2. 顧客の視点

- (1) 倫理カンファレンスによる倫理観の向上
- (2) 接遇クレーム件数、改善策の提案と実施
- (3) 入院お断り件数の把握と評価の徹底
- (4) 入院初期カンファレンスによる早期介入
- (5) 入院支援時の情報共有・活用のための入院支援スタッフの退院支援カンファレンスへの参画
- (6) 個別退院支援カンファレンスの充実
- (7) 緩和ケア認定看護師による緩和ケアマニュアルの作成
- (8) バースディ・リフレッシュ休暇の取得

#### 3. 業務プロセスの視点

- (1) 安全意識を高めるための、0 レベル報告による情報共有
- (2) 看護部感染委員会への参加と感染対策強化
- (3) インシデントカンファレンスの開催
- (4) 外来との業務連携ミーティング

#### 4. 成長と学習の視点

- (1) クリニカルラダーによる人材育成  
看護部クリニカルラダーⅤ 1 名、Ⅲ 1 名、Ⅱ 1 名
- (2) 特定看護師の排出（在宅パック）
- (3) 令和 5 年度退院支援看護師養成プログラム開催  
いづろ今村病院 受講者数 3 名  
今村総合病院 受講者数 3 名
- (4) 退院支援看護師院内認定取得者の活用

### 2023年度の実績/目標の達成度

	R4年度	R5年度
病床稼働率	80.7%	81.4%
平均在院日数	15.8日	14.9日
入院時支援加算Ⅰ:230点	144件	181件
入退院支援加算Ⅰ:600点	1,982件	2,249件
入院初期カンファレンス	4,504件	4,842件
退院支援カンファレンス	2,562件	2,371件
5日以上の有休取得率	100%	100%
インシデント/アクシデント件数	2件	4件

### 業務全般についての総括

病床稼働目標は達成できなかった。部署による稼働率の差が大きく、入院制限のない部署は高稼働で推移している。DPC II 期越えの患者も毎月 40% 以上を推移しており、Ⅲ期間始での退院を促進していくことが課題である。入院前支援で得た情報を共有することや、スタッフのやりがい感アップを目的に、入院支援担当者が退院支援カンファレンスに参画する取組みを試行した。退院支援カンファレンスは、各病棟で定着しており、多職種による活発な意見交換が図れている。倫理カンファレンスにおいては目標値は達成できていないが、部署の事例によるカンファレンスの開催が昨年度と比較すると増加した。自己のケアを内省し、倫理観の醸成を図りたい。クレームに関して直接的なものはなかったが、待ち時間の長さや、重複した情報収集に対するご意見を頂くことがあった。外来部門での連携強化が必要である。

### 2024年度の目標

- ①入退院支援センターの機能向上
- ②入院を断らない病床稼働率の維持
- ③外来系部署での連携強化による、患者家族の満足度の向上
- ④退院支援看護師の育成と支援



## 2023年度の取り組み

- (1) 入院関連機能障害を起こさない
  - ①転倒転落における3b報告件数：9件
  - ②褥瘡・皮膚損傷事例報告体制の整備：スキンケア、褥瘡に関して関連部門との連携、各部署の発生状況と経過について確認評価を実施、新規発生率、有病率等の把握
- (2) インシデントレポートシステム定着と活用
  - ①報告内容の精査及び共有事項についての周知
  - ②システム内容の評価と改善
  - ③カンファレンスへの介入：頻回事例やアクシデントカンファレンス日程調整、E-Riskn (PDCA) 活用推進
- (3) インシデント・アクシデント事例検討
  - ①レベル0報告件数：275件（昨年度比-71）
  - ②報告文化の醸成：2W1Hでの要因分析支援
- (4) チーム医療指針による診療報酬加算維持
  - ①医療安全対策加算1（85点）
  - ②医療安全地域連携加算1（50点）（医療安全地域連携相互評価加算1・加算2の施設との相互評価にて改善活動）
  - ③医療安全に関する委員会の開催
  - ④全職員研修の実施（2回/年）
  - ⑤医療安全に関する改善活動と評価実施、再発防止
- (5) 安全・安心なケア提供
  - ①接遇の向上：クレーム件数48件（昨年度比+8）
  - ②アクシデント報告事例対応と分析
  - ③対策強化を行い再発防止に努める
  - ④定期的な院内ラウンドの実施と確認
  - ⑤説明と同意の承認数の把握
  - ⑥MET活動とコードブルー要請状況の確認
  - ⑦血管穿刺後の神経損傷時の対応手順作成
  - ⑧外来廊下安全ミラー・一時停止線の設置
- (6) 医療安全活動の推進
  - ①事例集計、分析、対策立案支援
  - ②対策実施状況の評価・確認（多職種ラウンド）
  - ③死亡・死産の全例チェック
  - ④情報共有：セーフティニュース発行（月1回）、看護部症例検討会、多職種症例検討会、慈愛会4施設合同セーフティ会議（月1回）
  - ⑤マニュアルの改訂と電子化推進（輸血、PICC）
  - ⑥患者相談対応⑦職員相談窓口対応
- (7) 職員研修
  - ①全職員必須研修（2回）
  - ②中途採用者研修ほか

- ③看護学校講義
- ④新人・研修医・特定行為看護師研修等

## 2023年度の実績/目標の達成度

年度別報告	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
報告件数	3,320	3,398	2,982	3,275
レベル0・1	1,820	1,773	1,453	1,618
レベル2・3a	1,480	1,586	1,498	1,641
レベル3b以上	20	39	31	16
内服・外用(件)	510	534	524	588
注射・点滴(件)	316	401	354	379
チューブ・ドレーン(件)	907	801	674	756
転倒・転落(件)	681	567	570	641
転倒転落率(%)	5.45	4.31	4.38	4.66
転倒受傷率(%)	1.7 (年別)	2.28 (年別)	1.28	0.90

## 業務全般についての総括

全体の報告件数は昨年度と比較して300件程増加した。レベル3b以上事例が16件（薬剤関連1件、手術関連2件、治療処置関連2件、誤飲2件、転倒転落9件）で、前年度から15件減少した。診療部門は横ばい、診療支援部門は27件増加した。今後の課題は、個人情報管理や薬剤管理に関するシステム構築である。

## 2024年度の目標

- (1) 医療安全管理部門の業務推進及び役割拡大
- (2) 業務手順マニュアルの標準化を推進
- (3) 情報管理及び薬剤管理に関する改善と強化
- (4) 安全文化の醸成
- (5) セーフティマネージャーの育成



## 2023年度の取り組み

### 1) 診療情報管理業務

- ①多職種による医師の診療記録質的監査。  
診療情報管理士による全退院患者の量的監査。
- ②保存期間を経過した、入院診療記録・レントゲンフィルムの破棄選別作業。
- ③各部署で使用している診療記録用紙の統一に向けた調査。

### 2) DPC 関連業務

DPC 調査における提出用データの質及び、精度向上を目指した DPC コーディングの症例検討や提出データチェック体制の構築。

### 3) 院内がん登録

がん登録データの精度向上を目的とした、がん登録関連認定研修への参加。

### 4) NCD (National Clinical Database) 登録業務

消化器外科、泌尿器科、消化器内科(痔領域)を対象に実施。

### 5) JND (Japan Neurosurgical Database) 登録業務

脳神経外科を対象に実施。

## 2023年度の実績/目標の達成度 (※1)

### 院内がん登録件数 (※2)

2022 年症例登録：1,039 件 (前年 1,064 件)

### NCD 登録件数

2023 年症例登録：消化器外科 768 件 (前年 711 件)  
泌尿器科 859 件 (前年 728 件)  
消化器内科(痔領域)96件(前年 106件)

### JND 登録件数

2023 年症例登録：脳神経外科 262 件 (前年 270 件)

(※1) データ特性上、年度ではなく年間症例数で掲載しております。

(※2) 一定期間経過後に登録をおこなう為、1年遅れとなります。

## 業務全般についての総括

年4回実施している多職種による医師の診療記録質的監査は5年目に入り、院内に浸透しつつある。また、監査項目や監査方法の見直しを定期的におこない、質的監査による課題抽出と解決までを一連としておこなうことで、診療記録の質向上に寄与することが出来た。また、診療情報管理士にて毎月実施している量的監査については、結果を診療情報管理委員会へ報告し、関係部署に周知することで改善を図った。

2023年度は、2024年度に控えている診療報酬改定への準備年度として、DPC関連の収集データ等の変更が予想されるため、関係部署と連携を取り、適切にデータ収集が出来るよう、引き続き対応していく。

課題として、既存業務の効率化と情報発信が挙げられる。RPAの活用による業務の効率化や、データ収集・分析による情報発信ができる体制を構築していく。そのためにも、診療情報管理士としての様々なスキルをスタッフ全員が身に付け、部署全体のレベルアップを図る。

## 2024年度の目標

### 1) 診療情報管理業務

- ・業務の負担軽減と効率化。
- ・経験年数に応じた個々の業務スキル向上。

### 2) DPC 関連業務

- ・DPCデータの質向上。
- ・DPC調査データを活用した分析。

### 3) 院内がん登録

- ・登録ルール変更に対応し、標準登録様式と付随する定義に基づいた漏れのない登録。

### 4) NCD (National Clinical Database) 登録業務

- JND (Japan Neurosurgical Database) 登録業務
- ・計画的な登録業務の実施。



## 2023年度の取り組み・実績

1. 感染対策向上加算の取り組み
  - 1) 感染対策向上加算にて連携している医療機関への訪問 (4回/年)
  - 2) 連携施設との合同カンファレンス開催 (4回/年以上)
  - 3) 感染対策向上加算1施設との相互評価 (南風病院・出水総合医療センター)
  - 4) 感染対策必須研修2回/年 (全職員対象)
2. 感染対策院内勉強会
  - 1) 看護部 11回/年 (部署別)
  - 2) 薬剤部 1回/年・検査部 2回/年  
管理栄養部 2回/年・さんさんすまいる 1回/年
  - 3) 清掃担当者 2回/年・リネン担当者 1回/年  
入院物品担当者 1回/年
  - 4) N95 マスクフィットテスト  
初期研修医 10名 看護部入職者: 52名
  - 5) 手指衛生サーベイランス  
フィードバック 12回/年
3. 職業感染対策の推進
  - 1) 中途採用者研修 11回 (参加総数: 41名)
  - 2) 看護部入職者研修 52名
  - 3) 初期研修医入職時研修 10名
4. サーベイランスの継続
  - 1) 耐性菌サーベイランス (表1参照)
  - 2) 手指衛生サーベイランス (表1参照)
  - 3) ICU サーベイランス: UTI・BSI・VAP 発生なし
5. 院内感染対策マニュアルの改訂
  - 1) 抗菌薬感受性パターン
  - 2) 新型コロナウイルス感染症対策
6. 感染管理認定看護師教育課程修了者: 1名

## 2023年度 前年度との比較 (表1)

手指衛生回数11回/患者日 (前年度12.9回/患者日)	
MRSA新規発生率 (中央値)	0.52 (前年度 0.63)
ESBLs産生菌新規発生率 (中央値)	0.57 (前年度 0.43)
カルバペネム耐性緑膿菌新規発生率 (中央値)	0.19 (前年度 0.14)
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌新規発生率 (中央値)	0 (前年度 0)
CDI新規発生率 (中央値)	0.24 (前年度 0.29)
針刺し件数	27件 (前年度 24件)
粘膜曝露 (咬傷含む)	13件 (前年度 8件)
抗菌薬使用届提出率	100%
インフルエンザワクチン接種率	95.45% (前年度 95.38%)

## 業務全般についての総括

感染対策において標準予防策を徹底することは重要となる。しかし、1日1患者あたりの手指衛生回数が12.9回から11回へ減少し、ESBLs産生菌、カルバペネム耐性緑膿菌の新規発生率が上がったことから、標準予防策を通常業務において徹底すると共に、感染経路別予防策を実施できるように教育・啓蒙活動を強化する必要がある。さらに、針刺し・皮膚粘膜曝露発生数40件/年と前年より増加した。職種別で医師・研修医・看護師で発生数が増加した。曝露要因分析や防止策を部署内で共有し再発防止を図り安全な職場環境を構築していく必要がある。

## 2024年度の目標

1. 標準予防策・感染経路別予防策教育の徹底
2. 職業感染対策教育の強化
3. 感染対策向上加算における連携強化
4. サーベイランスの継続
5. 院内感染対策マニュアルの改訂



## 2023年度の取り組み

- VBA 等を活用した自動集計の促進
- 各種統計依頼への対応
- RPA による負担軽減
- 原価管理計算の診療科別フィードバック
- データ分析による病院経営への寄与
- VHJ 関連業務
- プロジェクトへの取り組み
- 2024 診療報酬改定対策

## 2023年度の実績/目標の達成度

- VBA や VBS 等の簡易プログラムを応用し、RPA で運用させ経営指標などをリアルタイムで自動配信（経営幹部や主任部長へ現在の利用状況や新入院患者の目標達成状況など）又は医局モニタ投影を実施。
- VBA 処理による部署の集計業務の簡素化を今年度も実施。それにより年間おおよそ 3,000 時間の労働負担軽減を実現できている。
- DPC 分析などを用いて個別に主任部長とのプレゼン。クリニカルパスの見直しやベンチマークなどを意見交換。
- 原価管理計算のフィードバックを毎月主任部長会で実施。今年度はドクターパフォーマンスレビューでの活用もあり、再度、定義や分配方法の見直しを行った。
- データ分析等では紹介重点医療機関やプロジェクトに掛かる導入試算、救急医療管理加算の算定強化、DPC や医事データを利用しベンチマーク分析など経営幹部会議等で協議した。また、慈愛会本部より 2 名研修を受入れ、毎週金曜の院長・事務長を交えたデータ定例会を催し、経営分析を協議した。
- 院外研修では池田主任が VHJ 職員交流会へ参加。
- プロジェクト関連では医療 DX やガンマナイフ導入、へき地関連などに参加やデータ提供を実施。

## 業務全般についての総括

- VBA の処理により部署間のデータ集計を更に時間短縮させる事で他部署へ貢献することができた。さらに本部研修生も加わり、データ加工の質や量も各段に上がり、今後は更にデータ処理の速度と精度を上げていく。
- RPA を取り入れリアルタイムでのデータ送信 / 配信を実現できた。特に病床利用率や新入院患者数では目標値に対する可視化も表現した上でモニタ配信し、診療科個別には各主任部長へのメール配信を定期自動配信する取り組みを行った。
- DPC 分析やベンチマーク分析などはシステムも新しく加わり、高精度なデータとして充実してきたが、そのデータを用いたアクションまでが未だ具現化できていないものもあった点は反省点であり、次年度は更にパワーアップさせていきたい。
- 診療科への DPC と原価管理アプローチは実施できたが全科対象に出来なかった。ただし、原価管理計算においては再度、基準の見直しを行い、分配方法など変更により、納得性の高いものに仕上がっている。今後はアメーバ形式での原価管理を取り入れ、より精度の高いものを提供していきたい。

## 2024年度の目標

- 各診療科とのミーティングを定例的に実施していく。
- 2024 診療報酬改定に関わる内容を踏まえ、短期的なプロジェクトを立ち上げ、当院だけではなく併設施設も含め、対策 / 対応をしていく。
- より集計作業を効率化するためにも医療 DX も推進しつつ、コストの掛からない業務改善を多く提案を積極的に行う。



## 2023年度の取り組み

臨床研究センターは、臨床試験支援室と HTLV-1 研究センターの二つの部門により構成されている。臨床試験支援室の部門別報告は別ページ報告としたので HTLV-1 研究センターについて報告する。

### HTLV-1 研究センターの取り組み

1. 臨床研究倫理研修会の開催
2. HTLV-1 キャリア外来の充実
3. HTLV-1 感染者のオンライン相談の充実
4. ATL/HTLV-1 公的研究班への参加・貢献
5. ATL・リンパ腫・白血病の新規薬剤治験、新規治療開発研究への参加

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 1. 臨床研究倫理研修会の開催

病院全体の倫理研修会をオンラインで1回開催した。また、長崎大学主催のオンラインによる倫理研修会に7回（延べ33名）が参加した。

### 2. HTLV-1 キャリア外来の充実

HTLV-1 キャリアを長期フォローアップする前向き観察研究（Joint Study on Predisposing Factors of ATL Development:JSPFAD）には継続参加しており、2023年4月1日から2024年3月31日までに307名（初回参加47名、経過フォローアップ中260名）のHTLV-1感染者が参加した。キャリア外来でコロナワクチン接種者について、ワクチン接種後の液性免疫応答について検査・解析を行い、欧文誌発表を行った。

### 3. HTLV-1 感染者のオンライン相談の充実

HTLV-1 キャリアのオンライン相談は1名であった（徳永先生担当）

### 4. ATL/HTLV-1 公的研究班への参加・貢献

5つの公的研究班 [AMED 研究班：三浦班（宇都宮）、下田班（宇都宮）、末廣班（宇都宮）、福田班（宮園）、厚労科研研究班：渡邊班（徳永）] の分担研究者に加わった。公的研究費406.5万円（直接研究費315.0万円、間接研究費91.5万円）を獲得した。

### 5. ATL・リンパ腫・白血病の新規薬剤治験、新規治療開発研究への参加

ATLの企業治験2件（血液内科1件、皮膚科1件）、

医師主導治験2件（血液内科）を実施した。新たなATL治療開発（光線力学療法）の企業治験への準備を進め、治験審査委員会での承認まで得られた。

## 業務全般についての総括

臨床研究倫理研修会については、病院全体の研修会として1回のみであった。系列病院での倫理研修会も企画していたが、実施できなかったため、次年度の開催を目指す。HTLV-1 キャリア外来の充実としては、毎年多くのキャリアのフォローアップを行っているが、今年度も従来通りの活動ができた。HTLV-1 キャリアにおいては、母乳の介入により母子感染が激減したが、成人になってからの水平感染例が多く、研究班でも実態の把握と共に水平感染防止対策を模索している。当院でも HTLV-1 の水平感染の現状についてさらに研究を進める予定である。

HTLV-1 キャリアのオンライン相談は1件のみであった。手続きの煩雑さなども受診しての対面相談例数に劣る原因と考えられた。

公的研究班への参加は、5つの分担研究とひとつの研究協力者に加えられ、それぞれの研究班の研究に加わり、活動実績が得られた。末廣班の研究目的であるATL患者に対する樹状細胞ワクチン療法の開発では、2名の患者が参加登録した。

ATL患者への治験数が今年度は少なかったが、次年度での獲得を目指す。

## 2024年度の目標

- 臨床試験室の活動への継続的サポート
- HTLV-1/ATLに関する公的研究班への参加を継続する。
- HTLV-1 および関連疾患の代表であるATLの治験を含めた治療法の開発
- HTLV-1 キャリアへの取り組み



## 2023年度の取り組み

- 企業治験の積極的な受託
- 臨床試験の継続的なサポート
- 治験・倫理審査委員会のスムーズな遂行

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### 1) 企業治験

受託診療科	件数	契約症例数	登録症例数	達成率
血液内科	3	11	3	27%
皮膚科	1	5	5	100%

### 2) 医師主導治験

受託診療科	件数	契約症例数	登録症例数	達成率
血液内科	2	-	9	-
消化器外科	1	-	1	-

### 3) 特定臨床研究新規申請件数 / 一括審査申請件数

特定臨床研究新規申請件数	0件
一括審査申請件数	10件
	(内訳)
	血液内科:5件
	皮膚科:2件
	小児科:1件
	循環器内科:1件
	脳神経内科:1件

### 4) 治験審査委員会

開催数	審査件数
15回	93件(通常:78件、迅速:15件)

### 5) 倫理審査委員会

開催数	審査件数/報告
15回	通常審査:3件
	迅速審査:61件(書類審査)
	終了報告:0件

### 6) 製造販売後調査新規契約件数:総数 10件

血液内科 4件	皮膚科 4件
循環器内科 1件	外科・消化器外科 1件

## 業務全般についての総括

### 【企業治験】

◆ 昨年度企業治験が4件終了し、本年度は4試験の実施となった。血液内科におけるリクルート状況は27%と低値であり途中契約症例数の増加を見込んだことから症例数を追加した背景がある。

治験の終了が早まったこともあり、達成率が低下した結果となった。

また、年度内に終了した血液内科の試験が2試験であり、2023年度の収益は総額 6,593,655 円を計上した。

◆ 皮膚科の治験においては、達成率 100% と目標を達成している。新規登録は既に終了しており、現在も患者 1 名が治験を実施中。

### 【医師主導治験】

◆ 血液内科で3試験、消化器外科で1試験が実施中である。本年度は血液内科で3名の登録、消化器外科で1名の登録ができた。

### 【特定臨床研究 / 一括審査】

◆ 本年度は臨床研究法による介入研究の新規登録が0件であり、観察研究を主体とした非介入研究が10件であった。各施設で倫理審査委員会の開催は年々減少傾向にあり、研究代表者が指定する中央倫理審査委員会での審査が主体となりつつある。指針を遵守し、必要に応じて手順書等の整備を行っていく。

### 【治験・倫理審査委員会】

◆ 治験・倫理審査委員会の開催において、現在は会場とリモートのハイブリッド式で実施していたが、会の在り方を検討し、来年度より対面式へ変更していく方針である。

◆ 外部委員の1名交代があり、3月より新メンバーにて実施している。

## 2024年度の目標

- 企業治験の新規契約の獲得
- 治験・倫理審査委員会の体制整備（対面式へ）
- 臨床試験の継続的なサポート



# 看護師特定行為研修センター

## 2023年度の取り組み

1. 充実した効果的な特定行為研修を行う。
2. 独自の領域コースの構築ができる。
3. 特定行為研修修了者フォローアップ研修の継続と修了者への活動支援ができる。
4. 研修内容の評価及び次年度犬種計画の立案ができる。

以上の4点を目標に活動した。

## 2023年度の実績/目標の達成度

1.

区分	研修生	施設名
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	2名	今村総合病院
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	1名	訪問看護ステーション「節愛」
動脈血液ガス分析関連	3名	今村総合病院
創傷管理関連	5名	小田代病院、今村総合病院 いまきいれ病院 鹿児島医療センター
ろう孔管理関連	5名	済生会仙台病院、今村総合病院 訪問看護ステーション「節愛」
栄養及び水分に係る薬剤投与関連	2名	鹿児島医療センター 今村総合病院
栄養カテーテル管理	2名	今村総合病院
感染に係る薬剤投与関連	2名	千年メディカルクリニック 今村総合病院
在宅・慢性期領域パッケージ	6名	訪問看護ステーション「護国」 訪問看護ステーション「みなみ風」
救急領域パッケージ	1名	今村総合病院

共通科目 e-learning 視聴での学習加え、不足する学習内容をピックアップし出講日に実施した。また、在宅診療の学習としてかごしまオハナクリニックでの実習を実施し研修の充実を図った。区分別科目の症例取得については、全区分。5症例以上取得できた。

2. 領域パッケージ以外で施設の特長(患者特長)を活かした独自のコースの構築を行い、2024年度開講に繋がられた。
3. 研修修了者フォローアップ研修2回/年実施し、特定看護師に必要な知識力・技術力のアップや継続に繋がることができた。

4. 研修内容の評価を実施し、課題の明確化ができ、次年度の研修内充実化を図ることができた。

## 業務全般についての総括

特定港研修センターは、指導者(特定看護師)、指導医、薬剤師、臨床工学士や協力施設の医師、特定看護師の協力のもと、研修を運営できている。

8区分と2領域パッケージの研修の期間が重なり合うため、指導者と綿密な打ち合わせをしながら、それぞれの研修がスムーズかつ効果的に進むようにできた。そのことにより症例取得もできた。また区分ごとの実習のフィードバックを行うことで研修生の知識・技術の定着に繋がれたと考える。

運営委員会会議(1回/月)では、研修のスケジュールに合わせて、問題や課題を明確にし、取り組むことで研修生の状況に合わせた研修ができた。

## 2024年度の目標

1. 研修内容(区分・パッケージ・コース)の計画的な研修の運営を行うことができる。
2. 研修生にとって充実した研修を行うことができる。
3. 特定行為研修修了者フォローアップ研修の開催(2回/年)の実施及び修了者への活動支援ができる。
4. 特定看護師支援事業の取り組みの充実化を図ることができる。



## 2023年度の取り組み

### 1. 顧客の視点

#### (1) 暮らしの継続支援

①「私のことシート」評価・継続

#### (2) メンタルヘルスサポート

①メンタルヘルス支援体制構築に向けての準備

②新聞発行：10月 2月

### 2. 財務の視点

(1) 積極的チーム活動による加算取得

(2) 入院関連機能障害の予防

### 3. 業務プロセスの視点

(1) せん妄予防ケアの推進

(2) 暮らしの継続支援による入院環境の向上

### 4. 学習と成長の視点

(1) 認知症サポートナースの輩出

(2) 認知症ケア加算要件の研修実施

項目	2023年度	2022年度
精神疾患診療体制加算 1	35件	36件
精神疾患診療体制加算 2	19件	98件
せん妄ハイリスク加算	4,034件	3,605件

## 業務全般についての総括

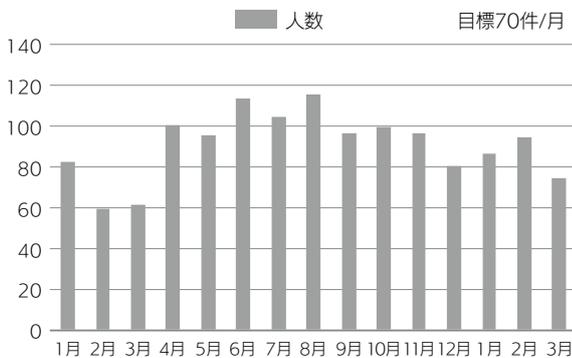
認知症ケアチーム・リエゾンチーム共に新規介入件数は増加することができた。一方で、精神疾患診療体制加算2の取得がかなり減少した結果となった。医師との連携不足が一因となっていたため、対策を強化していく。

職員のメンタルヘルスに関する相談はなかったが、今後も有事の際などはメンタルヘルスの支援を行っていく。

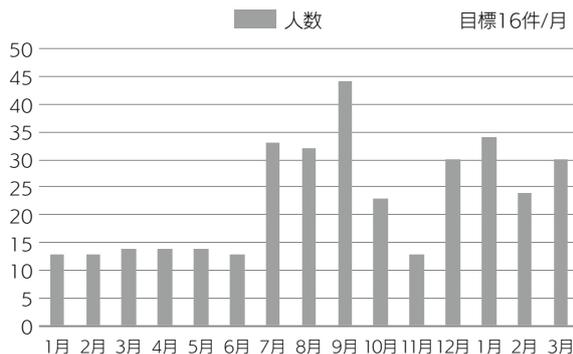
## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### 認知症ケアチーム新規介入者数



### リエゾンチーム新規介入者数



## 2024年度の目標

1. 算定可能な患者への介入継続
2. スタッフの認知症ケアに対する知識向上の支援
3. 行動制限最少化に向けた取り組みの向上
4. 職員のメンタルヘルス支援（有事の際）



## 2023年度の取り組み

- NST 回診 (1 回 / 週)
- 入院時栄養スクリーニングを用いた低栄養 / 低栄養リスクを有する患者の抽出と早期介入
- 絶食患者の把握と適時介入
  - 早期経腸栄養の推進
- 言語聴覚士との連携強化
  - 嚥下評価待ち患者の情報共有
  - 栄養投与ルートの検討・提案
  - 食事形態の調整
- ICU 退室後の患者フォロー

## 2023年度の実績/目標の達成度

	2022年	2023年	前年比
介入件数	404	735	182%
算定件数	56	214	382%

- 『栄養治療実施計画及び報告書』入力フォームの修正
- 栄養関連 web セミナー受講

## 業務全般についての総括

介入対象者の抽出方法見直しにより、介入件数は増加した。多職種でのラウンド実施回数も増え、算定件数増加に繋がった。

病棟リンクナースとの連携は中々進まなかったが、言語聴覚士との連携により、絶食期間の短縮、嚥下能力 / 覚醒レベルに応じた食事形態の変更等適宜行うことが出来た。

## 2024年度の目標

- 専任スタッフの増員 (NST 研修修了者、特定看護師)
- GLIM 基準の活用
- 効率的かつ効果的なラウンド実施と栄養治療実施計画書の作成



## 2023年度の取り組み

1. 広報活動
  - 1) 緩和ケア通信：7月、12月発刊
2. ACP 推進
  - 1) テンプレート作成
  - 2) 鹿児島県 ACP 連携シート導入
  - 3) 研修会開催 講師：鹿児島大学 的場康德先生
3. 鹿児島県がん診療連携会議（緩和ケア部門会）、緩和ケアに携わる看護師の地域連携会議、がん医療・介護地域連携会議への参加
4. 緩和ケアリンクナースとの協働強化

## 2023年度の実績/目標の達成度

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### 1. 緩和ケアチーム介入実績（入院）

	2023年
新規依頼件数	157件
のべ介入数	1,117件
緩和ケア加算算定数	818件
緩和ケア診療加算	319,020点

### 2. 診断時からの緩和ケアの提供

	2023年
がん患者指導管理料イ	131件
がん患者指導管理料ロ	81件

## 業務全般についての総括

1. 緩和ケアチームへの依頼数は前年度比 71.7% と減少に転じた。算定数も 72.4% にとどまった。  
チームメンバーが長期研修受講や体調不良に伴う欠勤などでマイナスに転じたと考える。  
また、依頼が多かった診療科からの依頼が途絶えるなど他の要因も減少の原因と考えられた。
2. 本年度は、院内の ACP 推進を活動の柱として倫理問題検討委員会・臨床倫理コンサルテーションチームと共同してテンプレートの作成、ACP 連携シートの導入を行った。また、知識とコミュニケーション技術の向上を目的に鹿児島大学大学院の的場康德先生をお招きし、講演会を開催した。研修後アンケート結果では 90% 以上の参加者が大変満足、かつ研修時間が短かったと回答あり、次年度も継続して同様の研修を企画するとともに ACP をさらに進めていきたい。
3. コロナ禍が明け、徐々に他院との会議や研修なども現地開催が増えてきた。緩和ケア部門においてはコロナ前まで会議や研修が頻繁に開催され、顔の見える関係作りが自ずとできていた。来年度、再び顔の見える関係を構築するためにも研修や会議の機会を活かしたい。
4. リンクナースとの連携は部署での差はあるものの伝達事項を活用した情報共有なども活発になっている。

## 2024年度の目標

- ・新体制チームでの活動
- ・後進育成
- ・ACP 推進



# 褥瘡対策チーム

## 2023年度の取り組み

1. 褥瘡チームラウンド（委員会開始前 15：00～）
2. 褥瘡回診（A棟5階毎週水曜、他病棟は適宜）
3. 新人看護師研修、病棟リンクナースを対象に勉強会の実施
4. 患者移乗、体位変換時のスライディングシートの活用推進
5. 褥瘡発生率、保有率、治癒率の算出

## 2023年度の実績/目標の達成度

### 褥瘡に関するデータ

	2021年	2022年	2023年
平均保有率	5.58%	6.17%	4.84%
平均発生率	1.16%	1.24%	1.77%
発生件数	95件	96件	67件
持込件数	176件	159件	113件
治癒件数	48件	47件	30件

- ・ 目標に掲げていた褥瘡発生率 1.0% 以下を達成することができなかった。
- ・ 褥瘡ラウンドは毎月実施することができた。
- ・ 体圧分散寝具に関しては、毎月 60 件前後のエアマットの貸し出しと返却があり、入院時のアセスメントで早期から体圧分散寝具の活用ができています。
- ・ 褥瘡発生率は上昇、治癒件数は減少となり、基本的なケアが不足していたと考えられ、リンクナースの育成を更に強化する必要があります。
- ・ 学会等での症例・研究発表、褥瘡ニュースの発行はできなかった。
- ・ 特定看護師による壊死組織の除去、陰圧閉鎖療法への介入は増えてきている。特定看護師研修による研修生の受け入れもスムーズにできた。
- ・ 患者の移乗時や体位変換時の摩擦・ずれの予防と介助者の腰への負担軽減を目的として新たにスライディングシートの導入と活用推進を図った。

## 業務全般についての総括

- ・ 年間の褥瘡発生件数、持ち込み件数は前年度より減少しているが、発生率は上昇している。また、治癒件数も減少している。なかなか治癒に至らぬまま退院となったケースも多かったことも治癒率減少の要因の一つと考えるが、発生率が上昇していることに関しては、基本的な褥瘡予防が行えていなかったということが一番の要因と思われる。スライディングシート活用促進や、年間を通して委員のメンバー、リンクナースに対しての勉強会を理学療法士、栄養士の協力を得ながら実施してきたが、今後も継続して勉強会を行っていく必要がある。それと同時にラウンド時の病棟スタッフへの直接的な指導、アドバイスを強化していく必要がある。褥瘡だけでなく、スキントアや失禁関連皮膚炎（IAD）等の皮膚トラブルについても発生状況を正確に把握し、皮膚トラブル発生減少にむけて具体的に取り組んでいく。

## 2024年度の目標

- ・ 褥瘡発生率 1.0% 以下
- ・ スキンテア、失禁関連皮膚炎、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）の発生状況の把握と対策強化
- ・ 褥瘡ラウンドの定着
- ・ 褥瘡・皮膚トラブルニュースの発行
- ・ 病棟リンクナースの育成強化
- ・ 特定看護師活動推進、研修協力の継続



# 口腔ケアチーム

## 2023年度の取り組み

歯科医師、歯科衛生士、看護師、言語聴覚士の多職種からなる口腔ケアチームを編成して口腔ケアラウンドを行い、病棟看護師へ口腔ケアのアドバイスを行った。

口腔ケア担当リンクナースに対して口腔ケアに関する勉強会を行った。

## 2023年度の実績/目標の達成度

毎週木曜日に口腔ケアチームによる口腔ケアラウンドを行った。

口腔ケアラウンドの対象患者数（2023年4月～2024年3月）198名

口腔ケアラウンドの対象患者数は減少傾向にある。

これまでと同様に、年2回、口腔ケア担当リンクナースに対して勉強会を行った。

## 業務全般についての総括

口腔ケアラウンドの対象患者数は過去に比べて減少しているが、入院患者様への口腔ケアは以前より良くなっており、その影響もあって対象患者数が減少している可能性がある。

## 2024年度の目標

口腔ケアラウンドの周知と病棟との連携をはかり、口腔ケアラウンドの対象患者数を増やす。

患者様の口腔内状態を把握し、適切な口腔評価を行い、ラウンド介入へとつなげることができるようにする。

リンクナースが各部署のスタッフへ口腔ケアの指導ができるようにする。



# かごしまオハナクリニック

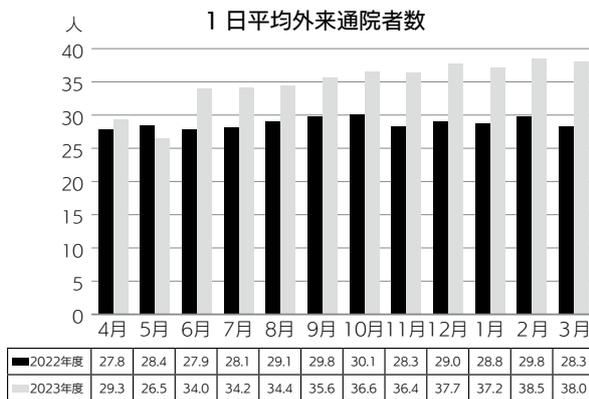
## 2023年度の取り組み

- ①業務効率・質改善、ICTの積極活用
- ②業務の役割分担・権限移譲推進
- ③「慈愛会の在宅医療」推進と標準化の取り組み
- ④オンライン診療の導入
- ⑤在宅・地域医療現場で活躍する人材育成

## 2023年度の実績/目標の達成度

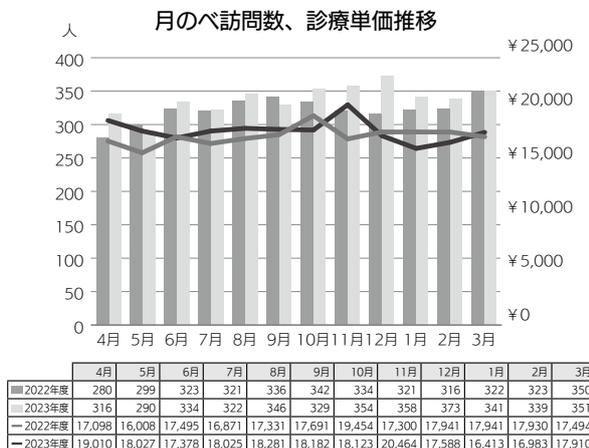
### 外来診療実績（対2022年度比）

1,000名ほどのかかりつけの方が2-3ヶ月毎に継続通院され、また新規かかりつけ希望者も増えた結果平均外来数は通年で前年を上回った。



### 訪問診療実績（対2022年度比）

昨年度と同様に、1日平均15-20件の定期訪問診療と24時間365日の緊急往診を常勤医2名で行ったが、2023年度は機能強化型在宅支援診療所の要件を満たして診療報酬点数が増加した結果、診療単価が増加し、併せて訪問件数、新規契約者数、在宅看取り数なども概ね前年度を上回った。



## 業務全般についての総括

- 左記 ①~③：進捗・向上 ④・⑤：未達成
- LINE WORKSの本格運用：スタッフ間また外部多職種との情報共有、連携が迅速かつ綿密になった
  - 訪問診療スケジュールソフト運用：スケジュールのルール設定とデジタル化で予定作成の負担が大幅に軽減し、作成担当の属人化も解消できた。
  - いづろ今村病院と高麗町クリニックと月1回の連携カンファレンス実施：事例検討、在宅医療に関する情報共有など連携強化の取り組みを開始した。
  - 副師長、事務部リーダー配置：勤怠管理、業務管理、情報共有、スタッフ個人への目配りを担う管理責任者を配置し、組織運営の安定化に着手した。
  - リーダー看護師の配置：業務采配と対外交渉業務を担うリーダー看護師を日替わりで担当し、業務の偏りや情報の属人化が圧倒的に軽減した。
  - 月1回のスタッフミーティング：個人および部門ごとのカイゼン目標設定、進捗、達成報告、成果の検証を行った。
  - 外来診療執務室と訪問診療支援室の分離配置：看護部スタッフが常時待機する部屋から、業務内容別に必要物品を配置した部屋に再編し、その日の担当業務に応じてスタッフが流動する形とした。
  - 発熱外来ブースの新規設置：定期外来スペースと動線を分離した発熱患者診療（COVID-19、インフルエンザ含む）ブースを設置した。

## 2024年度の目標

- 業務・診療の標準化、マニュアル化・遵守・更新
- オンライン診療実施
- 訪問リハビリテーション業務整備
- 訪問診療の依頼増加に無理なく応需する体制整備
- 事務部門の業務再編、スタッフ配置と育成
- 学びの時間と場所を選ばない教育コンテンツ作成
- 研修や学会等への参加、発表の奨励・支援
- 法人内在宅部門の連携強化、人的交流機会の提供
- SNSによるかかりつけ、住民へ情報発信の整備



## 2023年度の取り組み

- 新型コロナワクチン注射接種（春・秋接種実施）
- 特定健診対象者への声掛けと実施
- 新型コロナウイルス感染症対策継続
- 院内勉強会（毎月定例実施）  
スタッフ担当他、業者とリモートにて実施
- 患者様向けの糖尿病教室開催
- 院内カンファレンス（1回/月）

## 2023年度の実績/目標の達成度

	2022年度	2023年度	前年比
*年間診療日数	295	297	+2
コロナワクチン日曜接種(日)	3	なし	
*年間受診者数			
延べ人数	13,398	13,488	+90
月平均	1,116	1,124	+8
*初診者数	133	144	+11
*転院者数	79	60	-19
*在宅自己注射指導管理料	5,165	5,083	-82
*血糖自己測定器加算			
間歇スキャン式持続血糖測定器によるもの(リブレ)	1,572	2,075	+503
*外来栄養食事指導数			
初回	76	79	+3
2回目以降	319	347	+28
*診療点数平均	1,599	1,650	+51
*特定健診	281	253	-28
*コロナワクチン接種人数	3回目902	春接種 784	
	4回目888	秋接種 905	
	5回目710		

## 業務全般についての総括

例年に引き続き、コロナワクチンの春接種・秋接種を2月まで実施した。高齢対象患者、基礎疾患接種希者を含め、患者全員に案内し、予約票・予約簿を作成。今回からは、パート看護師もコロナワクチン注射を実施する事になり、新たに業務手順の見直しや接種までの流れ等、スタッフ全員で話し合い実施する事ができ、ワクチン接種・管理に関してはインシデントを起こすことなく業務遂行できた。

令和3年9月から、インスリン注射使用患者に対してリブレ（持続血糖測定器）使用開始となり、現在は利用台数も280台を越えてきている。日々の療養指導に活かせるよう定例勉強会の実施や、研修参加等知識を深めている。今後も、スタッフの質向上、患者様の意欲向上に繋がれるように療養指導の充実に努めていきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響で3年間糖尿病教室が開催出来なかったが、今年度は8月に「ソーメン教室」11月に「菓子パン教室」を開催する事が出来た。

今後は定期的に開催出来るよう年間計画を立て、自己管理に役立てられるよう提供していきたい。

職員の勤務形態で時短者が4名となったが、適宜勤務調整を行い情報共有しながら、コメディカルと協力し安全な医療の提供に努めた。

## 2024年度の目標

- 新型コロナウイルス感染症を含め感染症対策の継続に努める
- 専門性を活かした療養指導の充実
- 安心安全な室の高い医療の提供
- 診療報酬改定に対する柔軟な対応
- 院内外の研修に積極的に参加し自己研鑽に努める

# 委員会報告

治験審査委員会	78	業務フロー委員会	101
個人情報管理委員会	79	電子カルテ委員会	102
栄養委員会	80	薬事委員会	103
行動制限最小化委員会	81	クリニカルパス委員会	104
化学療法審議委員会	82	NST委員会	105
臨床検査適正化委員会	83	地域医療連携委員会	106
診療情報管理委員会	84	病床管理委員会	107
DPC委員会	85	緩和ケア委員会	108
放射線安全委員会	86	TQM委員会	109
医療安全管理委員会	87	省エネ・保安全管理委員会	110
病院セーフティマネジメント委員会	88	物品管理 (SPD) 委員会	111
医療事故調査委員会	89	清掃委員会	112
医療安全対策委員会	90	広報委員会/広報室	113
労働安全衛生委員会	91	災害対策委員会	114
褥瘡対策委員会	92	施設基準チームアプローチ検討委員会	115
医療ガス安全管理委員会	93	運営費管理委員会	116
行動制限・転倒転落委員会	94	口腔ケア委員会	117
輸血療法委員会	95	臨床研修管理委員会	118
臨床倫理検討委員会	97	職員教育研修委員会	119
院内感染対策委員会	98	看護師特定行為研修管理委員会	120
看護部運営委員会	99	倫理審査委員会	121
手術室運営委員会	100	利益相反委員会 (COI委員会)	122



# 治験審査委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第2火曜日 16時30分～

委員会の目的：ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則及びGCP省令に基づき、被験者の人権の保護、安全の保持に努め、治験の適正な推進が図られることを目的とした委員会である。

## 2024年度の目標

- 企業治験の新規契約の獲得
- 治験契約症例の達成
- 対面式治験審査委員会の体制整備

## 2023年度の実績

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

新規契約：企業治験0件（血液内科）、終了試験2件（血液内科）

治験の安全性情報・治験に関する変更申請について、GCPを遵守しながら滞りなく施行できた。

年に一度の継続審査について、これまでは契約締結を起点に継続審査を行っていたが、審査漏れや遅れなどが生じたため、年度末に一律で実施する方針とした。

### 治験審査委員会開催と件数

開催数	総審査件数	通常審議	迅速審査	報告 (審議に含まない)
15回	93件	78件	15件	3件

### 治験受託件数

	治験受託件数		
	血液内科	消化器外科	皮膚科
企業治験	3件	-	1件
医師主導治験	2件	1件	-



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：必要時随時

委員会の目的：

個人情報保護規定に基づき、

- (1) 個人情報保護に関する施策に関する事項
- (2) 個人情報保護規定に基づく審議事項
- (3) 本規程その他個人情報保護に関連する規程の改廃に関する事項
- (4) その他個人情報保護に係る重要事項を審議する。

## 2023年度の実績

- ・ 院内掲示の定期巡視
- ・ 開示請求への対応
- ・ SNS等を通じた交付に対する個人情報保護の確認など
- ・ 個人情報の漏洩について、大きく財産被害が生じたりするような事案は無かったものの、FAXの誤送信や郵便物の郵送先誤りなどが年数件発生した為、都度部署と対策を検討のうえ、再発防止をはかった。

## 2024年度の目標

個人情報保護法施行規則の改正により、2024年4月1日以降、一定の漏えい等発生時に義務づけられている、個人情報保護委員会への報告と本人への通知の対象が、「個人データ」から「一部の個人情報」まで拡大され、個人データの漏えい等のうち、以下の4つのケースに限って報告等が義務付けられた。

- (1) 要配慮個人情報が含まれる個人データの漏えい等（例：従業員の健康診断等の結果を含む個人データの漏えい等）
- (2) 不正利用により財産的被害が生じるおそれがある個人データの漏えい等（例：クレジットカード番号を含む個人データの漏えい等）
- (3) 不正目的をもって行われたおそれがある個人データの漏えい等（例：不正アクセスによる個人データの漏えい等）
- (4) 本人の数が1,000人を超える漏えい等

こうした重要事案が発生しないよう、全職員に対し院内研修や掲示などを通じ院内の情報共有をすすめることにより、日頃からの意識向上と注意喚起を促進していく。



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：

隔月（偶数月）第4金曜 15：30～16：00

委員会の目的：病院給食の質向上並びに栄養管理体制の  
充実を図る。

関連部門との連携を図り、円滑な運営を  
実践する。

## 2024年度の目標

- 栄養管理基準の改訂 ;GLIM 基準への対応
- 栄養関連ファイル（病棟と栄養部の取り決め事項）改訂

## 2023年度の実績

- アレルギー調査票の改訂
  - 質問項目の集約及び追加（原則除去不要とされる食品への対応追加）
  - 職員チェック欄の追加
- 栄養関連ファイル改訂
- 病棟掲示用ラミネート（食事基準、栄養剤等）の配付
- 易消化食導入の案内と周知
- キザミ食への提供内容見直し；パン・果物（一口大）の提供中止
- 経腸栄養剤の適正使用について、案内と周知
- 全館停電時の給食提供に関して；配膳ルート・使い捨て食器使用など対応の確認



# 行動制限最小化委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3月曜日 15:30～

委員会の目的：精神科病棟入院に関わる患者の病状、行動制限の状況に係わるレポートをもとに、月1回（第3月曜 15:30～）、病状改善、行動制限の状況の適切性及び行動制限最小化の検討会議である。また、患者の基本的な人権を尊重するため、医療及び保護に不可欠な必要最低限の行動制限基準を定め運用する事を目的としている。医療保護入院の妥当性についても検討している。

## 2023年度の実績

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

### 【院内研修】

- 第1回：4月21日 虐待について
- 第2回：6月16日 行動制限最小化について
- 第3回：7月21日 せん妄について
- 第4回：令和6年1月29日 行動制限最小化について

### 【行動制限】

隔離件数：22名  
拘束件数：111名

### 【入院形態】

医療保護入院：49名（うち市長同意：1名）  
措置入院：1名

### 【医療観察法】

対象者：1名

## 2024年度の目標

- 行われている行動制限の妥当性を検討し、改善すべき点があれば主治医に指摘・指導を行う
- 行動制限についての基本的な考え方や、やむを得ず行動制限する場合の手順などを盛り込んだ行動制限最小化基本方針の整備
- 病棟から提出された行動制限レポートを検討し、疑義、改善事項を病院長、看護部長に報告する
- 定期的に行動制限状況を取りまとめ、病院長、看護部長に報告する
- 精神保健福祉法、隔離・拘束の早期解除、危険予防のための介入技術についての研修会の企画を行い、年2回程度開催する
- 入院患者の行動制限最小化のための活動を行う
- 医療保護入院の妥当性を検討する



# 化学療法審議委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：第1月曜日 16:00～

委員会の目的：日々進歩する化学療法を安全に適切に行うための管理・運営を行う  
化学療法室を適切に運用する  
新規レジメンの妥当性を評価し、承認を行う  
化学療法における診療報酬を確認し、施設基準を適切に維持する  
院内の「化学療法マニュアル」を策定する

### ※活動内容

化学療法におけるインシデントアクシデントに対する対応策の立案・評価、周知  
化学療法室からの報告・相談  
新規化学療法レジメンの登録・承認  
「化学療法マニュアル」の随時更新

## 2023年度の実績

化学療法審議委員会を年間12回実施した  
インシデントアクシデントの事例をもとに、内容の協議・業務改善を行い、各部署への周知を行った。  
化学療法室に「ドリップアイ」を正式導入し、運用を開始した。  
66件の新規レジメンの承認を行った。  
「化学療法マニュアル」を2023年度版に改定した

## 2024年度の目標

インシデントアクシデントの0、1レベルの拾い上げと対策の検討を行い、部署へフィードバックする  
年間1,000レジメン以上のがん化学療法を維持する。  
(がん診療連携拠点病院)  
2024年の診療報酬改定に則った施設基準の確認、算定条件の確保、必要な環境の整備を行う  
がん化学療法に関する治療・看護をスムーズに行うための「化学療法マニュアル」の適宜改訂  
化学療法における同意書取得率を徹底する



# 臨床検査適正化委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：偶数月第1火曜日

委員会の目的：臨床検査の管理・運営の適正化を図る

臨床検査の精度管理の審査・検討をおこない、より精度の高い検査結果の提供に努める

## 2024年度の目標

- 臨床検査部の適切な管理と運用の継続。
- 外部・内部精度管理の継続、審査・検討を計画的におこない、精度の高い検査結果提供の維持。
- 臨床検査部でのタスク・シフトシェアの検討と実施。

## 2023年度の実績

- 2ヶ月に1回、偶数月に開催。2023年2月より2024年2月まで7回実施。
- 外部精度管理（日臨技・日本医師会・鹿児島県医師会・各種メーカーサーベイランス）の受検と、審査結果の報告と評価をおこなう。令和5年度外部精度管理結果は概ね良好。
- 内部精度管理の評価。
- 慈愛会臨床検査部一体化にむけ、令和5年10月からのいづろ今村病院臨床検査技師との一対一の異動（人事交流）の計画と実施。
- 病院内で検体採取容器使用期限の周知をおこない、診療科・病棟での検体採取容器在庫数を見直し、検査室での在庫管理を実施。
- インシデント発生時の対応と改善策の検討。E-Riskinへの入力と部署内情報共有の徹底を進める。
- 6月に検体検査室内の湿度上昇による生化学検査機器の動作不具合に対し、除湿器2台を設置し、環境を改善した。
- 新規検査項目の検討と導入。血小板凝集能検査・KL-6の院内検査を開始、BRCA遺伝子検査の外注検査を開始。



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第1火曜日

委員会の目的：診療情報の管理を円滑に行うこと

## 2023年度の実績

《検討内容》

- 診療録の量的・質的監査に関する運用面等の修正、実施内容の報告・フィードバック等
- 診療記録用紙申請の承認（新規・内容変更）
- 保存期間を過ぎた診療記録破棄に関連した事項
- 患者間違い発生後の対応
- 院内がん登録二次利用のオプトアウト
- 「手術前チェックリスト」の運用方法
- 死亡診断書作成方法の変更
- 診療情報開示における記載途中の記録（未完成の記録）の扱い
- 医療機関同士の情報共有および連携（HL7-FHIR）（電子カルテ・文書作成による退院時要約作成）
- RPAを使用した診療録記載
- 診療情報管理室職員不在時における他施設から持ち込まれた画像データの提供
- 言語聴覚士の食事代行入力
- 診療情報提供書の書式統一
- インスリンチャートの電子化

## 2024年度の目標

- 質的監査について、監査の準備や手順等の見直しを行い、効率化を図る
- 量的監査について、改善に結びつくようフィードバックの工夫を図る
- 電子カルテのバージョンアップを見据え、診療記録の問題点を抽出する
- 記録用紙のペーパーレス化へ向けた推進



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第4金曜日

委員会の目的：DPC 対象病院として、DPC 関連業務の適正な運営を図ると共に、診療報酬請求に伴う適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とし『適切なコーディングに関する委員会の設置』が義務付けられている。当委員会では前記の内容を達成できるよう最低年4回以上の実施を目標とし、今年度は5回の委員会を開催し、主にDPC コーディング・診療記録の質的監査（DPC 項目）について協議を行った。

## 2024年度の目標

適切なコーディングを行っていくための議論の場として活用し、質の高いコーディングに努めると共に、適切な診療報酬請求へ繋げる。また、退院患者調査における遅滞ない精度の高い提出用データの作成体制・運用等の適正化・効率化を図る。さらに2024年度診療報酬改定に伴う、DPC 制度上に関する柔軟な対応を図る。

## 2023年度の実績

《DPC 委員会の主な検討内容》

- 診療記録の質的監査（DPC 項目）の症例検討⇒計11例（DPC 請求に伴う、最も医療資源を投入した傷病名・主傷病名・副傷病名の3点に限定し、診療行為・記録等を踏まえた適正なDPC コーディングの監査）
- 適切なDPC コーディングの症例検討⇒計6例
- 部位不明・詳細不明コードの発生状況と対策
- 7日以内の再入院発生状況と対策
- 2024年度の診療報酬改定に伴う変更点・医療機関別係数の内示報告について
- 2024年度の「DPC 導入の影響評価に係る調査」の実施説明資料の変更点について
- 自院ホームページ上への「病院情報の公表」の掲示



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：2024年1月12日（金） 14：00

委員会の目的：放射線発生装置及び放射線同位元素等による放射線障害の発生を防止し、放射線業務従事者及び公衆の安全を確保すること。

1. 2023年度放射線業務従事者の教育訓練、健康診断、被ばく線量測定状況について報告。
2. 2023年度新規登録者および継続で放射線業務従事者登録するメンバーの教育訓練、健康診断の実施状況について報告。
3. 2023年度に小線源治療で使用しなかった線源（以下、余剰線源）が発生したため、日本アイソトープ協会に連絡し、譲渡手続きを行うことを報告。

## 2023年度の実績

1. 令和4年度 管理状況報告書の提出（2023年4月27日）
2. 保健所の立入り検査の実施。（2024年1月24日）
3. 2023年度に発生した余剰線源を日本アイソトープ協会へ譲渡。

## 2024年度の目標

1. 2024年度の放射線業務従事者の教育訓練、健康診断、被ばく線量測定の管理を行っていく。
2. ガンマナイフの稼動開始に向けて、特定放射性同位元素防護規程を作成する。



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3火曜日

委員会の目的：

1. 院内におけるインシデント・アクシデント事例の報告（レベル3b以上の報告）、医療訴訟になりかねない事例、警鐘事例、対応事例についての情報共有及び対応策評価
2. E-Risknによる報告体制の定着とデータ報告
3. 医療安全管理部門、病院セーフティマネジメント委員会、褥瘡委員会、輸血療法委員会、行動制限・転倒・転落対策委員会、MET、説明と同意委員会の報告や協議内容の確認
4. 医療安全地域連携加算にかかる相互評価の実施報告、職員教育研修会の開催
5. マニュアル改訂、新規作成の承認

## 2023年度の実績

1. 医療安全管理委員会の開催：12回/年実施した
  - ・ レベル3b以上の事例と警鐘事例の情報共有と対策案の検討：16件
  - ・ コードブルー事例共有：14件、MET介入事例共有
2. 委員会での協議事項
  - ・ 特定行為医療委員会の承認
  - ・ 血管穿刺後の神経損傷時の対応手順作成と承認
  - ・ 造影剤耐圧ルートの変更
  - ・ BC棟外来廊下のミラー・一時停止線の設置について検討
  - ・ 行動制限同意書に監視モニターを追加承認
  - ・ 医療安全管理マニュアルの学生がインシデントを起こした際の報告書の運用を変更し承認
  - ・ アタラックスP注射液を希釈せずに静注後、静脈炎を起こした事例が2件発生し、アタラックスP注射液の使用に関して書類作成し周知した。
  - ・ 医療安全地域連携加算の相互評価について

## 2024年度の目標

1. 事例的確な初期対応を実施
2. 情報収集方法の改善としてレベル3b以上の報告体制を整備
3. 事例への対策や委員会決定事項の速やかな実施
4. 対策実施状況の評価



# 病院セーフティマネジメント委員会

## 2023年度の取り組み

委員会の開催日時：毎月第4月曜日

委員会の目的：

1. 院内において発生したレベル 3b 以上の事例情報共有
2. 医療安全管理委員会や医療安全対策委員会等での決定事項について各所属長へ周知し実施の徹底
3. 事故等に関する診療記録や看護記録等の記載が適切に行われているか確認する
4. 所属部署への医療安全に関わる研修の企画と実施
5. 月間強化目標標語と病院セーフティニュースの作成と配布
6. セーフティラウンド評価による KYT ラウンドの実施
7. 患者及び家族や職員の意見や要望等に関する情報共有と対策の検討
8. 医療安全地域連携相互評価において、自部署の取り組み評価について報告書作成

## 2023年度の実績

1. 委員会の開催：12回 / 年実施
2. レベル 3b 以上の事例について、事例共有対策案に関する検討：16件
3. 患者クレーム対応：58件（医療安全管理室への相談事例含む）
4. 患者サポート会議から、ご意見箱内容の情報共有
5. 月間強化目標標語の作成と発行：6回 / 年
6. セーフティニュースの作成と発行：毎月
7. セーフティラウンドの実施：毎月

## 2024年度の目標

1. セーフティニュースの発行、月間強化目標標語の発行継続
2. レベル 3b 以上の事例の報告体制の強化と要因分析実施への支援と介入
3. 部署ラウンドの改善（各部署へのフィードバックと改善の評価）
4. 多職種での事例検討会を6回 / 年は実施



## 2023年度の取り組み

委員会の目的：

1. 死亡・死産全例チェックを2017年8月より実施している。また報告されたアクシデント事例や医療安全対策委員会を開催し事故調査事例になるかを検討し該当事例には以下の業務を行う
  - ①医療事故発生時の原因調査に関すること
  - ②医療事故防止の原因究明に関すること
  - ③医療事故調査報告書の作成に関すること
  - ④その他、医療事故発生の原因の改善・指導に関すること
  - ⑤医療事故再発防止のための院内対応に関すること
  - ⑥同法人他施設内での医療事故発生時の手順書の検討・協議

## 2023年度の実績

本年は、1事例に対して会議を開催した。

## 2024年度の目標

1. 医療安全対策委員会、死亡・死産全例チェック、アクシデント事例の評価の結果から委員会を開催する
2. 委員会の結果に基づき必要時は医療事故調査・支援センターに相談・報告を行う



# 医療安全対策委員会

## 2023年度の取り組み

委員会の目的：

医療事故あるいは偶発症による事例が発生した場合に、事実調査と病院としての統一見解を決定するため開催する

1. 当該事故・偶発症により患者が死亡または死亡に至る可能性がある場合
2. 当該事故・偶発症により重大もしくは不可逆的損害を与え、または与える可能性のある場合
3. 医療事故調査制度に該当する事例であるか協議する場合

## 2023年度の実績

本年は、3事例に対して会議を開催した。

## 2024年度の目標

報告・相談事例に対し、委員会規程に基づいて、速やかに委員を招集し委員会を開催する

当該事例であると判断された場合は、事実経過の整理・確認を行い円滑な議事進行と速やかな対応を行う



# 労働安全衛生委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月1回第2水曜日

委員会の目的：労働安全衛生委員会では、職場での労働者の安全と健康を確保し、快適な職場環境をつくることを目的とする。労働安全衛生に関する問題の抽出・検討を行っている。

## 2023年度の実績

2023年における委員会での主な検討・報告内容

1. 病欠状況報告  
交通事故 17 件、労災 70 件、病欠 148 件、介護休 1 件、産育休取得者 40 件、復帰者 37 件
2. 超過勤務 (30～44 h: 55 件、45～49 h: 5 件、50～59 h: 2 件) の報告と問題の検討及び対策
3. ストレスチェックの実施 (9月～10月) (受検者 816 名、受検率 83.2%)  
高ストレス対象者への医師面談実施 (5 名)、公認心理師面談実施 (4 名)  
部署別分析結果による部署長への面談実施 (12～2 月実施)
4. 職場巡視ラウンドの実施 (毎月1回 第3水曜日)
5. 職員の健康診断の実施 (年1・2回) 健診前後で委員会を開催し、協議や改善点の検討等実施
6. 職員向けに移乗動作と体操の YouTube 動画作成、配信
7. 職員の転倒防止・腰痛発生時のヒアリング調査を行い、予防策の検討
8. 日本理学療法士協会による「2023 職場における腰痛予防宣言！」において金メダル認定施設として認定

## 2024年度の目標

1. 職場での安全と健康を確保し、快適な職場環境をつくる (毎月職場巡視ラウンド実施)
2. 超過勤務削減へ向けた検討と対策を行う (月 30 時間超の職員より、状況報告書提出また面談実施)
3. 職員への危険・健康障害の防止対策の検討 (腰痛・転倒などの労働災害防止)
4. 職員の健康の保持増進対策の検討 (2 次健診対象者への受診促進)
5. ストレスチェックの実施 (9 月実施予定) 及び部署別分析結果による職場環境改善



# 褥瘡対策委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第1月曜日 16:00～

委員会の目的：リンクナースを育成し、日常的に褥瘡予防を意識したケアを実践し褥瘡発生率の低下に繋げる。

褥瘡・皮膚トラブル対策に必要な環境の整備と褥瘡回診の充実を図る。

1. 褥瘡チームラウンド（委員会開始前 15:00～）、褥瘡回診（A棟5階毎週水曜日、他病棟は適宜回診）
2. 新人研修、リンクナース・委員を対象に勉強会の実施
3. 患者移乗、体位変換時のスライディングシート活用の推進
4. 体圧分散寝具の整備と管理（エアマット、体位変換用クッション、車いすクッション等）
5. 創傷被覆材の管理
6. 特定看護師研修への協力（研修生の回診同行）
7. 褥瘡発生率、保有率、治癒率の算出
8. 褥瘡ハイリスク加算取得

## 2023年度の実績

### 褥瘡に関するデータ

	2022年	2023年
平均保有率	6.03%	4.84%
平均発生率	1.21%	1.77%
発生件数	86件	67件
持込件数	161件	113件
治癒件数	55件	30件

- ・ 年間の褥瘡発生件数、持ち込み件数は前年度より減少しているが、発生率は上昇している。また、治癒件数も減少している。治癒件数の減少については重症度の高い深い褥瘡の持ち込みが多く、なかなか治癒に至らぬまま退院となったケースも多かったことも治癒率減少の要因の一つと考えるが、発生率が上昇していることに関しては、基本的な褥瘡予防が行えていなかったということが一番の要因と思われる。スライディングシート活用促進や、年間を通して委員のメンバー、リンクナースに対しての勉強会を理学療法士、栄養士の協力を得ながら実施してきたが、今後も継続して勉強会を行っていく必要がある。それと同時にラウンド時

の病棟スタッフへの直接的な指導、アドバイスを強化していく必要がある。褥瘡だけでなく、スキンテアや失禁関連皮膚炎（IAD）等の皮膚トラブルに関しても発生状況を正確に把握し、皮膚トラブル発生減少にむけて具体的に取り組んでいく。

- ・ 褥瘡ハイリスクケア加算取得 119件  
ハイリスクケア加算取得が大幅に減少した。要因としては、ハイリスク対象条件に該当する患者が少なかったこと、病棟スタッフが該当者を見極められずに計画書記載に至っていなかった等が考えられる。ハイリスクケア加算についても、再度、病棟スタッフへの周知と理解を促すと同時にラウンドを強化していく。
- ・ 特定看護師活動については積極的に行っており、研修生の受け入れもスムーズであった。

## 2024年度の目標

- ・ 褥瘡発生率 1.0%以下
- ・ スキンテア、失禁関連皮膚炎、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）の発生状況の把握と対策強化
- ・ 褥瘡ラウンドの継続
- ・ 病棟リンクナースの育成強化
- ・ 体圧分散寝具、スライディングシートの適正使用と評価
- ・ 特定看護師活動の推進と、研修生受け入れ協力の継続



# 医療ガス安全管理委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：令和6年3月7日（木）  
15:30～16:00（年1回開催）

委員会の目的：

- 1) 医療ガス設備の安全を図り患者様の安全を確保する。
- 2) 委員会は医療施設内の各部門に医療ガスに関する知識を普及し啓発に努めること。
- 3) 医療ガス設備点検は医療ガス設備点検を年2回実施。
- 4) 医療ガスの取り扱いについては新入職者に対しての勉強会を行っている。
- 5) 委員会フォルダーの中に医療ガス取り扱い方法の動画をアップし各病棟などで活用啓発を行った。
- 6) 委員会は年1回行う

## 2024年度の目標

- 1) 医療ガス点検を年2回の定期点検に加え、簡易点検を年2回追加予定。
- 2) 教育面では、新人教育を行うとともに、オンデマンド学習や医療ガスやボンベの交換を動画で視聴。
- 3) 各部署への医療ガス取り扱いや啓発ポスターを配布。
- 4) 医療ガスの点検や取り扱いの勉強会を行い設備の安全や知識の向上に努める。

## 2023年度の実績

- 1) 医療ガス供給設備点検1年点検を令和5年3月20日～令和5年3月28日の期間で実施。  
医療ガス供給設備点検6か月点検を令和5年9月26日～令和5年10月4日の期間で実施。  
大きな破損箇所は無く、消耗品の交換のみ。
- 2) カスボンベ取り間違えの事故を受け臨時委員会開催。  
院内医療ガスボンベ保管場所を再度確認。取り間違え防止の対策実施。
- 3) 委員会フォルダーの中に医療ガス取り扱い方法の動画をアップ。
- 4) 新入職者（看護部・関連施設）への医療ガス勉強会をおこなった。



# 行動制限・転倒転落委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第1金曜日

委員会の目的：

医療事故の中で患者への影響が大きい転倒転落・行動制限において、その実態と発生要因を分析し安全で確実な医療を提供できるような環境をすること

取り組み：

1. 転倒転落ラウンド：月1回継続（第3水曜日）
2. 行動制限最小化に向けたカンファレンスの充実
3. 行動制限同意書の一部変更
4. 離床センサー類の使用方法について周知
5. 足元灯の導入
6. 小集団活動開始  
（転倒・チューブ管理・窒息誤嚥・行動制限）
7. 教育・啓発
  - 1) 新人研修（6月2日）  
身体拘束・転倒予防用具の実技まで

4. 行動制限の一時解除に向けた取り組み

一時解除率：50%を目指す

2023年1月～2024年3月までデータ

転倒転落件数 778件

Level	件数	年齢	率
Level 0	3件	30歳未満	2.8%
Level 1	258件	30～40歳未満	0.6%
Level 2	409件	40～50歳未満	2.3%
Level 3a	96件	50～60歳未満	7.5%
Level 3b	12件	60～70歳未満	15.1%
Level 4	0件	70～80歳未満	29.7%
Level 5	0件	80～90歳未満	27.8%
		90歳～	13.8%

月	率	時間帯	率
1月	5.5%	0:00～2:00	7.9%
2月	4.7%	2:00～4:00	6.8%
3月	7.3%	4:00～6:00	7.9%
4月	4.6%	6:00～8:00	9.6%
5月	5.9%	8:00～10:00	11.1%
6月	6.4%	10:00～12:00	8.8%
7月	6.4%	12:00～14:00	8.4%
8月	6.9%	14:00～16:00	8.6%
9月	7.7%	16:00～18:00	8.2%
10月	5.6%	18:00～20:00	8.0%
11月	6.4%	20:00～22:00	8.2%
12月	7.8%	22:00～24:00	7.1%
1月	7.7%		
2月	7.3%		
3月	9.3%		

## 2023年度の実績

転倒転落件数は、増加しているがレベル3bの事例は、2022年度と比較して減少出来ておりレベル4以上の発生なく経過した。発生時のカンファレンスが定着し、対策立案・実施が出来る体制作りが出来たようになった。

夜間帯で病室が暗いことで転倒した事例があり、転倒予防として足元灯の導入が出来た。

又、新たな取り組みとして小集団活動を開始する事が出来た。

## 2024年度の目標

1. 多職種チーム転倒ラウンド継続・部署へのフィードバックの継続
2. 転倒・転落のカンファレンスの充実  
転倒転落件数減少に向けたベッド環境整備の徹底・アセスメント能力の向上
3. 教育・啓発  
標語作成（1回/年）

新人研修

- （6月）事例を通して転倒転落防止対策が実践出来る事を目指す
- （8月）行動制限について研修



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第1月曜日

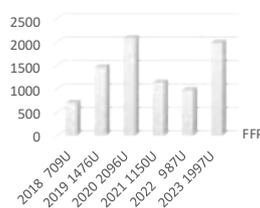
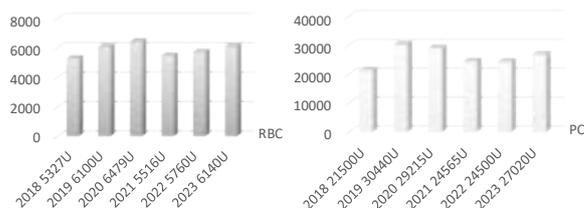
委員会の目的：

1. 輸血用血液製剤、アルブミン製剤の使用状況、廃棄事例、輸血に関する副作用、インシデントなどの報告、またそれらに係る課題の検討、先進的な取組事例の情報提供および周知
2. 適正、安全な輸血を推進するため、現状把握と指導を目的とした院内巡回（輸血ラウンド）の定期実施
3. 輸血管理料I、輸血適正使用加算（管理I用）維持
4. 輸血ラウンド結果報告周知、輸血ラウンド評価に関する検討
5. 輸血ニュース『いまむら輸血インフォ』を年4回発行し、特集記事、担当委員なども随時検討
6. I&A（輸血機能評価認定）制度認定施設更新のためのリモート受審、他施設の視察員として審査協力継続
7. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会、第70回総会、第91回例会の例会長として2023/11/25鹿児島で準備、開催（宮園医師）
8. 鹿児島県合同輸血療法委員会主体の研究、運営参加、輸血・細胞治療学会、輸血関連学会などへの発表参加
9. ヒト骨髄由来間葉系幹細胞テムセル HS 注の継続的に安全で適正に運用するための管理、検討
10. ①認定輸血検査技師、自己血輸血看護師、臨床輸血看護師、細胞治療認定管理師などの育成、②当院における輸血教育（看護学生、研修医研修、新人看護師研修、看護助手）など
11. 鹿児島県合同輸血療法委員会の代表世話人となり、県の輸血業務、輸血医療の向上のため会の運営、研究など

5. 新人看護師輸血研修実施、当院研修医、鹿中看学生に輸血教育実施、また認定輸血検査技師2人、細胞治療認定管理師2人、臨床輸血看護師1人の合格者。
6. I&A 制度審査のための視察員リーダーとして、I&A リモート視察を実施。2段階審査のため、現在も審査中である。
7. 鹿児島県合同輸血療法懇話会にて、鹿児島県合同輸血療法委員会の代表世話人となり、運営に従事。1演題口頭発表。離島のBR（ブラッド・ローテーション）研究などに当院が分担者として参加。また、鹿児島県合同輸血療法委員会の看護師部会顧問となり協力。（宮園医師）
8. 第71回日本輸血・細胞治療学会総会にて、1演題口頭発表。

## 2023年度 血液製剤使用本数

RBC-LR1U 6U RBC-LR2U 6134U 合計 6140U  
 PC-LR5U 110U PC-LR10U 26510U PC-HLA-LR10U 400U 合計 27020U  
 FFP-120U 1U FFP-240U 464U FFP-480U 1532 U  
 合計 1997U  
 自己血輸血・貯血回数 18回・15回  
 廃棄率 RBC 0% PC 0.001% FFP 0.004%



## 2023年度の実績

1. 輸血療法委員会、輸血ラウンド、『いまむら輸血インフォ』作成などを介し、院内の適正で安全な輸血医療を実施。
2. I&A（輸血機能評価認定）制度認定施設更新のためのリモート受審し、I&A 制度認定施設維持。
3. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会、第70回総会、第91回例会（2023/11/25鹿児島）の準備、開催。2演題発表し、その1演題が最優秀賞受賞。
4. 造血幹細胞移植件数多いため、県内PC血液製剤使用量も九州で上位。PCが血液製剤予約発注継続し、移植医療などもサポート。

### <総括>

COVID-19も2023/5/8には2→5類に移行され、現在では輸血管理室の入口も元に戻し、以前同様の輸血業務ができるようになった。輸血療法委員会、輸血ラウンド、『いまむら輸血インフォ』作成などを介し、院内の適正で安全な輸血医療を実施できている。

院外的には、県下でも日赤血供給実績2位を維持、県内唯一のI&A制度認定施設である当院の更新審査を、2023/1/12に受審、院内各位のご協力もあり、I&A制度認定施設を維持できた。またその準備をすることで、当院の輸血業務、輸血医療を自己評価、一部改善し、大変有意義であった。11/25 かがしま県民交流センター県民ホールにて、日本輸血・細胞治療学会九州支部会第70回総会・第91回例会を主催（例会長：宮園医師）。皆さまのご協力もあり盛況にて終了。当院、兼石知香看護師、小林果蓮看護師『適正で安全な外来輸血業務の構築について～「輸血覚え書き」を用いて～』、井上彩乃臨床検査技師「抗38抗体治療症例の当院における管理体制構築について（5年間の取り組み）」、2演題を発表。井上彩乃臨床検査技師は最優秀賞を受賞。他輸血・細胞治療学会、輸血関連学会など、演者として参加。他施設と情報共有できた。

認定輸血検査技師2人、細胞治療認定管理師2人、臨床輸血看護師1人が誕生し、今後、活躍が期待される。宮園医師が鹿児島県合同輸血療法委員会の代表世話人となり、I&A審査員と兼務し、県内外とくに離島などの輸血医療についても、向上を目指し、他施設と協議、研究に参加している。

## 2024年度の目標

2023年の取り組み（1-7.9-12）は継続しつつ、

1. 災害、緊急時の輸血医療に対し、役割分担も含め、具体的に検討
2. 新規輸血システム導入の検討
3. 移植など関連業務への継続協力し、さらなるサービスの向上（液体窒素による細胞保存管理、非血縁者間末梢血幹細胞採施設認定、CAR-Tなど新規治療に備えて施設整備など）

以上、院内では、輸血管理室（輸血部門）、輸血療法委員会委員と協力し、院外では、県合同輸血療法委員会、学会、他施設と協力し、情報を発信ができる、適正で安全な輸血医療を推進しつづける輸血施設を目指したい。



# 臨床倫理検討委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3火曜日 15:00～15:30

委員会の目的：当院で行われる医療行為が臨床倫理に則り、患者の人権及び生命の尊厳に寄与しているかを医学的妥当性と社会的妥当性から検討する

## 2024年度の目標

- 臨床倫理検討事項への対応
- 当院における DNAR の書式見直し
- 臨床倫理コンサルテーションチームの周知と積極的活動推進

## 2023年度の実績

- 医薬品の適応外使用申請対応
- 臨床倫理コンサルテーションチームメンバーによる病棟カンファレンスへの参加
- 当院における DNAR (do not attempt resuscitation) の書式検討
- アドバンス・ケア・プランニング (ACP) についての研修会実施



# 院内感染対策委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3火曜日 運営協議会后開催

委員会の目的：医療機関における安全な医療を提供できるよう医療関連感染の防止、異常発生の際にはその原因の速やかな特定、制圧、終息を図る必要がある。院内感染対策委員会において、平常時より感染対策における方針を協議・決定すると共に、院内で発生した事例を協議し方針を検討・決定している。

活動内容：

- 手指衛生サーベイランス・耐性菌サーベイランスデータの確認
- 取り組み内容の評価対応事例報告・対策検討
- 感染対策向上加算における相互評価報告及び指導強化加算における訪問報告

## 2023年度の実績

1. 感染対策向上加算における連携施設と4回/年以上の合同カンファレンスの開催
2. 感染対策向上加算における訪問指導（大勝病院・健翔会病院・いづろ今村病院・谷山病院）の実施
3. 感染防止向上加算1の医療機関（南風病院・出水総合医療センター）と相互評価の実施
4. 手指衛生啓発ポスターをICTリンクスタッフと作成し啓発活動を継続し、1日1患者あたりの手指衛生回数11回/患者日であった（前年12.9回/患者日）
5. ICTニュースをリンクスタッフと作成し、標準予防策・感染対策について啓蒙活動を実施
6. ICTリンクスタッフと共に手指衛生や個人防護具着脱について勉強会を開催（14回/年）
7. インフルエンザワクチン接種率：95.45%（前年95.38%）

## 2024年度の目標

1. 標準予防策・感染経路別予防策教育
2. 職業感染対策教育の充実
3. 感染対策向上加算における連携強化
4. サーベイランスの継続
5. 院内感染対策マニュアルの改訂



# 看護部運営委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第2・4金曜日

委員会の目的：看護部理念および本年度活動目標に基づき看護管理について審議し、管理の質向上に資する活動を実施する

- ・看護部報告（重症度、医療・看護必要度など、入院基本料維持加算に関係することなど）
- ・看護部委員会の諮問委員会の報告・提案・承認に関すること
- ・各看護単位会議からの業務改善上の報告・提案に関すること
- ・看護職員の配置に関すること
- ・看護部の運営に関する協議事項
- ・新型コロナウイルス感染症に関すること（感染対策・患者受入・発熱外来・クラスター対応など）
- ・課題解決のためのグループワーク

## 2023年度の実績

1. 看護部運営委員会のスムーズな運営と看護部方針を明確にするために、管理会を定期的開催し、審議内容を看護部運営委員会につなげ、周知を図り改善へとつなげた。
  - ①新型コロナウイルス感染症について：第5類となった事での対応見直しや事項の共有や協議決定
  - ②看護専門学校実習受け入れおよび臨床教員配置による勉強会開催
  - ③看護管理認定ファーストレベル・セカンドレベル研修報告会の開催
  - ④師長グループワーク：リフレクション・病院および看護部理念について考える・令和6年度看護部SWOT分析ワーク・師長チーム実践活動報告会の開催
  - ⑤入院セットの導入
2. 報告協議事項
  - ①看護部長より、看護配置基準・看護補助体制加算等の月次報告を行なった。平均夜勤時間は28日型で72時間以下の維持に努めた。重症度、医療・看護必要度は、基準値を達成できた。
  - ②院内クラスター発生の経験から補完体制の構築や感染対策の実施状況の確認と注意喚起
  - ③看護記録一元化の導入
  - ④セル看護方式の再充実

## 2024年度の目標

1. 看護実践能力の高い人材育成とキャリア支援
2. 急性期、回復期、在宅看護サービス向上
3. 医療と介護、介護サービス事業所内の連携強化、協体制整備による連携促進
4. 看護職の働き方改革
5. 感染症・災害への対応力強化、事業継続計画 BCP 策定の着実な整備
6. 他職種連携チームによるマネジメント、安全で質の高いサービス提供
7. 感謝の気持ちを伝えられる職場作り



# 手術室運営委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第1月曜日 17:00

委員会の目的：手術室の円滑な運営を目指し、必要な事項について報告・協議することを目的とする。

活動内容

- 手術室の運営に関して月1回の委員会を開催
- 手術件数、麻酔件数、手術室稼働率、緊急手術件数の報告
- 手術室診療科枠の協議と決定
- 手術材料に関する案内
- 手術室設備の保守、運用、更新についての検討
- 手術室増室についての案内
- インシデント報告と対策の周知（針刺し報告）

## 2023年度の実績

- 2023年手術件数 2,525 件、全身麻酔件数 1,871 件、悪性腫瘍件数 309 件、腹腔鏡手術 633 件
- 2023年度手術枠については4月委員会にて検討し承認を得た
- 委員会規程の見直しを行い大幅な変更はなし
- 麻酔科術前外来の運用変更案内
- 手術室の稼働率を考慮し、予定手術申込み期限を検討。前週水曜日 12 時締め切りとし、システム変更を情報室へ依頼
- 新型コロナウイルス感染症五類への移行に伴う対応
- 産婦人科手術枠拡大の検討。全体的に手術件数も増加傾向にあるため、現水曜日枠に2～3件を実施。金曜日に小手術を依頼する
- インシデント報告と対策：今年、医師も含め針刺し報告が多く上がった。各診療科の医師へも注意喚起を促した
- 臨床工学技士による手術室機器管理の実施について承認を得た
- 手術室映像システムの劣化、手術室照明の材料不足における今後の対応についての検討
- 手術室新人看護師教育の進捗状況報告および指導協力依頼→指導により看護師が不足する場合は器械だしを医師へ依頼することあり。また、勉強会開催依頼
- ホギメディカルによるデータの手術室原価収支報告
- 手術室増室の進捗報告

## 2024年度の目標

1. 手術総件数 2,400 件実施
2. オペラマスターを活用した原価管理、利益率を考慮した材料の提案、器材の運用を行い生産性のある手術室運営へと繋げる。
3. 手術室稼働率向上を目指し、効果的な手術室の活用。
4. CSC の業務改善を行い安全な器材の提供を行う
5. 総務課用度係および臨床工学部と協働し、材料、機器、器材の適正使用を行う



# 業務フロー委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3木曜 16:00～16:30

委員会の目的：医療は日々高度化・複雑化し、あるいは多職種の専門職によるチーム医療のある救急・総合病院においては、この複雑化した業務プロセスを分解・可視化し、そして図式化し、関わるスタッフの明確な役割分担を定義することで、医療における各業務の確実性・効率性・普遍性を担保し、ひいては安全性を高めることが、業務フロー作成の目的としている。

## 2023年度の実績

### ◎中級編講習への取り組み

毎年初級編を実施する上で、その後の経過や浸透を測る機会がなく、今回業務フロー図中級編の実施を企画した。各委員に初級講習受講者の部署の業務フローを制作させ、最初のフローと委員介入後のフローと比較し、どの点に改良が必要で、審査ではどのように評価し、統一の業務フローが完成できるのか可視化する事に年間を通して取り組んだ。

### ◎フロー図システムの構築

業務フローはEXCELでの制作が主だが、初心者などどのように制作するのか、あるいは、共通のフローチャートを作成しているが、統一ルールから逸脱した制作のものがあった。そこで、EXCELVBAで制作から管理や審査まで一元化できるよう組み込み、今年度よりデモプレイを終え、新規制作者より利用していただいで開始している。

### ◎浸透するための広報

院内限定のホームページを製作。より職員がフロー図作成を身近に感じてもらうため、ホームページには委員会の取り組みの歴史や中級編などに参加した方がどのようなフロー図を作成しているのか閲覧できる仕組みとした。また、作成を随時サポートできるようフロー図作成の仕方や問い合わせ機能を充実させ、広報だけでなく、連絡ツールとしても活用可能とした。

## 業務全般についての総括

### ◎年次進捗

- 2023.04 委員会メンバー編成
- 2023.05 フロー審査開始
- 2023.07 HP更新作業 / 職員配信
- 2023.08 業務フロー初級編開催 (A棟大会議室)
- 2023.09 中級編作業 委員作成補助
- 2023.10 中級編参加者フロー制作
- 2023.11 業務フロー発表会 (リアル)
- 2024.01 次年度計画と委員会業務見直し
- 2024.02 今年度の活動の見直し
- 2024.03 HP更新作業

## 2024年度の目標

1. 慈愛会学会でのポスター発表
2. 業務フロー図のさらなる浸透
3. ホームページの活用、広報
4. フロー図作成発表会の開催・中級編の充実



# 電子カルテ委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3週月曜日 16時

委員会の目的：院内における電子カルテ利用についての  
取り決めや運用方法の変更等を協議

## 2023年度の実績

- 電子カルテ端末とメール使用端末の分離（セキュリティリスクへの対応）
- 処方箋用紙サイズの変更（用紙削減によるコスト低減）
- 検査結果用紙サイズの変更（用紙削減によるコスト低減）
- 予約票の用紙サイズの変更（内容の見直しおよび外来でA5用紙を廃止することによるコスト削減）
- 透析センター電子カルテ対応

## 2024年度の目標

- 新システムに向けて各部署要望事項の整理
- 新システムでの必要端末の把握
- 患者カルテ画面の見直し
- いづろ今村病院電子カルテ委員会との連携
- DX推進会議との連携による業務改善（スキャン業務の効率化など）



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第4月曜日（祝日の場合には前後の週で調整）

委員会の目的

- ①臨床試用医薬品の審議
- ②新規採用品目、後発医薬品への切替、削除医薬品等について協議
- ③発売中止や流通遅延の対応検討
- ④添付文書改訂や疑義照会集計の報告
- ⑤その他報告事項等

## 2023年度の実績

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

- ・ 臨床試用医薬品・・・36品目承認
- ・ 新規採用医薬品・・・25品目承認
- ・ 後発医薬品への切替・・・7品目承認
- ・ 削除医薬品・・・40品目承認
- ・ 院外処方申請状況・・・50品目
- ・ 報告事項  
医薬品安全性情報、医薬品の適正使用情報、院内副作用発生状況、出荷制限・出荷調整への対応、医薬品名称変更対応

## 2024年度の目標

- ・ 月1回の定例開催継続。
- ・ 医薬品の適正管理のため、採用品目数の増加を最小限に抑える。
- ・ 使用頻度の少ない医薬品や同系統医薬品の採用を制限する。
- ・ 医薬品供給問題が慢性化している。診療に影響を及ぼさないような採用選定を行っていく。
- ・ 後発医薬品使用体制加算1の施設基準（数量ベースで90%以上）を満たすため、新規後発医薬品発売時の早期切替と使用推進を行う。
- ・ 医薬品の適正使用に向け、「医薬品安全&適正情報」等の情報を積極的に提供する。



# クリニカルパス委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：第2月曜日 15:00～15:30

委員会の目的：標準化されたクリニカルパスを運用し、  
医療の質の保証と患者の安全の確保

## 2023年度の実績

- 7回 委員会開催
- クリニカルパスの使用状況及び評価
- クリニカルパスの修正・承認作業  
消化器外科パス…術前グリセリン浣腸中止のため処方  
削除  
大腸切除術、幽門側胃切除術、胃全  
摘術・噴門側切除術、乳房全摘術、  
胃切除術  
甲状腺全摘・亜全摘術、甲状腺部分  
切除術 日数変更 13日間から6日  
間へ変更
- クリニカルパス委員に対して、クリニカルパスの勉強  
会開催
- 学会参加  
第25回日本医療マネジメント学会学術総会  
クリティカルパス展示 A6西病棟「患者へ統一した  
看護を提供するための取り組み」

## 2024年度の目標

- クリニカルパス新規パス作成
- クリニカルパスの勉強会
- クリニカルパスの見直し
- クリニカルパスマニュアルの見直し
- 学会参加



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：第4火曜 14:30～

委員会の目的：

- 最適な栄養管理が実施されるよう栄養管理体制の充実に努める
- 適切な栄養管理により治療効果を高め、在院日数短縮・医療費削減を図る
- 栄養関連情報の提供

## 2024年度の目標

- NST 活動の推進
- NST 専任スタッフの増員(NST 研修修了者、特定看護師)
- GLIM 基準周知
- NST 栄養管理手順の改訂

## 2023年度の実績

- NST 回診 (1 回 / 週) ; NST 介入 735 件、NST 加算算定 214 件
- 入院時栄養スクリーニングを用いた低栄養患者の抽出、早期介入
- 絶食患者の把握と適時介入
- 入院中の栄養剤選択に関して、医師へ食品と医薬品との比較資料配付
- トロミ茶攪拌用泡立て器の病棟配付
- ゼリー食の安全な食事介助方法について、病棟スタッフへ資料配付
- 栄養補助食品の検討；試食会実施、栄養補助ゼリーの変更
- 嚥下調整食にかかるコストの検討と周知



# 地域医療連携委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第2火曜日

委員会の目的：

- ①域の関係医療機関との連携強化
- ②法人内連携の推進
- ③地域活動の取り組み

## 2024年度の目標

- 1) 関係機関への訪問活動の実施
- 2) 地域医療連携セミナーの実施
- 3) 地域住民への医療・福祉情報の啓蒙活動の実施
- 4) 連携協定を実施している垂水市・鴨池校区との、健康意識向上に資する取り組みの企画・実施

## 2023年度の実績

- 1) 訪問活動：61件/年  
鹿児島市内および大隅（垂水・鹿屋）、北薩（薩摩川内・甕島）・離島（奄美）を訪問。
- 2) 総合相談支援センター直通ダイヤルの広報：電話番号・FAX番号が記載されているマグネットを作成。  
病院訪問等でお配りした。
- 3) 関係医療機関向け広報誌『じあいんふお』の配布：2ヶ月に1回の配布/約700部
- 4) 鴨池校区コミュニティ協議会との連携：秋祭りの実施・走り初め大会への救護協力。  
1回/月のコミュニティ協議会会議への参加



# 病床管理委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第4火曜 17:00～17:30

委員会の目的：病棟・救急・集中治療に関する病床運営の円滑化や経営課題を協議し、効率的な運用へ改善や検討を行う。

## 2024年度の目標

1. 効率的な病床運営
2. 午前退院率（目標設定 80%以上）
3. DPC 入院期間 I 及び II 退院率 65% を目標

## 2023年度の実績

1. 病床運営の関わる指数の抽出と共有
  - ・ 病床利用率、平均在院日数、診療科別患者数、入院・退院曜日別平均人数、DPC 入院期間等
2. 総合医局での病床運営に関する指標のサイネージ化
  - ・ 病床利用率をリアルタイムに可視化するサイネージを設置し、運営開始。
3. 病床運営の可視化
  - ・ 電子カルテで患者ごとの DPC 入院期間が閲覧可能となった。

各月経営指標	2023 目標値	23/04	23/05	23/06	23/07	23/08	23/09	23/10	23/11	23/12	24/01	24/02	24/03	【表内のシグナルについて】
病床利用率 延入院患者数/延許可病床数	85%	↓ 74.1%	↓ 76.7%	↓ 84.1%	↓ 81.3%	↑ 85.1%	↓ 83.6%	↓ 78.9%	↓ 80.2%	↓ 83.7%	↓ 82.6%	↓ 82.9%	↓ 84.2%	▲...目標達成 ●...目標値同値 ▼...目標未達
病床回転率 当月日数/平均在院日数	2.1回転	→ 2.1回転	→ 2.1回転	→ 2.0回転	→ 2.1回転	→ 2.2回転	→ 2.1回転	→ 2.2回転	→ 1.9回転	→ 2.1回転	→ 1.9回転	→ 2.0回転	→ 2.0回転	
新入院患者数 1日当目標患者数23人(7日)	702人	↓ 596人	↓ 616人	↓ 639人	↓ 622人	↓ 674人	↓ 616人	↓ 632人	↓ 625人	↓ 608人	↓ 626人	↓ 616人	↓ 635人	
平均在院日数 患者1人当の在院日数(急性期病床)	15日以内	↑ 14.5日	↑ 14.5日	↓ 15.1日	→ 15.0日	↑ 14.2日	↑ 14.0日	↑ 14.1日	↓ 15.4日	→ 15.0日	↓ 16.2日	↑ 14.6日	↓ 15.8日	
在宅復帰率 急性期入院料基準80%以上	80%	↑ 90%	↑ 92%	↑ 89%	↑ 91%	↑ 91%	↑ 91%	↑ 92%	↑ 93%	↑ 94%	↑ 92%	↑ 93%	↑ 94%	
重症度・医療看護必要度 II ※2022年度より目標値変更。 解説、右下記。	28%	↑ 31%	↓ 26.7%	↑ 28.6%	↑ 29.8%	↑ 29.7%	↓ 26.8%	↑ 31.2%	↑ 29.3%	↑ 30.6%	↑ 31.6%	↑ 32.7%	↑ 31.4%	
入院支援加算 I 取得率 A/(全退院患者数・精神退院患者数)	30%	↑ 32.5%	↑ 30.7%	↑ 36.1%	↑ 32.8%	↑ 31.2%	↓ 28.4%	↑ 35.6%	↑ 33.6%	↑ 32.6%	↑ 33.5%	↓ 29.5%	↓ 29.9%	
入院支援加算 I 算定数(A)		182人	176人	212人	192人	193人	180人	212人	184人	214人	174人	171人	181人	A...入院早期より退院困難な患者を有する患者を抽出し、退院・在宅復帰に向けて支援することを目指したものを評価したもの
入院支援加算 I 算定数(B)		7人	7人	13人	16人	19人	12人	26人	19人	20人	14人	20人	23人	B...入院前から在宅復帰に向けた取り組みを評価
午前退院率 午前退院を促進、病床回転の効率化	80%	↑ 82%	→ 80%	→ 80%	↑ 84%	→ 80%	↓ 79%	↓ 79%	↓ 78%	↓ 79%	↓ 78%	↓ 78%	↑ 83%	
総退院患者数		597人	605人	620人	617人	660人	662人	628人	582人	687人	563人	619人	645人	※重症度・医療看護必要度 I...31%、II...28% 【総合入院体加算3】 I...30%、II...27% 【総合入院体加算1及び2】 I...33%、II...30%
午前		490人	486人	493人	517人	530人	520人	497人	452人	542人	437人	480人	533人	
午後		107人	119人	127人	100人	130人	142人	131人	130人	145人	126人	139人	112人	
DPC	入院期間 II 以内退院	65%	↓ 59%	↓ 56%	↓ 53%	↓ 51%	↓ 54%	↓ 56%	↓ 59%	↓ 57%	↓ 57%	↓ 54%	↓ 56%	↓ 57%
	入院期間-I	13%	12%	12%	12%	15%	14%	11%	12%	13%	16%	15%	14%	
	入院期間-II	46%	45%	41%	39%	40%	42%	47%	46%	44%	38%	41%	43%	
	入院期間-II 越退院	35%	↓ 41%	↓ 44%	↓ 48%	↓ 50%	↓ 46%	↓ 44%	↓ 42%	↓ 43%	↓ 43%	↓ 46%	↓ 44%	↓ 43%
	入院期間-III	36%	37%	37%	39%	32%	32%	31%	36%	36%	35%	36%	37%	
入院期間-III 超	2%	3%	4%	5%	3%	2%	4%	3%	3%	3%	5%	2%	3%	
出来高	2%	4%	7%	5%	11%	10%	6%	4%	4%	6%	6%	6%	3%	【全グラフの見方】 ■...当日 ▲...表示年間の最大値 ▼...表示年間の最小値



# 緩和ケア委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：第4火曜日 15:30～16:00

委員会の目的：緩和ケア委員会は、がん治療の初期段階から治療の一環として緩和ケアが行われることを目的とし、緩和ケア委員会のなかに、がん緩和ケアチームを設置。院内スタッフに対して、がん緩和ケアに関する知識と技術の普及を図り、さらには地域医療におけるがん診療連携の推進等も果たしていく。

1. 緩和ケアチーム活動の報告
2. 緩和ケアチーム診療の定着に向けた部署への周知活動
3. がんサロン開催の検討
4. 院内研修会開催に向けた検討、実施
5. 患者症例の共有
6. がん相談部門の活動報告

## 2023年度の実績

1. 定例会議を毎月第4火曜日開催した。
2. 緩和ケアチーム診療の定着（ラウンド及びカンファレンス、患者相談対応）
3. がんサロン再開へ向けた検討と実施  
2024年2月2日（金）14時～15時、語り合いを図書室にて開催。参加者2名。
4. 院内外の研修参加の向上  
2024年1月16日（火）18時～19時「援助的コミュニケーション」的場康德先生による研修会開催  
目的：患者の意思決定を支えるための「援助的コミュニケーション」について学ぶ ①ACPの概要が理解できる②傾聴の意味が理解できる③援助的コミュニケーションの原理が理解できる
5. 患者症例の共有、2症例の報告、緩和ケア通信の発行（2回）
6. 緩和ケアマニュアルの改訂が行われた
7. 対話支援システムの活用について周知と活用には至らなかった

## 2024年度の目標

1. 緩和ケアチーム活動の推進
2. がんサロンの定期開催
3. 院内外の研修開催、参加の推進
4. 患者症例の共有
5. 緩和ケア通信発行
6. 対話支援システムの周知と導入推進
7. 緩和ケアマニュアルの運用



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3水曜日

委員会の目的：医療・サービスの質の継続的な向上を図ることを目的として、委員会を開催。

1. 展示物の管理（エレベーター内も含む）
2. オンライン上での第18回TQM活動発表会（11月）
3. 各種協議事項の検討を行っている。

## 2023年度の実績

- ・ 第18回TQM活動発表会（11月1日～11月15日）  
今年も新型コロナウイルス感染症の影響を危惧して今村総合病院のTQM活動発表会はYouTube上で開催した。発表形式がオンラインに変わってから3度目のTQM活動発表会となったが、15演題と多くの参加があった。年々発表者の表現スキルが上がっており、投票結果はかなりの激戦であった。  
発表期間は2週間で、参加者は前回の1.3倍近く（約430人）である。  
大会議室での開催と比較して閲覧する時間に縛られないため、より多くの参加者を集められるといったメリットもあった。同時に集計したアンケートで参加者・参加部署の把握もできた。  
閲覧参加者の不満点としては家庭でWi-Fi環境がないために見ることができない点が第一に挙げられた。  
今後の改善点としては部署・職種によって参加にかなりのばらつきがみられたことである。

## 2024年度の目標

2024年度も第19回TQM活動発表会を行う予定であり、これにより患者様に良い医療が提供でき各部署がお互いの部署を理解しあい、更にいい職場になり毎日仕事をするのが楽しくなればよいと考える。

前回（第18回）の大会の反省点を修正し、より良いTQM活動を行っていけるようにする。

院内のTQM活動にQCツールを使った発表と動画がうまく組み合わせられた発表が可能になるとよい。

2024年はTQM活動発表会の参加者（発表・閲覧）のばらつきをなくすことが一番の目標である。

コロナ禍でのTQM活動発表会（YouTubeを使った発表）はこれから発表のスタンダードの1つになると考えられる。そのためにも今村総合病院内のWi-Fi環境を充実させることが大切だと思われる。

各部署での要望があった院内のネットワーク（Wi-Fi）環境の整備、ユニフォームの採用について、検討を進める。

今村総合病院のスタッフが働きやすく働いていることに誇りが持てるようなTQM活動を行っていききたい。



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：2024 3/28 15:00～16:00

委員会の目的：様々な省エネを委員会通して院内に広めることでコスト削減に貢献し無駄な支出を抑える

- ・ 光熱費年間実績報告
- ・ 院内空調温度設定制限
- ・ A、B 棟冷温水発生機運転制限
- ・ 新スポーツ整形空調更新
- ・ 厨房空調更新
- ・ 情報室空調更新
- ・ C 棟 6F 空調更新
- ・ A1F GHP フィルター洗浄

## 2024年度の目標

- ・ エネルギー消費源単位年平均 1%以上低減する。(継続)
- ・ ガンマナイフ棟建設に伴い新たな省エネ機器等導入。  
(例：ガンマナイフ棟屋上の空きスペースを使い風力発電、ソーラー電池を利用し一部の電力を賄う等。)
- ・ 引き続き院内空調設定の上限下限を制限及び、消し忘れシステム、デマンド監視装置の利用、冷温水発生機の運転制限、院内照明 LED 化等。

## 2023年度の実績

		前年度比
電気使用料金	116,666,730 円	-5,039,890 円
電気使用量	5,940,027kwh	-114,988kwh
デマンド平均	1,142kw	1,162kw
ガス使用料金	41,238,267 円	-2,220,592 円
ガス使用量	344,983m <sup>3</sup>	-22,409m <sup>3</sup>

(2023 年度 3 月時点見込み)



# 物品管理（SPD）委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第3火曜：15：00～16：00

委員会の目的：診療材料の購入に関すること、コスト削減提案に関すること。SPD業務の円滑な運用促進と感染・安全対策品の採用等について審議を行うこと。

### 【活動内容】

- ・感染と安全対応
- ・コスト削減
- ・在庫品の確認
- ・商品情報の迅速な伝達

## 2023年度の実績

### 【材料変更】

#### [ 新採用 ]

麻酔用バック

#### [ 切替・価格減 ]

血流促進用ハイソックス、エコプローブカバー、呼吸器回路フィルター、ディスポタオル、麻酔回路、フォーリートレイキット、排液吸引処理容器、潤滑用オイルスプレー、プラスチック手袋、スパイスコープ、ソファソープ、ニトリルグローブ、滅菌ドレープ丸穴テープ付、穴あきシート、アイソレーションガウン、手洗い石ケン、ダイアライザー、ブラッドアクセスカテーテル、メイヨースタンドカバー、蘇生バック、肩用手術材料・レンタル料、セフィオフローエックステンションチューブ、ディスポキャップ、吸引用カテーテル、自己注射用ペン型注入器用注射針

#### [ 価格変動・他 ] (値上げ商品)

腎盂カテーテル、生検針、腹腔鏡下組織回収バック、イレウスチューブ、洗浄剤、パルスオキシメーター、Amika ポンプ用栄養セット、固定帯、伸縮包帯、伸縮ネット、綿球、ペッサリー、シート類、抑制用ミトン、マイクロシート、外科用ドレッシング、延長チューブ、栄養剤、ダイアライザー、絆創膏、ブランケット、拘束衣、精密尿量計、舌圧子、シューズカバー、EN シリンジ、ヨードホルムガーゼ、除菌用ウェットタオル、うがい用紙コップ、パーキュフレックスステント、滅菌インジケータ、紙コップ、

滅菌用テストパック、内視鏡用鉗子栓、床汚染拡散防止シート、サジタル鋸刃、ガイドワイヤー、ポール針、洗浄ブラシ、エコーゼリー、静脈留置針、マイダレックスドリルバー、カテーテルアクセス用翼付注射針、翼状針、注射針、ネラトンカテーテル、吸引カテーテル・栄養カテーテル、マウスピース、止血器

#### [ 不採用 ]

オイフ関連商品、清拭クロス、手術用手袋

#### [ その他 ]

テルモ シュアプラグ CL 延長チューブ Y 型 IR-EK53011A 耐圧不足の為、変更 → IH-ER43311D

## 2024年度の目標

- ・SPDの円滑な運用
- ・感染・安全とコストのバランス
- ・VHJ 推奨品採用等によるコスト削減
- ・現場要望への迅速な対応



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第三水曜日

委員会の目的：清掃委員会では、病棟師長と清掃委託業者間の連携を強め、病院清掃に関する問題の早期解決を行い清潔で快適な職場環境を目指すことを目的としている

## 2023年度の実績

- 毎月1回感染管理室、施設課、清掃委託業者を交え各病棟ラウンド実施。
- A棟8階無菌病棟にて、3ヶ月毎に清浄度測定を実施。
- 原則として年3回（5月・9月・1月 第3水曜日）清掃会議を開催し、清掃に関する問題把握・改善を行っている。
- 清掃委託業者への感染症対策講習会の実施。

## 2024年度の目標

- 定期的なラウンド（毎月）、委員会を通し清掃業務のさらなる質の向上に努める。
- 清掃委託業者、施設課、感染管理室、病棟間の連携の強化。
- 院内清掃、感染物回収時に、細心の注意を払い、作業に努める。



## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第4木曜日 15:00～15:30

委員会の目的：広報室の活動内容をメンバーや関係者に共有し、組織内のコミュニケーションを図る。また、各部署からの活動内容・周知事項などを共有することで広報活動を円滑におこなう。

### < 広報委員会 >

- ・ ホームページの運営、管理（各部署でページを担当）
- ・ 広報誌「じあいのとびら」発行
- ・ 慈愛会 Facebook への情報提供
- ・ SNS 運用（記事確認）及び新規開設承認

### < 広報室 >

- ・ ホームページ新規・リニューアル、お知らせの更新
- ・ デジタルサイネージのコンテンツ放映・管理（入退院支援室・総合受付の2台）
- ・ 広報誌各種発行（じあいんふお定期 + 臨時発行対応）
- ・ リクルート広報の強化（リクルートページの新規公開、公共掲示板の利用など）
- ・ 印刷物、ホームページ編集など内製化による弾力の運用と経費節減
- ・ 年報制作（病院年報・法人年報）、編纂期間の変更実施
- ・ クラウドファンディング検討・準備

## 2023年度の実績

### < 広報委員会 >

- ・ 毎月のホームページ更新（24 診療科・12 部門）
- ・ 広報誌「じあいのとびら」4 回発行（春夏秋冬号）
- ・ 動画制作（慈愛会学術集会放映用、院長インタビュー動画）
- ・ SNS 各部署報告

	開設日	フォロワー数	投稿数 (2023年度)	採用応募数 (受験者数)
レディース病棟	2020年7月	360人	25	
リハ部	2022年7月	510人 (前年より260人増)	91	33人 (前年度18人)
薬剤部	2024年2月	106人	9	

### < 広報室 >

	活動内容
ホームページ/ デジタルサイネージ	感染症内科・リウマチ内科・回復期病棟・精神科病棟・採用情報ページ、トモセラピーの新規ページ、採用バナー制作（看護部・研修医）、アクセス数の分析・報告（毎月）、慈愛会垂水サテライトクリニック新規開設、デジタルサイネージ投稿4回
制作物	病院広報誌「じあいのとびら」、医療機関向け広報誌「じあいんふお」、年報（病院・慈愛会）、入院案内（制作中）、病院案内/パンフレット、院内広報誌「ウィークリー経戦・マンズリー経戦」、急性期合同広報誌（いづる今村・今村総合）、チーム医療パネル、リーフレット（小線源・トモセラピー）、広報専用封筒、病院のぼり、ポスター各種（選定療養費・看護部求人・がん相談ほのぼの・職員介護相談窓口）、健康まつり用パネルなど 【ノベルティ】ボールペン、地域連携マグネット
イベント	モニター会議、かもいけ健康まつり、地域連携のつどい、救急カンファレンス
メディア	法人広報誌「Professional」、リビングかごしま「医療ホットライン」4回掲載（内科・脳神経内科・泌尿器科・消化器外科）、求人広告掲載「リビングかごしま・南日本新聞・公共掲示板」
包括連携協定	【垂水市】広報誌「TARUMIZU」(7月/11月/3月コラム掲載)、講演会報告(6月/11月/3月実施) 【鴨池校区】鴨池校区広報誌「LLかもいけ」毎月寄稿、かもなかまつり撮影

※ホームページアクセス推移グラフ掲載（別紙）

## 2024年度の目標

### < 広報委員会 >

- ・ 各部署ホームページ更新頻度の向上
- ・ 各部署の広報充実（情報共有の強化）

### < 広報室 >

- ・ SNS を使った認知度向上
- ・ 既存印刷物の内製化（年報・入院案内・初期臨床研修案内・転倒予防など）
- ・ ホームページリニューアル（看護部・総合相談支援など）
- ・ 院内広報の強化



# 災害対策委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：第3月曜日 14時

委員会の目的：大規模災害時に備え、事業継続計画（BCP：Business Continuity Plan）の整備と訓練を企画し実施する。

## 2023年度の実績

- BCP 訓練の実施（2024年1月、3月）
- BCP 訓練後の BCP 計画とアクションカードの見直し
- 災害対策マニュアルの見直し
- 災害時における必要書類等の更新

## 2024年度の目標

- BCP 訓練の実施
- 地域住民との BCP 訓練の企画と実施
- 大規模災害発生時の対応マニュアル（Jmat 派遣等含む）の作成
- 災害派遣医療チーム（DMAT）の組成



# 施設基準チームアプローチ検討委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：第4月曜 15:30～16:00

委員会の目的：

- ・新施設基準取得の検討・協議、既存施設基準の確認と算定向上の為の施策検討
- ・診療報酬改定の対応

## 2023年度の実績

- ・年度内に新規届出を行った施設基準  
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出  
(算定開始 2023年7月)  
貯血式自己血輸血管理体制加算  
(算定開始 2023年12月)  
内視鏡的小腸ポリープ切除術  
(算定開始 2024年1月)  
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)  
(算定開始 2024年1月)  
BRCA1/2 遺伝子検査  
(算定開始 2024年2月)
- ・区分変更を行った施設基準  
認知症ケア加算2(2023年4月)  
認知症ケア加算1(2023年5月)
- ・再届出を行った施設基準  
新型コロナウイルス感染症に係る入院料に係る簡易な報告の終了に伴い、下記の施設基準の再度届け出た。  
療養環境加算・重症者等療養環境特別加算・特別の療養環境の提供の実施報告書(2023年11月)

## 2024年度の目標

- ・2024年度診療報酬改定への対応  
施設基準変更への対応  
新規施設基準取得に関する検討
- ・総合入院体制加算2取得に向けた実績要件の基準を満たすための取り組み
- ・既存施設基準の算定状況確認と算定向上の為の部署ヒアリング



# 運営費管理委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：必要時開催（6月、8月、10月、3月開催）

委員会の目的：運営費の適正水準へのコストコントロールを目的に、病院運営費の適正化に向けての必要物品の整理・統一化や現場におけるコスト削減対策の検討を行う。

## 2024年度の目標

- 各部署との運営費適正化に向けた意見交換と対策検討
- 診療部との運営費適正化に向けた意見交換と対策検討
- 各種契約の見直し
- 各部署との業務改善の検討
- ペーパーレス化への取り組み検討
- 決裁方法の簡略化検討

## 2023年度の実績

### ①各部署との協議

- i) 診療部：泌尿器科、脳神経内科
- ii) 事務部：施設課、情報室、総務課

### ②コスト削減等の実績

- オハナビルの駐車場の活用方法検討によるコスト削減
- 統合セットの見直し
- インクジェットプリンターへの変更によるコスト削減
- エレベーターの運用方法検討（間引き運転）によるコスト削減
- 水道料や電気保安協会への支払いを月払いへ変更し、支払い標準化を図った
- 院内のパンフレット等の内製化によるコスト削減



# 口腔ケア委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第2木曜日 14時～14時30分

委員会の目的：口腔ケアの啓蒙活動や看護師の口腔ケアの技術向上をはかり、もっと患者様の病気の回復や健康増進に寄与すること

※委員会の活動内容、協議事項：

歯科医師、歯科衛生士、看護師、言語聴覚士の多職種からなる口腔ケアチームを編成して口腔ケアラウンドを行い、病棟看護師へ口腔ケアのアドバイスを行う。また、口腔ケアラウンドであがった口腔トラブルや口腔ケアの問題点を抽出・分析し、毎月行われる口腔ケア委員会の場で各病棟のリンクナースにフィードバックを行う。

## 2023年度の実績

毎週木曜日、口腔ケアチームによる口腔ケアラウンドを行った。

口腔ケアラウンドにて、担当看護師へ口腔ケアの実技指導を行った。

年2回、口腔ケア担当リンクナースに対して勉強会を行った。

看護師が口腔内の評価の参考にいただけるよう、口腔ケアチェックリストを作成した。

## 2024年度の目標

口腔ケアラウンドの対象患者数を増やす。

口腔ケア委員会のリンクナースの出席率を高める。

口腔ケアラウンドであがった問題点の分析力を高め、看護師へより質の高いフィードバックを行う。

口腔ケアマイスター（口腔ケア院内認定看護師）制度を確立させ、口腔ケアに熟達した看護師を育成する。

口腔ケアラウンドの周知と病棟との連携をはかる。

患者様の口腔内状態を把握し、適切な口腔評価を行い、ラウンド介入へとつなげることができるようにする。

リンクナースが各部署のスタッフへ口腔ケアの指導ができるようにする。



# 臨床研修管理委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：年4回以上の開催

委員会の目的：基幹型臨床研修施設として、初期臨床研修医の育成にあたり必要な内容を協議する。

## 2023年度の実績

1. 研修医入職時オリエンテーションの実施
2. 研修医の採用や研修修了判定に関すること  
3月に研修修了判定会議、8月に3回採用面接を実施。  
募集定員10名に対し10名マッチング
3. 研修プログラムの作成及び研修状況の確認（EPOC2）  
等、全体管理の実施
4. 初期臨床研修病院に係る年次報告
5. 研修医に係る補助金の申請
6. 研修医勉強会の計画及び実施
7. 基本的臨床能力評価試験の実施
8. 研修医へのヒアリング実施
9. プログラム案内冊子、ホームページの見直し
10. 鹿児島県臨床研修協議会が主催するオンライン説明会への参加（2月、6月、10月）
11. 鹿児島県臨床研修協議会事務担当者会議の参加
12. 医師の働き方改革に伴う研修内容の見直し
13. 鹿児島県臨床研修医合同研修会（10月14日、1月27日）
14. 臨床研修病院合同説明会（鶴陵）（7月7日、1月11日）
15. 初期研修プログラム合同説明会 eレジフェア オンライン2023
16. マイナビ RESIDENTFESTIVAL 福岡（3月3日）

## 2024年度の目標

1. 臨床研修制度への十分な対応
2. 研修の到達目標・満足度を高めるため研修プログラムの検証の実施
3. 募集定員のフルマッチに向けた病院合同説明会への参加
4. 研修医の質向上を目的とした研修医勉強会の実施



# 職員教育研修委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：2023年4月27日、12月21日

委員会の目的：病院機能評価などの施設基準に準じた必須研修の開催や医療従事者に向けた情報共有

—主な協議事項や課題—

- ・院内での動画視聴環境（Wi-Fi、端末）
- ・ウェブ研修の告知や案内について（現在はポスター QRコード、院内メール）
- ・必須研修の就業時間内での受講環境について検討
- ・職員教育研修で扱う定例の全体必須研修の可視化や選別について
- ・学研の活用について
- ・委員会運営について（委員長やメンバーの選別や任期など）

## 2023年度の実績

※年5回の職員教育研修会を実施

- 1.『医薬品・医療機器・診療放射線の安全管理』
2. 診療報酬研修会
- 3.『感染管理・医療安全①』
- 4.『倫理研修会』
- 5.『感染管理・医療安全②』

## 2024年度の目標

1. 院内での動画視聴ができる web 環境整備
  - ・院内での WI-FI 利用できる環境や WEB 研修などを行うための共有スペースの確保。
2. 研修スケジュール案内や告知、研修へのアクセスなどを含めた情報共有の IT 化
  - ・ファイル共有や共同編集、データ収集、会議、メール、カレンダー、イベント共有など
3. 必須研修の企画・運営について
  - ・WEB 上で行う研修システムをベースに研修委員会での年間スケジュールの決定、各委員会での企画・運営という役割分担を明確化するとともに、以下の3つを推進予定。
    - ①年間スケジュールの選定や可視化
    - ②勤務時間内での研修実施環境
    - ③受講状況の確認（職員証 ID での受講証明、受講履歴などの閲覧・記録）



# 看護師特定行為研修管理委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：2023年8月30日 2024年3月1日

委員会の目的：看護師特定行為研修管理委員会では、看護師特定行為研修の円滑な研修が運営されるよう、研修カリキュラムの決定、研修生の履修状況・評価及び修了認定などを検討及び決定する目的で2回/年実施している。

## 2023年度の実績

8月30日：標準コース16名の共通科目修了判定（履修状況及び評価）

免除コース7名の区分別科目修了判定（症例取得状況及び評価）

2024年度新規開講区分及び領域パッケージ、独自コースの開講に向けて

2023年度後期のスケジュールについて

3月1日：標準コース16名の区分別科目修了判定（症例取得状況及び評価）

2024年度 e-learning 学習及び実習スケジュールについて

報告事項：2023年度修了式、2024年度開講式について

2024年度 受講者について

## 2024年度の目標

1. 研修内容（区分・パッケージ・コース）の計画的な研修の運営
  - 各区分別の実習要項をもとに指導者と協力し計画的に進めていく
2. 研修生にとって充実した研修の実施
  - 研修生の個々の状況の把握と区分別科目における症例取得の充実化及びフィードバックによる知識・技術の定着化を図る
3. 特定行為研修修了者フォローアップ研修の開催（2回/年）開催の実施及び修了者への活動支援
  - フォローアップ研修参加後のアンケートをもとに充実した研修内容の検討を行う
  - フォローアップ研修での特定行為実践の報告や研修指導者として活動してもらう
4. 特定看護師支援事業の取り組みの充実化を図ることができる
  - 3年以上の経験を有する看護師の e-learning 受講20%を維持
  - 履修免除の規定の検討及び決定
  - 特定行為研修修了直後の修了者の対するメンター配置の充実化



# 倫理審査委員会

## 2023年度の取り組み

委員会開催日時：毎月第2火曜日 16時30分～

委員会の目的：人を対象とする生命科学・医学系研究に携わる全ての関係者において、人間の尊厳及び人権が守られ研究の適正な推進が図られることを目的とした委員会である。

## 2023年度の実績

※ 2023年度のみ 2023.01～2024.03の15ヶ月間で集計

倫理審査委員会又は認定IRBにて承認を得て遂行している試験数を下記に示す。

### 1) CRC 臨床試験フォロー件数

臨床試験フォロー件数 (CRC介入分)	介入試験	非介入試験
血液内科	10試験	7試験
消化器外科	-	1試験
皮膚科	-	2試験
総合内科(リウマチ科)	-	1試験

### 2) 倫理審査委員会開催件数：15回/年度

審査内訳) 通常審査：3件 迅速審査：61件(総審議件数：64件)、終了報告：2件

施設別審議件数) 今村総合病院:50件、いづろ今村病院:13件、法人事業部1件、看護部支援室1件

#### 2-1) 今村総合病院 部署別倫理申請件数

血液内科	10件	皮膚科	1件
消化器内科	3件	麻酔科	3件
看護部	7件	リハビリテーション部	8件
病理診断科	2件	眼科	1件
診療情報管理室	1件	循環器内科	2件
臨床試験支援室	1件	脳神経内科	1件
腎臓内科	1件	診療放射線部	1件
外科・消化器外科	5件	専門外来/輸血管理室	1件
小児科	1件	看護管理室	1件

#### 2-2) いづろ今村病院

薬剤部	1件	総合外来内視鏡センター	1件
糖尿病内科	2件	栄養管理部	1件
看護部	7件	健康管理センター	1件

2-3) 法人事業部 1件

2-4) 看護部支援室 1件

3) 特定臨床研究実施申請件数：0件

4) 一括審査件数：10件

### 【総括】

年々、倫理審査がセントラル化しており、院内での通常審議は10件を切っている。多施設共同観察試験等、殆どの研究代表者がセントラルでの一括審査の方針へ移行しており、院内では後方視的緩急や非介入研究を中心に迅速審査が60件超となっている。また、法人内の施設からの申請も増加傾向にあり。今年度は外部委員が新たに就任し、3月に交代となった。

## 2024年度の目標

- 倫理審査委員会のスムーズな進行
- 対面式倫理審査委員会の体制整備



# 利益相反委員会（COI委員会）

## 2023年度の取り組み

人を対象とする医学系研究を実施する研究者等は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、利益相反に関する状況について透明性を確保するよう適切な対応が求められている。2021年6月30日の指針改訂により、研究の利益相反管理は、原則研究責任者が行うこととなり、利益相反（Conflict Of Interest：COI）に該当した場合のみ、委員会での審査を行う方針としている。

## 2023年度の実績

開催回数：1回（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催とした）

審査件数：1件 4名（延べ人数）

## 2024年度の目標

当院において実施される臨床研究について、透明性・公平性・信頼性を保つことを目的に、適切に利益相反管理を行う。

利益相反の管理に関する規定の改訂を行う。

# 業績一覧

---

論文(論文・著書・雑文) .....	124
学会発表 .....	132
研究会・講演会 .....	145
受賞 .....	153
マスメディア .....	155
公的研究 .....	157



## ●血液内科

< 欧文 >

1. Tokunaga M, Nakano N, Fuji S, Wake A, Utsunomiya A, Ito A, Eto T, Kawakita T, Mori Y, Moriuchi Y, Suehiro Y, Miyazaki Y, Uchida N, Sawayama Y, Ishitsuka K, Kanda J, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Fukuda T, Yoshimitsu M, Kato K : Cord blood is a suitable donor source of allogeneic hematopoietic cell transplantation for adult T-cell leukemia-lymphoma : a nationwide retrospective study. *Bone Marrow Transplant* 64(4) : 865-873, 2023 (Apr), doi : 10.1038/s41409-023-01919-3
2. Ito Y, Ozawa H, Eto T, Miyamoto T, Kamimura T, Ogawa R, Uchida N, Wake A, Fujisaki T, Ohno Y, Takase K, Okumura H, Takamatsu Y, Kawano N, Akashi K, Nagafuji K : IKZF1plus alterations are not associated with outcomes in Philadelphia-positive acute lymphoblastic leukemia patients enrolled in the FBMTG ALL/MRD2008 trial. *Eur J Haematol*, 111(1) : 103-112, 2023 (Jul), doi : 10.1111/ejh.13972
3. Nakano N, Nakasone H, Fuji S, Shinohara A, Suzuki R, Utsunomiya A, Eto T, Morishima S, Ikegame K, Kakinoki Y, Matsuoka K, Mori Y, Suehiro Y, Uchida N, Ito A, Doki N, Ozawa Y, Kanda J, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Ogata M : Outcomes in human T-cell leukemia virus type I carriers after hematopoietic stem cell transplantation for diseases other than adult T cell leukemia/ lymphoma : a Japanese national survey. *Lancet Reg Health West Pac*, 2023 (Sep), doi : 10.1016/j.lanwpc.2023.100902

< 欧文 > < 共著 >

1. Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ito S, Amano M, Ishida T, Uike N, Utsunomiya A, Ohshima K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Uchimaru K, Tsukasaki K : Validation of the iATL-PI prognostic index in therapeutic decision-making for patients with smoldering and chronic ATL : a multicenter study. *Int J Hematol* 117 (2) : 206-215, 2023 (Feb)
2. Izutsu K, Makita S, Nosaka K, Yoshimitsu M, Utsunomiya A, Kusumoto S, Morishima S, Tsukasaki K, Kawamata T, Ono T, Rai S, Katsuya H, Ishikawa J, Yamada H, Kato K, Tachibana M, Kakurai Y, Adachi N, Tobinai K, Yonekura K, Ishitsuka K : An openlabel, single-arm phase 2 trial of valemetostat for relapsed or refractory adult T-cell leukemia/lymphoma. *Blood* 141 (10) : 1159-1168, 2023 (Mar)
3. Owatari S, Tokunaga M, Nakamura D, Uozumi K, Sagara Y, Nakamura H, Haraguchi K, Nakano N, Yoshimitsu M, Ito Y, Utsunomiya A, Otsuka M, Hanada S, Iwanaga M, Ishitsuka K : A decrease in newly diagnosed patients with adult T-cell leukemia/lymphoma in Kagoshima, a highly endemic area of HTLV-1 in southwestern Japan. *Leuk Lymphoma* 64(4) : 865-873, 2023 (Apr), doi : 10.1080/10428194.2023.2173524
4. Nakashima M, Utsunomiya A, Watanabe T, Horie R, Uchimaru K : The oncogenic driving force of CD30 signaling-induced chromosomal instability in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Cancer Sci* 114(4) : 1556-1568, 2023 (Apr)
5. Hiramatsu H, Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, Choi I, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Hidaka M, Sasaki H, Makiyama J, Ohtsuka E, Jo T, Ogata M, Ito A, Yonekura K, Tatetsu H, Kato T, Kawakita T, Suehiro Y, Ishitsuka K, Iida S, Matsutani T, Nishikawa H, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T. Landscape of immunoglobulin heavy chain  $\gamma$  gene class switch recombination in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma. *Haematologica* 108(4) : 1173-1178, 2023 (Apr), doi : 10.3324/haematol.2022.281435
6. Arai A, Yoshimitsu M, Otsuka M, Ito Y, Miyazono T, Nakano N, Obama K, Nakashima H, Hanada S, Owatari S, Nakamura D, Tokunaga M, Kamada Y, Utsunomiya A, Haraguchi K, Hayashida M, Fujino S, Odawara J, Tabuchi T, Suzuki S, Hamada H, Kawamoto Y, Uchida Y, Hachiman M, Ishitsuka K : Identification of putative noncanonical driver mutations in patients with essential thrombocythemia. *Eur J Haematol* 110(6) : 639-647, 2023 (Jun), doi : 10.1111/ejh.13945

7. Fuji S, Inoue Y, Makiyama J, Nakano N, Ito A, Kawakita T, Suehiro Y, Itonaga H, Sawayama Y, Mori Y, Uchida N, Morishima S, Onizuka M, Ishitsuka K, Fukuda T, Atsuta Y, Yoshimitsu M : The clinical benefit of acute GVHD depends on the age at transplantation in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma on behalf of the ATL Working Group of the Transplantation and Cellular Therapy. *Bone Marrow Transplant* 58(6) : 729-731, 2023 (Jun)
8. Yamasaki S, Mizuno S, Iwasaki M, Seo S, Uchida N, Shigesaburo M, Nakano N, Ishiwata K, Uehara Y, Eto T, Takase K, Kawakita T, Tanaka M, Sawa M, Katayama Y, Nawa Y, Makoto O, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J, Yanada M : Efficacy and safety of allogeneic hematopoietic cell transplantation in acute myeloid leukemia patients aged > 65 years with unfavorable cytogenetics. *Ann Hematol* 102(6) : 1549-1559. 2023 (Jun), doi : 10.1007/s00277-023-05243-0
9. Kameda T, Kataoka K, Kamiunten A, Hidaka M, Miyoshi H, Nakano N, Nosaka K, Yoshimitsu M, Yasunaga JI, Kogure Y, Shide K, Miyahara M, Sakamoto T, Akizuki K, Hidaka T, Kubuki Y, Koya J, Kawano N, Yamashita K, Kawano H, Toyama T, Maeda K, Marutsuka K, Imaizumi Y, Kato K, Sugio T, Tokunaga M, Tashiro Y, Takaori-Kondo A, Miyazaki Y, Akashi K, Ishitsuka K, Matsuoka M, Ohshima K, Watanabe T, Kitanaka A, Utsunomiya A, Ogawa S, Shimoda K : Integrated genetic and clinical prognostic factors for aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma. *Haematologica* 108(8) : 2178-2191, 2023 (Aug), doi : 10.3324/haematol.2022.281510
10. Inoue Y, Morishima S, Kato K, Ito A, Nakano N, Kuriyama T, Kawakita T, Mori Y, Suehiro Y, Itonaga H, Miyazaki Y, Imada K, Tomori S, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Fukuda T, Yoshimitsu M ; ATL Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy : Impact of HLA-mismatched unrelated transplantation in patients with adult T-cell leukemia/lymphoma. *Bone Marrow Transplant* 58(9) : 980-990, 2023 (Sep), doi : 10.1038/s41409-023-02002-7
11. Mori Y, Uchida N, Wake A, Miyawaki K, Eto T, Nakamura T, Iwasaki H, Ito Y, Tanimoto K, Katayama Y, Imamura Y, Takahashi T, Fujisaki T, Kamimura T, Choi I, Ishitsuka K, Yoshimoto G, Ogawa R, Sugita J, Takamatsu Y, Tanimoto K, Hidaka T, Miyamoto T, Akashi K, Nagafuji K : Impact of a third dose of anti-SARS-CoV-2 vaccine in hematopoietic cell transplant recipients : A Japanese multicenter observational study. *Vaccine* 41(47) : 6899-6903, 2023 (Nov), doi : 10.1016/j.vaccine.2023.08.066
12. Yamada A, Yasunaga JI, Liang L, Zhang W, Sunagawa J, Nakaoka S, Iwami S, Kogure Y, Ito Y, Kataoka K, Nakagawa M, Iwanaga M, Utsunomiya A, Koh KR, Watanabe T, Nosaka K, Matsuoka M. Anti-HTLV-1 immunity combined with proviral load as predictive biomarkers for adult T-cell leukemia-lymphoma. *Cancer Sci* 115(1) : 310-320, 2023 (Nov)
13. Kuramitsu M, Momose H, Uchida Y, Ishitsuka K, Kubota R, Tokunaga M, Utsunomiya A, Umekita K, Hashikura Y, Nosaka K, Koh K-R, Nakamura H, Sagara Y, Sobata R, Satake M, Nagata K, Hasegawa Y, Sasaki D, Hasegawa H, Sato T, Yamano Y, Hiraga K, Tezuka K, Ikebe E, Matsuoka S, Okuma K, Watanabe T, Miura K, Hamaguchi I : Performance evaluation of Espline HTLV-I/II, a newly developed rapid immunochromatographic antibody test for different diagnostic situations. *Microbiol Spectr* 11(6) : e0207823, 2023 (Dec), doi : 10.1128/spectrum.02078-23
14. Hiramatsu H, Yokomori R, Shengyi L, Tanaka N, Mori S, Kiyotani K, Gotoh O, Kusumoto S, Nakano N, Suehiro Y, Ito A, Choi I, Ohtsuka E, Hidaka M, Nosaka K, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Iida S, Utsunomiya A, Noda T, Nishikawa H, Ueda R, Sanda T, Ishida T : Clinical landscape of TP73 structural variants in ATL patients. *Leukemia* 37(12) : 2502-2506, 2023 (Dec), doi : 10.1038/s41375-023-02059-9
15. Kameda T, Utsunomiya A, Otsuka N, Kubuki Y, Uchida T, Shide K, Kamiunten A, Nakano N, Tokunaga M, Miyazono T, Ito Y, Yonekura K, Kawakita T, Akizuki K, Tahira Y, Karasawa M, Hidaka T, Konagata A, Taniguchi N, Nagatomo Y, Kogo F, Shimizu K, Ueno H, Ishizaki J, Takahashi N, Ikei Y, Hidaka M, Yamaguchi H, Shimoda K : Impaired humoral immunity following COVID-19 vaccination in HTLV-1 carriers. *BMC Infect Dis* 24(1) : 96, 2024 (Jan)

- 
16. Konuma T, Harada K, Shinohara A, Uchida N, Shingai N, Ito A, Ozawa Y, Tanaka M, Sawa M, Onizuka M, Katayama Y, Hiramoto N, Nakano N, Kimura T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Nakasone H, Kanda J. Association of individual comorbidities with outcomes in allogeneic hematopoietic cell transplantation from unrelated adult donors versus unrelated cord blood : A study on behalf of the Donor/Source and Transplant Complications Working Groups of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. *Am J Hematol* 99(2) : 263-273, 2024 (Feb)
  17. Kurita N, Imahashi N, Chiba S, Tanaka M, Kobayashi H, Uchida N, Kuriyama T, Anzai N, Nawa Y, Nakano N, Ara T, Onizuka M, Katsuoka Y, Koi S, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J ; Donor/Source Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy : Comparison of fludarabine-based conditioning regimens in adult cord blood transplantation for myeloid malignancy : A retrospective, registry-based study. *Am J Hematol* 99(2) : 236-244, 2024 (Feb)
  18. Sakatoku K, Murata M, Shimazu Y, Uchida N, Yoshihara S, Uehara Y, Takahashi S, Kobayashi H, Tanaka H, Nakano N, Ishimaru F, Ichinohe T, Atsuta Y, Nagamura-Inoue T, Nakamae H : Comparison of haploidentical transplantation and single cord blood transplantation for myelofibrosis. *Bone Marrow Transplant : Online ahead of print*, 2024 (Feb), doi : 10.1038/s41409-024-02244-z
  19. Takizawa J, Suzuki R, Izutsu K, Kiguchi T, Asaoku H, Saburi Y, Masunari T, Utsunomiya A, Takeuchi K, Nakamura N, Ohshima K, Gruber M, Jäger U, Aoki S, Suzumiya J. Characteristics of chronic lymphocytic leukemia in Japan : Comprehensive analysis of the CLLRSG-01 study. *Int J Hematol : Online ahead of print*, 2024 (Mar)
  20. Onozawa M, Kusumoto S, Najima Y, Hashimoto H, Okada K, Tamaki M, Tanaka M, Sato T, Takahashi T, Hatano K, Onodera K, Moriuchi Y, Yakushijin K, Kanda J, Nagafuji K, Ogata M, Nakano N, Tamori A, Mizokami M : Outcomes of Cessation of Nucleos(t)ide Analog Administration on Hepatitis B Virus Reactivation after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation : A Nationwide Retrospective Study. *Transplant Cell Ther* 30(3) : 330.e1-330.e8, 2024 (Mar)

<和文>

1. 宇都宮興, 米倉健太郎, 石塚賢治, 畠清彦, 塚崎邦弘 : 再発または難治性成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する治療選択—エピジェネティック異常を標的とする経口 HDAC 阻害薬ツンジノスタット. *血液内科*, 86(3) : 443-454, 2023
2. 宇都宮興 : 慈愛会における血液内科—歴史と現在・未来—. *かごしま慈愛会ジャーナル* 第 2 巻 : 3-11, 2023
3. 中野伸亮, 高塚祥芝, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 小田原淳, 藤野聡司, 竹内昇吾, 福山美智子, 牧野桃子, 垣添有佳, 武清孝弘, 池田清夏, 宇都宮興, 伊藤能清 : 当院における臍帯血移植の試み. *かごしま慈愛会ジャーナル* 第 2 巻 : 31-37, 2023
4. 宇都宮興 : HTLV-1 と ATL について—歴史と最近の話題—. *日本臨床皮膚科医会雑誌* 40(2) : 110-116, 2023

<和文> <共著>

1. 古川良尚, 大木浩, 宮下幸一郎, 野村秀洋, 大塚真紀, 砂原伸彦, 時村洋, 宮園卓宜, 高山千史, 田畑千穂子, 川上保浩, 大小田修司, 竹原哲彦 : 鹿児島県離島における輸血医療の現状と課題. *日本輸血細胞治療学会誌* 69(3) : 418-426, 2023

<著書>

1. 宇都宮興 : 教えて！ HTLV-1 のことシリーズ 1 「教えて！先生 ATL (成人 T 細胞白血病) のこと」. スマイルリボン (編) 南方新社, 2023
2. 宇都宮興 : 成人 T 細胞白血病・リンパ腫. 今日の治療指針 2023 年—私はこう治療している. 医学書院, pp678-680, 2023
3. 中野伸亮 : 成人 T 細胞白血病 / リンパ腫. 領域別症候群シリーズ No29 血液症候群 (第 3 版) IV リンパ系の腫瘍 悪性リンパ腫と類縁疾患. 日本臨床社, pp344-349, 2024

## ●臨床研究センター

< 欧文 > < 共著 >

1. Nakashima M, Utsunomiya A, Watanabe T, Horie R, Uchimaru K : The oncogenic driving force of CD30 signaling-induced chromosomal instability in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Cancer Sci* 114(4) : 1556-1568, 2023 (Apr). doi : 10.1111/cas.15706
2. Kameda T, Utsunomiya A, Kubuki Y, Uchida T, Shide K, Kamiunten A, Nakano N, Tokunaga M, Miyazono T, Ito Y, Yonekura K, Kawakita T, Akizuki K, Tahira Y, Karasawa M, Hidaka T, Konagata A, Taniguchi N, Nagatomo Y, Kogo F, Shimizu K, Ueno H, Ishizaki J, Takahashi N, Ikei Y, Hidaka M, Yamaguchi H, Shimoda K : Impaired humoral immunity following COVID-19 vaccination in HTLV-1 carriers. *BMC Infect Dis* 24(1) : 96, 2024 (Jan). doi : 10.1186/s12879-024-09001-z

< 著書 >

1. 宇都宮 興: 教えて! HTLV-1 のことシリーズ 1 教えて! 先生 ATL (成人 T 細胞白血病) のこと. スマイルリボン (編) 南方新社, 2023
2. 宇都宮 興: 成人 T 細胞白血病・リンパ腫. 今日の治療指針 2023 年—私はこう治療している. 医学書院, pp678-680, 2023

## ●外科・消化器外科

< 欧文 > < 共著 >

1. Nakashima T, Arigami T, Uenosono Y, Matsushita D, Shimanosono M, Tsuruda Y, Sasaki K, Baba K, Kurahara H, Ohtsuka T : Clinical significance of intraperitoneal paclitaxel combined with systemic chemotherapy for gastric cancer with peritoneal metastasis. *Int J Clin Oncol* 28(10) : 1371-1377, 2023, doi : 10.1007/s10147-023-02384-0
2. Satake S, Arigami T, Matsushita D, Okubo K, Shimanosono M, Sasaki K, Tsuruda Y, Tanabe K, Mori S, Yanagita S, Uenosono Y, Nakajo A, Ohtsuka T : Clinical Significance of Eligibility Criteria Determined by the SPIRITS Trial in Patients with Advanced Gastric Cancer. *Oncology* 101(1) : 45647, 2023, doi : 10.1159/000527114

< 和文 >

1. 保坂優斗, 馬場研二, 吉野春一郎, 平野拓郎, 上之園芳一, 帆北修一 : Persistent descending mesocolon を伴う左側大腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術の手術成績. *鹿児島県臨床外科学会誌* 34 : 45388, 2023
2. 金城多架良, 田辺寛, 上原光平, 飯尾俊也, 保坂優斗, 帆北修一, 上之園芳一 : 帝王切開・卵管結紮術後に発症した子宮広間膜ヘルニアの 1 例. *鹿児島市医報* 63(2) : 72-73, 2024

## ●泌尿器科

< 欧文 > < 共著 >

1. Yoshino H, Yokoyama S, Tamai M, Okamura S, Iizasa S, Sakaguchi T, Osako Y, Inoguchi S, Matsushita R, Yamada Y, Nakagawa M, Tatarano S, Tanimoto A, Enokida H : Characterization and treatment of gemcitabine- and cisplatin-resistant bladder cancer cells with a pan-RAS inhibitor. *FEBS Open Bio* 13(6) : 1056-1066, 2023 (Jun)

- 
- Miyamoto T, Miyake M, Nakahama T, Nishimura N, Onishi K, Iida K, Yonemori M, Enokida H, Nakagawa M, Matsumoto H, Matsuyama H, Matsushita Y, Miyake H, Fujii T, Shimada K, Baba S, Kinjyo M, Shimokama T, Okumura K, Fujimoto K : Validation of the risk stratification newly defined in the Japanese Urological Association guidelines 2019 for non-muscle invasive bladder cancer: A multiinstitutional collaborative study. *Int J Urol* 30(5) : 473-481, 2023(May)

<和文><共著>

- 井手迫俊彦, 田中征治, 山口孝則, 郭義胤, 野口満, 大塚泰史, 三股浩光, 酒井英樹, 上村敏雄, 此元隆雄, 中川昌之, 宮里実 : 小児間欠性水腎症に対する手術時期に関する検討. *西日本泌尿器科* 85(4) : 190-195, 2023

## ●皮膚科

<欧文>

- Yonekura K, Tsuruta N, Miyagi T, Koike Y, Higashi Y, Nakahara T, Ohata C, Kaneko S, Yamaguchi M, Saito K, Yanase T, Imafuku S : Prevalence of human T-lymphotropic virus type I in patients with psoriasis and its effect on treatment choice: A multicenter observational study. *J Dermatol Sci* : 110(3) : 103-106, 2023

<欧文><共著>

- Miyagaki T, Inoue N, Kamijo H, Boki H, Takahashi-Shishido N, Suga H, Shimauchi T, Kiyohara E, Hirai Y, Yonekura K, Takeuchi K, Sugaya M : Prognostic factors for primary cutaneous anaplastic largecell lymphoma : a multicentre retrospective study from Japan. *Br J Dermatol* 189(5) : 612-620, 2023;
- Ohata C, Anezaki H, Kaneko S, Okazaki F, Ito K, Matsuzaka Y, Kikuchi S, Koike Y, Murota H, Miyagi T, Takahashi K, Sugita K, Hashimoto A, Nakahara T, Morizane S, Ohyama B, Saruwatari H, Yanase T, Yoshida Y, Yonekura K, Higashi Y, Hatano Y, Saito K, Katayama E, Yamane M, Yamazaki F, Tsuruta N, Imafuku S : Clinical characteristics of patients with psoriasis with family history : A multicenter observational study. *J Dermatol* 50(6) : 746-752, 2023
- Yanase T, Tsuruta N, Yamaguchi K, Ohata C, Ohyama B, Katayama E, Sugita K, Kuwashiro M, Hashimoto A, Yonekura K, Higashi Y, Murota H, Koike Y, Matsuzaka Y, Kikuchi S, Hatano Y, Saito K, Takahashi K, Miyagi T, Kaneko S, Ota M, Harada K, Morizane S, Ikeda K, Furue M, Nakahara T, Okazaki F, Sasaki N, Okada E, Yoshida Y, Ito K, Imafuku S : Survival rates of systemic interventions for psoriasis in the Western Japan Psoriasis Registry : A multicenter retrospective study. *J Dermatol* 50(6) : 753-765, 2023
- Ohata C, Anezaki H, Kaneko S, Okazaki F, Ito K, Matsuzaka Y, Kikuchi S, Koike Y, Murota H, Miyagi T, Takahashi K, Sugita K, Hashimoto A, Nakahara T, Morizane S, Ohyama B, Saruwatari H, Yanase T, Yoshida Y, Yonekura K, Higashi Y, Hatano Y, Saito K, Katayama E, Yamane M, Yamazaki F, Tsuruta N, Imafuku S : Clinical characteristics of patients with psoriasis with family history : A multicenter observational study. *J Dermatol* 50(6) : 746-752, 2023
- Hiramatsu H, Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, Choi I, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Hidaka M, Sasaki H, Makiyama J, Ohtsuka E, Jo T, Ogata M, Ito A, Yonekura K, Tatetsu H, Kato T, Kawakita T, Suehiro Y, Ishitsuka K, Iida S, Matsutani T, Nishikawa H, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T : Landscape of immunoglobulin heavy chain  $\gamma$  gene class switch recombination in patients with adult T-cell leukemia/lymphoma. *Haematologica* 108(4) : 1173-1178, 2023
- Izutsu K, Makita S, Nosaka K, Yoshimitsu M, Utsunomiya A, Kusumoto S, Morishima S, Tsukasaki K, Kawamata T, Ono T, Rai S, Katsuya H, Ishikawa J, Yamada H, Kato K, Tachibana M, Kakurai Y, Adachi N, Tobinai K, Yonekura K, Ishitsuka K : An open-label, single-arm phase 2 trial of valemestostat for relapsed or refractory adult T-cell leukemia/lymphoma. *Blood* 141(10) : 1159-1168, 2023

- Homma Y, Yonekura K, Tashiro Y, Ninomiya K, Kanekura T : Dupilumab aggravates Sézary syndrome : The importance of accurate pathological diagnosis. *J Cutan Immunol Allergy* 6 : 186-188, 2023
- Kameda T, Utsunomiya A, Otsuka N, Kubuki Y, Uchida T, Shide K, Kamiunten A, Nakano N, Tokunaga M, Miyazono T, Ito Y, Yonekura K, Kawakita T, Akizuki K, Tahira Y, Karasawa M, Hidaka T, Konagata A, Taniguchi N, Nagatomo Y, Kogo F, Shimizu K, Ueno H, Ishizaki J, Takahashi N, Ikei Y, Hidaka M, Yamaguchi H, Shimoda K : Impaired humoral immunity following COVID-19 vaccination in HTLV-1 carriers. *BMC Infect Dis* 24(1) : 96, 2024

<和文>

- 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 米倉健太郎, 本間葉子, 阿戸学 : 【神経症状を伴う皮膚病～重要な合併症を見逃さない～】多菌型ハンセン病. *皮膚病診療* 45(12) : 1074-1078, 2023
- 米倉健太郎 : 鹿児島県における病院勤務医の現状. *日本臨床皮膚科医会雑誌* 40(4) : 537-539, 2023
- 宇都宮與, 米倉健太郎, 石塚賢治, 畠清彦, 塚崎邦弘 : 再発または難治性成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する治療選択 エピジェネティック異常を標的とする経口 HDAC 阻害薬ツシジノスタット. *血液内科* 86(3) : 443-454, 2023
- 米倉健太郎 : 【皮膚疾患とウイルス】ATL の診断と治療. *皮膚科* 3(3) : 312-319, 2023

<著書>

- 米倉健太郎 : 節外リンパ腫の臓器別特徴に基づく診断と治療 皮膚リンパ腫. *日本臨牀* (0047-1852)81 巻増刊号 3 【新リンパ腫学 - 基礎・臨床の最新動向 -】. 日本臨牀社, pp398-406, 2023
- 米倉健太郎 : 20. 皮膚科疾患 紅皮症 (剥脱性皮膚炎. *今日の治療指針 2024*. 医学書院, pp1281, 2024

## ●病理診断科

<欧文> <共著>

- Kameda T, Kataoka K, Kamiunten A, Hidaka M, Miyoshi H, Nakano N, Nosaka K, Yoshimitsu M, Yasunaga JI, Kogure Y, Shide K, Miyahara M, Sakamoto T, Akizuki K, Hidaka T, Kubuki Y, Koya J, Kawano N, Yamashita K, Kawano H, Toyama T, Maeda K, Marutsuka K, Imaizumi Y, Kato K, Sugio T, Tokunaga M, Tashiro Y, Takaori-Kondo A, Miyazaki Y, Akashi K, Ishitsuka K, Matsuoka M, Ohshima K, Watanabe T, Kitanaka A, Utsunomiya A, Ogawa S, Shimoda K : Integrated genetic and clinical prognostic factors for aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma. *Haematologica* : Online ahead of print, 2023 (Aug), doi : 10.3324
- Homma Y, Yonekura K, Tashiro Y, Ninomiya K, Kanekura T : Dupilumab aggravates Sézary syndrome : The importance of accurate pathological diagnosis. *J Cutan Immunol Allergy* 6 : 186-188, 2023

## ●輸血管理部

<和文> <共著>

- 古川良尚, 大木浩, 宮下幸一郎, 野村秀洋, 大塚真紀, 砂原伸彦, 時村洋, 宮園卓宜, 大塚真紀, 高山千史, 田畑千穂子, 川上保浩, 大小田修司, 竹原哲彦 : 鹿児島県離島における輸血医療の現状と課題. *日本輸血細胞治療学会誌* 69(3) : 418-426, 2023

## ●脳神経内科

<和文>

- 浜田恭輔, 町田明理, 牧野隆太郎, 森拓馬, 山下ひとみ, 有水琢朗, 谷口歩, 濱田陸三, 神田直昭 : 内頸動脈無形成を合併した後交通動脈閉塞症例に対し機械的血栓回収療法を施行した 1 例. *脳卒中* : Online ahead of print, 2024. doi : 10.3995/jstroke.11164

---

## ●循環器内科

<和文>

1. 樋渡沙和子, 肥後建樹郎, 松本紀明, 吉村あきの, 大石充: 維持透析患者においてその後のドライウエイト減量を予測する因子の検討(血液学的検査と心エコー検査指標との比較検討). 心臓 56(3): 273-280, 2024

## ●小児科

<欧文><共著>

1. Abe Y, Urakami T, Suzuki J, Morita S, Araki M, Mizota M, Sasaki G, Mori J, Tatematsu T, Mine Y, Yoshida K, Kikuchi T: Nighttime hypoglycemia in Japanese children with type1 diabetes mellitus treated with multiple daily injection insulin therapy. Endocr J 70(7): 677-685, 2023

## ●スポーツ整形外科

<和文>

1. 福島佳織, 前園恵慈, 上菌直弘, 海江田英泰: 柔道選手に生じたハムストリング肉離れ(総腱断裂)に対して観血的治療を施行した1例. 鹿児島市医報 62(10): 19-22, 2023

<著書>

1. 海江田英泰: Cuff tear arthropathy に対するリバース型人工肩関節置換術. 変形性関節症の診断と治療—保存的治療から再生医療まで. 南江堂, pp561-568, 2023

## ●救急・総合内科

<著書>

1. 西垂水和隆: <初診外来> 3 全身倦怠感, 5 頭痛, 7 腹痛, 13 しびれ, 14 その他の神経学的症状, 28 よくある眼・耳・口のトラブル <継続外来/検診異常への対応> 1 高血圧, 15 貧血. ジェネラリストのための内科外来マニュアル 第3版. 医学書院, pp68-81, 100-117, 142-163, 256-283, 284-303, 488-501, 502-519, 736-749, 2023
2. 西垂水和隆: 本日の内科外来 改定第2版. 南江堂, 2023
3. 市來征仁, 伊藤加菜絵, 大塚暢, 畠中成己: 一見典型的・一見複雑を解きほぐす病歴と身体所見で捉え直す消化器疾患の診かた. 金芳堂, 2023
4. 西垂水和隆, 市來征仁, 上原悠也, 畠中成己, 加倉健太郎, 田中友樹, 大塚暢, 中村大悟, 石川そでみ: medicina(メディチーナ)2024年2月号特集 今どきの手技を見直し, 医療処置でのトラブルを防ぐ 経験値ごとの気をつけるべき合併症や工夫. 医学書院, 2024
5. 西垂水和隆: 臨床推論のススメ方 全国GIMカンファで話題を集めた24症例. 南江堂, 2024

## ●精神科

<著書>

1. 江口政治: 今村総合病院における精神科リエゾンチームの取り組み. 鹿児島精神科病院協会, 2024

## ●かごしまオハナクリニック

<著書>

1. 林恒存: 入院中に生じたADL低下. 月刊レジデントノート 11月号「病棟でもう迷わない! 高齢者によくある症候の診かた」. 羊土社, pp2144-2150, 2023

2. 林恒存：尿道カテーテル入ったと思うんだけど…尿が出ずに血が出てきた！. *medicina*(メディチーナ) 2024 年 2 月号 特集 今どきの手技を見直し, 医療処置でのトラブルを防ぐー経験値ごとの気をつけるべき合併症や工夫. 医学書院, pp324-329, 2024
3. 横山大輔：経鼻胃管 (NGT). *medicina*(メディチーナ) 2024 年 2 月号 特集 今どきの手技を見直し, 医療処置でのトラブルを防ぐー経験値ごとの気をつけるべき合併症や工夫. 医学書院, pp318-323, 2024
4. 横山大輔：倒れた 症例 25. 一見非典型・一見複雑を解きほぐす 病歴と身体所見で捉え直す消化器疾患の診かた. 金芳堂, pp97-101, 2024

## ●看護部

<著書>

1. 中村倫丈：高流量鼻カニューラ (HFNC) ー使いどき、やめどき…大袈裟なネーザルカニューレ?. 特集 今どきの手技を見直し, 医療処置でのトラブルを防ぐー経験値ごとの気をつけるべき合併症や工夫. *medicina*, pp249-255, 2024
2. 福留由香利：ストーマ装具交換ーかぶれの軟膏処方, ほんとに OK ? ー. 特集 今どきの手技を見直し, 医療処置でのトラブルを防ぐー経験値ごとの気をつけるべき合併症や工夫. *medicina*, pp344-349, 2024

## ●リハビリテーション部 理学療法士（一般総合）

<欧文>

1. Takekiyo T, Morishita S : Effect of rehabilitation in patients undergoing hematopoietic stem cell transplantation. *Fukushima J. Med. Sci.* 69(2) : 73-83, 2023. <https://doi.org/10.5387/fms.2022-33>

<和文>

1. 武清孝弘, 市川雄大, 木口大輔, 中村和司, 田仲勝一, 青木卓也, 名和由一郎：造血幹細胞移植における運動療法の意義と実際. *日本造血・免疫細胞療法学会雑誌* 13(1) : 21-32, 2024. <https://doi.org/10.7889/tct-23-008>

## ●リハビリテーション部 理学療法士（スポーツ整形）

<和文>

1. 白尾泰宏：運動器理学療法における臨床的リーズニング. *理学療法ジャーナル* 57 (9) : 1033-1037, 2023

## ●事務部

<和文>

1. 有島尚亮：病院の事業譲渡の留意点ー地域医療構想調整会議における制度内容の認否. *病院* 82(5) : 412-417, 2023

## ●診療放射線部

<著書>

1. 馬場隆行：C アーム業務に携わる為の 10 個のころえ ～行かないなんてもったいない。すべてはそこにある。暖かくして座ってその時に備えよう～. *映像情報 Medical*. 産業開発機構株式会社, pp14-22, 2024
2. 馬場隆行：戦略的高精度 X 線撮影の補正具クロックポジションスケール -クロックポジションスケールの全貌を見逃すな-. *INNERVISION* 第 39 巻 第 3 号. 株式会社インナービジョン, pp80-83, 2024



## ●血液内科

### <国際>

1. Utsunomiya A, Kusumoto S, Choi I, Yoshimitsu M, Shimokawa M, Suehiro Y, Hidaka T, Nosaka K, Sasaki H, Rai S, Owatari S, Koh K, Hidaka M, Kato T, Jo T, Moriuchi Y, Ogata M, Otsuka E, Suzushima H, Ito S, Yoshida S, Ito A, Nakamura D, Tokunaga M, Sekine M, Sakamoto Y, Inagaki H, Ishida T, Ishitsuka K : A phase 2 trial of CHOP with anti-CCR4 antibody mogamulizumab for elderly patients with CCR4-positive adult T-cell leukemia/lymphoma. 17th International Conference on Malignant Lymphoma, Lugano, Switzerland, 13-17 June, 2023

### <国際> <共同演者>

1. Takizawa J, Suzuki R, Izutsu K, Utsunomiya A, Takeuchi K, Nakamura N, Ohshima K, Aoki S, Suzumiya J : Significance of sIL-2R and LD in predicting time to first treatment in Japanese CLL patients with early asymptomatic disease. International Workshop On CLL™, Boston, 6-9 October, 2023

### <国内>

1. 中野伸亮, 高塚祥芝, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 大山利栄, 佐々木謙介, 藤野聡司, 米倉健太郎, 竹内昇吾, 伊藤能清, 宇都宮與 : 今村総合病院における ATL に対する同種造血幹細胞移植の変遷. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2023 年 2 月 10-12 日, 名古屋
2. 松崎璃子, 吉永沙織, 池田清夏, 中野伸亮, 伊藤能清 : 新型コロナウイルス流行下に行われた血液内科病棟看護師の結婚式に関する実態調査. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2023 年 2 月 10-12 日, 名古屋
3. Utsunomiya A : Progress in the treatment of adult T-cell leukemia/lymphoma. 7th Tsurui Lymphoma Workshop. Kushiro, Japan. 24th Feb, 2023 (English)
4. 宮園卓宜, 中島彩乃, 藤山裕輝, 小林果蓮, 牧野桃子, 兼石知香, 久保友恵, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與, 帆北修一 : 当院におけるヒト骨髄由来間葉系幹細胞テムセルHS注の使用経験. 第 71 回日本輸血・細胞治療学会学術総会, 2023 年 5 月 10-13 日, 千葉
5. 宇都宮與, 亀田拓郎, 大塚伸昭, 中野伸亮, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 伊藤能清, 米倉健太郎, 日高道弘, 河北敏郎, 幣光太郎, 田平優貴, 秋月溪一, 上運天綾子, 唐澤賢祥, 池田涼馬, 松本健吾, 日高智徳, 石崎淳三, 高橋尚也, 池井義彦, 久富木庸子, 下田和哉 : HTLV-1 キャリアにおける COVID-19 ワクチン接種後の体液性免疫応答の低下. 第 85
6. 回日本血液学会学術集会, 2023 年 10 月 15 日, 東京 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 伊藤能清, 宇都宮與. 当院における再発難治性びまん大細胞 B 細胞性リンパ腫に対する PolaBR 療法の使用経験. 第 85 回日本血液学会学術集会, 2023 年 10 月 13 日, 東京
7. 徳永雅仁, 米倉健太郎, 齋藤啓太, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 宮園卓宜, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清 : 成人 T 細胞白血病 / リンパ腫におけるツシジノスタットの有効性と安全性. 第 85 回日本血液学会学術集会, 2023 年 10 月 14 日, 東京
8. 徳永雅仁, 米倉健太郎, 齋藤啓太, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 宮園卓宜, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清 : 成人 T 細胞白血病 / リンパ腫におけるツツジノスタットの有効性と安全性. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023 年 11 月 12 日, 京都
9. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 伊藤能清, 宇都宮與 : 成人 T 細胞白血病 (ATL) に対してさい帯血移植施行後に COVID-19 を併発した 1 例. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023 年 11 月 12 日, 京都
10. 小田原淳, 齋藤啓太, 中野伸亮, 徳永雅仁, 藤野聡司, 宮園卓宜, 宇都宮與, 伊藤能清 : VEN/AZA 療法後の同種造血幹細胞移植の有効性と安全性の検証. 第 46 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024 年 3 月 22 日, 東京
11. 藤野聡司, 吉森みゆき, 松山淳史, 大山利栄, 佐々木謙介, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 齋藤啓太, 米倉健太郎, 宇都宮與, 伊藤能清 : 今村総合病院におけるチキサゲビマブ / シルガビマブ投与患者の後方視的検討. 第 46 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024 年 3 月 22 日, 東京

12. 齋藤啓太, 小田原淳, 藤野聡司, 中野伸亮, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 宇都宮與, 伊藤能清: 同種造血幹細胞移植におけるボサコナゾールの有用性と安全性の後方視的解析. 第46回日本造血・免疫細胞療学会総会, 2024年3月23日, 東京
13. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清: 当院におけるヒト骨髄由来間葉系幹細胞テムセル HS 注の使用経験. 第46回日本造血・免疫細胞療学会総会, 2024年3月23日, 東京

<国内><共同演者>

1. 坂本光, 澤山靖, 中野伸亮, 伊藤歩, 衛藤徹也, 河北敏郎, 石塚賢治, 森康雄, 末廣陽子, 糸永英弘, 宮崎泰彦, 内田直之, 鬼塚真仁, 福田隆浩, 熱田由子, 吉満誠: 高齢者 ATL への同種移植における予後因子の検討. 第45回日本造血・免疫細胞療学会総会, 2023年2月10-12日, 名古屋
2. 栗田尚樹, 今橋伸彦, 田中正嗣, 小林光, 内田直之, 衛藤徹也, 安齋尚之, 丸山ゆみ子, 名和由一郎, 中野伸亮, 木村貴文, 一戸辰夫, 熱田由子, 諫田淳也: 骨髄系腫瘍に対する臍帯血移植におけるフルダラビン含有レジメンの比較. 第45回日本造血・免疫細胞療学会総会, 2023年2月10-12日, 名古屋
3. 武清孝弘, 堂園浩一朗, 岡村敏之, 森希美, 中島徳久, 奈良聡一郎, 吉田一成, 堂園充代, 大山利栄, 佐々木謙介, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與: 同種造血幹細胞移植患者の SF-36 における身体機能スコア変化の特徴. 第45回日本造血・免疫細胞療学会総会, 2023年2月10-12日, 名古屋
4. 森康雄, 長藤宏司, 内田直之, 和氣敦, 片山雄太, 岩崎浩己, 衛藤徹也, 藤崎智明, 伊藤能清, 上村智彦, 高橋勉, 今村豊, 谷本一史, 石塚賢治, 杉田純一, 河野徳明, 谷本一樹, 吉本五一, 崔日承, 日高智徳, 小川亮介, 高松泰, 加藤光次, 宮本敏浩, 赤司浩一: 造血細胞移植症例における SARS-CoV-2 ワクチン booster 接種の有効性: 多施設共同前向き観察研究. 第45回日本造血・免疫細胞療学会総会, 2023年2月10-12日, 名古屋
5. Kannagi M, Hasegawa A, Murata M, Nakajima S, Satake A, Ito T, Utsunomiya A, Fujisawa J, Okuma K, Akari H: Preclinical evidence for an anti-ATL immunotherapy using short-term cultured autologous PBMC as a vaccine. 第82回日本癌学会学術総会, 2023年9月21-23日, 横浜
6. 楠本茂, 崔日承, 吉満誠, 下川元継, 宇都宮與, 末廣陽子, 日高智徳, 野坂生郷, 佐々木秀法, 頼晋也, 田村志宜, 大渡五月, 高起良, 日高道弘, 加藤丈晴, 城達郎, 森内幸美, 緒方正男, 大塚英一, 鈴島仁, 伊藤薫樹, 吉田真一郎, 伊藤旭, 中村大輔, 徳永雅仁, 関根雅明, 坂本祐真, 稲垣宏, 石田高司, 石塚賢治: 高齢者成人 T 細胞白血病リンパ腫に対するモガムリズマブ併用 CHOP-14 療法: 多施設共同第2相試験. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月14日, 東京
7. 坂本祐真, 石田高司, 正木彩子, 村瀬貴幸, 大塚英一, 竹下盛重, 武藤礼治, 崔日承, 岩崎浩己, 伊藤旭, 楠本茂, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 末廣陽子, 飯田真介, 宇都宮與, 上田龍三, 稲垣宏: 成人 T 細胞白血病 / リンパ腫における NOTCH1 および FBXW7 遺伝子異常. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月14日, 東京
8. 森田真梨, 進藤岳郎, 清水正和, 稲富雄一, 村野愛, 森嶋章代, 諫田淳也, 高橋めい子, 辻村太郎, 加藤光次, 田中秀則, 中野伸亮, 衛藤徹也, 宮崎泰彦, 今田和典, 末廣陽子, 河北敏郎, 一戸辰夫, 福田隆浩, 鬼塚真仁, 熱田由子, 松田文彦, 高折晃史: 成人 T 細胞白血病に対する非血縁者間骨髄移植後の再発と KIR アレルの相関性解析. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月15日, 東京
9. 山田麻美, 安永純一朗, 梁礼涵, 張文怡, 砂川純也, 中岡慎治, 岩見真吾, 木暮泰寛, 伊藤勇太, 片岡圭亮, 中川正法, 岩永正子, 宇都宮與, 高起良, 渡邊俊樹, 野坂生郷, 松岡雅雄: HTLV-1 関連疾患発症リスク判定における Gag 免疫応答の意義. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月11日, 京都
10. 森田真梨, 進藤岳郎, 川口修治, 諫田淳也, 加藤光次, 中野伸亮, 衛藤徹也, 宮崎泰彦, 今田和典, 一戸辰夫, 福田隆浩, 鬼塚真仁, 松田文彦, 高折晃史: ATL に対する非血縁骨髄移植後の再発は KIR3DL1 educated ドナーで抑制される. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月11日, 京都
11. 菅田謙治, ジェックヤン タン, 高鳥光徳, ベラル ホサイン, サムイル ラジブ, オムニア レダ, 徳永雅仁, 野村隼也, 増田曜章, 中島誠, 佐藤知雄, 植田光晴, 宇都宮與, 山野嘉久, 佐藤賢文: HLA-A24 拘束性の異なる Tax エピトープを認識する特異的 TCR の解析. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月11日, 京都

12. 王宇, 沖田瑞帆, 緒方正男, 萩原朔太郎, 安井寛, 内丸薫, 高起良, 宇都宮與, 渡邊俊樹, 山野嘉久, 伊波英克: Identification and validation of the novel ATL biomarkers. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月11日, 京都
13. 中野和民, 田部亜季, 佐藤知雄, 鴨居功樹, 宇都宮與, LloydEinsiedel, 渡邊俊樹: HTLV-1 type-a と type-c のウイルス特性と病原性の違いに関する研究: ウィルス学的比較解析の試み. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月11日, 京都
14. 高鳥光徳, 菅田謙治, Benjy Tan Jek Yang, 崎浜秀悟, 矢野浩夢, 菰原義弘, 田中勇悦, 宇都宮與, 福島卓也, 加留部謙之輔, 佐藤賢文: リンパ腫型 ATLL における組織特異的な病態と腫瘍内不均一性の検討. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月11日, 京都
15. 新村光輝, 菅田謙治, Wajihah Sakhor, 松尾美沙希, 高鳥光徳, 徳永雅仁, 宇都宮與, 佐藤賢文: ATL 患者末梢血のシングルセルマルチオーム解析による HTLV-1 遺伝子発現動態および制御メカニズム解析. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月12日, 京都
16. 垣添有佳, 米倉健太郎, 牧野桃子, 宮園卓宜, 徳永雅仁, 中野伸亮, 小田原淳, 藤野聡司, 伊藤能清, 宇都宮與: ATL 患者の治験参加に対するリクルートへの CRC の役割. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月12日, 京都
17. 糸永英弘, 福島卓也, 加藤光次, 村主啓行, 中野伸亮, 福田隆浩, 河北敏郎, 加藤丈晴, 森康雄, 森島聡子, 末廣陽子, 衛藤徹也, 澤山靖, 鬼塚真仁, 一戸辰夫, 熱田由子, 吉満誠, 藤重夫: 成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する HLA 一致血縁ドナーからの同種移植における骨髓血と末梢血幹細胞の比較. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月22日, 東京
18. 山崎聡, 水野昌平, 岩崎惇, 瀬尾幸子, 内田直之, 宮腰重三郎, 中野伸亮, 石綿一哉, 上原康史, 衛藤徹也, 高瀬謙, 河北敏郎, 田中正嗣, 澤正史, 片山雄太, 名和由一郎, 鬼塚真仁, 一戸辰夫, 熱田由子, 諫田淳也, 柳田正光: 高齢者 AML に対する同種造血幹細胞移植: 移植ソースに関する検討. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月22日, 東京
19. 武清孝弘, 堂園浩一朗, 岡村敏之, 中島徳久, 奈良聡一郎, 吉田一成, 堂園充代, 小田原淳, 藤野聡司, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與: 同種造血幹細胞移植患者の SF-36 における身体機能スコアの経時的変化. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月23日, 東京
20. 萩原千聖, 飯田ひかり, 大田夏鈴, 永池結菜, 深川友里, 上山りえ, 牧野桃子, 中野伸亮, 伊藤能清: 同種移植患者における移植前後のイメージ相違調査. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月22日, 東京

## ●臨床研究センター

<国際>

1. Utsunomiya A, Kusumoto S, Choi I, Yoshimitsu M, Shimokawa M, Suehiro Y, Hidaka T, Nosaka K, Sasaki H, Rai S, Owatari S, Koh K, Hidaka M, Kato T, Jo T, Moriuchi Y, Ogata M, Otsuka E, Suzushima H, Ito S, Yoshida S, Ito A, Nakamura D, Tokunaga M, Sekine M, Sakamoto Y, Inagaki H, Ishida T, Ishitsuka K: A phase 2 trial of CHOP with anti-CCR4 antibody mogamulizumab for elderly patients with CCR4-positive adult T-cell leukemia/lymphoma. 17th International Conference on Malignant Lymphoma, Lugano, Switzerland, 13-17 June, 2023

<国内>

1. Utsunomiya A: Progress in the treatment of adult T-cell leukemia/lymphoma. 7th Tsurui Lymphoma Workshop, Kushiro, Japan, 24th February, 2023(English)
2. 宇都宮與, 亀田拓郎, 大塚伸昭, 中野伸亮, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 伊藤能清, 米倉健太郎, 日高道弘, 河北敏郎, 幣光太郎, 田平優貴, 秋月溪一, 上運天綾子, 唐澤賢祥, 池田涼馬, 松本健吾, 日高智徳, 石崎淳三, 高橋尚也, 池井義彦, 久富木庸子, 下田和哉: HTLV-1 キャリアにおける COVID-19 ワクチン接種後の体液性免疫応答の低下. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月15日, 東京

3. 垣添有佳, 米倉健太郎, 牧野桃子, 宮園卓宜, 徳永雅仁, 中野伸亮, 小田原淳, 藤野聡司, 伊藤能清, 宇都宮與: ATL 患者の治験参加に対するリクルートへの CRC の役割. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023 年 11 月 12 日, 京都

## ●外科・消化器外科

<国内>

1. 保坂優斗, 馬場研二, 吉野春一郎, 平野拓郎, 上之園芳一, 帆北修一: Persistent descending mesocolon を伴う S 状結腸癌と直腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術の手術成績. 第 85 回鹿児島県臨床外科学会総会・医学会, 2023 年 2 月 11 日, 鹿児島
2. 飯尾俊也, 上之園芳一, 保坂優斗, 平野拓郎, 馬場研二, 田代幸恵, 帆北修一, 大塚隆生: 当院で経験した胃原発胎児消化管上皮類癌の 3 例の検討. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023 年 2 月 24 日, 札幌
3. 平野拓郎, 飯尾俊也, 保坂優斗, 馬場研二, 瀧川譲治, 上之園芳一, 帆北修一, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 腸重積を伴った小腸 Inflammatory Fibroid Polyp の 1 切除例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023 年 3 月 9 日, 那覇 (Web)
4. 松下直樹, 保坂優斗, 吉野春一郎, 平野拓郎, 馬場研二, 上之園芳一, 帆北修一: ストーマ脱を伴う傍ストーマヘルニアと腹壁癒痕ヘルニアの合併に対し腹腔鏡下 Sugarbaker 法を施行した 1 例. 第 59 回九州外科学会総会, 2023 年 3 月 11 日, 宮崎
5. 吉野春一郎, 保坂優斗, 飯尾俊也, 平野拓郎, 馬場研二, 二之宮謙次郎, 田代幸恵, 上之園芳一, 帆北修一: S 状結腸が嵌り絞扼性小腸閉塞に至った原発性小腸軸捻転症の 1 例. 第 59 回九州外科学会総会, 2023 年 3 月 11 日, 宮崎 (Web)
6. 矢野雅己, 保坂優斗, 吉野春一郎, 飯尾俊也, 金城多架良, 庄亮真, 田辺寛, 平野拓郎, 田代幸恵, 二之宮謙次郎, 馬場研二, 上之園芳一, 帆北修一: 術前に動静脈奇形との鑑別が困難であった膿瘍形成性小腸 GIST の 1 例. 第 121 回日本消化器病学会九州支部例会, 2023 年 5 月 12 日, 福岡
7. 吉野春一郎, 保坂優斗, 平野拓郎, 馬場研二, 二之宮謙次郎, 田代幸恵, 上之園芳一, 帆北修一: 急性虫垂炎に対する虫垂切除後に goblet cell adenocarcinoma の診断に至った 2 例. 第 48 回日本外科系連合学会学術集会, 2023 年 6 月 8 日, 横浜 (Web)
8. 保坂優斗, 馬場研二, 吉野春一郎, 平野拓郎, 上之園芳一, 帆北修一: 当院におけるロボット支援下直腸切除術導入の経験: 助手の立場から. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月 1 日, 鹿児島
9. 保坂優斗, 伊地知徹也, 大井秀之, 佐竹霜一, 田上聖徳, 山崎洋一, 川崎洋太, 又木雄弘, 蔵原弘, 大塚隆生: IPMN の進展に腫瘍内細菌叢が関与しているか?. 第 78 回日本消化器外科学会総会, 2023 年 7 月 12 日, 函館 (Web)
10. 田辺寛, 庄亮真, 金城多架良, 飯尾俊也, 保坂優斗, 帆北修一, 上之園芳一: 大腸憩室炎に対する手術治療成績～Hinchey 分類別の検討～. 第 48 回日本大腸肛門病学会九州地方会, 2023 年 7 月 29 日, 鹿児島
11. 庄亮真, 飯尾俊也, 金城多架良, 保坂優斗, 田辺寛, 帆北修一, 上之園芳一: pressthrough-package(PTP) シート誤飲による小腸微小穿孔に対して腹腔鏡下手術が有用であった 1 例. 第 48 回日本大腸肛門病学会九州地方会, 2023 年 7 月 29 日, 鹿児島
12. 金城多架良, 田辺寛, 上原光平, 飯尾俊也, 保坂優斗, 帆北修一, 上之園芳一: 帝王切開・卵管結紮術後に発症した子宮広間膜ヘルニアの 1 例. 鹿児島市外科医会秋季例会, 2023 年 11 月 9 日, 鹿児島
13. 岩田淳志, 保坂優斗, 吉野春一郎, 飯尾俊也, 庄亮真, 金城多架良, 平野拓郎, 田代幸恵, 二之宮謙次郎, 田辺寛, 馬場研二, 上之園芳一, 帆北修一: 穿孔性直腸癌の診断で化学療法後に切除し得た直腸 MiNEN の 1 例. 第 85 回日本臨床外科学会総会, 2023 年 11 月 17 日, 倉敷
14. 田辺寛, 上原光平, 金城多架良, 飯尾俊也, 保坂優斗, 帆北修一, 上之園芳一: 大腸憩室炎に対する三期的手術の検討. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2023 年 12 月 9 日, 横浜
15. 松本愛子, 田辺寛, 庄亮真, 金城多架良, 飯尾俊也, 保坂優斗, 瀧川譲治, 帆北修一, 上之園芳一, 大塚隆生: リンパ節腫大を伴った成人特発性腸重積症の 1 例. 第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 2023 年 12 月 9 日, 横浜
16. 金城多架良, 保坂優斗, 上原光平, 飯尾俊也, 田辺寛, 帆北修一, 上之園芳一: 悪性腫瘍との鑑別を要した腸閉塞を伴う下行結腸憩室炎の 1 例. 第 36 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2023 年 12 月 15 日, 北九州

17. 田辺寛, 上原光平, 金城多架良, 飯尾俊也, 保坂優斗, 帆北修一, 上之園芳一: 当院における高齢者の早期大腸癌切除例の検討. 第100回大腸癌研究会学術集会, 2024年1月25日, 東京
18. 飯尾俊也, 上之園芳一, 庄亮真, 金城多架良, 保坂優斗, 田辺寛, 瀧川譲治, 田代幸恵, 有上貴明, 帆北修一, 大塚隆生: MSI-high 胃癌に対して Pembrolizumab を使用した5例の治療経験. 第96回日本胃癌学会総会, 2024年2月29日, 京都
19. 益満和人, 保坂優斗, 金城多架良, 上原光平, 飯尾俊也, 田辺寛, 瀧川譲治, 帆北修一, 上之園芳一: 閉鎖孔内の腹膜嵌入嚢胞によって閉鎖神経障害をきたした1例. 第60回九州外科学会, 2024年3月8日, 大分
20. 上前晃平, 保坂優斗, 金城多架良, 上原光平, 飯尾俊也, 田辺寛, 帆北修一, 上之園芳一: 抗凝固療法中に発症した胆嚢破裂を伴う出血性胆嚢炎の1例. 第60回九州外科学会, 2024年3月8日, 大分
21. 保坂優斗, 田辺寛, 上原光平, 金城多架良, 飯尾俊也, 瀧川譲治, 帆北修一, 上之園芳一: 外科専攻医による腹腔鏡下胆嚢摘出術の手術成績と学習曲線に関する検討. 第87回鹿児島県臨床外科学会総会・医学会, 2024年3月16日, 鹿児島
22. 上原光平, 保坂優斗, 金城多架良, 飯尾俊也, 田辺寛, 瀧川譲治, 帆北修一, 上之園芳一: 胃結腸静脈幹に回結腸静脈が流入する血管破格を伴った上行結腸癌の1例. 第87回鹿児島県臨床外科学会総会・医学会, 2024年3月16日, 鹿児島

## ●皮膚科

<国内>

1. 米倉健太郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 武田浩一郎, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 皮膚原発  $\gamma\delta$  T 細胞リンパ腫の1例. 第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2023年4月9日, 鹿児島
2. 佐藤浩子, 玉井真理子, 武田浩一郎, 米倉健太郎: テーピング法、コットンパッド法にペディグラスを併用した陥入爪の治療. 第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2023年4月9日, 鹿児島
3. 米倉健太郎: 成人 T 細胞白血病リンパ腫の新規治療. 第122回日本皮膚科学会総会 教育講演 56-4, 2023年6月4日, 横浜
4. 米倉健太郎: 皮膚科における ATL 診療とハイヤスタ錠の使用経験. 第39回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 ランチョンセミナー4, 2023年8月4日, 名古屋
5. 米倉健太郎, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 筋肉内腫瘍を呈した菌状息肉症. 第39回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2023年8月5日, 名古屋
6. 米倉健太郎, 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子: スペソリマブが著効した高齢者の汎発性膿疱性乾癬の1例. 第38回日本乾癬学会学術大会, 2023年8月26日, 東京
7. 米倉健太郎: 当科における掌蹠膿疱症に対するグセルクマブの使用経験と HTLV-1 キャリアの乾癬治療. 日本皮膚科学会第238回熊本地方会 スポンサーセミナーII, 2023年9月3日, 熊本
8. 米倉健太郎: ATL の多彩な臨床像と治療の最新情報. 第75回日本皮膚科学会西部支部学術大会 スポンサーシンポジウム, 2023年9月16日, 宜野湾
9. 米倉健太郎: 再発・難治性 ATL の治療 - 皮膚腫瘍医の観点から -. 第85回日本血液学会学術集会 モーニングセミナー 2-11, 2023年10月14日, 東京
10. 米倉健太郎: 皮膚病変主体の ATL に対する治療～ indolent ATL および全身療法後の皮膚再発について～. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会 スポンサーシンポジウム, 2023年11月10日, 京都
11. 米倉健太郎, 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 筋肉内腫瘍を呈した菌状息肉症. 第195回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2023年12月3日, 鹿児島
12. 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 米倉健太郎, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: Sweat Gland Carcinoma with Neuroendocrine Differentiation (SCAND) の1例. 第195回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2023年12月3日, 鹿児島
13. 米倉健太郎, 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子: スペソリマブが奏効した高齢者の汎発性膿疱性乾癬の1例. 第196回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2024年3月30日, 鹿児島

14. 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 米倉健太郎, 隈本亨: 梅毒の1例. 第196回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2024年3月30日, 鹿児島

## ●病理診断科

<国内> <共同演者>

1. 飯尾俊也, 上之園芳一, 保坂優斗, 平野拓郎, 馬場研二, 田代幸恵, 帆北修一, 大塚隆生: 当院で経験した胃原発胎児消化管上皮類似癌の3例の検討. 第95回日本胃癌学会総会, 2023年2月24日, 札幌
2. 平野拓郎, 飯尾俊也, 保坂優斗, 馬場研二, 瀧川譲治, 上之園芳一, 帆北修一, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 腸重積を伴った小腸 Inflammatory Fibroid Polyp の1切除例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023年3月9日, 那覇 (Web)
3. 吉野春一郎, 保坂優斗, 飯尾俊也, 平野拓郎, 馬場研二, 二之宮謙次郎, 田代幸恵, 上之園芳一, 帆北修一: S状結腸が嵌り絞扼性小腸閉塞に至った原発性小腸軸捻転症の1例. 第59回九州外科学会総会, 2023年3月11日, 宮崎 (Web)
4. 米倉健太郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 武田浩一郎, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 皮膚原発  $\gamma$   $\delta$  T細胞リンパ腫の1例. 第193回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2023年4月9日, 鹿児島
5. 吉野春一郎, 保坂優斗, 平野拓郎, 馬場研二, 二之宮謙次郎, 田代幸恵, 上之園芳一, 帆北修一: 急性虫垂炎に対する虫垂切除後に goblet cell adenocarcinoma の診断に至った2例. 第48回日本外科系連合学会学術集会, 2023年6月8日, 横浜 (Web)
6. 米倉健太郎, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 筋肉内腫瘤を呈した菌状息肉症. 第39回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2023年8月5日, 名古屋
7. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 伊藤能清, 宇都宮與: 当院における再発難治性びまん大細胞B細胞性リンパ腫に対する PolaBR 療法の使用経験. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月13-15日, 東京
8. 徳永雅仁, 米倉健太郎, 齋藤啓太, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 宮園卓宜, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清: 成人T細胞白血病/リンパ腫におけるツシジノスタットの有効性と安全性. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月13-15日, 東京
9. 坂本祐真, 石田高司, 正木彩子, 村瀬貴幸, 大塚英一, 竹下盛重, 武藤礼治, 崔日承, 岩崎浩己, 伊藤旭, 楠本茂, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 末廣陽子, 飯田真介, 宇都宮與, 上田龍三, 稲垣宏: 成人T細胞白血病/リンパ腫における NOTCH1 および FBXW7 遺伝子異常. 第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月13-15日, 東京
10. 徳永雅仁, 米倉健太郎, 齋藤啓太, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 宮園卓宜, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清: 成人T細胞白血病/リンパ腫におけるツシジノスタットの有効性と安全性. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月10-12日, 京都
11. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 伊藤能清, 宇都宮與: 成人T細胞白血病(ATL)に対してさい帯血移植施行後に COVID-19 を併発した1例. 第9回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023年11月10-12日, 京都
12. 米倉健太郎, 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: 筋肉内腫瘤を呈した菌状息肉症. 第195回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2023年12月3日, 鹿児島
13. 武田浩一郎, 玉井真理子, 佐藤浩子, 米倉健太郎, 二之宮謙次郎, 田代幸恵: Sweat Gland Carcinoma with Neuroendocrine Differentiation (SCAND) の1例. 第195回日本皮膚科学会鹿児島地方会, 2023年12月3日, 鹿児島
14. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清: 当院におけるヒト骨髄由来間葉系幹細胞テムセル HS 注の使用経験. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月21-23日, 東京

## ●輸血管理部

<国内>

1. 中野伸亮, 高塚祥芝, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 大山利栄, 佐々木謙介, 藤野聡司, 米倉健太郎, 竹内昇吾, 伊藤能清, 宇都宮與: 今村総合病院における ATL に対する同種造血幹細胞移植の変遷. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2023 年 2 月 11 日, 名古屋
2. 宮園卓宜, 中島彩乃, 藤山裕輝, 新屋果蓮, 牧野桃子, 兼石知香, 久保友恵, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與, 帆北修一: 当院におけるヒト骨髄由来間葉系幹細胞テムセル HS 注の使用経験. 第 71 回日本輸血・細胞治療学会学術総会, 2023 年 5 月 12 日, 千葉
3. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 伊藤能清, 宇都宮與: 成人 T 細胞白血病 (ATL) に対してさい帯血移植施行後に COVID-19 を併発した 1 例. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023 年 11 月 12 日, 京都
4. 井上彩乃, 宮園卓宜, 藤山裕輝, 久保友恵, 松山淳史, 小林果蓮, 牧野桃子, 兼石知香, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與, 帆北修一: 抗 CD38 抗体治療症例の当院における管理体制構築について (5 年間の取り組み). 日本輸血・細胞治療学会九州支部会 第 70 回総会・第 91 回例会, 2023 年 11 月 25 日, 鹿児島
5. 兼石知香, 宮園卓宜, 小林果蓮, 牧野桃子, 井上彩乃, 藤山裕輝, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與, 帆北修一: 適正で安全な外来輸血業務の構築について ~ 「輸血覚え書き」を用いて~. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会 第 70 回総会・第 91 回例会, 2023 年 11 月 25 日, 鹿児島
6. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 米倉健太郎, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清: 当院における未治療びまん大細胞 B 細胞性リンパ腫 (DLBCL) に対する Pola-R-CHP 療法の使用経験. 第 21 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2024 年 2 月 22 日, 名古屋
7. 小田原淳, 斎藤啓太, 中野伸亮, 徳永雅仁, 藤野聡司, 宮園卓宜, 宇都宮與, 伊藤能清: VEN/AZA 療法後の同種造血幹細胞移植の有効性と安全性の検証. 第 46 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024 年 3 月 22 日, 東京
8. 宮園卓宜, 藤野聡司, 小田原淳, 中野伸亮, 徳永雅仁, 田代幸恵, 宇都宮與, 伊藤能清: 当院におけるヒト骨髄由来間葉系幹細胞テムセル HS 注の使用経験. 第 46 回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024 年 3 月 23 日, 東京

## ●脳神経内科

<国内>

1. 浜田恭輔, 町田明理, 牧野隆太郎, 森拓馬, 山下ひとみ, 有水琢朗, 谷口歩, 濱田陸三, 神田直昭: 内頸動脈無形成を合併した後交通動脈閉塞症例に対し機械的血栓回収療法を施行した 1 例. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会 (STROKE2023), 2023 年 3 月 16-18 日, 横浜 (Web)
2. 中山万莉, 山下ひとみ, 久保純平, 浜田恭輔, 有水琢朗, 神田直昭: 救急外来でのベッドサイドエコーで腕頭動脈に可動性プラークが指摘された右脳梗塞の 1 例. 第 344 回日本内科学会九州地方会, 2024 年 1 月 27 日, 福岡 (Web)
3. 久保純平: Duropathy に伴う脳表ヘモジデリン沈着症の 1 例. 第 243 回日本神経学会九州地方会, 2024 年 3 月 2 日, 福岡 (Web)

## ●循環器内科

<国内>

1. 肥後建樹郎, 伊比隆輔, 立志公史郎, 鮫島光平, 大石充: 透析患者の心血管死予防における  $\beta$  遮断薬に関する考察: 冠動脈 CT 時のランジオロール投与に対する反応性の比較に関する検討. 第 59 回日本循環器病予防学会学術集会, 2023 年 6 月 3-4 日, 鹿児島
2. 伊比隆輔, 肥後建樹郎, 立志公史郎, 鮫島光平, 大石充: COVID-19 感染後に小腸出血と肺塞栓症・深部静脈血栓症を併発し治療に難渋した抗リン脂質抗体症候群の 1 例. 第 134 回日本循環器学会九州地方会, 2023 年 6 月 24 日, 熊本
3. 肥後建樹郎, 伊比隆輔, 立志公史郎, 川畑孟子, 大石充: 肺塞栓に対する抗凝固療法中に無症候性前立腺出血を来した一例. 第 342 回日本内科学会九州地方会, 2023 年 8 月 5 日, 佐賀

4. 立志公史郎, 肥後建樹郎, 伊比隆輔, 川畑孟子, 大石充: MRA の効果を可視化し得た OptiVol® 搭載ペースメーカー移植後の高齢心不全患者の一例. 第 71 回日本心臓病学会学術集会, 2023 年 9 月 8-10 日, 東京
5. 肥後建樹郎, 伊比隆輔, 立志公史郎, 川畑孟子, 大石充: 穿通性粥状硬化性潰瘍に Intramural Hematoma を合併した一例. 第 135 回日本循環器学会九州地方会, 2023 年 12 月 2 日, 福岡

## ●消化器内科

<国内>

1. 山口天慶, 軸屋賢一, 那須雄一郎, 堀剛, 坪内博仁, 井戸章雄: S 状結腸腹膜垂による絞扼性イレウスの一例. 第 121 回日本消化器病学会九州支部例会, 2023 年 5 月 12 日, 福岡
2. 寺田芳寛, 藤野悠介, 坂江貴弘, 寄山敏男: Pembrolizumab が奏功している MSI-High 切除不能肝内胆管癌の 1 例. 第 121 回日本消化器病学会九州支部例会, 2023 年 5 月 12 日, 福岡
3. 軸屋賢一, 那須雄一郎, 堀剛, 坪内博仁, 井戸章雄: 大腸 ESD における RDI 併用の有用性について. 第 115 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会, 2023 年 5 月 13 日, 福岡
4. 山口天慶, 橋口正史, 玉井努, 堀剛, 坪内博仁, 井戸章雄: 多発性骨髄腫による高アンモニア血症をきたした C 型肝炎硬変の 1 例. 第 59 回日本肝臓学会総会, 2023 年 6 月 15 日, 奈良

## ●スポーツ整形外科

<国際>

1. Kaieda H: Factors affecting clinical results of re-tear cases after arthroscopic repair of large and massive rotator cuff tears. ISAKOS CONGRESS 2023, 19th June 2023, City of Boston, USA

<国内>

1. 上菌直弘: 当院における股関節唇損傷の治療経験. 第 29 回鹿児島スポーツ医学研究会, 2023 年 3 月 11 日, 鹿児島
2. 上菌直弘: ACL 断裂に合併した PLC 損傷症例の経験. 第 72 回鹿児島整形外科集談会, 2023 年 4 月 15 日, 鹿児島
3. 前園恵慈, 上菌直弘, 海江田英泰, 福島佳織: 小侵襲 BTB グラフト採取法 (KOH BTB Harvester) による ACL 再建術における膝蓋骨採取部の骨形成状態と膝前方症状の検討. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会, 2023 年 6 月 29 日 -7 月 1 日, 広島
4. 海江田英泰: Outcomes of Reverse Shoulder Arthroplasty. 第 50 回日本肩関節学会学術集会, 2023 年 10 月 13 日, 東京
5. 上菌直弘: 高位脛骨骨切り術中に急性動脈閉塞を生じた一例. 第 73 回鹿児島整形外科集談会, 2023 年 11 月 11 日, 鹿児島
6. 前園恵慈: 足舟状骨疲労骨折の骨折部位・骨折型と無血管領域との関係についての検討. 第 34 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2023 年 11 月 11-12 日, 横浜

## ●救急・総合内科

<国内>

1. 白石大瑛, 永山宗太郎, 西村時紘, 畠中成己, 市來征仁, 西垂水和隆: インフルエンザ後の肺炎球菌性膿胸にも関わらず漏出性胸水であった非代償性肝硬変の 1 例. 第 341 回日本内科学会九州地方会, 2023 年 5 月 27 日, 北九州 (Web)
2. 鶴本亜衣, 尾ノ上祐大, 上原悠也, 伊藤加菜絵, 大塚暢, 市來征仁, 西垂水和隆: 側頭部・眼瞼浮腫を呈した巨細胞性動脈炎の 1 例. 第 341 回日本内科学会九州地方会, 2023 年 5 月 27 日, 北九州 (Web)
3. 加倉健太郎, 高橋佑輔, 田中幸介, 古川龍太郎, 松坂俊, 宮崎万友子, 細川智美, 柏木秀行: 胆管細胞癌に対して他県で化学療法を受け継続困難となり、離島での在宅導入にむけ調整を開始したが間に合わず逝去された 1 例. 日本緩和医療学会 第 5 回九州支部学術大会, 2023 年 11 月 3 日, 鹿児島

4. 石川そでみ, 加倉健太郎, 伊藤加菜絵, 市來征仁, 西垂水和隆: サイトメガロウイルス初感染を契機に発症した Cogan 症候群の 1 例. 第 344 回日本内科学会九州地方会, 2024 年 1 月 27 日, 福岡

## ●小児科

<国内>

1. 徳永美菜子, 関祐子, 堀口達史, 三浦希和子, 柿本令奈, 森田智, 溝田美智代, 蘇原映誠, 内田信一: 低カリウム血症と濃厚な高血圧の家族歴から Liddle 症候群の診断に至った親子例. 第 65 回日本内分泌学会学術集会, 2023 年 6 月 1 日, 名古屋 (Web)
2. 徳永美菜子, 溝田美智代: プロスマブを開始した X 連鎖性低リン血症性くる病の同胞例. 第 183 回日本小児科学会鹿児島地方会, 2023 年 10 月 15 日, 鹿児島
3. 徳永美菜子, 溝田美智代: burosumab を開始した X 連鎖性低リン血症性くる病の同胞例 - 乳児期治療開始の必要性の検討も含めて -. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会, 2023 年 10 月 19 日, 埼玉

<国内><共同演者>

1. 堀口達史, 関祐子, 三浦希和子, 徳永美菜子, 柿本令奈, 森田智, 溝田美智代, 井口智生, 井手迫俊彦, 大西峻, 太崎友紀子, 池田敏郎, 北菌育美, 和田恭子: 多職種連携により性別決定した卵精巢性分化疾患 46,XX/46,XY の 1 例. 第 6 回日本小児内分泌学会九州・沖縄地方会, 2023 年 2 月 11 日, 福岡
2. 鎌田哲郎, 郡山暢之, 堀之内秀治, 加治屋昌子, 橋口恭博, 溝田美智代, 上山教夫, 江川伸一郎, 大勝秀樹, 出口尚寿, 西尾善彦: 鹿児島市域糖尿病医療連携体制 9 年の歩み. 第 66 回日本糖尿病学会学術集会, 2023 年 5 月 11 日, 鹿児島
3. 神村未来, 関祐子, 柿本令奈, 堀口達史, 三浦希和子, 徳永美菜子, 森田智, 岡元康裕: 尿路結石を合併した小児 Cushing 病. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会, 2023 年 10 月 19 日, 埼玉
4. 阿部裕樹, 浦上達彦, 鈴木潤一, 森田智, 荒木まり子, 溝田美智代, 佐々木悟郎, 森潤, 立松寿, 峯佑介, 吉田圭, 菊池透: 日本人小児 1 型糖尿病におけるインスリン頻回注射法による夜間低血糖の検討. 第 56 回日本小児内分泌学会学術集会, 2023 年 10 月 19 日, 埼玉

## ●眼科

<国際>

1. Doi N, Mizushima Y, Yonekura K, Ito K: Purtscher-like retinopathy in adult-onset Still's disease which caused acute and fatal brain edema. The 23rd Euretina Congress, 5-8 October 2023, Amsterdam, The Netherlands

## ●脳神経外科

<国内>

1. 渋谷望美: 乳児期早期に縫合切除術とヘルメット治療を行った Apert 症候群の 1 例. 第 51 回日本小児神経外科学会, 2023 年 6 月 9-10 日, 宇都宮

## ●歯科口腔外科

<国内><共同演者>

1. 新田哲也, 坂元亮一, 山城康太, 平原成浩, 尾林莉咲, 西慶太郎, 上栗裕平, 上川善昭: 誤飲した有鉤両側遊離端義歯を頸部外切開と内視鏡併用で摘出した 1 例. 第 77 回日本口腔科学会学術集会, 2023 年 5 月 13 日, 岡山

## ●七波クリニック

<国内>

1. 上久保定一郎：抗VEGF抗体薬眼内注射がDKD患者腎予後に与える影響。第66回日本糖尿病学会年次学術集会，2023年5月11-13日，鹿児島

## ●かごしまオハナクリニック

<国内> <共同演者>

1. 藤原和成，鋪野紀好，宮澤麻子，八島駿，横谷省治，横山大輔，渡部健，今江章宏，大塚勇輝，金弘子，菅野耀介：専攻医支援の共有と展開～特色あるグッドプラクティスを語る。日本プライマリ・ケア連合学会第14回学術大会，2023年5月12-14日，愛知
2. 鳥巢裕一，横山大輔，渡部なつき，川口湧水，金弘子，本村和久：ポートフォリオフェスティバル。日本プライマリ・ケア連合学会第18回九州支部総会・学術大会（ワークショップ），2024年1月20-21日，宮崎

## ●看護部

<国内>

1. 有村美保，柳田貴子：患者へ統一した看護を提供するための取り組み～クリニカルパスの有効的な活用を目指して～。第25回日本医療マネジメント学会，2023年6月22-24日，横浜
2. 中村倫丈：クリティカルケア領域における特定行為の実践報告。第19回日本クリティカル看護学会学術集会，2023年7月1-2日，東京
3. 越口晋伍，中村倫丈：看護を語る会をとおして見えてきたICUの看護観。第19回日本クリティカル看護学会学術集会，2023年7月1-2日，東京
4. 入佐つぐみ，中村倫丈：ICUにおける人工呼吸患者に対する早期リハビリ。第19回日本クリティカル看護学会学術集会，2023年7月1-2日，東京
5. 西森識，西方マリ子，上山テルヨ，西垂水和隆：訪問診療における特定行為実践が及ぼす医師のタスクシフト/シェアへの影響。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
6. 前田麻由美：内服薬ダブルチェックに関する業務削減への取り組み。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
7. 平川あゆみ，小濱奈々，中村倫丈，西村時紘，西垂水和隆：院内死亡例から読み解く～Medical Emergency Teamの活動効果～。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
8. 武加奈子，浜崎彩，中村久美：rt-PA・血栓回収療法における時間短縮に向けた血栓回収チームの取り組み～看護師のrt-PA・血栓回収術に対する不安軽減に向けて～。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
9. 清藤樹乃，南由希美，石原愛梨，上山りえ，池田清夏，中野伸亮，伊藤能清：同種造血幹細胞移植後患者の復職状況の実態調査。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
10. 馬場帆乃香，永岩沙緒梨，平田瑠佳，横山優香，平川あゆみ，柏木美恵子，福留由香利，西垂水和隆，肥後健樹郎，佐藤浩子：急性期病棟におけるプロペト軟膏を使用したIAD予防効果。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
11. 小窪あゆみ，嘉村早苗，中村倫丈，入佐つぐみ：当院ICUにおける人工呼吸器管理患者に対する早期リハビリテーションの現状～質問紙調査により見えてきた課題～。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
12. 平川あゆみ，酒井亜希，大六野由樹，松山郁子，松山日実子：新人看護師成長パス改良に関する報告。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
13. 前原海帆，富田有美，有川真央，中村貴子：術後訪問実施の定着に向けた取り組み～術後訪問用紙を用いて～。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島
14. 榊田優也，越口晋伍，嘉村早苗，中村倫丈：看護を語る会をとおして見えてきたICUの看護観。第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月1日，鹿児島

15. 八木笑奈, 永福清香, 長野なつ子: A 病院女性看護師の月経前症候群のセルフケアを業務への影響の比較～リーフレットによるセルフケアの促進(第一報)～. 第3回慈愛会学会学術集会, 2023年7月1日, 鹿児島
16. 中村倫丈, 嘉村早苗, 西垂水和隆: クリティカルケア領域における特定行為の実践報告～7か月間の実践状況の振り返り～. 第3回慈愛会学会学術集会, 2023年7月1日, 鹿児島
17. 松山日実子, 松山郁子: 臨床教員配置による効果～新人看護師の不安の軽減と離職低下の一助になりえたか～. 第54回日本看護学会学術集会, 2023年11月8-9日, 横浜
18. 渡邊喜美代, 大久保珠里: 透析センター内の防災への取り組み. 日本腎不全学会, 2023年11月18-19日, 仙台
19. 平川あゆみ: 院内迅速対応システムの活動効果. 第25回日本救急学会学術集会, 2023年11月24-25日, 長崎
20. 小林果蓮, 牧野桃子, 宮園卓宜: 外来における輸血手順マニュアル. 第70回日本輸血・細胞治療学会九州支部会, 2023年11月25日, 鹿児島
21. 上野志織, 嘉村早苗, 中村倫丈: 院内迅速対応システム(RRS)について. 第51回日本集中医療学会, 2024年3月13-16日, 札幌
22. 萩原千聖, 飯田ひかり, 大田夏鈴, 永池結菜, 深川友里, 上山りえ, 牧野桃子, 中野伸亮, 伊藤能清: 同種移植患者の移植に対するイメージの相違. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会, 2024年3月22-23日, 東京

## ●リハビリテーション部 理学療法士(一般総合)

<国内>

1. 武清孝弘, 堂園浩一郎, 岡村敏之, 中島徳久, 奈良聡一郎, 吉田一成, 堂園充代, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與: 同種造血幹細胞移植患者のSF-36における移植前身体機能スコアの特徴. 第6回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会, 2023年10月14-15日, 福島
2. 宮島康輔, 宮ヶ原卓, 濱田大輔, 浜田香穂麗, 鉦之原希志, 吉田一成, 堂園浩一郎: 外傷性脊髄損傷後、Overdose等でADL低下を繰り返し難渋したが歩行再獲得に至った症例. 第43回回復期リハビリテーション病棟研究大会in熊本, 2024年3月8-9日, 熊本
3. 武清孝弘, 堂園浩一郎, 岡村敏之, 中島徳久, 奈良聡一郎, 吉田一成, 堂園充代, 徳永雅仁, 宮園卓宜, 中野伸亮, 伊藤能清, 宇都宮與: 同種造血幹細胞移植患者のSF-36における身体機能スコアの経時的変化. 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会, 2024年3月21-23日, 東京

## ●リハビリテーション部 理学療法士(スポーツ整形)

<国内>

1. 岡弥津希, 吉田研吾, 轟原与織, 鮫島智志, 白尾泰宏, 濱里雄次郎: 鏡視下腱板修復術後患者における術後1年の他動肩関節可動域に影響する因子の検討. 第3回慈愛会学会学術集会, 2023年7月1日, 鹿児島
2. 岡弥津希, 吉田研吾, 轟原与織, 鮫島智志, 白尾泰宏, 濱里雄次郎: 鏡視下腱板修復術後患者における術後1年の他動肩関節可動域に影響する因子の検討. 第11回日本運動器理学療法学会学術大会, 2023年10月15日, 福岡
3. 吉田研吾, 白尾泰宏, 福島佳織, 濱里雄次郎: 当院における骨付き膝蓋腱を用いた膝前十字靭帯再建術後の膝筋力値～性別・年代別での比較～. 九州理学療法士学術大会2023in熊本, 2023年11月25日, 熊本
4. 吉田研吾, 白尾泰宏, 海江田英泰, 福島佳織: 骨付き膝蓋腱と膝屈筋腱を用いた膝前十字靭帯再建術後における膝筋力値の比較～同性同年代間での検証～. 第35回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2023年12月9日, 福岡
5. 岡弥津希, 吉田研吾, 白尾泰宏, 福島佳織, 海江田英泰: 腱板断裂患者における上腕二頭筋長頭腱病変の合併率と関節可動域・疼痛の関連について. 第37回鹿児島県理学療法士学会, 2024年2月23日, 鹿児島

## ●リハビリテーション部 作業療法士

<国内>

1. 濱田大輔, 新福友果子: 回復期における脳卒中重度片麻痺患者に対する自宅退院に向けた作業療法. 第3回慈愛会学会学術集会, 2023年7月1日, 鹿児島

## ●リハビリテーション部 言語聴覚士

<国内>

1. 鮫島悠子, 園田拓史, 松元龍, 梶原良太, 黒肱知弘, 浜田香穂麗: 超少子・超高齢化社会の到来を見据えた採用広報の試み. 第3回慈愛会学会学術集会, 2023年7月1日, 鹿児島
2. 田中光, 丸岡由佳, 堂園浩一朗: 重度嚥下障害患者に対する完全側臥位法での代償の有効性について. 第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学術大会, 2023年9月3日, 横浜
3. 丸岡由佳, 田中光, 松元龍, 堂園浩一朗: 脳卒中急性期における嚥下評価と呼吸器疾患の関連性. 第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学術大会, 2023年9月3日, 横浜

## ●薬剤部

<国内>

1. 鎌田春紫, 國師奈緒美, 志氣成, 富永咲季, 橋本直美, 松山淳史, 鬼丸俊司: 周術期薬剤管理加算算定に向けた業務展開について. 第6回鹿児島県病院薬剤師会学術大会, 2023年2月11日, 鹿児島
2. 西元寺慧一, 阿部竜也, 橋本直美, 松山淳史, 鬼丸俊司: 転院時処方日数調整による病院負担軽減効果について. 第3回慈愛会学会学術集会, 2023年7月1日, 鹿児島
3. 西元寺慧一, 橋本直美, 松山淳史, 鬼丸俊司: 転院時処方日数調整に対する薬剤師介入効果. 第7回鹿児島県病院薬剤師会学術大会, 2024年1月27日, 鹿児島

## ●診療放射線部

<国際>

1. Ichiki M, Ozawa S, Makino T, Takayama D, Uchiyama N, Nishida H, Yonekura K, Dokiya T: Treatment planning evaluation for total skin irradiation using helical tomotherapy. American Association of Physicists in Medicine 65th Annual Meeting&Exhibition(AAPM2023), 23-27 July 2023, Houston, USA

<国内>

1. 養田辰則, 西田崇友, 水流彩友美, 小林晃也, 上川翔美, 馬場隆行: プロテクターの品質管理を行い被ばく低減に係る安全管理につなげる試み. 第3回慈愛会学会, 2023年7月1日, 鹿児島
2. 若松沙樹, 前田裕介: MRI 検査における入室前の安全確認への取り組み. 第3回慈愛会学会, 2023年7月1日, 鹿児島
3. Ichiki M, Ozawa S, Makino T, Takayama D, Megumi T: Evaluation of method for obtaining CT values when creating an Image value to density table using MVCT images. 第126回日本医学物理学会学術大会, 2023年9月15-17日, 広島
4. 馬場隆行: 角度計測テンプレートと補助具を活用した高精度手関節 TRUE LAT 撮影法. 第39回日本診療放射線技師学術大会, 2023年9月29日-10月1日, 熊本
5. 馬場隆行: 角度計測テンプレートと補助具を活用した高精度踵骨軸位撮影法. 第18回九州放射線医療技師学術大会, 2023年11月2-4日, 大分

## ●臨床検査部

<国内>

1. 井上彩乃, 藤山裕輝: RhD 陰性血輸血後に抗Dを産生したRhD 陰性患者症例. 第18回鹿児島県医学検査学会, 2023年2月11日, 鹿児島
2. 櫻井千鶴: 当院における肺拡散能力検査の現状と実態. 第3回慈愛会学会学術集会, 2023年7月1日, 鹿児島

- 井上彩乃, 藤山裕輝, 久保友恵: 抗 CD38 抗体治療症例の当院における管理体制構築について (5 年間の取り組み). 日本輸血・細胞治療学会九州支部会 第 70 回総会・第 91 回例会, 2023 年 11 月 25 日, 鹿児島

### ●臨床工学部

<国内>

- 高岡大: ANCA 関連 RPGN に対し PE、CHDF を行った症例. 第 29 回日本アフェレシス学会九州地方会, 2023 年 4 月 16 日, 鹿児島
- 川井田季睦: レオカーナ使用時の当院でのヘパリン使用量の報告. 第 68 回日本透析医学会学術集会, 2023 年 6 月 16-18 日, 神戸

### ●管理栄養部

<国内>

- 中村ひとみ: 食種運用の見直しについて. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月 1 日, 鹿児島

### ●事務部

<国内>

- 鈴木大輔, 有島尚亮: 品質向上会議の実績報告とその効果について. 第 25 回日本医療マネジメント学会学術総会, 2023 年 6 月 23-24 日, 横浜

### ●診療情報管理室

<国内>

- 前田雄介: 診療情報管理士キャリアラダーの構築. 第 49 回日本診療情報管理学会学術大会, 2023 年 9 月 14-15 日, 青森

### ●総務課

<国内>

- 男澤美和: 医療機関へのカウンセラー採用による職員支援についてー精神的支援による働き方改革への提言ー. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月 1 日, 鹿児島

### ●医事課

<国内>

- 吉永聖子, 黒岩妃都美: 職員診療費の未収金改修に対する取り組み報告～職員への通知方法変更による生産性向上の事例から～. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月 1 日, 鹿児島

### ●医師事務補助課

<国内>

- 大迫真由美, 日高奈津美, 上栗明郁, 東雅美: コミュニケーションツールの作成とその成果について～ウイズコロナ時代の新たな取り組み～. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月 1 日, 鹿児島
- 東雅美, 大迫真由美, 日高奈津美, 上栗明郁: 共通マニュアル「虎の巻」創刊～DA にとって最強の 1 冊～. 日本医師事務作業補助者研究会 第 12 回全国学術集会, 2023 年 10 月 20 日, 大阪



### ●血液内科

1. 宮園卓宜：濾胞性リンパ腫に対する治療戦略の現状と課題. Follicular Lymphoma Seminar, 2023年1月19日, Web
2. 宇都宮與：ATLの現状と今後. 鹿児島県令和4年度 HTLV-1 対策講演会, 2023年1月22日, 鹿児島 (Web)
3. 佐々木謙介：移植後再発 AML への FLT3 阻害剤の使用を考える. Gilteritinib Seminar ～ Targeted therapy を考える～, 2023年1月26日, 鹿児島
4. 中野伸亮：ATL に対する治療を考える. Hematology Expert Web Seminar in Kagoshima, 2023年1月30日, 鹿児島
5. 中野伸亮：ATL 領域における『移植』関連の話題. ATL に関する社内研修会, 2023年3月1日, 鹿児島
6. 中野伸亮：ATL に対する治療を考える. 第47回久留米造血器腫瘍研究会, 2023年3月3日, 久留米
7. 宇都宮與：Opening Remarks. ATL Web Forum, 2023年3月10日, 鹿児島
8. 中野伸亮：ATL の治療. 令和5年5月二水会, 2023年5月17日, 都城
9. 宮園卓宜：心不全治療中に COVID-19 を併発した高齢 CML. CML Expert Seminar in 九州・中国, 2023年5月22日, 鹿児島
10. 伊藤能清：Ph+ALL 治療の進歩～FBMTG・JSCT ALL/MRD 研究の変遷. Otsuka 九州中四国 Web セミナー～Ph+ALL 治療の UP TO DATE～, 2023年7月14日, 鹿児島 (Web)
11. 中野伸亮：CML の最新知見および血液専門クリニックの可能性. 都城地域連携血液講演会, 2023年9月7日, 都城
12. 伊藤能清：Ph+ALL 治療の進歩～今後の課題. 第8回 Otsuka 造血細胞移植関連 Web セミナー, 2023年9月12日, Web
13. 小田原淳：当院における FLT3 阻害剤の使用経験. AML Web Seminar, 2023年9月20日, 鹿児島
14. 宮園卓宜, 牧野桃子：当院における AYA 世代のがん・生殖医療について. がん・生殖医療に関するオンラインミーティング KAGOF-net, 2023年11月14日, 鹿児島 (Web)
15. 宇都宮與：南九州に多い成人 T 細胞白血病ってどんな病気. みやざき骨髄バンク推進連絡会議 設立 20 周年記念事業 医療講演会&想いをつなぐコンサート, 2023年11月19日, 都城
16. 宇都宮與：ATL 治療開発と最新の話. 第2回湘南血液カンファレンス, 2023年12月1日, 神奈川
17. 宮園卓宜, 牧野桃子：当院における AYA 世代のがん・生殖医療に関する現状. 2024年1月20日, 第8回鹿児島 SCT 研究会, 鹿児島
18. 宮園卓宜：血液製剤使用適正化の推進について. 第64回鹿児島県血液対策推進協議会, 2024年1月29日, 鹿児島
19. 宇都宮與：HTLV-1 キャリアの方への対応. 岩手県 HTLV-1 医療従事者研修会, 2024年2月10日, 岩手
20. 伊藤能清：血液疾患診療の現在. 血液連携の会, 2024年2月16日, 奄美
21. 宇都宮與：南九州に多い成人 T 細胞白血病について. 骨髄バンク支援「命をつなぐ」コンサート つなげる～つなぐ～つながる 医療講演会, 2024年2月18日, 鹿児島
22. 中野伸亮：新規薬剤時代の ATL 治療、および血液専門クリニックの可能性. 大隅・諸県地区 リンパ腫セミナー, 2024年2月22日, 都城
23. 宇都宮與：ATL (成人 T 細胞白血病) のこと. 鹿児島県令和5年度 HTLV-1 対策講演会, 2024年2月25日, 鹿児島
24. 中野伸亮：多発性骨髄腫に関する話題、および血液専門クリニックの可能性. 都城血液疾患地域連携セミナー, 2024年2月29日, 都城
25. 中野伸亮：新規薬剤時代の ATL 治療、および血液専門クリニックの可能性. ATL ×がん疼痛 Web seminar, 2024年3月2日, 厚木
26. 宮園卓宜：肝類洞閉塞症候群の治療について. MR を対象とした社内研修, 2024年3月7日, 鹿児島
27. 宇都宮與：高齢者が白血病と言われたら. 骨髄バンク支援「命をつなぐ」コンサート つなげる～つなぐ～つながる 医療講演会, 2024年3月20日, 鹿児島

#### < 研究班会議発表 >

1. 宮園卓宜：成人 T 細胞白血病・リンパ腫を対象としたウィルス抗原を標的とする樹状細胞ワクチン療法多施設共同非盲検無作為比較試験 (第 II 相試験) 症例検討. ATL-DC-101 医師主導治験班会議, 2023年7月22日, 福岡

- 
2. 宇都宮 興：Pathogenesis and treatment in Japan [ATL]. Japan-Australia HTLV-1 research collaborations, 13th Feb 2024, Melbourne

## ●臨床研究センター

1. 宇都宮 興：ATL の現状と今後. 鹿児島県令和 4 年度 HTLV-1 対策講演会, 2023 年 1 月 22 日, 鹿児島
2. 宇都宮 興：HTLV-1 キャリアの方への対応. 岩手県 HTLV-1 医療従事者研修会, 2024 年 2 月 10 日, 岩手
3. 宇都宮 興：ATL (成人 T 細胞白血病) のこと. 鹿児島県令和 5 年度 HTLV-1 対策講演会, 2024 年 2 月 25 日, 鹿児島

## ●外科・消化器外科

1. 田辺 寛：当院における大腸がん治療. 第 6 回消化器がん治療カンファレンス, 2023 年 10 月 11 日, 鹿児島

## ●皮膚科

1. 米倉健太郎：今村総合病院における皮膚リンパ腫・ATL の治療. 第 4 回皮膚リンパ腫症例検討会. 2023 年 1 月 21 日, Web
2. 米倉健太郎：皮膚 T 細胞リンパ腫の治療戦略 ～デニロイキン ジフチトクスの位置づけを考える～. 第 2 回 CTCL Meet The Expert, 2023 年 2 月 16 日, Web
3. 米倉健太郎：JAK 阻害薬・バイオ時代のアトピー性皮膚炎治療と皮膚リンパ腫について. 第 4 回鹿児島皮膚腫瘍研究会, 2023 年 2 月 22 日, 鹿児島 (Web)
4. 米倉健太郎：乾癬治療の当科における病院連携 ～鑑別診断、フォローアップを含めて～. 第 1 回鹿児島県皮膚科懇談会, 2023 年 3 月 15 日, Web
5. 米倉健太郎：アトピー性皮膚炎内服治療の出口戦略. AD 治療講演会～出口戦略を見据えた新しいアトピー性皮膚炎治療の再考～, 2023 年 5 月 24 日, Web
6. 米倉健太郎：急性期 GPP 診療におけるスベビゴの適正使用に関して. GPP Web Seminar, 2023 年 6 月 7 日, 鹿児島 (Web)
7. 米倉健太郎：乾癬治療アップデート～Taltz のエビデンスと添加剤変更品の可能性～. Taltz Focus Week Web Conference, 2023 年 6 月 21 日, Web
8. 米倉健太郎：膿疱性乾癬治療を考える ～IL36 阻害の臨床的意義とは～. これからの膿疱性乾癬治療を考える会, 2023 年 6 月 28 日, Web
9. 米倉健太郎：乾癬治療の最新の話題 ～WJPR の研究から～. Abbvie Luncheon Seminar, 2023 年 7 月 6 日, Web
10. 米倉健太郎：当院における乾癬診療の実際 ～WJPR のデータも含めて～. UCB Psoriasis Web Seminar in 大分, 2023 年 7 月 21 日, 大分 (Web)
11. 米倉健太郎：当科における掌蹠膿疱症に対する IL-23p19 抗体製剤の使用経験. 炎症性皮膚疾患セミナー, 2023 年 7 月 26 日, Web
12. 米倉健太郎：CTCL 治療 up-to-data ～デニロイキン ジフチトクスを含めて～. 皮膚 T 細胞リンパ腫治療を考える会, 2023 年 9 月 11 日, 埼玉 (Web)
13. 米倉健太郎：ATL 治療の最新情報とハイヤスタの使用経験. Dermatologie T-Cell lymphoma conference @ kyushu, 2023 年 9 月 27 日, 鹿児島 (Web)
14. 米倉健太郎：当院における乾癬診療の実際 ～WJPR のデータも含めて～. UCB Psoriasis Web Seminar 鹿児島, 2023 年 9 月 28 日, 鹿児島 (Web)
15. 米倉健太郎：スペソリマブの使用で奏功した 1 例. 膿疱性乾癬治療セミナー in 鹿児島, 2023 年 10 月 11 日, Web
16. 米倉健太郎：私の乾癬治療 ～尋常性乾癬におけるドボベット® フォームの使用経験～. 鹿児島県皮膚科医部会学術集会, 2023 年 10 月 14 日, 鹿児島 (Web)

17. 米倉健太郎：Taltz が貢献できる患者像を再考する ～豊富なエビデンスから考えられるものとは？～. Taltz Focus Week Web Conference, 2023 年 10 月 19 日, Web
18. 米倉健太郎：GPP の診断の診断と治療 スベピゴ使用経験を含めて. 八代の膿疱性乾癬治療を考える会, 2023 年 11 月 7 日, 熊本
19. 米倉健太郎：皮膚 T 細胞リンパ腫の診断と治療の最新情報. 愛知県皮膚科医会例会, 2023 年 11 月 11 日, 名古屋
20. 米倉健太郎：アトピー性皮膚炎における新規全身治療薬の位置付け. 鹿児島県皮膚科医部会学術講演会, 2023 年 11 月 15 日, 鹿児島 (Web)
21. 米倉健太郎：アトピー性皮膚炎とリンパ腫について. LEO Dermatology WEB Seminar, 2023 年 11 月 20 日, 福岡 (Web)
22. 米倉健太郎：当院における乾癬の治療について ～皮膚科医の立場から～. Psoriatic Disease Web Seminar from Kagoshima, 2023 年 11 月 22 日, Web
23. 米倉健太郎：乾癬治療の変遷 ～生物学的製剤を中心に～. 広がる選択肢 ～これからの乾癬治療を考える～, 2023 年 11 月 29 日, 鹿児島 (Web)
24. 米倉健太郎：GPP の診断の診断と治療 スベピゴ使用経験を含めて. 佐世保の膿疱性治療を考える会, 2023 年 12 月 5 日, Web
25. 米倉健太郎：アトピー性皮膚炎とリンパ腫について. LEO Dermatology WEB Seminar, 2023 年 12 月 13 日, Web
26. 米倉健太郎：実臨床下における膿疱性乾癬治療. これからの膿疱性乾癬治療セミナー, 2023 年 12 月 14 日, 北九州
27. 米倉健太郎：長期管理を視野に入れた GPP 治療戦略. スベピゴ全国講演会 2024, 2024 年 2 月 10 日, 東京
28. 米倉健太郎：アトピー性皮膚炎治療の最新情報と外用療法. 第 21 回 臨床に「薬だつ」研修会, 2024 年 2 月 16 日, 鹿児島 (Web)
29. 米倉健太郎：膿疱性乾癬治療の新たな展望 ～スベピゴ治療経験をもとに～. これからの膿疱性乾癬治療を考える会, 2024 年 2 月 21 日, Web
30. 米倉健太郎：乾癬の治療と全身疾患 (Psoriatic Disease) としての病態について. チームで取り組む乾癬治療フォーラム, 2024 年 2 月 28 日, 鹿児島
31. 米倉健太郎：これからの膿疱性乾癬治療の展望. スペソリマブを用いた膿疱性乾癬治療の実際, 2024 年 3 月 22 日, Web
32. 米倉健太郎：アドトラザーで治療している 1 例. LEO Dermatology Seminar, 2024 年 3 月 27 日, 福岡
33. 米倉健太郎：今村総合病院における乾癬治療～ HTLV- キャリアのデータを含めて. 第 5 回鹿児島皮膚腫瘍研究会, 2024 年 3 月 27 日, 鹿児島 (Web)

## ●輸血管理部

1. 藤山裕輝：第 1 回大島地区・輸血細胞治療部門研修会, 2023 年 11 月 18-19 日, 奄美
2. 宮園卓宜：血液製剤使用適正化の推進について. 第 64 回鹿児島県血液対策推進協議会, 2024 年 1 月 29 日, 鹿児島
3. 藤山裕輝：安全で適切な輸血業務を実施するための当院での取り組み～ I & A 制度認証施設更新をふまえて、臨床検査技師の立場から～. 第 13 回令和 5 年度鹿児島県合同輸血療法懇話会, 2024 年 2 月 17 日, Web

## ●脳神経内科

1. 浜田恭輔：JSNET 専門医試験体験記. 20th KVIC (Kagoshima neuroVascular Intervention Conference), 2023 年 4 月 7 日, 鹿児島 (Web)
2. 有水琢朗：脂質異常症と脳卒中 脳卒中内科医の視点. KOWA Web Conference ～脳血管疾患患者における脂質治療戦略～, 2023 年 9 月 8 日, 鹿児島 (Web)
3. 神田直昭：教えてドクター！あなたと家族のために知って得する！脳卒中予防. 生活習慣病重症化予防教室, 2023 年 10 月 25 日, 鹿児島
4. 神田直昭：ガイドラインにおける抗血小板薬の位置付け. 脳卒中トータルケア Web セミナー, 2023 年 11 月 17 日, 熊本 (Web)

5. 有水琢朗：脳神経内科からのてんかん診療アプローチ。救急診療におけるてんかんを考える vol.2, 2024年3月4日, 鹿児島 (Web)
6. 神田直昭：ガイドラインにおける抗血小板薬の位置付け。脳疾患トータルケア, 2024年3月28日, 鹿児島 (Web)

## ●循環器内科

1. 肥後建樹郎：慢性心不全薬物療法について。循環器オンラインセミナー, 2023年5月15日, Web

## ●救急・総合内科

1. 伊藤加菜絵：当院におけるサリルマブ使用経験。Sarilumab Expert Seminar, 2023年2月6日, 鹿児島
2. 伊藤加菜絵：血管炎を見逃さないために～血管炎の早期診断のポイント・治療について～。血管炎治療 Update Webinar in 鹿児島, 2023年3月3日, 鹿児島
3. 伊藤加菜絵：当院における膠原病関連間質性肺障害の診療状況。CTD-ILD joint conference, 2023年4月15日, 福岡
4. 伊藤加菜絵：リウマチ内科から見た乾癬治療。PsA 診療 Web Seminar 鹿児島, 2023年7月6日, 鹿児島
5. 伊藤加菜絵：当院におけるサリルマブの使用経験。Echo Skill Up Webinar from 鹿児島, 2023年7月15日, 鹿児島
6. 伊藤加菜絵：発熱、関節痛、難治性皮疹で入院した症例。第51回鹿児島膠原病研究会, 2023年7月20日, 鹿児島
7. 伊藤加菜絵：関節リウマチの最新治療について。RA × IBD の診療連携を考える会 in 鹿児島, 2023年9月13日, 鹿児島
8. 伊藤加菜絵：知っておきたい関節リウマチの最新治療－薬物療法から合併症管理。第15回臨床に「薬だつ」研修会, 2023年10月3日, 鹿児島 (Web)
9. 伊藤加菜絵：リウマチにおける JAK 阻害薬の安全性。鹿児島県リンゾック適正使用委員会, 2023年11月17日, 鹿児島
10. 伊藤加菜絵：膠原病について正しく理解しよう－最新治療と日常生活の注意点について－。伊佐市医療講演会, 2023年11月18日, 鹿児島県伊佐市
11. 伊藤加菜絵：当院における PsA 診療の実際。シムジア乾癬適応追加4周年記念講演会, 2023年11月20日, Web
12. 伊藤加菜絵：当院における乾癬の治療について～リウマチ内科医の立場から～。Psoriatic Disease Web Seminar from Kagoshima, 2023年11月22日, Web
13. 伊藤加菜絵：当院における関節リウマチ診療の実際。WEB Seminar RA Treatment for WoCBA 2023, 2023年12月19日, Web
14. 伊藤加菜絵：Filgotinib の使いどころ－使用経験からの考察－。臨床医のための RA 治療戦略 in 鹿児島, 2024年2月9日, 鹿児島
15. 伊藤加菜絵：EGPA 治療の現状と課題。EGPA Management Conference in 鹿児島, 2024年2月17日, 鹿児島
16. 伊藤加菜絵：乾癬性関節炎治療における IL17 製剤の意義。ビンゼレックス適応追加記念講演会 皮膚科、リウマチ医から見た乾癬性関節炎治療戦略, 2024年3月27日, Web

## ●小児科

1. 溝田美智代：FGF23 関連低リン血症性くる病に burosumab を開始した2例。鹿児島県整形外科医会学術講演会, 2023年1月18日, 鹿児島
2. 神村未来, 関祐子, 柿本令奈, 高橋宣宏, 徳永美菜子, 三浦希和子, 堀口達史：単純性肥満として経過観察された Cushing 病。第4回鹿児島下垂体疾患セミナー, 2023年2月4日, 鹿児島
3. 溝田美智代：成長曲線・肥満曲線の活用 - マニュアル活用方法と始良地区パイロットスタディについて -。令和5年度第2回始良市養護教諭部会研修会, 2023年7月6日, 始良
4. 溝田美智代：成長曲線の作成と活用について。令和5年度新規採用養護教諭研修第3回校外研修, 2023年10月25日, 鹿児島

5. 徳永美菜子, 溝田美智代: 肝機能障害と高脂血症を契機に発見された萎縮性甲状腺炎の7歳女児. 第27回鹿児島小児内分泌研究会, 2023年11月11日, 鹿児島
6. 徳重沙樹, 関祐子, 徳永美菜子, 加藤嘉一, 柿元令奈, 森田智, 岡本康裕: 当院で経験した小児頭蓋咽頭腫のまとめ. 第5回鹿児島下垂体疾患セミナー, 2024年2月9日, 鹿児島
7. 徳永美菜子: 放ってはいけない! 子どもの肥満とやせ. 第2回今村総合病院講演会, 2024年3月22日, 垂水

## ●眼科

1. 土居範仁, 水島由香: 脳浮腫を引き起こした成人発症スティル病患者でプルチェル網膜症様所見を呈した1例. 第278回鹿児島眼科集談会, 2023年9月16日, 鹿児島
2. 土居範仁: 裂孔原性網膜剥離: 歴史と治療法の変遷. 第280回鹿児島眼科集談会, 2024年2月10日, 鹿児島
3. 土居範仁: 糖尿病網膜症に関する最新の話. 第11回鹿児島糖尿病合併症例研究会, 2024年2月29日, 鹿児島 (Web)

## ●スポーツ整形外科

1. 上菌直弘: 足関節捻挫. 第7回鹿児島骨折治療 starter seminar, 2023年7月15日, 鹿児島
2. 海江田英泰: 筋前進術を用いたARCR. 第5回鹿児島肩研究会, 2024年3月30日, 鹿児島

## ●麻酔科・ペインクリニック内科

1. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 ICLS. 令和5年度今村総合病院 ICLS, 2023年4月22日, 鹿児島 (Web)
2. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 ACLS. 令和5年度今村総合病院 ACLS, 2023年4月23日, 鹿児島 (Web)
3. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 ICLS. 令和5年度今村総合病院 ICLS, 2023年5月27日, 鹿児島 (Web)
4. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 ICLS. 令和5年度今村総合病院 ICLS, 2023年6月24日, 鹿児島 (Web)
5. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 BLS. 令和5年度今村総合病院 BLS, 2023年7月29日, 鹿児島 (Web)
6. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 ICLS. 令和5年度今村総合病院 ICLS, 2023年10月14日, 鹿児島 (Web)
7. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 BLS. 令和5年度今村総合病院 BLS, 2023年12月2日, 鹿児島 (Web)
8. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 ICLS. 令和5年度今村総合病院 ICLS, 2024年1月27日, 鹿児島 (Web)
9. 東美木子: 令和5年度今村総合病院 BLS. 令和5年度今村総合病院 BLS, 2024年3月31日, 鹿児島 (Web)

## ●産科・婦人科

1. 貴島佳子: 加齢に伴う女性のからだの変化について～閉経後・老年期に多い婦人科疾患とその対策法～. 第3回今村総合病院講演会, 2023年3月16日, 垂水
2. 貴島佳子: 女性のこころとからだの変化について～女性ホルモンの”ゆらぎ”を知り上手につきあおう～. 第2回 Petite ecole 女性のための小さな学校, 2023年6月25日, 垂水

## ●七波クリニック

1. 有村愛子: 糖尿病性神経障害の診療について. DiaMondSeminar in 鹿児島, 2023年11月9日, Web

## ●かごしまオハナクリニック

1. 林恒存：救急科講義「高齢者」。鹿児島県消防学校 救急科講義，2023年3月1日，鹿児島
2. 林恒存：認知症を理解する。鹿児島市認知症介護教室，2023年6月4日，鹿児島
3. 林恒存：認知症を理解する。鹿児島市認知症介護教室，2023年9月2日，鹿児島
4. 林恒存：総合診療体制の構築・在宅医療の実践。慈愛会任用候補者研修，2023年11月22日，鹿児島
5. 横山大輔：多疾患併存 / マルモの診かた。KOPe九州沖縄ポータルフォーラム勉強会，2024年1月17日，Web
6. 林恒存：救急科講義「高齢者」。鹿児島県消防学校 救急科講義，2024年3月11日，鹿児島

## ●看護部

1. 中村倫文：在宅におけるフィジカルアセスメント 入門編。鹿児島県看護協会訪問看護師養成研修「入門コース」，2023年6月16日，鹿児島
2. 中村倫文：在宅におけるフィジカルアセスメント 実践編。公益社団法人日本訪問看護財団訪問看護eラーニングを活用した訪問看護師養成講習会，2023年6月30日，鹿児島
3. 中村倫文：高齢者のフィジカルアセスメント。高齢者権利擁護推進事業における看護実務者研修会，2023年7月14日，鹿児島
4. 吉森みゆき：5類移行後の新型コロナウイルス対策について。令和5年度感染症対応実務研修会，2023年7月21日，Web
5. 福元優一：私は変わる。看護連盟フレッシュナース研修会，2023年7月22日，鹿児島
6. 吉森みゆき：看看連携 これからの感染対策。看護協会鹿児島地区「看看連携 これからの感染対策」，2023年8月5日，鹿児島
7. 中谷明実：労務管理の基礎知識。看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修，2023年8月21日，鹿児島
8. 中村倫文：フィジカルアセスメント研修。鹿児島県看護協会大島地区看護研修会，2023年9月16日，奄美
9. 浜辺恵里香：入退院支援における看護師の役割。鹿児島県看護協会 入退院支援（応用編），2023年10月13日，Web
10. 米澤美智代：褥瘡とスキンテア。看護協会教育研修会，2023年11月8日，鹿児島
11. 浜辺恵里香：退院支援から考える多職種協働。徳之島地区在宅医療・介護連携多職種合同研修会，2024年2月21日，徳之島
12. 中村倫文：高齢者の特徴を踏まえた身体アセスメントとエンド・オブ・ライフケアを考える。鹿児島県老人保健施設協会 看護・介護部会研修，2024年1月10日，鹿児島（Web）

## ●リハビリテーション部 理学療法士（一般総合）

1. 村山芳博：チーム医療の実践について。鹿児島大学医学部保健学科（看護・理学・作業専攻），2023年6月28日，鹿児島
2. 村山芳博：CVAの理学療法評価（OSCE）。鹿児島大学医学部保健学科（理学療法専攻），2023年12月11日，鹿児島

## ●リハビリテーション部 理学療法士（スポーツ整形）

1. 轟原与織：サッカー コンディショニング&アスレティックリハビリテーション。鹿児島県スポーツ協会鹿児島県アスレティックトレーナー協議会サポートトレーナー養成講習会Ⅱ期，2023年4月23日，鹿児島
2. 白尾泰宏：頸部・肩甲帯の触診と評価治療展開。鹿児島県理学療法士協会 専門領域研究部運動器系研修会，2023年6月11日，鹿児島
3. 岡弥津希：フレイル予防教室。宮路拓馬代議士講演会・フレイル予防体操教室，2023年6月25日，鹿児島
4. 轟原与織：かごしま国体高校野球大会コンディショニングサポートに向けて。鹿児島県理学療法士協会スポーツ委員会研修会，2023年8月27日，鹿児島

5. 轟原与織：内科的疾患の応急処置（熱中症の対応）. 鹿児島県スポーツ協会鹿児島県アスレティックトレーナー協議会サポートトレーナー養成講習会Ⅲ期, 2023年8月27日, 鹿児島
6. 白尾泰宏：腰部・骨盤帯の触診と評価治療展開. 鹿児島県理学療法士協会 専門領域研究部運動器系研修会, 2023年10月1日, 鹿児島
7. 白尾泰宏：成長期に起こるスポーツ障害. 垂水中央中学校 体育授業, 2023年12月14日, 垂水
8. 吉田研吾：肩肘機能検査について. 鹿児島県理学療法士協会スポーツ委員会研修会, 2024年1月13-14日, 鹿児島
9. 轟原与織：かごしま国体におけるアスレティックトレーナー活動報告. 全国アスレティックトレーナー連絡会議, 2024年1月21日, 鹿児島 (Web)
10. 白尾泰宏：野球で起こるスポーツ障害予防. 薩摩おいどんカップ実行委員会主催障害予防啓発教室, 2024年3月2日, 鹿児島
11. 轟原与織：県内理学療法士のスポーツ・障がい者スポーツへの関わりと取り組み. 鹿児島県理学療法士協会公開講座, 2024年3月6日, 鹿児島 (Web)

### ●薬剤部

1. 橋本直美：薬薬連携の取り組みについて. 消化器がん化学療法セミナー, 2023年10月14日, 鹿児島 (Web)

### ●診療放射線部

1. 馬場隆行：次世代高精度 X 線撮影法のすべて. 鹿児島県診療放射線技師会 春季学術大会, 2023年6月18日, 鹿児島
2. 馬場隆行：C アーム業務に携わる為の 10 個のころえ ～行かないなんてもったいないすべてはそこにある～. フィリップスウェビナー, 2023年11月29日, Web
3. 恵智徳：法制化された医療機器管理のその後. 鹿児島県放射線機器管理士部会, 2024年1月30日, Web
4. 馬場隆行：幼児 X 線撮影時に高成績を収めているキャラクタープロジェクトマッピングシート活用方法. 第 10 回日本小児診療多職種研究会, 2024年2月9日, 東京
5. 馬場隆行：明日から使える膝関節撮影のすべて. 鹿児島 X 線撮影研究会, 2024年2月24日, 鹿児島
6. 馬場隆行：馬場ちゃんの部屋 明日から撮影達人 ～膝関節 前編～. 第 1 回九州島津ユーザー会, 2024年3月16日, 福岡

### ●臨床検査部

1. 藤山裕輝, 井上彩乃：安全で適切な輸血業務を行うにあたっての当院の取り組み. 第 13 回令和 5 年度鹿児島県合同輸血療法懇話会, 2024年2月17日, 鹿児島

### ●臨床工学部

1. 木場菜月希：透析センターでの防災マニュアルの改訂～災害発生に備えた取り組みと今後の課題～. 鹿児島県臨床工学技士会災害対策セミナー, 2023年8月24日, Web
2. 川井田季睦：今村総合病院におけるレオカーナ治療の取り組み. Case Conference on Rheocarna Therapy for Clinical Engineers in kagoshima, 2023年10月24日, 鹿児島
3. 高岡大：九州・沖縄合同企画セミナー ワンスライドディスカッション～いろんな事例や悩みをみんなで考えよう！～. 第 18 回九州・沖縄臨床工学会 第 30 回福岡県臨床工学会, 2023年11月5日, 福岡

●管理栄養部

1. 中村ひとみ：生活習慣病と食事. 鹿児島市社会福祉協議会 介護講習会, 2023 年 10 月 21 日, 鹿児島
2. 小瀬美咲：透析患者さんの食事について～コンビニやスーパーの食品を活用しよう～. 腎友会 勉強会, 2024 年 3 月 24 日, 鹿児島

●総合相談支援センター

1. 浜辺恵里香：入退院支援（応用編）. 鹿児島県看護協会主催研修会, 2023 年 10 月 13 日, Web
2. 浜辺恵里香：ケアマネジメントに必要な医療との連携及び多職種協働の実現. 特定非営利活動法人鹿児島県介護支援専門員協議会 令和 5 年度主任介護支援専門員研修, 2023 年 12 月 21 日, 2024 年 2 月 15 日, 鹿児島
3. 浜辺恵里香：退院支援から考える多職種協働. 徳之島町介護福祉課主催 在宅医療・介護連携推進事業, 2024 年 2 月 21 日, 鹿児島

●事務部

1. 鈴木大輔：慈愛会の歩みと今後の病院経営. 鹿児島国際大学 経営史 I, 2024 年 1 月 10 日, 鹿児島



### ●血液内科

1. 宇都宮 眞：JSPFAD コホート研究 5000 検体登録貢献者表彰. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023 年 11 月 10-12 日

### ●臨床研究センター

1. 宇都宮 眞：JSPFAD コホート研究 5000 検体登録貢献者表彰. 第 9 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2023 年 11 月 10-12 日

### ●外科・消化器外科

1. 保坂 優斗：「IPMN の進展と腫瘍内細菌叢の関連」PanCAN Young Investigator Award Second Place. 第 54 回日本膵臓学会大会, 2023 年 7 月
2. Hozaka Y：「Characteristics of the intratumoral microbiota of intraductal papillary mucinous neoplasms」Poster of distinction. American Pancreatic Association (APA) 2023 Annual meeting, November, 2023
3. 保坂 優斗：「十二指腸液の菌叢解析を用いた膵癌の早期 診断法の開発」若手海外留学支援金. 上原記念生命科学財団, 2024 年 3 月

### ●輸血管理部

1. 井上 彩乃：「抗 CD38 抗体治療症例の当院における管理体制構築について ( 5 年間の取り組み )」最優秀演題. 日本輸血・細胞治療学会九州支部会 第 70 回総会・第 91 回例会, 2023 年 11 月 25 日

### ●小児科

1. 徳永 美菜子：「低カリウム血症と濃厚な高血圧の家族歴から Liddle 症候群の診断に至った親子例」「愛・内分泌」賞. 第 65 回日本内分泌学会, 2023 年 6 月

### ●看護部

1. 平川 あゆみ：「新人看護師成長パス改良に関する報告」最優秀賞. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月
2. 八木 笑奈：「A 病院女性看護師の月経前症候群のセルフケアを業務への影響の比較～リーフレットによるセルフケアの促進～」優秀賞. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月
3. 小窪 あゆみ：「当院 ICU における人工呼吸器管理患者に対する早期リハビリテーションの現状～質問紙調査により見えてきた課題～」奨励賞. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月
4. 平川 あゆみ：「院内死亡例から読み解く～Medical Emergency Team チームの活動効果～」今村節子賞. 第 3 回慈愛会学会学術集会, 2023 年 7 月

### ●リハビリテーション部 理学療法士 (スポーツ整形)

1. 岡 弥津希：「鏡視下腱板修復術後患者における術後 1 年の他動肩関節可動域に影響する因子の検討」第 3 回慈愛会学会学術集会 奨励賞. 2023 年 7 月

### ●リハビリテーション部 作業療法士

1. 濱田 大輔：「回復期における脳卒中重度片麻痺患者に対する自宅退院に向けた作業療法」第 3 回慈愛会学会学術集会 優秀賞. 2023 年 7 月

## ●リハビリテーション部 言語聴覚士

1. 鮫島悠子：「超少子・超高齢化社会の到来を見据えた採用広報の試み」第3回慈愛会学会学術集会 奨励賞，2023年7月

## ●薬剤部

1. 鎌田春紫：「周術期薬剤管理加算算定に向けた業務展開について」優秀発表賞，第6回鹿児島県病院薬剤師会学術大会，2023年2月
2. 西元寺慧一：「転院時処方日数調整による病院負担軽減効果について」優秀賞，第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月

## ●診療放射線部

1. 蓑田辰則：「精一杯取り組んだ結果から生まれた大きな夢 ～私のお守り～」特別賞，心に届く慈愛の物語を紡ぐ会，2023年5月

## ●臨床検査部

1. 井上彩乃：「抗CD38抗体治療症例の当院における管理体制構築について（5年間の取り組み）」最優秀賞，日本輸血・細胞治療学会九州支部会 第70回総会・第91回例会，2023年11月25日

## ●診療情報管理室

1. 前田雄介：「脳梗塞患者における自宅退院の可否に関する検討 ～決定木分析による自宅退院可否の早期予測モデル」奨励賞，日本診療情報管理学会，2023年9月

## ●医師事務補助課

1. 大迫真由美：「コミュニケーションツールの作成とその成果について～ウイズコロナ時代の新たな取り組み～」奨励賞，第3回慈愛会学会学術集会，2023年7月



### ●血液内科

#### < Web 記事 >

1. 徳永雅仁：キャリアねっとコラム第 103 回 登録医療機関を訪ねて シリーズ 5 今村総合病院 徳永雅仁 血液内科部長。HTLV-1 キャリア登録サイト キャリアねっと, 2023 年 7 月 27 日

#### < 動画配信 >

1. 宇都宮興：ATL の現状と今後. 鹿児島県令和 4 年度 HTLV-1 対策講演会, 2023 年 3 月 5 日 URL : <https://youtu.be/IEtRhkUZBXQ> (視聴期限 2025 年 3 月 31 日)

#### < 新聞掲載 >

1. 宇都宮興：ブックレット「教えて！HTLV-1 のこと」シリーズ出版, 2023 年 5 月 13 日, 南日本新聞

#### < テレビ放送 >

1. 宇都宮興：北別府さんが闘った成人 T 細胞白血病とは. 情報 WAVE かごしま 北別府学氏追悼番組 (ATL について説明), 2023 年 7 月 6 日, NHK 鹿児島, 福岡
2. 宇都宮興：北別府さんが闘った成人 T 細胞白血病とは. おはよう日本 北別府学氏追悼番組 (ATL について説明). 2023 年 8 月 4 日, NHK (7 月 6 日放送が全国版で再放送)

#### < ラジオ放送 >

1. 伊藤能清：テーマ「白血病」. MBC ラジオ ここが聞きたい！ドクタートーク, 第 1044-1047 回, 2023 年 5 月 6 日, 13 日, 20 日, 27 日

#### < プレスリリース (報道発表) >

1. 国立大学法人宮崎大学, 国立大学法人京都大学, 国立研究開発法人国立がん研究センター, 公益財団法人慈愛会今村総合病院, 独立行政法人国立病院機構熊本医療センター：成人 T 細胞白血病リンパ腫 (ATL) におけるゲノム情報と臨床情報を統合したリスクモデルの開発に成功－ATL の個別化医療を推進－. 2023 年 4 月 7 日
2. 公益財団法人慈愛会今村総合病院：HTLV-1 抗体陽性者における同種移植後の予後に関して調査結果を発表. 2023 年 9 月 27 日

### ●臨床研究センター

1. 宇都宮興：情報 WAVE かごしま 北別府学氏追悼番組「北別府さんが闘った成人 T 細胞白血病とは」. NHK 鹿児島 (NHK 九州), 2023 年 7 月 6 日
2. 宇都宮興：NHK おはよう日本 北別府学氏追悼番組「北別府さんが闘った成人 T 細胞白血病とは」(7 月 6 日放送が全国版で再放送). NHK, 2023 年 8 月 4 日

### ●皮膚科

1. 米倉健太郎：ATL の多彩な臨床像と病態研究・治療の最新情報. ラジオ NIKKEI 第 1 マルホ皮膚科セミナー, 2023 年 5 月 8 日

### ●脳神経内科

1. 神田直昭：リビング医療ホットライン 脳神経内科「24 時間体制で脳血管障害に対応」. リビングかごしま, 2023 年 8 月 26 日

## ●スポーツ整形外科

1. 海江田英泰:全投手に肩肘検査 県高野連が独自の取り組み 公式戦で登板予定、県内高の400人対象 / 鹿児島. 毎日新聞, 2024年2月19日

## ●産科・婦人科

1. 貴島佳子:どのような症状の時に産婦人科を受診したらいいの?. 鹿児島県垂水市「広報たるみず」, 2023年3月号
2. 貴島佳子:産む産まないに関わらず、将来の自分のためにできること 10～30代の女性への産婦人科医からのアドバイス. 鹿児島県垂水市「広報たるみず」, 2024年3月号

## ●リハビリテーション部 理学療法士（スポーツ整形）

1. 海江田英泰（スポーツ整形外科医師）、轟原与織：全投手に肩肘検査 県高野連が独自の取り組み 公式戦で登板予定、県内高の400人対象 / 鹿児島. 毎日新聞, 2024年2月19日

## ●診療放射線部

1. 市來守、高山大史、中田有希乃：新しい高速かつ高精細な測定が可能なプラスチックシンチレータ検出器. 放射線治療情報BOOK2023 (Raf Fan), 2023年11月号

## ●事務部

1. 常盤光弘、有島尚亮：株式会社日本経営における『医師マネジメント、グループ病院ガバナンスに活かす多職種による多面評価』ができる評価 Navigator 事例集]. 2023年12月18日



### ●血液内科

<日本医療研究開発機構（AMED）研究費>

1. 宇都宮與：『HTLV-1 水平感染の動向と検査法・検査体制の整備』研究分担者（研究代表者：長崎大学 三浦清徳）
2. 宇都宮與：『ATL 新規治療標的の同定と、個別化医療への展開』研究分担者（研究代表者：宮崎大学 下田和哉）
3. 宇都宮與：『成人 T 細胞白血病 / リンパ腫の治癒を目指した HTLV-1 ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立：薬事承認を目的とした第 II 相医師主導治験』研究分担者（研究代表者：九州がんセンター 末廣陽子）
4. 宮園卓宜：『アグレッシブ成人 T 細胞白血病リンパ腫を対象とした全国一元化レジストリ・バイオレポジトリ研究』研究分担者（研究代表者：国立がん研究センター中央病院 福田隆浩）

<厚生労働科学研究補助金>

1. 徳永雅仁：『「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究』研究分担者（研究代表者：聖マリアンナ医科大学大学院 渡邊俊樹）

<国際共同研究加速基金>

1. 宇都宮與：『HTLV-1a/c 亜型の疫学調査と独自の病原性発現機構解明に向けた日豪共同研究』研究協力者（研究代表者：東京大学大学院 中野和民）

### ●外科・消化器外科

<科学研究費補助金>

1. 田辺寛：『外科コーチングで手術パフォーマンスは変わるか？ AI で挑む技術の定量化』研究代表者（研究機関：鹿児島大学）



# 教育活動

---

職員教育研修会.....	160
医局研修会 .....	161
CPC開催記録.....	162



# 教育活動

## ■今村総合病院 職員教育研修会（2023年1月～2024年3月）

テーマ・講師	日時・期間・開催	職種・参加人数
<b>第4回 テーマ『倫理研修会』</b> 『臨床研究を行うための知識』（約25分） 【講師】 宇都宮臨床研究センター長	2022年12月5日～ 2023年1月31日 YouTube	診療部 81名 診療支援部 75名 看護部 52名 事務部・他 23名 <b>合計 231名</b>
<b>第5回 テーマ『感染管理・医療安全②』</b> ●『医療安全2022年1～12月実績報告』（約6分） 医療安全管理室 恵 真紀 ●『人間関係のコツ10分レクチャー』（約10分） 日総研出版「病院安全教育」WEBサービスより ●『標準予防策・抗菌薬適正使用について～意識することで変わる感染対策～』（約12分） 感染管理室 切手 康加	2023年3月16日～4月30日 YouTube	診療部 53名 診療支援部 134名 看護部 213名 事務部・他 116名 <b>合計 516名</b>
<b>第6回 テーマ『診療情報セキュリティ』</b> 『EMOTET(エモテット)について』（約6分） 【講師】 医療情報室 野崎 真吾	2023年3月29日～4月14日 YouTube	診療部 47名 診療支援部 113名 看護部 112名 事務部・他 83名 <b>合計 355名</b>
<b>第1回 テーマ『医薬品・医療機器・診療放射線の安全管理』</b> 「3部署合同研修会」 【講師】 薬剤部 鬼丸 俊司 臨床工学部 松元 彰洋 画像診断部 吉見 敦・上川 翔美 放射線科 濱田 裕幸	2023年6月6日～7月11日 YouTube	診療部 71名 診療支援部 228名 看護部 404名 事務部・他 203名 <b>合計 906名</b>
<b>第2回 テーマ『医療安全①』</b> 『電気火災について知ろう』（約6分） 臨床工学部 越智 秀美 『当院での発火・発煙事例』（約7分） 施設管理課 有島 尚紀	2023年6月15日～7月31日 YouTube	診療部 79名 診療支援部 242名 看護部 474名 事務部・他 239名 <b>合計 1,034名</b>
<b>第3回 テーマ『感染管理①』</b> ●『抗菌薬の適正使用～薬剤師の視点～』 薬剤部 感染制御認定薬剤師 野元 優基 ●『日常の感染対策について～安心・安全な医療の提供に向けて～』 感染管理室 感染管理認定看護師 切手 康加	2023年10月4日～11月30日 YouTube	診療部 100名 診療支援部 227名 看護部 454名 事務部・他 230名 <b>合計 1,011名</b>
<b>第4回 テーマ『倫理研修会』</b> 『臨床研究を行うための知識』（約25分） 【講師】 宇都宮臨床研究センター長	2023年12月25日～ 2024年1月31日 YouTube	診療部 36名 診療支援部 10名 看護部 10名 事務部・他 11名 <b>合計 67名</b>
<b>第5回 テーマ『感染管理・医療安全②』</b> ●『2023年インシデント・アクシデントの報告』 医療安全管理室 柳田 貴子 ●『患者誤認防止のワンポイントレッスン』 日総研出版「病院安全教育」WEBサービスより ●『身近な感染対策と抗菌薬の適正使用への取り組み』 感染管理室 切手 康加／薬剤部 野元 優基	2024年3月7日～3月31日 YouTube	診療部 78名 診療支援部 230名 看護部 440名 事務部・他 232名 <b>合計 980名</b>

## ■医局研修会（2023年1月～2024年3月）

2023年1月23日 (140回)	発表はなし
2023年2月27日 (141回)	<b>【座長】</b> 脳神経内科 神田 直昭 ・演題1 「オハナクリニックで経験した在宅緩和の症例」について 研修医 櫻井 良憲 ・演題2 「COVID-19」 総合内科部長 有馬 丈洋
2023年3月27日 (142回)	<b>【座長】</b> 麻酔科 下野 裕生 ・演題1「医療機関によって見過ごされたCOPDの一例」について 研修医 與那嶺 整 ・演題2「①当科における抗血栓薬服用患者の抗血栓薬休薬について、②最近の内視鏡的止血事情」 消化器内科医師 松岡 慧
2023年4月24日 (143回)	<b>【座長】</b> 循環器内科 肥後 建樹郎 ・演題1「慢性疼痛の現状と課題」 ペインクリニック内科主任部長 東 美木子
2023年5月22日 (144回)	<b>【座長】</b> 消化器外科 田辺 寛 ・演題1「ASLの有用性について」 研修医 小坂 真琴 ・演題2「泌尿器科領域におけるロボット支援下手術」 泌尿器科部長 米森 雅也
2023年6月26日 (145回)	<b>【座長】</b> 総合内科 西垂水 和隆 ・演題1「陰嚢痛で発症した高齢者の不明熱」 研修医 岩田 淳志 ・演題2「ドネペジルの薬物動態とQT時間に関する研究」 循環器内科医師 立志 公史郎
2023年7月24日 (146回)	<b>【座長】</b> 消化器内科 軸屋 賢一 ・演題1「Petersen's defectを縫合閉鎖したにも関わらず発症したRoux-en-Y再建後の内ヘルニアの3例」 研修医 松下 直樹 ・演題2「HTLV-1キャリア」について 血液内科部長 徳永 雅仁
2023年8月28日 (147回)	<b>【座長】</b> 放射線科 濱田 裕幸 ・演題1「高度な炎症を伴った胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を行った一例～たかが胆嚢、されど胆嚢～」 研修医 新山 優輝 ・演題2「高脂血症について再考してみる」について 脳神経内科部長 有水 琢朗
2023年9月25日 (148回)	<b>【座長】</b> 泌尿器科 西村 博昭 ・演題1「大腸ESDにおけるRDI併用の有用性について」 消化器内科主任部長 軸屋 賢一
2023年10月23日 (149回)	<b>【座長】</b> 皮膚科 佐藤 浩子 ・演題1「破裂させるな大動脈瘤」 研修医 小倉 和弥
2023年11月27日 (150回)	<b>【座長】</b> 精神科 江口 政治 ・演題1「Ivon Reckling Hausen病を合併した急性混合性白血病の1例」 研修医 米倉 圭
2023年12月25日 (151回)	<b>【座長】</b> 血液内科 伊藤 能清 ・演題1「心房細動を合併した心不全憎悪の一例」～悩ましいレートコントロール～ 研修医 木場 有紀
2024年1月22日 (152回)	<b>【座長】</b> 脳神経外科 谷口 歩 ・演題1「当院皮膚科の特徴と院内・院外連携」 皮膚科主任部長 米倉 健太郎
2024年2月26日 (153回)	<b>【座長】</b> スポーツ整形外科 福島 佳織 ・演題1「SGLT2阻害薬を導入したことで利尿薬の必要量を減らしつつHFpEFをコントロールすることができた症例」 研修医 藤宮 宏樹
2024年3月25日 (154回)	発表はなし

■ CPC 開催記録 (2023年1月～2024年3月)

C P C	C P C 題 目	座 長	演 者
第67回 2023.02.22 剖検番号 A22-1	関節リウマチに抗糸球体基底膜抗体病の合併が疑われ、血漿交換療法を行うも原疾患と感染のコントロールに難渋した症例	総合内科 市来 征仁	総合内科 中村 大悟 石川 そでみ 病理診断科 田代 幸恵
第68回 2023.09.11 剖検番号 A22-3	肺炎、肝嚢胞感染、血球貪食症候群の診断で加療するも治療反応に乏しく亡くなられた症例	総合内科 西垂水 和隆	総合内科 畠中 成己 病理診断科 田代 幸恵

# 1年のあゆみ

2023年1月～2024年3月

---



# 1年のあゆみ 2023年1月～2024年3月

## ■ 仕事始め式

1月4日(水)にA棟4階大会議室にて「仕事始め式」を挙げる。

2023年の仕事始め式では、帆北修一院長より2023年の言葉として2500年前の中国の古典『大学』から「修己治人：己を修めて人を治めるの道を以てす」を発表。



## ■ 読売新聞記事 病院の実力『脳卒中』2023年1月11日掲載

病院の実力『脳卒中』医療機関別2021年治療実績(読売新聞調べ)において、鹿児島県で実績トップで今村総合病院が紹介。



## ■ 施設基準等に係る適時調査実施

2023年1月31日九州厚生局より施設基準等に係る適時調査が5年振りに実施。

## ■ 鴨池校区文化祭展示

2023年2月、鴨池校区コミュニティ協議会との包括連携の取り組みとして、鴨池校区文化祭で出店された作品を当院の「ふれあいアートストリート」へ展示。



## ■ 出産記念贈呈式

2月6日(月)、当院産科でのご出産が3人目以上となる方へお祝いの記念品寄贈。



## ■ 第17回TQM活動発表会 入賞チームを発表

2月

- 1位：始動！リハスタグラム～SNSを使用した職場環境への新しい試み～ リハビリテーション部
- 2位：ベッド環境快適に！ A棟6東
- 3位：必殺仕事車 “THE CART”～カート内の物品整理による業務効率化の取組み～ A棟5西

## ■ 帆北院長 理事長補佐兼名誉院長 へ就任

3月、帆北修一院長、勇退。



理事長補佐兼今村総合病院名誉院長兼任。

## ■ 初期臨床研修修了式

2023年3月17日（金）、今村総合病院での初期臨床研修（錦江湾プログラム）を受けられた10名の先生方の修了式を挙げる。



## ■ 2023年度事業計画発表会

3月、2023年度に向けての事業計画発表会開催。  
（診療部・診療支援部・看護部・事務部・院長直轄部門）



## ■ かがしまマラソン 2023

3月5日(日)、「かがしまマラソン 2023」に慈愛会から今村総合病院の医師・看護師3名が救護スタッフとして参加。



## ■ 絵画コンクール表彰式

3月25日(土)、第7回絵画コンクール表彰式を開催。全146作品の応募のうち、受賞者12名。



## ■ 常盤光弘副院長 院長就任

4月、常盤光弘医師(泌尿器科)が今村総合病院院長に就任。

## ■ 2023年度入職式

4月3日(月)、2023年度入職式を開催。新入職員100名。



## ■ 月間「病院」2023年5月号掲載

月間「病院」2023年5月号(医学書院)の特集「生き残りをかけた病院の事業連携・統合―多様化する手法」で、有島事務長の投稿が掲載。

タイトル「病院の事業譲渡の留意点―地域医療構想調整会議における制度内容の認否」。

## ■ 出産記念贈呈式

5月16日(火)、5月23日(火)、当院産科でのご出産が3人以上となる方へお祝いの記念品寄贈。



## ■ じあいの時間

5月29日(月)、今村総合病院職員によるボランティア清掃活動“じあいの時間”



## ■ 2023年永年勤続表彰

今年度の永年勤続表彰の対象者、58名。  
勤続40年1名、勤続30年6名、勤続20年13名、  
勤続10年38名。



## ■ 中学生職場体験の受入れ

5月17日(水)～18日(木)西紫原中学校3年生4名。



5月24日(水)～25日(木)鴨池中学校3年生3名。



## ■ 消防訓練

6月6日(火)実施。



## ■ リビングかごしま掲載

「リビングかごしま」“医療ホットライン”掲載。  
6月17日号「内科」。



## ■ 公益社団法人鹿児島県看護協会より表彰

公益社団法人鹿児島県看護協会より、多年にわたり看護協会の発展に貢献されたとして、当院の柏木美恵子看護師長が表彰。



## ■ 慈愛会学会学術集会

7月1日（土）、第3回慈愛会学会学術集会開催。

最優秀賞 ◇口演発表 「新人看護師成長パス改良に関する報告」平川あゆみ看護師

他、優秀賞3名、奨励賞5名、今村節子賞1名が当院より受賞。



## ■ 腎臓病教室開催

7月1日（土）、透析患者様ラウンジにて第1回腎臓病教室を開催。



## ■ 情報WAVE ござしま放送

宇都宮名誉院長による取材対応。

【放送日】2023年7月6日（木）18時10分

NHK放送局 情報WAVE ござしま



## ■ モニター会議実施

7月14日（金）、3年振りとなる病院モニター会議を開催。



## ■ 救急カンファレンス開催

7月20日（金）、鹿児島市救急隊と合同で救急カンファレンスを開催。

【講演】脳神経内科 副院長 神田直昭医師  
「TIA（一過性脳血発作）について」

【講演】脳神経内科 部長 有水琢朗医師  
「急性期脳卒中治療・脳卒中について」

【講演】循環器内科 主任部長 肥後建樹郎 医師  
「心不全について」



## ■ ふれあい看護体験

7月29日（土）、8月19日（土）

「ふれあい看護体験」を開催し、2日間を通して20名の中高生が参加。



## ■ 病院薬局見学会

8月1日（火）、第22回高校生・受験生を対象とした病院薬局見学会を開催。

鹿児島県内6名の高校生が参加。



## ■ 第17回鴨池夏まつり

8月5日（土）、鴨池校区夏まつり（第17回鴨池夏まつり）に救護班として参加。



## ■ リビングかごしま掲載

「リビングかごしま」“医療ホットライン”掲載。

8月26日号「脳神経内科」



医療ホットライン  
リビングかごしま 8/26号掲載

公益財団法人 今村総合病院

## ■ 入院セット導入開始

9月1日（金）より、入院セット（CSセット）の導入開始。

## ■ 令和5年度 救急医療功労者団体表彰、救急医療功労者表彰ダブル受賞

今村総合病院 内科・救急科が「令和5年度 鹿児島県救急医療功労者団体表彰」を、同科の西垂水隆医師が「救急医療功労者表彰」を受賞。



## ■ 慈愛会急性期グループ連携のつどい開催

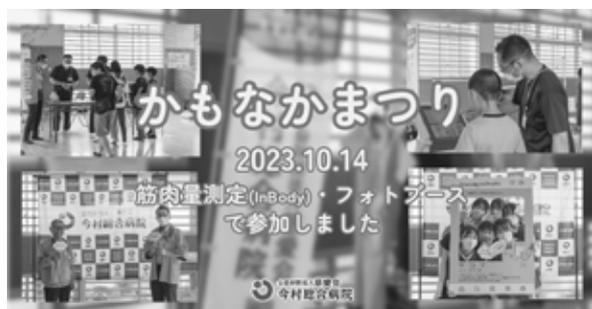
9月29日（金）、いづろ今村病院と「慈愛会急性期グループ連携のつどい」開催。

場所：かごしまオハナビル

## ■ かもなかまつり

10月14日（土）、鴨池中学校で開催された“かもなかまつり”。

当院からは、「おしごとフォトブース」と「In Bodyで身体をチェック！」の2ブースを出店。



## ■ 第2回かもいけ健康まつり

10月21日（土）“第2回かもいけ健康まつり”を4年振りに開催。

テーマ「つながる地域、つなげる安心」

共催：鴨池校区コミュニティ協議会

後援：鹿児島市、垂水市、

社会福祉法人 高齢者介護予防協会かごしま



## ■ リビングかごしま掲載

「リビングかごしま」“医療ホットライン”掲載。  
10月21日号「泌尿器科」



## ■ じあいの時間

10月23日（月）、今村総合病院職員によるボランティア清掃活動“じあいの時間”



## ■ 中学生職場体験の受入れ

10月24日(火)～25日(水)  
谷山北中学校2年生4名



## ■ かがしま国体・かがしま大会のサポート活動

鹿児島で盛会のうちに幕を閉じた“燃ゆる感動かがしま国体・かがしま大会”(特別国民体育大会・特別全国障害者スポーツ大会)。さまざまな形で大会に参加。

- ・リハビリテーション科  
堂園浩一郎医師(大会ボウリング競技 10/28)
- ・スポーツ整形外科  
福島佳織医師(国体柔道競技 10/14-16)
- ・リハビリテーション部  
西牟田亮 PT(国体卓球競技 10/12-16)  
鮫島智志 PT(国体剣道競技 10/8-10)  
橋口由美子 PT(国体なぎなた競技 10/14-16)  
岡弥津希 PT(国体高校公式野球競技 10/9-11)  
吉田研吾 PT(国体高校公式野球競技 10/9-11)  
轟原与織 PT(国体高校公式野球競技 10/9-11)



## ■ 新型コロナワクチン職員接種

10月27日(金)、10月31日(火)、11月2日(木)  
院内でおこなう最後の新型コロナワクチン集団接種。



## ■ 地域連携のつどい with 紫南支部

10月27日(金)、地域連携のつどい with 紫南支部開催。  
感染症内科 有馬丈洋医師による講演会を開催。

## ■ 第2回腎臓病教室開催

10月28日(土)、透析患者様ラウンジにて第2回腎臓病教室を開催。

【講演】腎臓内科 中村英仁医師  
「腎臓を守るために知って欲しいこと」



## ■ ぞうきんプロジェクト始動

患者様のリハビリテーションや地域交流の一環として、「ぞうきんプロジェクト」を鴨池校区コミュニティ協議会の協力のもと始動。



## ■ おはら祭

11月2日(木)、第72回おはら祭夜まつりに慈愛会の踊り連が参加。



## ■ JMECC 講習会

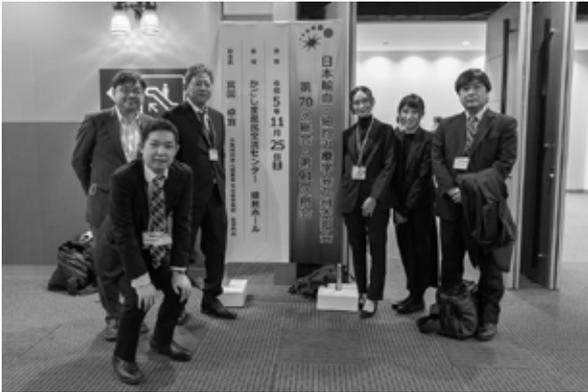
11月11日(土) JMECC 講習会を開催。

新型コロナウイルスの影響で昨年度より延期としておりましたが、県内外から講師の先生方をお招きし5名の先生に受講。



## ■ 日本輸血・細胞治療学会 九州支部会 第70回総会・第91回例会開催

11月25日（土）、日本輸血・細胞治療学会 九州支部会 第70回総会・第91回例会開催の例会長を血液内科部長 宮園 卓宜医師が例会長として対応。



## ■ 消防訓練

11月28日（火）、消防訓練実施



## ■ 中学生職場体験の受入れ

12月5日（火）～6日（水）谷山北中学校2年生4名



## ■ 救急カンファレンス開催

12月5日（火）、鹿児島市救急隊と合同で救急カンファレンスを開催。

【講演】救急・内科 主任部長 市来 征仁医師



## ■ 鹿児島ユナイテッドFC 活動報告

12月8日（金）、強化部の鮫島翼さんと、チームを支える背番号28番 戸根 一誓（とね いっせい）選手がシーズン終了のご挨拶に来訪。



## ■ クリスマスツリー

12月9日(土)、さんさんすまいる(企業主導型保育所)から5名の子供たちが今村総合病院のクリスマスツリーの飾りつけに参加。



## ■ 垂水中央中学校講演会

12月14日(木)、理学療法士(スポーツリハビリ)が垂水中央中学校を訪れ、2・3年生を対象に「成長期のスポーツ障害」のテーマで講演会実施。



## ■ 鴨池小学校総合学習

12月14日(木)、キャリア教育の一環として鴨池小学校4年生へ講話を実施。

感染管理室 副師長 切手康加看護師  
「いろいろな職業を知ろう」



## ■ 鴨池校区餅つき大会

12月17日(日)、鴨池校区コミュニティ協議会 まちづくり部会が主催する餅つき大会に当院からは救護班として参加。

## ■ リビングかごしま掲載

「リビングかごしま」“医療ホットライン”掲載。

12月27日号「消化器外科」



## ■ 仕事納め式

12月29日（金）、仕事納め式。



## ■ 仕事始め式

1月4日（木）、仕事始め式。



## ■ 循環器内科 肥後 建樹郎 主任部長 副院長就任

1月、肥後建樹郎医師（循環器内科）が今村総合病院副院長に就任。

## ■ 鹿児島国際大学経営学部経営史講演会

1月10日（水）、「鹿児島を代表する企業の過去（歴史）・現在・未来（発展性）」というテーマで鈴木大輔事務長補佐が講演。



## ■ BCP 訓練

2024年1月15日（月）、3月8日（木）、災害やトラブルの発生直後から、状況がどのように変化するかを想定し、職員が行う対応を時系列におこなうBCP訓練を実施。



## ■ JMAT 派遣

能登半島地震災害に伴う被災県医師会からの要請により、鹿児島市医師会から被災県の各避難所、救護所へ JMAT 派遣。

【派遣期間】2024年1月19日(金)～1月23日(火)



## ■ 高校生を対象とした肩肘健診

1月28日(日)、鹿児島県高等学校野球連盟の主催のもと、鹿児島県理学療法士協会と県内の理学療法士、鹿児島大学医師のご協力を得て、県内すべての高校野球の投手を対象とした肩肘検診を今村総合病院スポーツ整形外科リハセンターで実施。



## ■ 鴨池校区文化祭展示

2月、鴨池校区コミュニティ協議会との包括連携の取り組みとして、鴨池校区文化祭で出展された作品を、当院の”ふれあいアートストリート”へ展示。



## ■ 介護講習会 (喜入町一倉校区)

2月2日(金)、鹿児島市の取り組み『介護講習会』の講師として、理学療法士が派遣され、『健康寿命を延ばそう』をテーマに講義を開催。



## ■ がん患者サロンほのぼのの開催

2月2日(金)、「NPO法人 がんサポートかごしま」の協力のもと、がん患者様やご家族が「体験」や「悩み」などを気軽に語り合う場として、4年振りにがんサロン「ほのぼの」を再開。

## ■ 地域連携のつどい開催

2月9日（金）、地域連携のつどい。医師による講演会を実施。

消化器内科 主任部長 軸屋賢一医師「当院における内視鏡診療について」

消化器外科 部長 田辺寛医師「当院における外科手術について」

## ■ JRAT 参加

能登半島地震災害支援に今村総合病院の桑野理学療法士が JRAT（Japanese Disaster Rehabilitation Assistance Team）の一員として参加。（2月26日出発、3日間活動、30日帰鹿）



## ■ 薩摩おいどんカップ講習会

3月2日（土）、鹿児島銀行本部かぎん会館ウィズにて「野球で起こるスポーツ障害と予防」についてスポーツ整形外科リハビリセンター 白尾泰宏理学療法士が講師として派遣。



## ■ かごしまマラソン 2024

3月3日（日）、「かごしまマラソン 2024」に慈愛会からも今村総合病院の医師・看護師3名が、救護スタッフとして参加。



## ■ 第3回腎臓病教室開催

3月9日（土）、透析患者様ラウンジにて第3回腎臓病教室を開催。

【講演】腎臓内科 中村英仁医師

「腎臓病で注意したい栄養と歯周病」

## ■ 初期臨床研修修了式

3月11日（月）、公益財団法人慈愛会今村総合病院での初期臨床研修（錦江湾プログラム）を受けられた10名の先生方の修了式を挙行。





---

## 今村総合病院 年報 第16号

発行責任者 院長 常盤 光弘

発行日 2024年(令和6年)7月

編集 今村総合病院 広報室

住所 鹿児島県鹿児島市鴨池新町11番23号

TEL 099-251-2221

FAX 099-250-6181

---



地域とともに。未来を創る。

